

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | インターンシップ (FB20S010)                       |
| 英文科目名 | Internship                                |
| 担当教員名 | 田淵敏彰＊ (たぶちとしあき＊)                          |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 通期                                        |
| 曜日時限  | 木曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 実験実習                                      |

| 回数    | 授業内容                                           |
|-------|------------------------------------------------|
| 1 回   | オリエンテーションを行い、講義の概要と受講に際しての注意事項を説明する。           |
| 2 回   | インターンシップ・キャンパスウェブについて説明する。                     |
| 3 回   | 自己PRの基礎について説明する。                               |
| 4 回   | 自己PRの基礎について説明する。                               |
| 5 回   | 自己PRの基礎について説明する。                               |
| 6 回   | 自己PRの基礎について説明する。                               |
| 7 回   | 企業研究について説明する。                                  |
| 8 回   | 企業研究について説明する。                                  |
| 9 回   | インターンシップ合同企業説明会に参加し、企業研究とインターンシップの受け入れ先の支援をする。 |
| 1 0 回 | インターンシップ合同企業説明会に参加し、企業研究とインターンシップの受け入れ先の支援をする。 |
| 1 1 回 | 面接の仕方について説明する。                                 |
| 1 2 回 | 面接実践演習を通して、具体的な面接の仕方を説明する。                     |
| 1 3 回 | インターンシップに行くための心構えについて説明する。                     |
| 1 4 回 | インターンシップに行くための心構えについて説明する。                     |
| 1 5 回 | インターンシップに行くための心構えについて説明する。                     |
| 1 6 回 | インターンシップに行くための事前オリエンテーションにて、マナー等の直前講習をする。      |
| 1 7 回 | インターンシップの報告発表のための資料作成について説明する。                 |
| 1 8 回 | インターンシップの報告発表のための発表の仕方について説明する。                |
| 1 9 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 0 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 1 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 2 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 3 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 4 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 5 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 6 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 7 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 8 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 2 9 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |
| 3 0 回 | 報告発表を行い、指導を行う。                                 |

| 回数    | 準備学習                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 岡山理科大学キャリア支援マガジンMEを読み、インターンシップの意義などを確認しておくこと。(標準学習時間:60分)  |
| 2 回   | キャリア支援センターホームページからインターンシップ・キャンパスウェブにアクセスしておくこと。(標準学習時間60分) |
| 3 回   | ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。(標準学習時間60分)                 |
| 4 回   | ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。レポートを作成しておくこと。(標準学習時間60分)   |
| 5 回   | ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。レポートを作成しておくこと。(標準学習時間60分)   |
| 6 回   | ME1などを利用して自己分析を行い、自己PRを考えておくこと。レポートを作成しておくこと。(標準学習時間60分)   |
| 7 回   | 自己PRのレポートを完成させて、提出するために推敲しておくこと。(標準学習時間60分)                |
| 8 回   | 事前に連絡した企業について企業研究を行っておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 9 回   | 企業研究を行い、インターンシップ先とする企業に対して質問事項等を考えておくこと。(標準学習時間60分)        |
| 1 0 回 | 企業研究を行い、インターンシップ先とする企業に対して質問事項等を考えておくこと。(標準学習時間60分)        |

|       |                                                              |
|-------|--------------------------------------------------------------|
|       | 習時間60分)                                                      |
| 1 1 回 | インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分) |
| 1 2 回 | インターンシップのマッチングに向けて、自己PRの確認、面接の仕方などMEを参考に準備しておくこと。(標準学習時間60分) |
| 1 3 回 | インターンシップの流れについて、事前に確認しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 1 4 回 | インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)                  |
| 1 5 回 | インターンシップ実施前に必要な手続きは、すべて完了しておくこと。(標準学習時間60分)                  |
| 1 6 回 | インターンシップ先での実習内容をよくまとめ、報告書を提出しておくこと。(標準学習時間60分)               |
| 1 7 回 | プレゼンテーションについて基本的な事柄を事前にチェックしておくこと。(標準学習時間60分)                |
| 1 8 回 | プレゼンテーションについて基本的な事柄を事前にチェックしておくこと。(標準学習時間60分)                |
| 1 9 回 | プレゼンテーションの内容をしっかりと推敲しておくこと。(標準学習時間60分)                       |
| 2 0 回 | プレゼンテーションの内容をしっかりと推敲しておくこと。(標準学習時間60分)                       |
| 2 1 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 2 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 3 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 4 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 5 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 6 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 7 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 8 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 2 9 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 3 0 回 | 講義内容について復習しておくこと。(準学習時間60分)<br>発表のための準備をしておくこと。(標準学習時間120分)  |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | インターンシップとは、企業・団体などにおいて、学生が将来の職業、キャリア選択を意識した就業体験をすることによって、社会や企業の実情を知り、学生が自らの職業適性や将来設計を考えると同時に、大学における学習教育目標の達成を向上・促進する学習制度です。本講義では、インターンシップに行くための心構えやマナーなどの事前指導と、インターンシップ後の報告などの事後指導を通して、インターンシップの教育としての効果を高めることを目的とする。<br>(教育支援機構 教養教育センターの学位授与方針項目Cに強く関与する) |
| 達成目標         | ・インターンシップ参加の心構えを身に着けること(学位授与方針項目C)<br>・インターンシップを通して実社会の現状を把握すること(学位授与方針項目C)<br>・インターンシップ終了後、自らの経験をまとめると同時に、プレゼンテーションができること(学位授与方針項目C)<br>・社会に貢献できる人材となること(見学の理念)(学位授与方針項目E)                                                                                 |
| キーワード        | インターンシップ、企業研究、面接対策、企業研修                                                                                                                                                                                                                                     |
| 成績評価(合格基準60) | 企業体験(企業レポートを含む)を50%、発表(プレゼン内容、プレゼン技術など)を50%で評価する。したがって、インターンに行かなかった者はその時点で単位を不可(E)とする。                                                                                                                                                                      |
| 関連科目         | 文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ、プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、教養演習、企業と人間、キャリア形成講座、企業情報特論                                                                                                                                                                                              |
| 教科書          | 教科書は使用しない。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 参考書          | 岡山理科大学キャリア支援マガジンME。キャリア支援センターホームページ( <a href="http://career.office.ous.ac.jp/">http://career.office.ous.ac.jp/</a> ) またはMOMO-campusにて配布する<br>・<br>(各担当者で記述ください)                                                                                             |
| 連絡先          | C1号館7階キャリア支援センター・インターンシップ担当まで                                                                                                                                                                                                                               |
| 注意・備考        | 賠償保険：インターンシップ前に、学生課で「学研災付帯賠償責任保険」(1年間210円)へ必ず加入すること。履修登録：履修制限を行う。履修登録数が多い場合は1回目の講義の際に履修確認を行う。出席しなかった者は自動的に履修取り消しとする。実施場所日時：学内外において講義・演習・実習などの形態で実施される。また、内容によって、開講日時の変更もあるため、講義                                                                             |

|      |                                        |
|------|----------------------------------------|
|      | 内の連絡，および，電子メールやキャリア支援センターのHPなどを確認すること. |
| 試験実施 | 実施しない                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 日本の文化と歴史 I (FB25A020)                     |
| 英文科目名 | Culture and History of Japan I            |
| 担当教員名 | 西野雅二＊ (にしのみさじ＊)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                            |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | イントロダクション。担当者(西野)および岡山理科大学について日本語で説明する。                                                                                         |
| 2 回  | 配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。                     |
| 3 回  | 配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。                     |
| 4 回  | 配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。                     |
| 5 回  | 配布資料により、日本に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、日本の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。                     |
| 6 回  | 配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。                     |
| 7 回  | 配布資料により、岡山に伝わる昔話を読み、その内容について解説する。また、発音がしっかりとできるように、口頭での発音指導をする。さらに、岡山の昔話に見られる文化と自国の文化とを比較し口頭発表をしてもらうよう指導する。                     |
| 8 回  | 前半はこれまでの復習を行う。後半に中間試験をおこなうので、第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。                                                                       |
| 9 回  | 新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。 |
| 10 回 | 新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。 |
| 11 回 | 新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。 |
| 12 回 | 新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。 |
| 13 回 | 新聞記事のなかで、比較的読みやすく、また日本の文化や社会を見ることができるものとして、読者の投書欄がある。これらを資料として配布し、声に出して読めるように指導する。さらに、内容理解、ならびに口頭での日本語の上達を目指し、口頭発表をしてもらうよう指導する。 |
| 14 回 | ー 日本語作文 ー<br>第13回までで見てきた岡山や日本の文化や社会について、文章により表現ができるように指導する。                                                                     |
| 15 回 | ー 日本語作文 ー<br>第13回までで見てきた岡山や日本の文化や社会について、文章により表現ができるように指導する。                                                                     |
| 16 回 | 前半はこれまでの復習を行う。この時間の後半に最終評価試験を行う。                                                                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                                    |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 自分自身のことを日本語で口頭により紹介できるよう準備しておくこと。(標準学習時間60分)                                            |
| 2 回 | 配布資料に目とおし、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡 |

|     |                                                                                                                                             |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分）                                                                                         |
| 3回  | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 4回  | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 5回  | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、文章の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）                |
| 6回  | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 7回  | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、岡山のことばと標準的なことばの違いにとまどわないよう、注意して整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 8回  | 第1回から第7回までの内容を復習しておくこと。（標準学習時間180分）                                                                                                         |
| 9回  | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）              |
| 10回 | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）              |
| 11回 | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）              |
| 12回 | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）              |
| 13回 | 配布資料に目をとおり、日本語として読めない漢字があれば、読み方を予習しておくこと。また、講義終了後は、文章が口頭でスラスラと読めるよう、何度も読んで練習しておくこと。さらに、新聞記事の中で見た文化や社会について整理しておくこと。（標準学習時間120分）              |
| 14回 | 自分のことばで日本文化について作文ができるようにしておくこと。また、返却された作文の点検箇所について自分で整理しておくこと。（標準学習時間120分）                                                                  |
| 15回 | 自分のことばで日本文化について作文ができるようにしておくこと。また、返却された作文の点検箇所について自分で整理しておくこと。（標準学習時間120分）                                                                  |
| 16回 | これまでの復習をしっかりとし、試験に備えること。（標準学習時間180分）                                                                                                        |

|             |                                                                                                                                             |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 岡山の昔話、日本の昔話、新聞の投書記事等を見ていくなかで、留学生に、日本の文化や歴史、風俗、習慣について理解を深め、日本での生活と日本語により一層なじんでもらうことを目的とする。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）                      |
| 達成目標        | 日本語を母語とする人が日本語を話す上で基礎として持っている（と思われる）「桃太郎」、「かぐや姫」等に関する知識を習得して、自分の言葉で表現することができるようになること。比較的平易な日本語文章である新聞の投書欄の記事を理解し、それに対して自分の言葉で賛否などの表現ができること。 |
| キーワード       | 日本文化、日本語表現、昔話                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テスト（30%）および最終評価試験（70%）による。                                                                                                                |
| 関連科目        | 日本の文化と歴史II                                                                                                                                  |
| 教科書         | プリント（資料）を配布する。                                                                                                                              |
| 参考書         | 適宜、指示する。                                                                                                                                    |
| 連絡先         |                                                                                                                                             |
| 注意・備考       | ※中国からの留学生の場合、日本の漢字と中国語簡体字の違いに注意すること。<br>※辞書（電子辞書でよい）を携行すること。                                                                                |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                        |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 心理学 (FB25A030)                            |
| 英文科目名 | Psychology                                |
| 担当教員名 | 鉄川大健＊ (てつかわひろかつ＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                  |
|-------|---------------------------------------|
| 1 回   | 心理学の歴史と方法について概説する                     |
| 2 回   | 視覚を例に取り、感覚・知覚の仕組みについて説明する             |
| 3 回   | 錯視を通して、心の働きを学ぶ                        |
| 4 回   | 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ                  |
| 5 回   | 強化スケジュールについて学び、身近な問題への応用可能性について考える    |
| 6 回   | 自由再生実験を通して、記憶の仕組みについて知る               |
| 7 回   | 映像資料を用いて、記憶術や記憶の変容について説明する            |
| 8 回   | 知覚、学習、記憶についてこれまでの授業内容の復習を行い、中間試験を実施する |
| 9 回   | 認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ       |
| 1 0 回 | 認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る         |
| 1 1 回 | 発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える               |
| 1 2 回 | 生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する           |
| 1 3 回 | 自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る       |
| 1 4 回 | 対人関係の形成、対人魅力について知る                    |
| 1 5 回 | 集団における人の心について学ぶ                       |
| 1 6 回 | 認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う     |

| 回数    | 準備学習                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと(10分)                               |
| 2 回   | 前回の授業内容を振り返り、自分が心についてもっている考え方を整理しておくこと(120分)               |
| 3 回   | 前回の授業内容を復習することと、身近な錯覚の例を探してみること(120分)                      |
| 4 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習とは何かについて考えてみること(120分)                    |
| 5 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習理論から説明できそうな身近な行動について考えてみること(120分)        |
| 6 回   | 前回の授業内容を復習することと、記憶について何を学びたいかを整理しておくこと(120分)               |
| 7 回   | 前回の授業内容を復習することと、自分自身がこれまで行ってきた記憶術について振り返ること(120分)          |
| 8 回   | これまでの授業内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)                        |
| 9 回   | 認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)                                 |
| 1 0 回 | 前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)                   |
| 1 1 回 | これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)        |
| 1 2 回 | 前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)                |
| 1 3 回 | 自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)              |
| 1 4 回 | 前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)    |
| 1 5 回 | 前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)            |
| 1 6 回 | 授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分) |

|       |                                                                                                                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的  | この講義では、人の心にかかわるさまざまな問題を科学的に扱う方法を知ることが目的とする。前半は、心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域を学び、心の働きについて知る。後半は認知、発達、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標  | 心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。                                                                             |
| キーワード | 知覚・感覚、記憶、学習、感情、動機づけ                                                                                                                                                       |

|             |                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------|
|             | 認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。        |
| 関連科目        | 社会心理学、教育心理学                                                        |
| 教科書         | 「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山脇圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0                |
| 参考書         | 「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-42223-6<br>他、授業中に適宜紹介する。 |
| 連絡先         | 初回の授業で伝達する                                                         |
| 注意・備考       | 特になし                                                               |
| 試験実施        | 実施する                                                               |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB25B030)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 辻維周 (つじまさちか)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                  |
|------|-------------------------------------------------------|
| 1 回  | ・ ガイダンス<br>・ 文化について                                   |
| 2 回  | テキストの解説と考え方                                           |
| 3 回  | 文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。                        |
| 4 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1)                                     |
| 5 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2)                                     |
| 6 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3)                                     |
| 7 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4)                                     |
| 8 回  | 総括をする。中間評価試験をする                                       |
| 9 回  | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1)                            |
| 10 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2)                            |
| 11 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3)                            |
| 12 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4)                            |
| 13 回 | ・ 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5)      ・ グループワークのためのグループ分け |
| 14 回 | グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                    |
| 15 回 | グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                    |
| 16 回 | まとめ、最終評価試験                                            |

| 回数   | 準備学習                                      |
|------|-------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておく。(標準学習時間30分)     |
| 2 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 3 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 4 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 5 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 6 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 7 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 8 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 9 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 10 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 11 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 12 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 14 回 | 自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)        |
| 15 回 | 14回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間60分)           |
| 16 回 | 今までの講義内容を反芻しておき、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分) |

|               |                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。                                                                                    |
| キーワード         | 視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。                                                                                                                                          |
| 成績評価 (合格基準60) | グループワークでの発表40点,中間試験+最終評価試験60点とし、60点以上を合格とする。                                                                                                                                     |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                  |
| 教科書           | 「異文化理解」岩波新書 青木保著                                                                                                                                                                 |
| 参考書           | 「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会                                                                                                                                               |
| 連絡先           | ous.tsuji@gmail.com                                                                                                                                                              |



|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | ・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。 |
| 試験実施  | 実施する                                                                                           |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 心理学 (FB25B040)                            |
| 英文科目名 | Psychology                                |
| 担当教員名 | 鉄川大健＊ (てつかわひろかつ＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                  |
|-------|---------------------------------------|
| 1 回   | 心理学の歴史と方法について概説する                     |
| 2 回   | 視覚を例に取り、感覚・知覚の仕組みについて説明する             |
| 3 回   | 錯視を通して、心の働きを学ぶ                        |
| 4 回   | 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ                  |
| 5 回   | 強化スケジュールについて学び、身近な問題への応用可能性について考える    |
| 6 回   | 自由再生実験を通して、記憶の仕組みについて知る               |
| 7 回   | 映像資料を用いて、記憶術や記憶の変容について説明する            |
| 8 回   | 知覚、学習、記憶についてこれまでの授業内容の復習を行い、中間試験を実施する |
| 9 回   | 認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ       |
| 1 0 回 | 認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る         |
| 1 1 回 | 発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える               |
| 1 2 回 | 生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する           |
| 1 3 回 | 自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る       |
| 1 4 回 | 対人関係の形成、対人魅力について知る                    |
| 1 5 回 | 集団における人の心について学ぶ                       |
| 1 6 回 | 認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う     |

| 回数    | 準備学習                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと(10分)                               |
| 2 回   | 前回の授業内容を振り返り、自分が心についてもっている考え方を整理しておくこと(120分)               |
| 3 回   | 前回の授業内容を復習することと、身近な錯覚の例を探してみる(120分)                        |
| 4 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習とは何かについて考えてみる(120分)                      |
| 5 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習理論から説明できそうな身近な行動について考えてみる(120分)          |
| 6 回   | 前回の授業内容を復習することと、記憶について何を学びたいかを整理しておくこと(120分)               |
| 7 回   | 前回の授業内容を復習することと、自分自身がこれまで行ってきた記憶術について振り返ること(120分)          |
| 8 回   | これまでの授業内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)                        |
| 9 回   | 認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)                                 |
| 1 0 回 | 前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)                   |
| 1 1 回 | これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)        |
| 1 2 回 | 前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)                |
| 1 3 回 | 自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)              |
| 1 4 回 | 前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)    |
| 1 5 回 | 前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)            |
| 1 6 回 | 授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分) |

|       |                                                                                                                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的  | この講義では、人の心にかかわるさまざまな問題を科学的に扱う方法を知ることが目的とする。前半は、心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域を学び、心の働きについて知る。後半は認知、発達、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標  | 心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。                                                                             |
| キーワード | 知覚・感覚、記憶、学習、感情、動機づけ                                                                                                                                                       |

|             |                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------|
|             | 認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。        |
| 関連科目        | 社会心理学、教育心理学                                                        |
| 教科書         | 「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山脇圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0                |
| 参考書         | 「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-42223-6<br>他、授業中に適宜紹介する。 |
| 連絡先         | 初回の授業で伝達する                                                         |
| 注意・備考       | 特になし                                                               |
| 試験実施        | 実施する                                                               |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB25B050)                          |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                       |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                               |
|-------|----------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理とは何かを説明する。       |
| 2 回   | 一神教の倫理 (1) ーユダヤ教・キリスト教の倫理を説明する。                    |
| 3 回   | 一神教の倫理 (2) ーイスラームの倫理を説明する。                         |
| 4 回   | 哲学者と倫理 (1) ー徳倫理学を説明する。                             |
| 5 回   | 哲学者と倫理 (2) ーカントの倫理学を説明する。                          |
| 6 回   | 哲学者と倫理 (3) ー功利主義を説明する。                             |
| 7 回   | 現代の倫理ー動物の生命についての様々な考え方を説明する。                       |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。 |
| 1 0 回 | 古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。                       |
| 1 1 回 | 古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。                            |
| 1 2 回 | 日本の伝統的倫理を説明する。                                     |
| 1 3 回 | 現代の倫理 (1) ー死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。                     |
| 1 4 回 | 現代の倫理 (2) ー自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。       |
| 1 5 回 | 現代の倫理 (3) ー脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。                 |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「倫理とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）          |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|              |                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義の前半では西洋の倫理思想を、後半では東洋の倫理思想を中心に学ぶ。倫理的な思考方法を身につけることにより、自身の日常生活の中でそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                                     |
| 達成目標         | ①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を体験し、日常生活に役立てることができる。                                    |
| キーワード        | 倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                  |
| 教科書          | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書          | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考        | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB25C060)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 辻維周 (つじまさちか)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                   |
|------|--------------------------------------------------------|
| 1 回  | ・ ガイダンス<br>・ 文化について                                    |
| 2 回  | テキストの解説と考え方                                            |
| 3 回  | 文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。                         |
| 4 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1)                                      |
| 5 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2)                                      |
| 6 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3)                                      |
| 7 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4)                                      |
| 8 回  | 総括をする。中間評価試験をする                                        |
| 9 回  | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 1)                            |
| 10 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 2)                            |
| 11 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 3)                            |
| 12 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 4)                            |
| 13 回 | ・ 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 5)      ・ グループワークのためのグループ分け |
| 14 回 | グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                     |
| 15 回 | グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                     |
| 16 回 | まとめ、最終評価試験                                             |

| 回数   | 準備学習                                      |
|------|-------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておく。(標準学習時間30分)     |
| 2 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 3 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 4 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 5 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 6 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 7 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 8 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 9 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 10 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 11 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 12 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 14 回 | 自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)        |
| 15 回 | 14回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間60分)           |
| 16 回 | 今までの講義内容を反芻しておき、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分) |

|               |                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。                                                                                    |
| キーワード         | 視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。                                                                                                                                          |
| 成績評価 (合格基準60) | グループワークでの発表40点, 中間試験+最終評価試験60点とし、60点以上を合格とする。                                                                                                                                    |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                  |
| 教科書           | 「異文化理解」岩波新書 青木保著                                                                                                                                                                 |
| 参考書           | 「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会                                                                                                                                               |
| 連絡先           | ous.tsuji@gmail.com                                                                                                                                                              |

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | ・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。 |
| 試験実施  | 実施する                                                                                           |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 政治学 (FB25C070)                            |
| 英文科目名 | Political Science                         |
| 担当教員名 | 前田浩* (まえだひろし*)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                    |
|------|-------------------------|
| 1 回  | ガイダンス～講義方針と講義予定         |
| 2 回  | 第1章 組織された集団(1)について講義する。 |
| 3 回  | 第1章 組織された集団(2)について講義する。 |
| 4 回  | 第2章 官と民の関係(1)について講義する。  |
| 5 回  | 第2章 官と民の関係(2)について講義する。  |
| 6 回  | 第3章 大企業と政治(1)について講義する。  |
| 7 回  | 第3章 大企業と政治(2)について講義する。  |
| 8 回  | 中間試験と講義のまとめ             |
| 9 回  | 第4章 選挙と政治について講義する。      |
| 10 回 | 第5章 地方分権について講義する。       |
| 11 回 | 第7章 国会について講義する。         |
| 12 回 | 第8章 内閣と総理大臣について講義する。    |
| 13 回 | 第9章 官僚について講義する。         |
| 14 回 | 第10章 冷戦の終わりについて講義する。    |
| 15 回 | 第11章 経済交渉について講義する。      |
| 16 回 | 最終評価試験と講義のまとめ           |

| 回数   | 準備学習                                   |
|------|----------------------------------------|
| 1 回  | なし                                     |
| 2 回  | 第1章(前半)を読んでくること。(標準学習時間30分)            |
| 3 回  | 第1章(前半)の復習・第1章(後半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 4 回  | 第1章(後半)の復習・第2章(前半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 5 回  | 第2章(前半)の復習・第2章(後半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 6 回  | 第2章(後半)の復習・第3章(前半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 7 回  | 第3章(前半)の復習・第3章(後半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 8 回  | 第1章・第2章・第3章の復習をすること。(標準学習時間120分)       |
| 9 回  | 第4章を読んでくること。(標準学習時間60分)                |
| 10 回 | 第4章の復習・第5章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 11 回 | 第5章の復習・第7章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 12 回 | 第7章の復習・第8章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 13 回 | 第8章の復習・第9章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 14 回 | 第9章の復習・第10章を読んでくること。(標準学習時間60分)        |
| 15 回 | 第9章の復習・第10章を読んでくること。(標準学習時間60分)        |
| 16 回 | 第4章～第11章の復習をしておくこと。(標準学習時間180分)        |

|              |                                                                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治を理解する。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。) |
| 達成目標         | 現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得する。また現代の政治について自分の考え方を文章で表現することができる。                                                                  |
| キーワード        | 現代政治 政治学 現代社会                                                                                                               |
| 成績評価(合格基準60) | 講義内容確認テスト(ほぼ毎週行なう) 40点 中間試験 30点 最終評価試験 30点                                                                                  |
| 関連科目         |                                                                                                                             |
| 教科書          | はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687                                                                            |
| 参考書          | 講義中に指示する。                                                                                                                   |
| 連絡先          | 欠席・質問・問合せ先 mae@law.okayama-u.ac.jp                                                                                          |
| 注意・備考        |                                                                                                                             |



|      |      |
|------|------|
| 試験実施 | 実施する |
|------|------|

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 哲学 (FB25C080)                             |
| 英文科目名 | Philosophy                                |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および哲学とは何かを説明する。                 |
| 2 回   | デカルト以前の西洋哲学 (1)ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。                   |
| 3 回   | デカルト以前の西洋哲学 (2)ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。                  |
| 4 回   | デカルト以前の西洋哲学 (3)ー中世の哲学 (スコラ哲学、普遍論争等)を説明する。                    |
| 5 回   | デカルトの哲学ーデカルトの生涯と思想を説明する。                                     |
| 6 回   | デカルト以後の西洋哲学 (1)ーカントの生涯と思想を説明する。                              |
| 7 回   | デカルト以後の西洋哲学 (2)ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。 |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。            |
| 1 0 回 | インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。                          |
| 1 1 回 | インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」とその現代への影響を説明する。                          |
| 1 2 回 | 中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。                                       |
| 1 3 回 | 中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。                                       |
| 1 4 回 | イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの思想を説明する。                           |
| 1 5 回 | イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィーナーとガザーリーの思想を説明する。                         |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）           |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|             |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本講義では、前半で西洋哲学を、後半で東洋哲学ををひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるものであるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                 |
| 達成目標        | ①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各時代、文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。                                      |
| キーワード       | 哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60 | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目        | 倫理と宗教                                                                                                                                                               |
| 教科書         | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書         | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考       | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 日本史 (FB25D040)                            |
| 英文科目名 | Japanese History                          |
| 担当教員名 | 小林博昭* (こばやしひろあき*)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                   |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | イントロダクション。授業の進め方を説明する。くわえて弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。                                                                                                  |
| 2 回  | 弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                                             |
| 3 回  | 前回に続いて、水田によるコメ作りの技術について補足説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。時間的余裕があれば、青銅器加工技術についても説明する。                                          |
| 4 回  | 前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。                                                                 |
| 5 回  | 青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。               |
| 6 回  | 畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                  |
| 7 回  | 瀬戸内地域、とくに岡山県の特集集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。 |
| 8 回  | 第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。ここまでの授業内容について、中間的な評価のための試験を実施する。(試験会場等の関係で、8回目にこの試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)                   |
| 9 回  | 古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。                                                                                                                   |
| 10 回 | 古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。                                                                         |
| 11 回 | 古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                                             |
| 12 回 | 前回に続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                                     |
| 13 回 | 古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                            |
| 14 回 | 前回に続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。                                                                      |
| 15 回 | 古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジスティクス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。                                                     |
| 16 回 | 今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。最終評価試験を実施する。(試験会場等の関係で、16回目に最終試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)                                                         |

| 回数  | 準備学習                                                                                            |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 2 回 | 弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                          |

|     |                                                                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3回  | 弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                            |
| 4回  | 青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 5回  | 北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 6回  | 畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について予習をしておくこと。(標準学習時間120分)                                       |
| 7回  | 第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                             |
| 8回  | これまでの授業で習った歴史的な事象について、復習を十分おこなうこと。さらに古墳時代の概要や、特徴について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                         |
| 9回  | 古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)                                                                           |
| 10回 | 古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                         |
| 11回 | 古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                            |
| 12回 | 古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 13回 | 古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                            |
| 14回 | これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第9回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分) |
| 15回 | 古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                              |
| 16回 | ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)                                                                                                    |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から最もミステリアスな時代といわれる古墳時代、さらに乙巳の変を経て、大化の薄葬令発布前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。(教養教育センターの単位認定方針項目Bにもっとも強く関与する)                                                                                          |
| 達成目標         | 我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる力と、分析結果について深く考察できる力を習得する。                                                                                                                                                                                                 |
| キーワード        | “古代”、“弥生時代”、“古墳時代”、“日本史”                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 成績評価（合格基準60） | 中間テスト（50%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 関連科目         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 教科書          | 使用しない。講義の進行過程で、資料をプリント等で配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参考書          | 講義の進行過程で適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 注意・備考        | (1)毎回出欠をとる。(2)ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は、欠席扱いとなる。(4)講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。(5)講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。(6)試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。(7)受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 政治学 (FB25D050)                            |
| 英文科目名 | Political Science                         |
| 担当教員名 | 前田浩* (まえだひろし*)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                    |
|------|-------------------------|
| 1 回  | ガイダンス～講義方針と講義予定         |
| 2 回  | 第1章 組織された集団(1)について講義する。 |
| 3 回  | 第1章 組織された集団(2)について講義する。 |
| 4 回  | 第2章 官と民の関係(1)について講義する。  |
| 5 回  | 第2章 官と民の関係(2)について講義する。  |
| 6 回  | 第3章 大企業と政治(1)について講義する。  |
| 7 回  | 第3章 大企業と政治(2)について講義する。  |
| 8 回  | 中間試験と講義のまとめ             |
| 9 回  | 第4章 選挙と政治について講義する。      |
| 10 回 | 第5章 地方分権について講義する。       |
| 11 回 | 第7章 国会について講義する。         |
| 12 回 | 第8章 内閣と総理大臣について講義する。    |
| 13 回 | 第9章 官僚について講義する。         |
| 14 回 | 第10章 冷戦の終わりについて講義する。    |
| 15 回 | 第11章 経済交渉について講義する。      |
| 16 回 | 最終評価試験と講義のまとめ           |

| 回数   | 準備学習                                   |
|------|----------------------------------------|
| 1 回  | なし                                     |
| 2 回  | 第1章(前半)を読んでくること。(標準学習時間30分)            |
| 3 回  | 第1章(前半)の復習・第1章(後半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 4 回  | 第1章(後半)の復習・第2章(前半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 5 回  | 第2章(前半)の復習・第2章(後半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 6 回  | 第2章(後半)の復習・第3章(前半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 7 回  | 第3章(前半)の復習・第3章(後半)を読んでくること。(標準学習時間60分) |
| 8 回  | 第1章・第2章・第3章の復習をすること。(標準学習時間120分)       |
| 9 回  | 第4章を読んでくること。(標準学習時間60分)                |
| 10 回 | 第4章の復習・第5章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 11 回 | 第5章の復習・第7章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 12 回 | 第7章の復習・第8章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 13 回 | 第8章の復習・第9章を読んでくること。(標準学習時間60分)         |
| 14 回 | 第9章の復習・第10章を読んでくること。(標準学習時間60分)        |
| 15 回 | 第9章の復習・第10章を読んでくること。(標準学習時間60分)        |
| 16 回 | 第4章～第11章の復習をしておくこと。(標準学習時間180分)        |

|              |                                                                                                                             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義では、政治学の基礎知識を学ぶとともに、現代の社会や政治を自分の頭で捉えるための視点と考え方を身につける。また、現在進行中の重要な時事問題を講義の素材として活用し、現代政治を理解する。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。) |
| 達成目標         | 現代政治についての基本的知識とその捉え方を修得する。また現代の政治について自分の考え方を文章で表現することができる。                                                                  |
| キーワード        | 現代政治 政治学 現代社会                                                                                                               |
| 成績評価(合格基準60) | 講義内容確認テスト(ほぼ毎週行なう) 40点 中間試験 30点 最終評価試験 30点                                                                                  |
| 関連科目         |                                                                                                                             |
| 教科書          | はじめて出会う政治学【第3版】／真淵・久米・北山著／有斐閣アルマ／978-4-641123687                                                                            |
| 参考書          | 講義中に指示する。                                                                                                                   |
| 連絡先          | 欠席・質問・問合せ先 mae@law.okayama-u.ac.jp                                                                                          |
| 注意・備考        |                                                                                                                             |

|      |      |
|------|------|
| 試験実施 | 実施する |
|------|------|

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB25D060)                             |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                          |
| 担当教員名 | 藤丸智雄* (ふじまるともお*)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 月曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死                                                             |
| 2 回  | 善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪                                             |
| 3 回  | ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義① “ 幸福と善の関係 ”                                           |
| 4 回  | 善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類                                                                         |
| 5 回  | 古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷 |
| 6 回  | 善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義           |
| 7 回  | 善と理性との関係について、カントの思想を通して学びます。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考えます。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義② “ 義務としての善 ”                              |
| 8 回  | 嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学んでいく。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志中間試験                     |
| 9 回  | 現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。①ベンサム生涯、②基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、③現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義③ “ 善と快楽 ”           |
| 10 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学びます。キーワード：トロッコケース、9.11                                              |
| 11 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査                            |
| 12 回 | 科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展                                                |
| 13 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 14 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 15 回 | 「愛」と「善」の関係について考えます。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習します。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩                                     |
| 16 回 | 基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。                                                                                             |

| 回数  | 準備学習                                      |
|-----|-------------------------------------------|
| 1 回 | 教科書の 1－9 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）           |
| 2 回 | 教科書 27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）          |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習する。27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分） |
| 4 回 | これまでの講義内容の復習（標準学習時間 30 分）                 |
| 5 回 | 教科書の 28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）            |



|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 6回  | 前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）    |
| 7回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 8回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 9回  | 教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 10回 | 教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 11回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 12回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 13回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 14回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 15回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 16回 | 講義内容全体の復習（標準学習時間30分）          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。古典的な倫理思想から、現代社会の基底にある倫理思想まで学び、それらの思想を活用して主体的に考える力を身につける。（教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも深く関与）                                     |
| 達成目標         | ①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。前半で、ギリシャ思想やインド宗教思想などの古典的な倫理思想、さらに現代思想の代表選手であるカントの思想を倫理的側面から学ぶ。後半では、現代社会と関係の深い功利主義、さらにキリスト教の倫理思想を学ぶ。多様な倫理思想を学んでいくことによって、種々の現代的課題を、主体的・相対的に考える力を身につけていく。 |
| キーワード        | 倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、自己愛、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60） | 提出物15%講義関与度35%中間試験25%最終評価試験25%                                                                                                                                                                                                     |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書          | プレップ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書          |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 連絡先          | fujimarutomoo@gmail.com                                                                                                                                                                                                            |
| 注意・備考        |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                               |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB25E010)                             |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                          |
| 担当教員名 | 藤丸智雄* (ふじまるともお*)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 月曜日 5時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死                                                             |
| 2 回  | 善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪                                             |
| 3 回  | ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義① “ 幸福と善の関係 ”                                           |
| 4 回  | 善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類                                                                         |
| 5 回  | 古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷 |
| 6 回  | 善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義           |
| 7 回  | 善と理性との関係について、カントの思想を通して学びます。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考えます。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義② “ 義務としての善 ”                              |
| 8 回  | 嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学んでいく。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志中間試験                     |
| 9 回  | 現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。①ベンサム生涯、②基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、③現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義③ “ 善と快楽 ”           |
| 10 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学びます。キーワード：トロッコケース、9.11                                              |
| 11 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査                            |
| 12 回 | 科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展                                                |
| 13 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 14 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 15 回 | 「愛」と「善」の関係について考えます。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習します。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩                                     |
| 16 回 | 基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。                                                                                             |

| 回数  | 準備学習                                      |
|-----|-------------------------------------------|
| 1 回 | 教科書の 1－9 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）           |
| 2 回 | 教科書 27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）          |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習する。27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分） |
| 4 回 | これまでの講義内容の復習（標準学習時間 30 分）                 |
| 5 回 | 教科書の 28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）            |

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 6回  | 前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）    |
| 7回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 8回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 9回  | 教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 10回 | 教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 11回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 12回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 13回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 14回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 15回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 16回 | 講義内容全体の復習（標準学習時間30分）          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。古典的な倫理思想から、現代社会の基底にある倫理思想まで学び、それらの思想を活用して主体的に考える力を身につける。（教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも深く関与）                                     |
| 達成目標         | ①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。前半で、ギリシャ思想やインド宗教思想などの古典的な倫理思想、さらに現代思想の代表選手であるカントの思想を倫理的側面から学ぶ。後半では、現代社会と関係の深い功利主義、さらにキリスト教の倫理思想を学ぶ。多様な倫理思想を学んでいくことによって、種々の現代的課題を、主体的・相対的に考える力を身につけていく。 |
| キーワード        | 倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、自己愛、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60） | 提出物15%講義関与度35%中間試験25%最終評価試験25%                                                                                                                                                                                                     |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書          | プレッブ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書          |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 連絡先          | fujimarutomoo@gmail.com                                                                                                                                                                                                            |
| 注意・備考        |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                               |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB25F010)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)                        |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                     |
|-------|------------------------------------------|
| 1 回   | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2 回   | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3 回   | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4 回   | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5 回   | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6 回   | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7 回   | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8 回   | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9 回   | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 1 0 回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 1 1 回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 1 2 回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 1 3 回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 1 4 回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 1 5 回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 1 6 回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数    | 準備学習                                                             |
|-------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2 回   | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3 回   | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4 回   | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5 回   | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6 回   | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7 回   | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8 回   | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9 回   | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 1 0 回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 1 1 回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 1 2 回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 1 3 回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 1 4 回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 1 5 回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 1 6 回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義目的        | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標        | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード       | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書         | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | ボランティア論 (FB25G030)                        |
| 英文科目名 | Introduction to Volunteer                 |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                      |
|-------|-------------------------------------------|
| 1 回   | 講義の進め方とテキスト、テーマの背景について解説する。受講シートの記入に取り組む。 |
| 2 回   | ボランティアのイメージについて考察する。                      |
| 3 回   | ボランティアの動機と事例を検証する①。                       |
| 4 回   | ボランティアの動機と事例を検証する②。                       |
| 5 回   | ボランティアの発生と歴史について解説する。                     |
| 6 回   | 近代社会の成立とボランティアの関係を考察する。                   |
| 7 回   | ボランティアの動機と事例を検証する③。中間テストについて説明する。         |
| 8 回   | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                   |
| 9 回   | ボランティアの特徴について考察する。                        |
| 1 0 回 | ボランティアの動機と事例を検証する④。                       |
| 1 1 回 | ボランティアと報酬について考察する。                        |
| 1 2 回 | ボランティアの動機と事例を検証する⑤。                       |
| 1 3 回 | ボランティアの動機と事例を検証する⑥。                       |
| 1 4 回 | NPO (特定非営利活動) について解説する。                   |
| 1 5 回 | NPOの現状と問題点について考察する。最終評価試験について説明する。        |
| 1 6 回 | 後半の講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。                  |

| 回数    | 準備学習                                                                  |
|-------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 予習：シラバスに目を通しておくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)                       |
| 2 回   | 予習：ボランティアの体験やイメージをまとめておくこと。 復習：ボランティアについての多様な視点を確認すること。(標準学習時間45分)    |
| 3 回   | 予習：ボランティアのきっかけについて考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分) |
| 4 回   | 予習：ボランティアの問題点について考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)  |
| 5 回   | 予習：ボランティアの発生・歴史について考えておくこと。 復習：ボランティアの歴史をまとめること。(標準学習時間60分)           |
| 6 回   | 予習：近代社会の特徴について考えておくこと。 復習：近代社会とボランティアの関係をまとめること。(標準学習時間60分)           |
| 7 回   | 予習：ボランティアの意義について考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間60分)   |
| 8 回   | 予習：前半の講義内容を整理しておくこと。 復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)                |
| 9 回   | 予習：ボランティアの特徴について考えておくこと。 復習：ボランティアの特徴についてまとめること。(標準学習時間60分)           |
| 1 0 回 | 予習：ボランティアの可能性について考えておくこと。 復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)          |
| 1 1 回 | 予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。 復習：ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)          |
| 1 2 回 | 予習：国内外の諸問題について考えておくこと。 復習：講義で取り上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)            |
| 1 3 回 | 予習：ボランティアをめぐる困難について考えてくること。 復習：ボランティアと現代社会についてまとめること。(標準学習時間60分)      |
| 1 4 回 | 予習：NPOの基本を理解しておくこと。 復習：NPOの定義についてまとめること。(標準学習時間60分)                   |
| 1 5 回 | 予習：NPOの現状について考えておくこと。 復習：NPOをめぐる諸問題をまとめること。(標準学習時間90分)                |
| 1 6 回 | 予習：後半の講義内容を整理しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)               |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 講義目的        | ボランティアを多角的な視点から分析して動機・背景・歴史・意義・現状を明らかにし、その特徴と可能性を理解するとともに、NPOの役割についても考える。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                    |
| 達成目標        | ボランティア活動の動機・背景・歴史・意義を理解した上で、関連する領域も含めた現状について自身の考えを述べることができる。                                                                                                                                                                                                                                              |
| キーワード       | ボランティア NPO 社会貢献                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40%）、中間テスト（30%）、最終評価試験（30%）。原則として、演習に参加し課題をすべて提出することが中間テスト、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                               |
| 関連科目        | 比較文化論                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 教科書         | 世良利和／「ボランティアへの視線－映画を手がかりにして考える」／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 参考書         | 必要に応じて指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考       | 1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.受講者は必ずテキストを購入すること。 3.ボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 7.100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB25G040)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)                        |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                     |
|------|------------------------------------------|
| 1 回  | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2 回  | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3 回  | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4 回  | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5 回  | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6 回  | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7 回  | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8 回  | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9 回  | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 10 回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 11 回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 12 回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 13 回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 14 回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 15 回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 16 回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2 回  | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3 回  | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4 回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5 回  | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6 回  | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7 回  | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8 回  | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9 回  | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 10 回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 11 回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 12 回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 14 回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 15 回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 16 回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |



|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標         | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード        | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目         | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書          | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書          | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考        | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB25H040)                             |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                     |
| 担当教員名 | 榎原宥* (えばらゆたか*)                               |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 火曜日 3時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義オリエンテーション (1) — 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何か、というテーマで講義内容を説明する。   |
| 2 回  | 第1回講義の続き — 「市民性の授業」の解説と憲法改正への大きな流れについて説明する。                               |
| 3 回  | 立法への市民参加 (1) — 私たちの周りにある究極のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。                        |
| 4 回  | 立法への市民参加 (2) — 憲法の前文と第九条について議論する。                                         |
| 5 回  | 立法への市民参加 (3) — 民主主義と立憲主義とは何か、について解説する。                                    |
| 6 回  | 立法への市民参加 (4) — ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説を題材に、日本やドイツの戦後処理方法について共に考える。               |
| 7 回  | 日本社会の現状を考え、この先日本はどこに向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を経験するのか想像する。                 |
| 8 回  | 講義の総括と中間評価のための試験を実施する。                                                    |
| 9 回  | 講義オリエンテーション (2) — 「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方 (市民性の発揮) について再確認する。 |
| 10 回 | 行政への市民参加 (1) — ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。                       |
| 11 回 | 第10回講義の続き — ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。                        |
| 12 回 | 行政への市民参加 (2) — 地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。                            |
| 13 回 | 第12回講義の続き — 電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。                                       |
| 14 回 | 市民の司法参加 — 日本の裁判員制度とその課題について解説する。                                          |
| 15 回 | 第15回の続き — 死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。                                       |
| 16 回 | 後半の総括と最終評価試験を行う。                                                          |

| 回数   | 準備学習                                                        |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。                                      |
| 2 回  | 憲法改正について自分の意見を持って授業に参加すること。(標準学習時間：講義期間の前半は常にその意識を再確認すること。) |
| 3 回  | 日本国憲法の前文を読んでおくこと。(標準学習時間60分)                                |
| 4 回  | 自衛隊は何故存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 5 回  | 第3回より第4回までの講義の復習をしておくこと。(標準学習時間60分)                         |
| 6 回  | 靖国問題の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                            |
| 7 回  | 現在、社会で起きていることの中で、一番の関心事は何か考えておくこと。                          |
| 8 回  | 第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                  |
| 9 回  | 「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。(標準学習時間60分)                             |
| 10 回 | アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                |
| 11 回 | ワークライフバランスとは何か考えておくこと。(標準学習時間60分)                           |
| 12 回 | 「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                          |
| 13 回 | あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間60分)        |
| 14 回 | 日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。(標準学習時間60分)                          |
| 15 回 | 今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 16 回 | 今までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                         |

|      |                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題 (問題) には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性=社会参画の権 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」との関わりを論じます。前半は、「立法」を取り上げ、皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議します。後半は、「行政」「司法」を取り上げます。題材は、女性の社会進出問題等現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与） |
| 達成目標        | 憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。                                                                                                                                                                                                        |
| キーワード       | 市民性、ルールと秩序、社会的責任                                                                                                                                                                                                                                             |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テスト50%、最終評価試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とします。                                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 使用しません。講義中にレジメを配布します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 講義中に適宜紹介します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 考古学 (FB25H050)                            |
| 英文科目名 | Archaeology                               |
| 担当教員名 | 白石純 (しらいしじゅん)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                               |
|-------|--------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 考古学がなぜ必要かについて実例を挙げながら説明する。                                         |
| 2 回   | 考古学はどんな学問か。考古学の定義について実例を挙げながら説明する。                                 |
| 3 回   | 考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲について実例を挙げながら説明する。                              |
| 4 回   | いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について実例を挙げながら説明する。                            |
| 5 回   | 考古学はどのように発達したか、について実例を挙げながら説明する。                                   |
| 6 回   | 考古学資料の種類(遺跡・遺構・遺物)について実例を挙げながら説明する。                                |
| 7 回   | 考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について実例を挙げながら説明する。                           |
| 8 回   | 考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について実例を挙げながら説明する。<br>中間試験を実施する。 |
| 9 回   | 旧石器時代前半について実例を挙げながら説明する。                                           |
| 1 0 回 | 旧石器時代後半について実例を挙げながら説明する。                                           |
| 1 1 回 | 縄文時代草創期、早期、前期について実例を挙げながら説明する。                                     |
| 1 2 回 | 縄文時代中期、後期、晩期について実例を挙げながら説明する。                                      |
| 1 3 回 | 弥生時代前期、中期について実例を挙げながら説明する。                                         |
| 1 4 回 | 弥生時代後期について実例を挙げながら説明する。                                            |
| 1 5 回 | 古墳時代前期について実例を挙げながら説明する。                                            |
| 1 6 回 | 古墳時代中期・後期について実例を挙げながら説明する。<br>これまでの講義内容について総括する。<br>最終評価試験を実施する。   |

| 回数    | 準備学習                                               |
|-------|----------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを確認し学習の過程を調べておくこと。(標準学習時間120分、以下同じ)            |
| 2 回   | 考古学の目的・定義について、図書館等で調べておくこと。(120分)                  |
| 3 回   | 考古学が対象とするものや年代の範囲について、図書館等で調べておくこと。(120分)          |
| 4 回   | 考古学は時代・地域・その他で区分されている。この区分について、図書館等で調べておくこと。(120分) |
| 5 回   | 考古学が古代からどのように発達してきたか、図書館等で調べておくこと。(120分)           |
| 6 回   | 考古学が扱う資料について、どのような物があるか。図書館等で調べておくこと。(120分)        |
| 7 回   | 考古学の研究方法について、図書館等で調べておくこと。(120分)                   |
| 8 回   | 考古学で用いられる年代測定について、どのような測定法があるか、図書館等で調べておくこと。(120分) |
| 9 回   | 日本の旧石器時代について、発見・時代・生活文化を図書館等で調べておくこと。(120分)        |
| 1 0 回 | 日本の旧石器時代について、石器・製作技法・狩猟方法を図書館等で調べておくこと。(120分)      |
| 1 1 回 | 縄文時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)              |
| 1 2 回 | 縄文時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器を図書館等で調べておくこと。(120分)        |
| 1 3 回 | 弥生時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)              |
| 1 4 回 | 弥生時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性を図書館等で調べておくこと。(120分) |
| 1 5 回 | 古墳時代について、年代・古墳の種類と埋葬施設を図書館等で調べておくこと。(120分)         |
| 1 6 回 | 古墳時代について、住居・生活様式を図書館等で調べておくこと。(120分)               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのか。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように解説する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解させる。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを学習することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。) |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| 達成目標        | 理系。文系を問わず、さまざまな知識、学問に応用できるように発想や資料分析法の仕方の基礎知識を獲得することを目標とする。 |
| キーワード       | 考古理化学、文化財、文化財科学                                             |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験（50点%）、最終評価試験(50点%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。            |
| 関連科目        | なし                                                          |
| 教科書         | 使用しない。                                                      |
| 参考書         | 考古学ゼミナール／江上波夫／山川出版社：考古学の基礎知識／広瀬和雄／角川選書                      |
| 連絡先         | C2号館6F 白石研究室 086-256-9655 shiraish@big.ous.ac.jp            |
| 注意・備考       |                                                             |
| 試験実施        | 実施する                                                        |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文学 (FB25H060)                             |
| 英文科目名 | Literature                                |
| 担当教員名 | 杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)                        |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                          |
|-------|-----------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス。講義の進め方を説明する。                            |
| 2 回   | ヨーロッパとドイツについて概説する。                            |
| 3 回   | 「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。          |
| 4 回   | 「エミール・ガロッティ」 近代市民悲劇の誕生について概説する。               |
| 5 回   | 「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。            |
| 6 回   | 「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。               |
| 7 回   | 「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。                  |
| 8 回   | 「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間試験を行う。 |
| 9 回   | 「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。            |
| 1 0 回 | 「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。               |
| 1 1 回 | 「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。             |
| 1 2 回 | 「トニーオ・クレーガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。        |
| 1 3 回 | 「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。                  |
| 1 4 回 | ドイツの叙情詩について概説する。                              |
| 1 5 回 | 後半部のまとめを行う。                                   |
| 1 6 回 | 最終評価試験と今後の文学の読み方についての提言を行う。                   |

| 回数    | 準備学習                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。                                                                |
| 2 回   | ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 3 回   | テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 4 回   | テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 5 回   | テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 6 回   | テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分)                      |
| 7 回   | テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 8 回   | テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。<br>これまでの重要事項を復習して、中間試験に備えること。(標準学習時間 1 2 0 分)               |
| 9 回   | テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 0 回 | テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 1 回 | テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 2 回 | テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 3 回 | テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。<br>また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 1 4 回 | テキストの第十二章に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                       |
| 1 5 回 | 講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                 |
| 1 6 回 | 七章から十二章までの重要事項を復習し、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                           |

|               |                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。                                               |
| キーワード         | 文学、社会                                                                                                        |
| 成績評価 (合格基準60) | 毎回のミニレポート 4 0 %、中間試験 3 0 %、最終評価試験 3 0 %により成績を評価し、6 0 %以上を合格とする。<br>ただし、中間試験を受けていない者には最終試験の受験を認めない。           |
| 関連科目          | ドイツ語Ⅰ、Ⅱ (ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)                                                                         |
| 教科書           | 「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫                                                                                        |

|       |                                                                                                                                                                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参考書   | 適宜指示します。                                                                                                                                                                                                   |
| 連絡先   |                                                                                                                                                                                                            |
| 注意・備考 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。</li> <li>・ ミニレポートについては次の時間に印象的なものを紹介する形でフィードバックをすることがある。</li> <li>・ 講義の撮影・録音・録画は一切認めない。</li> <li>・ 教科書以外に参考する資料については授業中に配布する。</li> </ul> |
| 試験実施  | 実施する                                                                                                                                                                                                       |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB25I040)                             |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                     |
| 担当教員名 | 榎原宥* (えばらゆたか*)                               |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 火曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義オリエンテーション (1) — 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何か、というテーマで講義内容を説明する。   |
| 2 回  | 第1回講義の続き — 「市民性の授業」の解説と憲法改正への大きな流れについて説明する。                               |
| 3 回  | 立法への市民参加 (1) — 私たちの周りにある究極のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。                        |
| 4 回  | 立法への市民参加 (2) — 憲法の前文と第九条について議論する。                                         |
| 5 回  | 立法への市民参加 (3) — 民主主義と立憲主義とは何か、について解説する。                                    |
| 6 回  | 立法への市民参加 (4) — ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説を題材に、日本やドイツの戦後処理方法について共に考える。               |
| 7 回  | 日本社会の現状を考え、この先日本はどこに向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を経験するのか想像する。                 |
| 8 回  | 講義の総括と中間評価のための試験を実施する。                                                    |
| 9 回  | 講義オリエンテーション (2) — 「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方 (市民性の発揮) について再確認する。 |
| 10 回 | 行政への市民参加 (1) — ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。                       |
| 11 回 | 第10回講義の続き — ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。                        |
| 12 回 | 行政への市民参加 (2) — 地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。                            |
| 13 回 | 第12回講義の続き — 電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。                                       |
| 14 回 | 市民の司法参加 — 日本の裁判員制度とその課題について解説する。                                          |
| 15 回 | 第15回の続き — 死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。                                       |
| 16 回 | 後半の総括と最終評価試験を行う。                                                          |

| 回数   | 準備学習                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。                                       |
| 2 回  | 憲法改正について自分の意見を持って授業に参加すること。(標準学習時間: 講義期間の前半は常にその意識を再確認すること。) |
| 3 回  | 日本国憲法の前文を読んでおくこと。(標準学習時間60分)                                 |
| 4 回  | 自衛隊は何故存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間60分)                             |
| 5 回  | 第3回より第4回までの講義の復習をしておくこと。(標準学習時間60分)                          |
| 6 回  | 靖国問題の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                             |
| 7 回  | 現在、社会で起きていることの中で、一番の関心事は何か考えておくこと。                           |
| 8 回  | 第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                   |
| 9 回  | 「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。(標準学習時間60分)                              |
| 10 回 | アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                 |
| 11 回 | ワークライフバランスとは何か考えておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 12 回 | 「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                           |
| 13 回 | あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間60分)         |
| 14 回 | 日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。(標準学習時間60分)                           |
| 15 回 | 今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。(標準学習時間60分)                       |
| 16 回 | 今までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                          |

|      |                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題 (問題) には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性=社会参画の権 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|             |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」との関わりを論じます。前半は、「立法」を取り上げ、皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議します。後半は、「行政」「司法」を取り上げます。題材は、女性の社会進出問題等現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与） |
| 達成目標        | 憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。                                                                                                                                                                                                        |
| キーワード       | 市民性、ルールと秩序、社会的責任                                                                                                                                                                                                                                             |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テスト50%、最終評価試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とします。                                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 使用しません。講義中にレジメを配布します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 講義中に適宜紹介します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 科学技術と人間 (FB25I050)                        |
| 英文科目名 | Science-Technology and Human Beings       |
| 担当教員名 | 若村国夫＊ (わかむらくにお＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                                                                                        |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | はじめに：①自己紹介、②テキストの使用、写真や図を中心とするプロジェクター利用の講義、③関心を持って講義を聴く重要性を述べる。続いて、「日本とヨーロッパでこんなに違う風土と生活」として身近な例を紹介し、風土の役割と、日欧の違いがなぜ生じたのかを考えるきっかけを提供する。                                                                                                     |
| 2 回  | 「江戸時代までの技術と生活」江戸時代は日本の伝統技術の礎になっている。現代技術とどのように違うのかを紹介し、それらが作られた歴史と社会背景、特に大量生産を求めなかった江戸時代の封建制と鎖国政策との関係、それらが生活や技術・技能にどのように影響したのかを併せて紹介する。                                                                                                      |
| 3 回  | 「幕末から始まった日本の技術の近代化」開国が産業革命最終期に行われた重要性、徳川幕府が大金をはたいて雇った外国人技術者による技術教育、その成果とその後の発展、明治以降の産業技術の果たした役割、特に社会と戦争への影響、戦後の民衆的技術の発展による社会の近代化などを具体的に紹介する。                                                                                                |
| 4 回  | 「中国の技術、考え方とその歴史」<br>中世まで中国の技術は世界の先頭を走っていた。これがヨーロッパへ伝わり、大航海時代を生み、産業革命や科学の萌芽が生じ、西洋の近代化へとつながる。どのような技術が伝わったのか。技術発祥の基になった中国の伝統的世界観と歴史、中国の技術発展の低さの理由等を紹介する。                                                                                       |
| 5 回  | 「風土から見るヨーロッパ古代から中世の技術と社会」ヨーロッパは地理的に地中海周辺と北西ヨーロッパとに分けられる。地中海を代表するギリシャ、ローマの技術の特徴、船の技術の進歩が呼んだ地中海貿易や十字軍遠征でイタリアは豊かになり、ルネッサンスを生んだ。これら中世までの西洋の歴史を技術の視点から紹介する                                                                                       |
| 6 回  | 「科学技術の発祥と発展」15、16世紀の大航海時代をきっかけに北西ヨーロッパで花開いた科学。その原因を発明、発見の例から推測する。修道院を通じて広まった水車技術の機工的思考方の発展や19世紀の技術から科学への経路を具体例で紹介する。ワットやフルトンが蒸気機関や蒸気船の発明者でないことや、ファラデーの電磁誘導の法則から発電機が生まれた訳でない事等、茶飲み話的ではあっても意味深い隠れた技術史も紹介する。ヨーロッパの人々の考える姿勢がヨーロッパの豊かさを導いたことも示す。 |
| 7 回  | 「キリスト教の科学技術への貢献と科学が与えた自由平等の意識」キリスト教は西アジアで生まれたがその教えにはギリシャ人の考えが多く見られる。キリスト教の広まりと共に北西ヨーロッパの人々に自然現象のギリシャ的理解が浸透した。生物学では19世紀においても尚2000年前のギリシャ人の予言が信じられていた。キリスト教の自然科学、技術、芸術、自由平等社会構築へのキリスト教の貢献を紹介する。                                               |
| 8 回  | 講義と中間試験<br>講義：「アメリカの技術の特徴」<br>アメリカは17世紀から本格化した移民の国である。当初、技術は無かったが、移住してきた各国からの人々の助け合い、自由平等の意識、技術への関心とレベルアップを目指す姿勢がついに19世紀末、生産量や新技術で世界のトップに躍り出た。これらの内容と発展の歴史を辿り、技術の発展に何が重要かを理解する。                                                             |
| 9 回  | 「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考①伝統水車」<br>日本とヨーロッパで伝統的技術がどのように違うのかを水車を例にとり概観する。水車は世界で共通に使用されてきた唯一の動力源であり、産業革命初期の立役者でもあった。中世に水車の技術を高度化した北西ヨーロッパから科学が興った。水車の技術的側面を日本とヨーロッパとで比較すると、日欧の技術思考の差異をはっきり認識できる。若村の25年に及ぶ水車の調査結果も写真と図で紹介する。                        |
| 10 回 | 「こんなに違う日本とヨーロッパの技術思考②：船に見る日欧技術比較論」<br>船は世界で唯一共通に使用されてきた運搬装置である。水車と同様、中世の代表的技術であり、これを発展させた西ヨーロッパの人々は世界に活躍し、大航海時代と富の豊かさを得た。日本とヨーロッパの伝統的船にはその使用法や構造が風土や社会の影響が強く現れている。さらに船の修理装                                                                  |

|       |                                                                                                                                                                                                                               |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 置の乾ドックにも船の特徴が反映され、日欧の大きな違いがみられる。若村の16年に渡る調査結果を含めて写真と図で分かりやすく紹介する。                                                                                                                                                             |
| 1 1 回 | 「技術が誘発した社会の激変」産業革命はイギリスの綿工業から始まり、「鉄は国家なり」と云われた鉄鋼業の発展が続く。イギリスはこれらの先頭を走ったが、イギリス人の熔鉱炉の発明がイギリスを製鉄業の先頭から追い落とし、アメリカ、ドイツが台頭する。旧技術にしがみついたイギリスから新技術に向かうアメリカ、ドイツが次の世代を担った。この歴史や一つの発明が世界を変えた例、アメリカ人が志した発明への評価などを紹介し、次世代の技術の発展に何が必要かを考える。 |
| 1 2 回 | 「技術が生んだ富の増大」<br>農業技術の発展は農地の拡大が富の増加につながることを教え、農産物の交易はさらなる富を生むことを教えた。交易が生産品により活発化した結果、生産増の方法や船の重要性が認識され、現代ヨーロッパ社会を彩る種々の生活用品が次々持ち込まれた。これらを紹介する。                                                                                  |
| 1 3 回 | 「大航海時代と産業革命が生んだ経済学」<br>大航海時代に富を蓄えると、さらに富を増やすための交易品製造の技術に注目が集まった。富の増大は経済学を生み、産業革命では貧富の差の拡大や社会環境、社会生活スタイルの激変が生じた。これらに対して富の分配を如何にすべきかを考えた経済学者が現れた。技術の視点から、アダムスミス、シュンペータ、マルクス、マルサスなど当時の経済学者の考えを紹介し、労働と技術、経済の関係を考える。               |
| 1 4 回 | 「科学技術の発展と人間疎外」<br>産業革命による技術発展は大量生産で人々を豊かにしたが、反面、市場競争や原料の獲得競争が生じ、第一次大戦へと進んでいく。大量殺戮、単純労働、児童労働など人間にとって負の要素も増えた。人権を土台として技術の持つ負の要素と、日本とヨーロッパの技術に盛られる人権の差異を紹介する。                                                                    |
| 1 5 回 | 「戦争技術のイノベーションと日欧人権の差異」<br>戦争には各国の持つ最高レベルの技術が投入される。アルマダの戦いや第一次、第二次世界大戦に典型的に見られたが、その兵器を使用する兵士への人権の有無を日欧で比較する。この差異は現在の日常の技術製品に見られることを具体例で指摘する。                                                                                   |
| 1 6 回 | 講義と最終評価試験<br>講義：「21世紀の科学技術を考える」<br>これまで学んだ技術の歴史、技術が社会へ果たした役割、技術の負の側面を振り返り、21世紀の技術の進む方向はどうあるべきかを考える。日本人にはなじみのない人権と技術、自然破壊する技術などを紹介し、自然科学だけでなく人文科学まで取り込んだ技術思考の必要性を考察する。                                                         |

| 回数    | 準備学習                                                             |
|-------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 特に無し                                                             |
| 2 回   | 身の周りの自然や風俗に関心を持つこと                                               |
| 3 回   | 知識度にもよるが30分ほど第2回の講義内容を復習すること                                     |
| 4 回   | 知識度にもよるが30分ほど第3回の講義内容を復習すること                                     |
| 5 回   | 知識度にもよるが30分ほど第4回の講義内容を復習すること                                     |
| 6 回   | 知識度にもよるが30分ほど第5回の講義内容を復習すること                                     |
| 7 回   | 知識度にもよるが30分ほど第6回の講義内容を復習すること                                     |
| 8 回   | 試験に対しては第7回迄の講義内容を二時間以上復習すること                                     |
| 9 回   | 知識度にもよるが30分ほど第8回の講義内容を復習すること                                     |
| 1 0 回 | 知識度にもよるが30分ほど第9回の講義内容を復習すること                                     |
| 1 1 回 | 知識度にもよるが30分ほど第10回の講義内容を復習すること                                    |
| 1 2 回 | 知識度にもよるが30分ほど第11回の講義内容を復習すること                                    |
| 1 3 回 | 知識度にもよるが30分ほど第12回の講義内容を復習すること                                    |
| 1 4 回 | 知識度にもよるが30分ほど第13回の講義内容を復習すること                                    |
| 1 5 回 | 知識度にもよるが30分ほど第14回の講義内容を復習すること                                    |
| 1 6 回 | 知識度にもよるが30分ほど第15回の講義内容を復習すること。試験に対しては9回から15回までの講義内容を二時間以上復習すること。 |

|      |                                                                                                                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 経験技術が科学技術となり、これが人間社会に与えてきた正と負の影響、文化との密接な関係、多様な技術アイデア創出の原因などを、技術の歴史や日中欧米の社会体制や風土などを通して認識する。最近の環境問題や台頭するかつての技術王国、中国、遅れから一気に先頭に躍り出たアメリカの技術政策などを視野に入れ、科学と技術が及ぼした自然や社会への影響と変遷の様子を見る。写真と図を中心とした映像で話を印象深く進める。 |
| 達成目標 | 科学や技術の視点から日本、欧米、中国の歴史を知り、客観的に社会現象をみる眼を養う。地球温暖化軽減の技術の方向や技術社会、人権と技術、技術のグローバル化の未来などを日本の伝統技術思考や産業革命前後の社会の構造変化や西洋の論理などから考察し、技術を幅広く捉えられる知識                                                                   |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <p>と思考を養い、21世紀の技術の進むべき方向を自ら考えられる素地を作る。科学や技術の歴史を社会、経済、政治史などと結びつけて見ることで、21世紀の技術社会の方向が見えてくる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                               |
| キーワード       | <p>日欧米中各国技術比較、伝統技術、環境、水車、船、社会、経済、封建制、民主主義、資本主義、産業革命、大英帝国、戦争、人権、技術アイデア、風土、グローバル化、発明</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 成績評価（合格基準60 | <p>授業ごとの小問試験(成績の26%)と中間試験(37%)最終評価試験(成績の37%)の得点による。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 関連科目        | <p>特になし</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書         | <p>科学技術と人間（科学技術の社会史）/若村国夫著/書店販売しない/</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 参考書         | <p>高校の教科書「日本史」、「世界史」、世界地図</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 連絡先         | <p>非常勤講師控室</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 注意・備考       | <p>・履修希望者が150名程度を越えたときには受講生数制限をかけることがある。<br/> ・地球温暖化、自然破壊、日本の伝統技術の消滅、近隣諸国との資源争奪戦など、技術立国日本の足元を揺るがす変化が多い中、本講義では科学や技術の視点から歴史や社会を客観的にみる眼を養い、日本はどうあるべきかを考える。このことは、科学技術を学ぶ者にとって大いに必要となっている。学科の専門にとらわれず科学者、技術者、理科教員の品格を得る一助として受講を薦める。本講義は筆者の30年に渡る日欧の伝統技術の研究と最も西洋科学的な物理学的視点とを融合させ、技術と生活の結びつき、歴史や経済、人権などとの関係を加えた構成としている。身近な生活用具や風俗にも技術につながる要素が含まれていることを知る必要がある。</p> |
| 試験実施        | <p>実施する</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB25K020)                          |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                  |
| 担当教員名 | 市場恵子* (いちばけいこ*)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                                                                |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex,gender,sexuality」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。                                     |
| 2 回   | 【性の多様性と可変性】性同一性障害（性別違和）・性分化疾患・性的指向（同性愛・両性愛・無性愛）など、性的少数者への理解を深める。                                    |
| 3 回   | 【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。                 |
| 4 回   | 【障がいとともに生きる】「障がい」とは？ 自らの差別感や社会のバリアを検証する。                                                            |
| 5 回   | 【DVと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、DVや虐待について考える。DVのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。                         |
| 6 回   | 【デートDV】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。                                                           |
| 7 回   | 【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは？ハラスメントの防止対策を考える。                                                        |
| 8 回   | 【憲法とは何か？】（前半45分間講義）日本国憲法を守るのは誰か。憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。<br>【中間試験】（後半45分間試験）                  |
| 9 回   | 【震災と原発】3.11から3年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。                                                  |
| 1 0 回 | 【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。                                         |
| 1 1 回 | 【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。                                       |
| 1 2 回 | 【犯罪と更生～暴力の被害と加害に向き合う】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。                              |
| 1 3 回 | 【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。                                               |
| 1 4 回 | 【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。     |
| 1 5 回 | 【アサーティブ・トレーニング】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習もする。 |
| 1 6 回 | 【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。<br>【期末試験】（後半45分間試験）                           |

| 回数  | 準備学習                                                                                                    |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。教科書『愛する・愛される』Lesson 5（63～76ページ）を読んでおくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）            |
| 2 回 | 【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分） |
| 3 回 | 【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）                                |
| 4 回 | 【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）     |
| 5 回 | 【DVと虐待】DV（夫婦間暴力）や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）                                        |

|     |                                                                                                          |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6回  | 【デートDV】教科書『愛する・愛される』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）                                                                |
| 7回  | 【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。（標準学習時間120分）                  |
| 8回  | 【憲法とは何か？】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。<br><br>【中間試験】1～7回の資料や『愛する・愛される』にもう一度目を通しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | 【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ばく・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。（標準学習時間120分）    |
| 10回 | 【日本軍「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、調べておくこと。（標準学習時間120分）                                                   |
| 11回 | 【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。（標準学習時間120分）                                  |
| 12回 | 【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。（標準学習時間120分）                                     |
| 13回 | 【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えてくること。（標準学習時間120分）                                        |
| 14回 | 【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べてくること。（標準学習時間120分）                                           |
| 15回 | 【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。（標準学習時間120分）            |
| 16回 | 【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。（標準学習時間120分）                                        |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センター 単位認定方針のCにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 達成目標        | 社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| キーワード       | 自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、DV、デートDV、セクハラ、アカハラ、パワハラ、震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 成績評価（合格基準60 | 毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 教科書         | 愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7／山口のり子／梨の木舎／978-4-816604096                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参考書         | 砂川秀樹『カミングアウトレターズ』（太郎次郎社）、安積遊歩『いのちに贈る超自立論～すべてのからだは百点満点～』（太郎次郎社エディプス）、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』（医学書院）、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと（1～6巻）』（小学館）、井上ひさし『けんぼうのおはなし』（講談社）、谷口真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』（文芸春秋）、坂上香『ライファーズ』（みすず書房）、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』（太郎次郎社エディタス）、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入～女性国際戦犯法廷をめぐる何が起きたか』（世羅書房）、上野千鶴子『おひとりさまの老後』（法研）、上野千鶴子『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』（すばる舎）、アーサー・ビナード『知らなかった、ぼくらの戦争』（小学館）、阿部彩『子どもの貧困II～解決策を考える』（岩波新書）、吉野源三郎・羽賀翔一『君たちはどう生きるか』（マガジンハウス） |
| 連絡先         | PCメール：kei3@pol.oninet.ne.jp<br>T & F：086-277-7522                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 哲学 (FB25K030)                             |
| 英文科目名 | Philosophy                                |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および哲学とは何かを説明する。                 |
| 2 回   | デカルト以前の西洋哲学 (1)ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。                   |
| 3 回   | デカルト以前の西洋哲学 (2)ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。                  |
| 4 回   | デカルト以前の西洋哲学 (3)ー中世の哲学 (スコラ哲学、普遍論争等)を説明する。                    |
| 5 回   | デカルトの哲学ーデカルトの生涯と思想を説明する。                                     |
| 6 回   | デカルト以後の西洋哲学 (1)ーカントの生涯と思想を説明する。                              |
| 7 回   | デカルト以後の西洋哲学 (2)ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。 |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。            |
| 1 0 回 | インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。                          |
| 1 1 回 | インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」とその現代への影響を説明する。                          |
| 1 2 回 | 中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。                                       |
| 1 3 回 | 中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。                                       |
| 1 4 回 | イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの思想を説明する。                           |
| 1 5 回 | イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィーナーとガザーリーの思想を説明する。                         |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）           |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|             |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本講義では、前半で西洋哲学を、後半で東洋哲学ををひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるものであるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                 |
| 達成目標        | ①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各時代、文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。                                      |
| キーワード       | 哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60 | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目        | 倫理と宗教                                                                                                                                                               |
| 教科書         | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書         | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考       | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 論理学 (FB25L040)                            |
| 英文科目名 | Logic                                     |
| 担当教員名 | 中島聡 (なかしまさとし)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション。講義の進め方を説明する。序論として、論理学の定義・その学問的な特徴・論理的な推論の形態について説明する。          |
| 2 回  | 西洋の古代・中世の論理学の歴史を概説する。                                                   |
| 3 回  | 西洋の近現代の論理学の歴史を概説する。                                                     |
| 4 回  | 伝統的論理学(1) 名辞(概念)の意味と種類、外延と内包、定義について説明する。                                |
| 5 回  | 伝統的論理学(2) 命題(判断)の性質・種類・標準形式、周延不周延について説明する。                              |
| 6 回  | 伝統的論理学(3) 直接推理の性質・種類として対当推理・変形推理について説明する。                               |
| 7 回  | 伝統的論理学(4) 間接推理のうち、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について説明する。                         |
| 8 回  | 古代論理学の歴史と基礎的な事項についてのここまでの講義内容を振り返ると同時にここまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。 |
| 9 回  | 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。                              |
| 10 回 | 帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴について説明する。                        |
| 11 回 | 命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成について説明する。                                        |
| 12 回 | 命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法について説明する。                                |
| 13 回 | 命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)について説明する。                  |
| 14 回 | 述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について説明する。                                 |
| 15 回 | 述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)について説明する。                      |
| 16 回 | 1 回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。                                          |

| 回数   | 準備学習                                                            |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義全体の学習内容を、シラバスで確認しておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 2 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の古代・中世論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 3 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の近現代論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 4 回  | 教科書第二部「名辞」を読み、名辞(概念)の意味、外延と内包、種類、定義について予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 5 回  | 教科書第二部「命題」を読み、命題(判断)の性質、種類と標準形式、周延不周延について予習しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 6 回  | 教科書第二部「直接推理」を読み、推理の性質、その種類として対当推理・変形推理について予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 7 回  | 教科書第二部「間接推理」を読み、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 8 回  | ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)                              |
| 9 回  | 教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 10 回 | 教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 11 回 | 教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順を予習しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 12 回 | 教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)             |
| 13 回 | 教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 14 回 | 教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |

|     |                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------|
| 15回 | 教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 16回 | 1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)                    |

|              |                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 伝統的論理学、帰納論理学、命題論理学、述語論理学という西洋の代表的な四つの論理学を取り上げ、各々の論理学の基礎的な事項を学習する。論理学は根本的・形式的な学問である。基礎的な知識・技法をしっかりと学習することで、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力も上達する。論理学の基礎的な学習とその応用・展開を目的としている。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標         | ①西洋論理学の基礎について正確な理解ができる。<br>②初級的な推論の問題演習を通して、その技法を習得できる。<br>③言語の記号処理と真偽の判定ができる。<br>④社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開ができる。                                                                                       |
| キーワード        | 西洋論理学の歴史 概念・命題・推理 論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理<br>論理式の真偽計算 述語と量化                                                                                                                                                        |
| 成績評価(合格基準60) | 中間試験(40%)、最終評価試験(60%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                |
| 関連科目         | なし。                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書          | 論理学研究／中島 聡／ふくろう出版／978-4-861865466                                                                                                                                                                                |
| 参考書          | 教科書巻末に掲載した参考文献を参照のこと。                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                  |
| 注意・備考        | 論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。                                                                                                            |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                             |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB25L050)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                             |
|------|--------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。 |
| 2 回  | 日本映画とアメリカ映画における放射能の表象を比較する。①                     |
| 3 回  | 日本映画とアメリカ映画における放射能の表象を比較する。②                     |
| 4 回  | 物語の舞台としての「学校」について考察する。①                          |
| 5 回  | 物語の舞台としての「学校」について考察する。②                          |
| 6 回  | アクション映画における日本と香港の相関性を分析する。①                      |
| 7 回  | アクション映画における日本と香港の相関性を分析する。②                      |
| 8 回  | 前半の講義をまとめ、中間テストを実施する。                            |
| 9 回  | 後半の講義の概要を説明し、映画分析の実例を示す。                         |
| 10 回 | 瀬戸内海の島々から映画を考察する。①                               |
| 11 回 | 瀬戸内海の島々から映画を考察する。②                               |
| 12 回 | ロードムービーの文化表象を比較する。①                              |
| 13 回 | ロードムービーの文化表象を比較する。②                              |
| 14 回 | 「寅さん」の原像と岡山の関係について検証する。①                         |
| 15 回 | 「寅さん」の原像と岡山の関係について検証する。②                         |
| 16 回 | 後半の講義をまとめ、最終評価試験を実施する。                           |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 予習：シラバスを読んでくること。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)                |
| 2 回  | 予習：テキスト第1章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)            |
| 3 回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間45分)           |
| 4 回  | 予習：テキスト第3章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)            |
| 5 回  | 予習：テキスト第14章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間45分)              |
| 6 回  | 予習：テキスト第4章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)            |
| 7 回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間60分)           |
| 8 回  | 予習：中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)             |
| 9 回  | 予習：シラバスを読んでくること。復習：後半の講義の概要を確認し、映画分析についてまとめること。(標準学習時間45分)       |
| 10 回 | 予習：テキストの第5章、第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)       |
| 11 回 | 予習：テキストの第10章、第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間60分)        |
| 12 回 | 予習：テキストの第8章、第15章を読んでおくこと。復習：講義で取上げたロードムービーの特徴をまとめること。(標準学習時間60分) |
| 13 回 | 予習：テキストの第7章、第9章を読んでおくこと。復習：講義で取上げたロードムービーの表象を比較すること。(標準学習時間60分)  |
| 14 回 | 予習：テキストの第23章を読んでおくこと。復習：映画「男はつらいよ」シリーズについてまとめること。(標準学習時間60分)     |
| 15 回 | 予習：テキストの19章、24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)       |
| 16 回 | 予習：最終評価試験の準備をしておくこと。復習：最終評価試験を自己点検すること。(標準学習時間60分)               |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 時間120分)     |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 講義目的        | 岡山を起点としつつ、映画に表れる地域性に着目し、その表象の比較・分析を通じて文化の多様性と相関性を明らかにする。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                   |
| 達成目標        | 岡山の地域性を知った上で、映画に表れる様々な文化表象を理解し、その背景にある歴史、風土、社会への視点を獲得する。                                                                                                                                                                                                                                |
| キーワード       | 岡山、映画、比較文化論、表象文化論                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 成績評価（合格基準60 | ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、中間テスト30%、最終評価試験30%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                 |
| 関連科目        | ボランティア論                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書         | 世良利和／「まあ映画な、岡山じゃ県！」／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 注意・備考       | 1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.受講者は必ずテキストを購入すること。<br>3.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 4.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 5. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 6. 100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7. 講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8. 提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 9. 講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB25L060)                          |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                       |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                               |
|-------|----------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理とは何かを説明する。       |
| 2 回   | 一神教の倫理 (1) ーユダヤ教・キリスト教の倫理を説明する。                    |
| 3 回   | 一神教の倫理 (2) ーイスラームの倫理を説明する。                         |
| 4 回   | 哲学者と倫理 (1) ー徳倫理学を説明する。                             |
| 5 回   | 哲学者と倫理 (2) ーカントの倫理学を説明する。                          |
| 6 回   | 哲学者と倫理 (3) ー功利主義を説明する。                             |
| 7 回   | 現代の倫理ー動物の生命についての様々な考え方を説明する。                       |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。 |
| 1 0 回 | 古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。                       |
| 1 1 回 | 古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。                            |
| 1 2 回 | 日本の伝統的倫理を説明する。                                     |
| 1 3 回 | 現代の倫理 (1) ー死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。                     |
| 1 4 回 | 現代の倫理 (2) ー自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。       |
| 1 5 回 | 現代の倫理 (3) ー脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。                 |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「倫理とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）          |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|              |                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義の前半では西洋の倫理思想を、後半では東洋の倫理思想を中心に学ぶ。倫理的な思考方法を身につけることにより、自身の日常生活の中でそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                                     |
| 達成目標         | ①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を体験し、日常生活に役立てることができる。                                    |
| キーワード        | 倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                  |
| 教科書          | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書          | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考        | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 法学（FB25M030）                              |
| 英文科目名 | Law                                       |
| 担当教員名 | 佐藤元治（さとうもと はる）                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部（～15）,工学部（～15）,総合情報学部（～15）,生物地球学部（～15） |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                        |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 法とは何かについての講義を行う。〔内容〕社会規範としての法、法と道德の違い                       |
| 2 回  | 六法の使い方についての説明を行う。〔内容〕六法とは？、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方         |
| 3 回  | 法の体系についての講義を行う。〔内容〕法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系                 |
| 4 回  | 法の分類についての講義を行う。〔内容〕法の内容による分類（公法と私法、一般法と特別法など）               |
| 5 回  | 法の効力についての講義を行う。〔内容〕法の効力とは？、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消し             |
| 6 回  | 法の適用についての講義を行う。〔内容〕法の適用とは？、事実認定の必要性和重要性                     |
| 7 回  | 法の解釈 についての講義を行う。〔内容〕文理解釈、論理（目的）解釈                           |
| 8 回  | これまでの授業内容の総括を行う。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。 |
| 9 回  | 司法制度についての概説の講義を行う。〔内容〕裁判所の種類と関係、三審制度                        |
| 10 回 | 裁判官という法律家についての講義を行う。〔内容〕司法権の独立と裁判官の市民的自由                    |
| 11 回 | 検察官という法律家についての講義を行う。〔内容〕検察官の職務内容、検察審査会、検察の不祥事とその防止策         |
| 12 回 | 弁護士という法律家についての講義を行う。〔内容〕弁護士の使命、弁護士偏在の問題、法テラス、当番弁護士制度        |
| 13 回 | 刑事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策            |
| 14 回 | 国民の司法参加についての講義を行う。〔内容〕諸外国の国民の司法参加（陪審制、参審制）、日本の裁判員制度とその問題点   |
| 15 回 | 民事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟                |
| 16 回 | 最終評価試験および全体の総括を行う。                                          |

| 回数  | 準備学習                                                                                                                                  |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）                   |
| 2 回 | 第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。（例えば、どんな法令が幾つ収録されているか？国語や英語の辞書と違う点は何か？など）ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 3 回 | 第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                           |
| 4 回 | 第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと（授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                       |
| 5 回 | 第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                        |
| 6 回 | 第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと（特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                       |
| 7 回 | 第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと（特に事実認定の必要性・重要性など）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                           |
| 8 回 | 第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと（解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと）。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し                                               |

|     |                                                                                                                                                  |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | ておくこと。（標準学習時間180分）                                                                                                                               |
| 9回  | インターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。（標準学習時間60分）                                                                 |
| 10回 | 第9回の授業で説明した裁判所の種類と三審制度について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                               |
| 11回 | 第10回の授業で扱った裁判官の市民的自由の問題について、なぜその問題が重要なのか、またどのようなあるべきなのかについて自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                               |
| 12回 | 第11回の授業で扱った検察官の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、検察審査会の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                            |
| 13回 | 第12回の授業で扱った弁護士の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、法テラスや当番弁護士制度の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                     |
| 14回 | 第13回の授業内容の刑事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に有罪・無罪の判定について）。最高裁判所のHP等で裁判員制度の紹介をしている箇所を見つけて、おおよその内容を調べておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 15回 | 第14回の授業で説明した諸外国の国民の司法参加と日本の裁判員制度の異同について正確に理解し、整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                  |
| 16回 | 第15回の授業内容の民事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に和解について）。また、刑事裁判との異同について、整理しておくこと。第9回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。（標準学習時間180分）                            |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）      |
| 達成目標          | ①法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。②六法を使って必要な条文が検索できるようになること。③法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できるようになること。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| キーワード         | 法、司法、法律家、裁判、裁判員制度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 成績評価（合格基準60%） | 授業内小テスト・レポート（計4回、各10%）＋中間テスト（30%）＋最終評価試験（30%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 関連科目          | 日本国憲法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書           | ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | 授業中に適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先           | B3号館（旧24号館）4階研究室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 注意・備考         | ①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。<br>②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。<br>③テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。<br>④小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。<br>⑤新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。 |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 福祉環境論 (FB25M040)                          |
| 英文科目名 | Welfare Environmental Science             |
| 担当教員名 | 西村次郎 (にしむらじろう)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 本講義のガイダンス（福祉の目的、意義、講義概要）をする。<br>「自己実現」について説明する。                     |
| 2 回  | 現代社会における福祉環境の課題について説明する。<br>人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。 |
| 3 回  | 幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障害」について説明する。                |
| 4 回  | 「人にやさしい街づくり」について説明する（DVD等）。                                         |
| 5 回  | 「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」について説明する。                          |
| 6 回  | 「人にやさしい家づくり」について説明する（DVD等）。                                         |
| 7 回  | 「人にやさしい道づくり」について説明する（DVD等）。                                         |
| 8 回  | 中間試験とこれまでのまとめ。ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。                     |
| 9 回  | 1. 心と身体、DMD症について説明する。                                               |
| 10 回 | 2. 心と身体 DMD症について説明する。                                               |
| 11 回 | 「身体障がい者補助犬法」と「生きがい感の創造」について説明する（DVD等）。                              |
| 12 回 | 障がい者スポーツについて説明する（DVD等）。                                             |
| 13 回 | 福祉機器 車椅子の疑似体験を実施する。                                                 |
| 14 回 | 高齢者の心と身体について解説する。人間のライフサイクルについて説明する。                                |
| 15 回 | 「人間の幸せ」について考える。自己実現、至高経験、創造的人間の意味について考える。                           |
| 16 回 | これまでのまとめと最終評価試験を実施する。                                               |

| 回数   | 準備学習                                                                   |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。（標準学習時間60分）            |
| 2 回  | 福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯（生老病死など）や「幸せとは何か」について考え、まとめておくこと。（標準学習時間120分）  |
| 3 回  | 幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について 予習を行うこと。（標準学習時間120分）                |
| 4 回  | 福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間120分）          |
| 5 回  | 「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。（標準学習時間120分） |
| 6 回  | 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさしい家づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間120分） |
| 7 回  | 「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間100分）                                |
| 8 回  | これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）                                           |
| 9 回  | DMD症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。（標準学習時間100分）                              |
| 10 回 | DMD症の臨床症状について復習すること。DMD症児の心の課題について予習を行うこと。（標準学習時間120分）                 |
| 11 回 | 進行性の難病の子どもたちの心の課題について復習すること。「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）       |
| 12 回 | 「身体障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）              |
| 13 回 | 人道路や建物のチェックポイント（車椅子疑似体験）の確認をしておくこと。（標準学習時間120分）                        |
| 14 回 | 人間のライフサイクルについて予習をおこなうこと。（標準学習時間100分）                                   |
| 15 回 | 人間のライフサイクルについて復習をすること。マスローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。（標準学習時間120分）           |
| 16 回 | これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）                                           |

|             |                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 人間尊重の視点に立ち、障がい者や高齢者の幸福追求の権利（自己実現）や 生きがい感獲得の方策について考察するとともに、一人ひとりの人間の 幸福追求について新たに見つめ直す。「人生の一回性」の認識を深め、生と死について考察し自己存在感の 認識実現につなげる。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）                                                                        |
| 達成目標        | ①障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。DMD症児について説明できること。（C）<br>②福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。（D） ③世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明 できること。（C） ④現代社会の福祉環境の課題について要約できること。（D）                           |
| キーワード       | 世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、 ユニバーサルデザイン、難病                                                                                                                                                                                       |
| 成績評価（合格基準60 | 課題提出3回（30％）、中間試験および最終評価試験（70％）                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        | 健康の科学。スポーツとフィールド科学（ヨット）では、障がいのある学生も受講 できるようにユニバーサルデザインのヨットを使っています。                                                                                                                                                                  |
| 教科書         | 適宜配布する                                                                                                                                                                                                                              |
| 参考書         | 適宜紹介する                                                                                                                                                                                                                              |
| 連絡先         | B3号館 3階 西村（次）研究室                                                                                                                                                                                                                    |
| 注意・備考       | 車椅子等の疑似体験を予定しているので、受講者の積極性を期待しています。 知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。<br>・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。<br>・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は、事前に相談すること。<br>・課題提出については講義中にフィードバックを行う。<br>・この講義ではアクティブラーニングを行うので、受講者が多数の場合は受講者制限を行う場合がある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB25M050)                             |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                     |
| 担当教員名 | 田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                     |
|------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | ＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。<br>＊国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。       |
| 2 回  | ＊古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。                                               |
| 3 回  | ＊古典とする環境問題/人口論について説明する。                                                  |
| 4 回  | ＊人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                           |
| 5 回  | ＊世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                         |
| 6 回  | ＊日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                          |
| 7 回  | ＊水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。                                                |
| 8 回  | ＊前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。<br>＊中間テストを実施する。           |
| 9 回  | ＊中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。<br>＊国際情勢（世界経済と宗教）の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。 |
| 10 回 | ＊世界経済の全体像について説明する。<br>＊世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。                       |
| 11 回 | ＊世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                           |
| 12 回 | ＊世界経済/通貨について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 13 回 | ＊アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。<br>＊国際時事用語を理解する。                             |
| 14 回 | ＊宗教と民族紛争の関連を分析する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 15 回 | ＊後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。                         |
| 16 回 | ＊これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                      |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。<br>(標準学習時間 120分) |
| 2 回 | 前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120分)                                        |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                            |
| 4 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                                              |
| 5 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                                              |
| 6 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                                              |

|     |                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------|
| 7回  | 前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)         |
| 8回  | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 9回  | 再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)           |
| 10回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 11回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 12回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 13回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 14回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 15回 | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 16回 | これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)             |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。<br>これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する) |
| 達成目標         | ①新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。<br>②メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。<br>③国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。<br>④経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。                                                                                                             |
| キーワード        | 人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価(合格基準60) | 中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 関連科目         | 企業と人間、技術者の社会人基礎                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 教科書          | 必要に応じ、指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 参考書          | 必要に応じ、資料を配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考        | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | マスメディア論 (FB25M060)                        |
| 英文科目名 | Mass Media-Theory and Practice            |
| 担当教員名 | 高下義彦＊ (こうげよしひこ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                  |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。              |
| 2 回  | 「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。                       |
| 3 回  | 「新聞①」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。                                                         |
| 4 回  | 「新聞②」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。                 |
| 5 回  | 「新聞③」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。 |
| 6 回  | 「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。                                                          |
| 7 回  | 「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。                                                               |
| 8 回  | 1～7回を総括し、中間評価試験を実施する。                                                                 |
| 9 回  | 中間試験の解答と結果を解説する。「広告」2016年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。                                      |
| 10 回 | 「インターネット①」インターネットの歴史、外観、現状を学習する。                                                      |
| 11 回 | 「インターネット②」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。                                               |
| 12 回 | 「ソーシャルメディア①」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。                               |
| 13 回 | 「ソーシャルメディア②」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。                                 |
| 14 回 | 「音楽」日本の音楽の変遷、CD市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。                                                |
| 15 回 | 「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。                                                      |
| 16 回 | 9～15回を総括し、最終試験を行う。                                                                    |

| 回数   | 準備学習                                                                       |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 2 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 3 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 4 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 5 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 6 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 7 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 8 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)                                   |
| 9 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 10 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 11 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 12 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |

|       |                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------|
|       | について感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)                                             |
| 1 3 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 1 4 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 1 5 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 1 6 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)                                   |

|             |                                                                                                                                                                                     |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与) |
| 達成目標        | ①マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。<br>②マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。<br>③正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。                                                                          |
| キーワード       | マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー                                                                                                                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 合格基準60点。中間、最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート（時事ニュースなどについて）10%                                                                                                                            |
| 関連科目        | 情報社会論、ジャーナリズム論                                                                                                                                                                      |
| 教科書         | 適宜、資料などを配布する。                                                                                                                                                                       |
| 参考書         | 図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版：メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書：鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書：ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社：メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書                                                                   |
| 連絡先         | 山陽新聞社編集局製作管理センター<br>岡山市柳町2-1-1<br>電話086-803-8168(工程管理部)<br>メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp                                                                                          |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                     |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB25N020)                          |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                  |
| 担当教員名 | 田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                     |
|------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | ＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。<br>＊国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。       |
| 2 回  | ＊古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。                                               |
| 3 回  | ＊古典とする環境問題/人口論について説明する。                                                  |
| 4 回  | ＊人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                           |
| 5 回  | ＊世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                         |
| 6 回  | ＊日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                          |
| 7 回  | ＊水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。                                                |
| 8 回  | ＊前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。<br>＊中間テストを実施する。           |
| 9 回  | ＊中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。<br>＊国際情勢（世界経済と宗教）の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。 |
| 10 回 | ＊世界経済の全体像について説明する。<br>＊世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。                       |
| 11 回 | ＊世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                           |
| 12 回 | ＊世界経済/通貨について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 13 回 | ＊アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。<br>＊国際時事用語を理解する。                             |
| 14 回 | ＊宗教と民族紛争の関連を分析する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 15 回 | ＊後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。                         |
| 16 回 | ＊これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                      |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。<br>(標準学習時間 120分) |
| 2 回 | 前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 120分)                                        |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                            |
| 4 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                                              |
| 5 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                                              |
| 6 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                                              |

|     |                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------|
| 7回  | 前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)         |
| 8回  | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 9回  | 再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)           |
| 10回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 11回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 12回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 13回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 14回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 15回 | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 16回 | これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。<br>これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する) |
| 達成目標        | ①新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。<br>②メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。<br>③国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。<br>④経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。                                                                                                             |
| キーワード       | 人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 関連科目        | 企業と人間、技術者の社会人基礎                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 教科書         | 必要に応じ、指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 参考書         | 必要に応じ、資料を配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考       | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                      |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | マスメディア論 (FB25N030)                        |
| 英文科目名 | Mass Media-Theory and Practice            |
| 担当教員名 | 八木一郎 (やぎいちろう)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                     |
|-------|------------------------------------------|
| 1 回   | イントロダクション。講義の進め方を説明する。メディアについて学ぶ意義を説明する。 |
| 2 回   | メディアの意味や既存のマスメディアの歴史と現況について概略を説明する。      |
| 3 回   | マーシャル・マクルーハンのメディア論について説明する。              |
| 4 回   | 新聞の歴史と特性について説明する。                        |
| 5 回   | ラジオの歴史と特性について説明する。                       |
| 6 回   | 映画の歴史と特性について説明する。                        |
| 7 回   | テレビの歴史と特性について説明する。                       |
| 8 回   | ここまでの講義内容について振り返り、中間的な評価をするための試験を実施する。   |
| 9 回   | 中間試験について解説し、今後の講義内容について概略を説明する。          |
| 1 0 回 | インターネットの歴史と特性について説明する。                   |
| 1 1 回 | 出版メディアの歴史と特性について説明する。                    |
| 1 2 回 | 広告の歴史と特性について説明する。                        |
| 1 3 回 | メディアの効果研究について説明する。                       |
| 1 4 回 | 活字メディアと映像メディアの特性について説明する。                |
| 1 5 回 | メディアリテラシーの意義と役割について説明する。                 |
| 1 6 回 | ここまでの講義内容について振り返り、最終的な評価をするための試験を実施する。   |

| 回数    | 準備学習                                                                     |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 授業内容の確認と復習。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 6 0 分)                         |
| 2 回   | メディアの意味を説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)            |
| 3 回   | マクルーハンの提起した2つの概念について説明できるよう復習する。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)  |
| 4 回   | 新聞の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)        |
| 5 回   | ラジオの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)       |
| 6 回   | 映画の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)        |
| 7 回   | テレビの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)       |
| 8 回   | 中間試験について自己点検すること。(標準学習時間 1 2 0 分)                                        |
| 9 回   | 中間試験の解説を踏まえ、1 回～8 回までの講義内容を復習する。(標準学習時間 1 8 0 分)                         |
| 1 0 回 | インターネットの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)    |
| 1 1 回 | 出版メディアの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)     |
| 1 2 回 | 広告の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)         |
| 1 3 回 | メディアの効果研究について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)        |
| 1 4 回 | 活字メディアと映像メディアの特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 1 5 回 | メディアリテラシーの意義と役割について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)  |
| 1 6 回 | 1 回～1 5 回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間 1 8 0 分)                           |

|      |                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 生活に欠かせないメディアの存在。そのメディアの特性を知り、社会のあり方や情報の活用方法について学ぶことで、社会人としての資質を養う。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっと |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------|
|             | も強く関与。)                                                 |
| 達成目標        | 様々な情報の中からどう取舍選択するか、メディアに対するリテラシー能力を高め、社会人としての判断力を身につける。 |
| キーワード       | 情報社会、メディアリテラシー、ネット社会                                    |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験、最終評価試験を実施し、配点はそれぞれ50点ずつ、計100点満点とする。                |
| 関連科目        | 情報メディア、ジャーナリズム論、コミュニケーション、                              |
| 教科書         | なし                                                      |
| 参考書         | 図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書     |
| 連絡先         | A1号館6F 八木研究室 086-256-9758                               |
| 注意・備考       | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                          |
| 試験実施        | 実施する                                                    |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB25N040)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 2年                                        |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数  | 授業内容                                     |
|-----|------------------------------------------|
| 1回  | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2回  | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3回  | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4回  | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5回  | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6回  | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7回  | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8回  | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9回  | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 10回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 11回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 12回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 13回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 14回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 15回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 16回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数  | 準備学習                                                             |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 1回  | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2回  | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3回  | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5回  | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6回  | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7回  | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8回  | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9回  | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 10回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 11回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 12回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 13回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 14回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 15回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 16回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義目的        | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標        | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード       | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書         | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 科学技術倫理 (FB25P040)                         |
| 英文科目名 | Science and Engineering Ethics            |
| 担当教員名 | 佐藤元治 (さとうもと はる)                           |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 倫理とは何かについての講義を行う。 [内容] 倫理とモラル、法と倫理                                        |
| 2 回  | 技術者と倫理についての講義を行う。 [内容] なぜ技術者の倫理か、職務上の義務、積極的倫理                             |
| 3 回  | 組織の中の個人の役割についての講義を行う。 [内容] スペースシャトル・チャレンジャー号事故、安全文化                       |
| 4 回  | 組織上の人間関係についての講義を行う。 [内容] 組織について、組織とコミュニティ、組織のコミュニケーション、積極的倫理の行動のイメージ、利益相反 |
| 5 回  | 倫理実行の手法についての講義を行う。 [内容] 倫理のケース・スタディの手法、倫理的行動ガイドライン、倫理的判断の方法、全体像の把握        |
| 6 回  | 技術者のアイデンティティについての講義を行う。 [内容] 科学技術とは何か、技術者のアイデンティティ、JCO臨界事故                |
| 7 回  | 技術者の資格についての講義を行う。 [内容] 技術者資格の仕組み、プロフェッショナル・エンジニア制度                        |
| 8 回  | これまでの授業内容の総括と中間テストを行う。                                                    |
| 9 回  | 事故責任の法の仕組みについての講義を行う。 [内容] 職務と注意義務、自己責任の法                                 |
| 10 回 | 法的責任とモラル責任についての講義を行う。 [内容] カネミ油症事件、法とモラルの境界域の責任                           |
| 11 回 | コンプライアンスと規制行政についての講義を行う。 [内容] コンプライアンスとは、規制行政                             |
| 12 回 | 説明責任についての講義を行う。 [内容] 説明責任と信頼関係、説明責任が問題となった事案 (原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品) |
| 13 回 | 内部告発・警笛鳴らしについての講義を行う。 [内容] 内部告発・警笛鳴らしとは、法による救済方法                          |
| 14 回 | 環境と技術者についての講義を行う。 [内容] 環境倫理、持続可能性、予防原則、循環型社会                              |
| 15 回 | 技術者の財産的権利についての講義を行う。 [内容] 青色発光ダイオード特許裁判、特許等の知的財産権                         |
| 16 回 | 最終評価試験および全体の総括を行う。                                                        |

| 回数   | 準備学習                                                                                                                                   |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 授業内容全体を確認しておくこと。 初回の授業で授業の進め方や履修上の注意をするので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。教科書の第1章を読んで、倫理とは何かについて考えておくこと。(標準学習時間60分) |
| 2 回  | 教科書の第2章を読み、技術者と倫理について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                             |
| 3 回  | 教科書の第3章を読み、NASAのスペースシャトルの2つの事故(チャレンジャー号事件とコロンビア号事件)の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                        |
| 4 回  | 教科書の第4章を読み、組織上の人間関係の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                        |
| 5 回  | 教科書の第5章を読み、倫理実行の手法の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 6 回  | 教科書の第6章を読み、JCO臨界事故の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 7 回  | 教科書の第7章を読み、各国のさまざまな技術者の資格について予習し、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                 |
| 8 回  | 1回目から7回目までの授業内容をきちんと理解し、復習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                          |
| 9 回  | 教科書の第8章を読み、事故責任の法の仕組みの概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 10 回 | 教科書の第9章を読み、カネミ油症事件の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 11 回 | 教科書の第10章を読み、コンプライアンスを規制行政との関係で説明できるように予習しておく                                                                                           |

|       |                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|
|       | こと。（標準学習時間120分）                                                                  |
| 1 2 回 | 教科書の第11章を読み、説明責任が問題となった原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品の事案の概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 1 3 回 | 教科書の第12章を読み、内部告発・警笛鳴らしの概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分）                               |
| 1 4 回 | 教科書の第13章を読み、環境問題の概要とそれに対する技術者の対応について予習しておくこと。（標準学習時間120分）                        |
| 1 5 回 | 教科書の第14章を読み、青色発光ダイオード特許裁判の概要と知的財産権の種類について予習しておくこと。（標準学習時間120分）                   |
| 1 6 回 | 第1回～第15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。（標準学習時間180分）                                      |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 科学技術の進歩と産業の発展は私たちの生活をより豊かなものにしてきている。しかしその一方で、企業の不祥事や技術者の不正行為などによって、私たちの生活の安全が脅かされることもしばしば生じている。そのため技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性が以前にも増して求められているのである。この授業では、科学技術の分野で今後の日本の社会を担う技術者や企業に求められる社会的責任や倫理について、過去に起きた事案や実例を素材として一緒に考えてもらうことを目的とする。（理科教育センター単位認定方針のDに最も強く関与する） |
| 達成目標          | ①技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性を認識する。②具体的な事案・実例について、問題点を正確に把握し、その解決方法を主体的に探究し、外部に表明できる能力を身につける。③上記①②を通じて、科学技術の分野で今後の社会を担う技術者・企業人としての倫理観・責任感を養う。                                                                                                                        |
| キーワード         | （技術者）倫理、社会的責任、コンプライアンス、説明責任                                                                                                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60%） | 授業内小テスト・レポート（60%）＋最終評価試験（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                       |
| 関連科目          | 法学                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 教科書           | 〔第5版〕大学講義 技術者の倫理入門/ 杉本泰治・高城重厚/ 丸善出版/ ISBN978-4-621-30016-9                                                                                                                                                                                                   |
| 参考書           | 授業中に適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 連絡先           | B3号館（旧24号館）4階研究室                                                                                                                                                                                                                                             |
| 注意・備考         | ①授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。<br>②教員が授業で利用したスライドや小テストの解答は後にPDFファイルでポータルサイトにあげておくので、復習に活用すること。<br>③受講生が多い場合には座席指定をする場合がある。<br>④新聞・ニュースなどで実際の社会で起こっている出来事や事件を毎日欠かさずチェックすること。                                                        |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文学 (FB25Q040)                             |
| 英文科目名 | Literature                                |
| 担当教員名 | 浅野純一 (あさのじゅんいち)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                |
|-------|-------------------------------------|
| 1 回   | イントロダクション：この講義についてと中国文学の特徴について説明する。 |
| 2 回   | 詩経と楚辞について説明する。                      |
| 3 回   | 陶淵明について説明する                         |
| 4 回   | 唐詩1李白について説明する                       |
| 5 回   | 唐詩2杜甫について説明する李白について説明する             |
| 6 回   | 唐詩3杜甫・李白以外の詩人(李賀、李商隠など)について説明する     |
| 7 回   | 宋詩 蘇軾(蘇東坡)について説明する                  |
| 8 回   | 宋词 李煜(李後主)について説明する<br>中間試験を実施する。    |
| 9 回   | 『莊子』について説明する                        |
| 1 0 回 | 『世説新語』について説明する                      |
| 1 1 回 | 『史記』から項羽本紀などについて説明する                |
| 1 2 回 | 六朝志怪小説から「搜神記」について説明する               |
| 1 3 回 | 唐代伝奇小説から「枕中記」「杜子春」について説明する          |
| 1 4 回 | 明代白話小説「三国志演義」「西遊記」「水滸伝」「金瓶梅」を紹介する   |
| 1 5 回 | 清代の小説『紅樓夢』について説明する                  |
| 1 6 回 | 授業のまとめを行う。<br>最終試験を実施する             |

| 回数    | 準備学習                                                                                      |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)                           |
| 2 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。(標準学習時間90分)                                                        |
| 3 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。詩経と楚辞について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                       |
| 4 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。陶淵明について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 5 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。杜甫について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 6 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李白について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 7 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。授業で紹介された詩人について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                  |
| 8 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。蘇軾について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。全7回分の講義をまとめて試験に備えること。(標準学習時間150分)     |
| 9 回   | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李煜について好きか嫌いか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 1 0 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。莊子の世界観をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 1 1 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。世説新語に登場した人物のエピソードをどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)               |
| 1 2 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。項羽の運命をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                           |
| 1 3 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。搜神記の逸話をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読んでおくこと。(標準学習時間120分) |
| 1 4 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。枕中記、杜子春の逸話の意味なにかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読むこと。(標準学習時間120分)        |

|       |                                                                                    |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 5 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。（標準学習時間90分）                                                 |
| 1 6 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。紅樓夢の登場人物のうち誰が好きか、なぜそうなのかを考えておくこと。最終試験に向けて準備すること（標準学習時間150分） |

|             |                                                                                                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 中国の文学作品の主な作者や作品について知識を持ち、内容を理解して味わうことが出来るようになる。文学が人間にとってどのような意味をもつか、考えることが出来るようになる。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）                                                            |
| 達成目標        | 中国の歴代の詩詞のうち、自分の好きな詩人、作品について基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明し、自分なりの評価をすることが出来る。<br>中国の歴代の散文・小説のうち、自分の好きな詩人、作品について基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明し、自分なりの評価をすることが出来る。<br>中国文学について、おおむねの流れを説明することが出来る。 |
| キーワード       | 中国文学、散文、小説、                                                                                                                                                                 |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験 5 0 %、最終試験 5 0 %により成績を評価し、総計で 6 0 %以上を合格とする。                                                                                                                           |
| 関連科目        | 中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、文学（日本文学や欧米文学）                                                                                                                                                     |
| 教科書         | なし（資料配付）                                                                                                                                                                    |
| 参考書         | 授業中に紹介する                                                                                                                                                                    |
| 連絡先         | asanoj@big.ous.ac.jp                                                                                                                                                        |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                             |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                        |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 法学 (FB25Q050)                             |
| 英文科目名 | Law                                       |
| 担当教員名 | 中西俊二＊ (なかにししゅんじ＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                                                                 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーションを兼ねて、法とは何かについて説明する。項目としては、法の内容、法と道德との関係、法の理念、法の分類、法の適用(三段論法)、法の解釈について触れ、判例は「ガソリンカー転覆事件」「電気窃盗事件」等を取り上げることとする。                                                                                                |
| 2 回  | 今回から4回は、基本三法の内日本国憲法を講義する。プライバシー権等のいわゆる新しい人権の根拠規定としての憲法13条の幸福追求権の内容としていかなる権利が保障されるかを受講生とともに考察する。「『エホバの証人』輸血拒否事件」等の判例を取り上げることとする。                                                                                      |
| 3 回  | 「法の下での平等」を定める憲法14条の意義と合理的な差別と非合理的差別さらに絶対的平等・相対的平等について考察する。判例は、「堀木訴訟」「嫡出性の有無による法定相続分差別事件」および法定相続分差別違憲判決等を取り上げ説明する。                                                                                                    |
| 4 回  | 憲法19条の思想・良心の自由、20条の信教の自由、23条の学問の自由を取り上げ、それらの人権保障の意義を判例を引用しながら考察する。判例としては、「三菱樹脂事件」「津地鎮祭事件」「劇団ポポロ事件」等を取り上げ説明する。                                                                                                        |
| 5 回  | 憲法21条の表現の自由について講義する。精神的自由の経済的自由に対する優越的地位と憲法21条の民主主義的意義について、報道の自由、取材の自由、検閲を取り上げて考察する。具体的には、「博多駅事件」「札幌税関事件」等を取り上げ解説する。                                                                                                 |
| 6 回  | 今回から5回は、民法について講義する。日本民法の成立を踏まえて、民法とは何かについて考察する。民法における「私的自治の原則」等の基本原理とその修正について説明する。また、「宇奈月温泉事件」および「信玄公旗掛松事件」の判例を引用しつつ、民法1条の信義誠実の原則と権利濫用の禁止について考察する。                                                                   |
| 7 回  | 物権と債権の特徴と債務不履行について講義する。物権的請求権、動産と不動産、不動産の二十譲渡および債務不履行の類型、効果、損害賠償の範囲について事例に基づいて説明する。                                                                                                                                  |
| 8 回  | 債権発生原因としての契約ならびに債権の対外的効力としての債権者代位権(民423条)および詐害行為取消権(民424条)について講義する。契約について、有償契約・無償契約、要物契約・諾成契約等の意義と区別ができるように説明する。また、債務者の責任財産の保全を目的とする債権者代位権と詐害行為取消権の適用事例を取り上げて2つの権利の効果について考察する。中間試験を行う。                               |
| 9 回  | 制限行為能力者および意思表示ならびに不法行為について講義する。教科書の表に基づいて制限行為能力者の比較をする。また、意思表示の錯誤、詐欺・強迫について説明する。さらに、不法行為については損害賠償に関して判例「富貴丸事件」を取り上げることとする。使用者責任(民715条)については、最高裁昭和39年2月4日の損害賠償請求事件を用い外形理論について考察する。                                    |
| 10 回 | 民法の最終回として親族法と相続法を講義する。婚姻・離婚に関する判例を取り上げ判例の流れを説明する。特に離婚の効果について相続については、法定相続分、限定承認、遺留分制度等について解説する。                                                                                                                       |
| 11 回 | 今回から5回にわたって刑法を講義する。刑法とは何かについて問題提起し、旧派と新派の刑法理論を概観する。刑法の大原則である罪刑法定主義について、意義・内容・機能(人権保障機能)について解説する。また、犯罪の定義を踏まえて、犯罪成立のための因果関係理論について判例に基づいた考察をする。                                                                        |
| 12 回 | 不作為犯と事実の錯誤について講義する。不真正不作為犯の要件としての作為義務ならびに故意に関する客体の錯誤と方法の錯誤の問題について考察する。新宿西口で発生した強盗殺人未遂事件に関する最高裁の判例を事例として取り上げることとする。                                                                                                   |
| 13 回 | 違法阻却事由の代表である「正当防衛」と「緊急避難」について講義する。なぜ正当防衛あるいは緊急避難のためにした行為は違法性がなくなるのか、本質・「止むを得ない行為」と補充の原則・法益の均衡等の観点から両者の比較考察をする。「喧嘩と正当防衛」について、最高裁の殺人被告事件を引用する。                                                                         |
| 14 回 | 「過剰防衛」と「過剰避難」の意義と「過剰」についての認識について解説する。判例としては、最高裁昭和34年2月5日の殺人被告事件を取り上げ量的過剰について理解を深めることにする。また、誤想過剰防衛の例として「英国騎士道事件」を引用し、刑法36条2項の問題を考察する。責任阻却事由としての故意の問題を扱い、有名な「たぬき・むじな」事件「もま・むさび事件」について見識を広めることにする。さらに、未遂犯と不能犯についても言及する。 |
| 15 回 | 共犯について講義する。共同正犯・教唆犯・幫助犯とは何か。間接正犯とは何かについて、事例を                                                                                                                                                                         |

|     |                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 挙げて考察する。共同正犯の要件および共謀共同正犯を理解するために最高裁判決「練馬事件」を事例として引用する。さらに、共犯と中止犯および離脱の問題を判例の事例を通して解説する。 |
| 16回 | 民法および刑法の分野から最終評価試験を実施する。                                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                     |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|
| 1回  | テキストの「法学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。30分。                                           |
| 2回  | 教科書をよく読み、新しい人権について予習しておくこと。50分。                                          |
| 3回  | 教科書をよく読み、「法の下での平等」について予習しておくこと。60分。                                      |
| 4回  | 教科書をよく読み、思想・良心の自由および信教の自由について予習しておくこと。60分。                               |
| 5回  | 教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。                                          |
| 6回  | 教科書をよく読み、民法の沿革について予習しておくこと。60分。                                          |
| 7回  | 教科書をよく読み、物権と債権の相違について予習しておくこと。60分。                                       |
| 8回  | 教科書をよく読み、債権の発生原因と債権の対外的効力について予習しておくこと。さらに、中間試験の準備を十分に時間をかけて行っておくこと。120分。 |
| 9回  | 教科書をよく読み、意思表示に基づく法律行為について予習をしておくこと。60分。                                  |
| 10回 | 教科書をよく読み、婚姻と離婚について予習しておくこと。60分。                                          |
| 11回 | 教科書をよく読み、刑法の概略について予習しておくこと。60分。                                          |
| 12回 | 教科書をよく読み、不作為犯について予習をしておくこと。60分。                                          |
| 13回 | 教科書をよく読み、正当防衛と緊急避難について予習しておくこと。60分。                                      |
| 14回 | 教科書をよく読み、過剰防衛について予習しておくこと。60分。                                           |
| 15回 | 教科書をよく読み、共犯について予習しておくこと。60分。                                             |
| 16回 | 講義で取り扱った、民法および刑法の事項と内容をよく復習して試験に臨むこと。120分。                               |

|              |                                                                                                                 |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 基本三法と言われる憲法・民法・刑法について、基礎的知識を身につけ、日々生起する事件等について法的思考力(リーガルマインド)に基づき自主的解決が導き出せるようにする。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する) |
| 達成目標         | 公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成する。                          |
| キーワード        | 法の解釈、二重の基準、信義誠実の原則、罪刑法定主義                                                                                       |
| 成績評価(合格基準60) | 小テスト(20点)/中間試験(40点)/最終評価試験(40点)                                                                                 |
| 関連科目         | 日本国憲法                                                                                                           |
| 教科書          | テキスト法学(第3版)/中西俊二著/大学教育出版/9784864293730;法学六法18/石川明・池田真朗編/信山社                                                     |
| 参考書          | 現代社会における法学入門第2版/斎藤信幸/成文堂                                                                                        |
| 連絡先          | 教務課                                                                                                             |
| 注意・備考        | 毎回講義の終わりに、巻末の択一問題を小テストとして、ミシン線に沿って切り取り提出してもらうので、受講に当たっては教科書を必ず持参すること。                                           |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                            |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB25Q060)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 辻維周 (つじまさちか)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                  |
|------|-------------------------------------------------------|
| 1 回  | ・ ガイダンス<br>・ 文化について                                   |
| 2 回  | テキストの解説と考え方                                           |
| 3 回  | 文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。                        |
| 4 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1)                                     |
| 5 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2)                                     |
| 6 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3)                                     |
| 7 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4)                                     |
| 8 回  | 総括をする。中間評価試験をする                                       |
| 9 回  | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1)                            |
| 10 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2)                            |
| 11 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3)                            |
| 12 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4)                            |
| 13 回 | ・ 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5)      ・ グループワークのためのグループ分け |
| 14 回 | グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                    |
| 15 回 | グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                    |
| 16 回 | まとめ、最終評価試験                                            |

| 回数   | 準備学習                                      |
|------|-------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておく。(標準学習時間30分)     |
| 2 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 3 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 4 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 5 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 6 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 7 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 8 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 9 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 10 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 11 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 12 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 14 回 | 自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)        |
| 15 回 | 14回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間60分)           |
| 16 回 | 今までの講義内容を反芻しておき、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分) |

|               |                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。                                                                                    |
| キーワード         | 視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。                                                                                                                                          |
| 成績評価 (合格基準60) | グループワークでの発表40点,中間試験+最終評価試験60点とし、60点以上を合格とする。                                                                                                                                     |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                  |
| 教科書           | 「異文化理解」岩波新書 青木保著                                                                                                                                                                 |
| 参考書           | 「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会                                                                                                                                               |
| 連絡先           | ous.tsuji@gmail.com                                                                                                                                                              |

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | ・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。 |
| 試験実施  | 実施する                                                                                           |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 外国史 (FB25Q070)                            |
| 英文科目名 | World History                             |
| 担当教員名 | 奥山広規＊ (おくやまひろき＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                              |
|-------|---------------------------------------------------|
| 1 回   | イントロダクション。講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。                |
| 2 回   | オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。                    |
| 3 回   | 中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。                      |
| 4 回   | 東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。                   |
| 5 回   | 古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。                      |
| 6 回   | ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。                     |
| 7 回   | 東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。              |
| 8 回   | 東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。<br>中間試験を実施する。 |
| 9 回   | 大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。                      |
| 1 0 回 | ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。                         |
| 1 1 回 | 市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。                        |
| 1 2 回 | ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。                 |
| 1 3 回 | ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。           |
| 1 4 回 | 第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。                     |
| 1 5 回 | 第二次世界大戦後の世界について説明する。                              |
| 1 6 回 | 講義内容の総括をする。<br>最終評価試験を実施する。                       |

| 回数    | 準備学習                                                    |
|-------|---------------------------------------------------------|
| 1 回   | 講義内容の確認を行うこと。<br>外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。  |
| 2 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 3 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 4 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 5 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 6 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 7 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 8 回   | ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)                       |
| 9 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 0 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 1 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 2 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 3 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 4 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 5 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 6 回 | ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)                       |

|             |                                                                                                                                                                           |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。<br>(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与) |
| 達成目標        | ①世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得する<br>②毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につける                                                                                                 |
| キーワード       |                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験（50%）及び最終評価試験（50%）によって、成績を評価する。                                                                                                                                       |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                           |
| 教科書         | 講義中、適宜、指示する。                                                                                                                                                              |
| 参考書         | 講義中、適宜、指示する。                                                                                                                                                              |
| 連絡先         | 徳澤啓一研究室（7号館4階）                                                                                                                                                            |
| 注意・備考       | 止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配布することがあるが、欠席者への事後配布は行わないので注意すること。                                                                     |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 哲学 (FB25Q080)                             |
| 英文科目名 | Philosophy                                |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および哲学とは何かを説明する。                 |
| 2 回   | デカルト以前の西洋哲学 (1)ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。                   |
| 3 回   | デカルト以前の西洋哲学 (2)ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。                  |
| 4 回   | デカルト以前の西洋哲学 (3)ー中世の哲学 (スコラ哲学、普遍論争等)を説明する。                    |
| 5 回   | デカルトの哲学ーデカルトの生涯と思想を説明する。                                     |
| 6 回   | デカルト以後の西洋哲学 (1)ーカントの生涯と思想を説明する。                              |
| 7 回   | デカルト以後の西洋哲学 (2)ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。 |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。            |
| 1 0 回 | インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。                          |
| 1 1 回 | インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」とその現代への影響を説明する。                          |
| 1 2 回 | 中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。                                       |
| 1 3 回 | 中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。                                       |
| 1 4 回 | イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの思想を説明する。                           |
| 1 5 回 | イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィーナーとガザーリーの思想を説明する。                         |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）           |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|             |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本講義では、前半で西洋哲学を、後半で東洋哲学ををひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるものであるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                 |
| 達成目標        | ①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各時代、文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。                                      |
| キーワード       | 哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60 | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目        | 倫理と宗教                                                                                                                                                               |
| 教科書         | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書         | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考       | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | プレゼンテーションⅢ (FB25Q090)                     |
| 英文科目名 | Presentation Skills III                   |
| 担当教員名 | 皿田琢司 (さらたたくじ)                             |
| 対象学年  | 4 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                   |
|-------|--------------------------------------------------------|
| 1 回   | オリエンテーション。教員の職責・役割からみた資質とプレゼンテーション能力について理解を図る。         |
| 2 回   | 教員採用試験における面接と討論を主題に、出題傾向と評価の基本的観点について理解を図る。            |
| 3 回   | 集団面接の基本。簡単な自己紹介を例に、話し方と聴き方（視線、表情等を含む）に係る評価指標について理解を図る。 |
| 4 回   | 集団面接の練習（１）－自己アピールと志望動機を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 5 回   | 集団面接の練習（２）－時事問題を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。                  |
| 6 回   | 集団面接の練習（３）－教育理念・教育政策を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。             |
| 7 回   | 集団面接の練習（４）－学習指導の方針・原則を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。            |
| 8 回   | 集団面接の練習（５）－具体的場面の対応を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。              |
| 9 回   | 討論の基本－教員の資質・能力と期待される役割を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 1 0 回 | 討論の練習（１）－最近の青少年の行動傾向を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。             |
| 1 1 回 | 討論の練習（２）－「生きる力」「確かな学力」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 1 2 回 | 討論の練習（３）－「地域と学校」「人権教育」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 1 3 回 | 討論の練習（４）－キャリア教育と情報教育を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。             |
| 1 4 回 | 討論の練習（５）－生徒指導状の問題事案を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。              |
| 1 5 回 | 集団面接と討論の総括－教員としての継続的な研究と修養（その見直しを含む）の意義について理解の深化を図る。   |
| 1 6 回 | 最終評価試験を実施する。筆記試験と原則とするが、口頭試問を加える場合もある。                 |

| 回数    | 準備学習                                                                                                          |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 受験予定の都道府県市の教員採用試験のうち、過去３年間の面接及び討論の出題内容及び様態を整理しておくこと。（標準学習時間：80分）                                              |
| 2 回   | 受験予定の都道府県市が公表している教育施策の基本方針と同自治体の求める教師像を整理しておくこと。（標準学習時間：80分）                                                  |
| 3 回   | 前時までに整理した主題から３～４題を選び、それぞれ１分程度で話せるよう要点を整理しておくこと。選択した主題をもとに、生徒にとって理解しやすい話し方（視線や表情を含む）を検討し練習しておくこと。（標準学習時間：80分）  |
| 4 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を複数の角度から検討し練習しておくこと。（標準学習時間：80分） |
| 5 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を多面的に検討し練習しておくこと。（標準学習時間：80分）    |
| 6 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：80分）          |
| 7 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：100分）         |
| 8 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：120分）         |
| 9 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：80分）          |
| 1 0 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：80分）          |
| 1 1 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。                                                                  |

|       |                                                                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：80分）                                              |
| 1 2 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：80分）  |
| 1 3 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：100分） |
| 1 4 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の志向を豊にする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：120分）  |
| 1 5 回 | これまでの学習全体を振り返って学習成果の精力的な活用に努めるとともに、課題の明確化と継続的克服に努めること。（標準学習時間：180分）                                     |
| 1 6 回 | これまでに履修した教職関連科目と本科目を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間：80分。継続的に努めることが望ましい）                        |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 将来教員をめざす者が次の各事項を理解し、口頭で明瞭に表現する技能と方法を習得することを目的とする。<br>1. 志望動機、理想的教師像、教職の意義、担当教科の指導目標・意義・魅力<br>2. 教員に求められる資質と実践的指導力、学校に期待される役割<br>3. 学校現場で想定される具体的な場面における対応の基本的な方針<br>4. 上記に関する自らの課題の明確化と努力の見通し<br>（教養教育センター単位認定の方針Eのうち、中学校または高等学校教員に必要な知識を活用したプレゼンテーション能力に特に関与）                                                                                                                                                                                                                                |
| 達成目標         | 授業目的に挙げた各事項について、次のことができるようになること。<br>○身に付けた学識・知見を論理的に組み立て、説得的に説明できる。<br>○聴取者の理解や思考を深めることを念頭に、表情や語調等にも留意しながら話すことができる。<br>○聴取者の理解に即して、表現、用語、構成等を柔軟に調整して話すことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| キーワード        | 教員採用試験、教員の資質・能力、実践的指導力、人物重視、教師力、教育観、教師像                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 成績評価（合格基準60） | 授業各時の面接練習・提出物（50～70％程度）、最終評価試験（40～60％程度）。受講希望者が多数に上り、口頭試問を加味した抽選（注意・備考欄参照）を行う場合には、その試問の結果を約10％加算する。<br>上記の比率は、受講者の学習状況により見直すことがある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 関連科目         | ○教職関連科目のうち1～2年次開講のもの（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及びプレゼンテーションⅠ・Ⅱを良好な成績で修得していることが望ましい。<br>○3年次秋学期履修の場合、教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。<br>○4年次春学期履修の場合、教育実習事前・事後指導の成績評価がRであることが望ましい。<br>○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 教科書          | 必要に応じて配付資料または提示資料を用いる。刊行物は必要に応じて各自が用意できるよう指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 参考書          | ○受験希望（勤務予定）校種の学習指導要領（最新版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしてプリントアウトしたものでもよい。<br>○担当予定教科の学習指導要領解説。<br>○受験希望都道府県市の教員採用試験（主として面接・討論）で過去出題された内容（市販の参考書または各自治体の情報公開制度を利用）。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 連絡先          | B 2 号館（旧13号館）3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-25 6-9714                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 注意・備考        | ○おおむね30名以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち、面接または討論が特に重視される都道府県市教員採用試験を受験する者を優先する。それでも超過する場合には、口頭試問を加味した抽選を行う。<br>○授業で課された提出物には、個別に添削することを原則とする。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。<br>○提示物の撮影は、他の受講者の学習の妨げにならない限り認めるが、他者への再配付は、電磁的方法も含めて認めない。録音または録画を希望する場合には事前に相談すること。<br>○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングを基本とする。指導計画（成績評価の配分比率を含む）は、受講状況により見直す場合がある。<br>○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。<br>○C 1 号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。<br>○専攻分野に関する学業と読書を励行し、それを学ぶ意義や魅力を分かりやすく伝えられるよう日ごろから伝え方の見直しを習慣づけること。 |

|      |                                            |
|------|--------------------------------------------|
|      | ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識をもって謙虚にかつ不断に学び続けること。 |
| 試験実施 | 実施する                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 外国史 (FB25R060)                            |
| 英文科目名 | World History                             |
| 担当教員名 | 奥山広規＊ (おくやまひろき＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                              |
|-------|---------------------------------------------------|
| 1 回   | イントロダクション。講義の進め方と外国史を学ぶ意義について説明する。                |
| 2 回   | オリエント世界と地中海世界を軸に、西洋古代について概観する。                    |
| 3 回   | 中華世界と南アジア世界を軸に、東洋古代について概観する。                      |
| 4 回   | 東西ユーラシア世界の交流について、シルクロードを軸に説明する。                   |
| 5 回   | 古代から中世への転換を軸に、時代の転換について説明する。                      |
| 6 回   | ヨーロッパ世界の形成過程を軸に、西洋中世について概観する。                     |
| 7 回   | 東アジア世界の変容とモンゴル帝国の出現を軸に、東洋中世について概観する。              |
| 8 回   | 東西ユーラシア世界の交流について、ビザンツとイスラームを軸に説明する。<br>中間試験を実施する。 |
| 9 回   | 大交易時代と南北アメリカ世界を軸に、近世世界を説明する。                      |
| 1 0 回 | ユーラシア諸帝国の繁栄を軸に、近世世界を説明する。                         |
| 1 1 回 | 市民革命と産業革命を軸に、西洋近代について概観する。                        |
| 1 2 回 | ヨーロッパの進出と東アジアの変貌を軸に、東洋近代について概観する。                 |
| 1 3 回 | ヨーロッパとアフリカ・アジアの関係を軸に、帝国主義と世界秩序について説明する。           |
| 1 4 回 | 第一次・第二次世界大戦の背景・展開・影響について説明する。                     |
| 1 5 回 | 第二次世界大戦後の世界について説明する。                              |
| 1 6 回 | 講義内容の総括をする。<br>最終評価試験を実施する。                       |

| 回数    | 準備学習                                                    |
|-------|---------------------------------------------------------|
| 1 回   | 講義内容の確認を行うこと。<br>外国史を学ぶ意義について、自分なりに考えておくこと(標準学習時間60分)。  |
| 2 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 3 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 4 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 5 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 6 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 7 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 8 回   | ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)                       |
| 9 回   | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 0 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 1 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 2 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 3 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 4 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 5 回 | 事前に配布された資料に記されたキーワードについて、書籍やWebを用いて調べておくこと(標準学習時間120分)。 |
| 1 6 回 | ここまでの講義内容についての復習を行うこと(標準学習時間180分)                       |

|             |                                                                                                                                                                           |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 外国の歴史を古代から近代まで概説的に扱う。現代社会の原型となった近代社会が、古代社会と中世社会の基礎の上に成り立っていることを、時系列に沿って体系的に説明する。また、西洋と東洋という枠組みによって同時代の空間的な視点を、さらには比較によってそれぞれの特徴をも浮き彫りにする。<br>(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与) |
| 達成目標        | ①世界の古代、中世、近代に関する基礎的な知識を習得する<br>②毎回の講義が断片的な知識となるのではなく、相互がつながる巨視的な歴史観を身につける                                                                                                 |
| キーワード       |                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験（50%）及び最終評価試験（50%）によって、成績を評価する。                                                                                                                                       |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                           |
| 教科書         | 講義中、適宜、指示する。                                                                                                                                                              |
| 参考書         | 講義中、適宜、指示する。                                                                                                                                                              |
| 連絡先         | 徳澤啓一研究室（7号館4階）                                                                                                                                                            |
| 注意・備考       | 止むを得ない事情で欠席する場合は、正当な事由を明記し、これを証する者が記名・押印した文書を事前に提出すること。また、講義時、参考資料を配布することがあるが、欠席者への事後配布は行わないので注意すること。                                                                     |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB25R070)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 藤野薫＊ (ふじのかおる＊)                            |
| 対象学年  | 2年                                        |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数  | 授業内容                                     |
|-----|------------------------------------------|
| 1回  | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2回  | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3回  | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4回  | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5回  | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6回  | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7回  | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8回  | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9回  | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 10回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 11回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 12回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 13回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 14回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 15回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 16回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数  | 準備学習                                                             |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 1回  | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2回  | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3回  | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5回  | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6回  | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7回  | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8回  | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9回  | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 10回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 11回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 12回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 13回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 14回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 15回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 16回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義目的        | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標        | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード       | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書         | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 経済学 (FB25S050)                            |
| 英文科目名 | Economics                                 |
| 担当教員名 | 横尾昌紀* (よこおまさのり*)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                           |
|------|------------------------------------------------|
| 1 回  | 経済学の概要とゲーム理論の関係について                            |
| 2 回  | 囚人のジレンマ                                        |
| 3 回  | 戦略形ゲームとナッシュ均衡<br>(標準学習時間 40 分)                 |
| 4 回  | 戦略形ゲームの応用例：価格競争，家事の分担，OS の選択等                  |
| 5 回  | 混合戦略のナッシュ均衡：ジャンケンの‘必勝法’                        |
| 6 回  | 展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡                               |
| 7 回  | 展開形ゲームの応用例（１）：参入阻止ゲーム，ネズミ講，チェーンストアパラドクス        |
| 8 回  | まとめ，<br>中間試験。                                  |
| 9 回  | 展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について                           |
| 10 回 | 展開系ゲームの応用例（２）：「裁量かルールか？」あるいは「なぜ大学のシラバスが必要なのか？」 |
| 11 回 | 非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡                             |
| 12 回 | 労働市場の分析（１）：エイジェンシー問題，あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか？」    |
| 13 回 | 労働市場の分析：シグナリングゲーム，あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか？」         |
| 14 回 | 進化と合理性                                         |
| 15 回 | レプリケータダイナミクスと進化的安定戦略                           |
| 16 回 | まとめ<br>最終評価試験                                  |

| 回数   | 準備学習                                              |
|------|---------------------------------------------------|
| 1 回  | 教科書の第 1 章を授業の前か後に読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)     |
| 2 回  | 教科書の第 2 章と第 5 章の最初の節を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分) |
| 3 回  | 教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)       |
| 4 回  | 教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)       |
| 5 回  | 教科書の第 4 章と 5 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)       |
| 6 回  | 教科書の第 6 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 7 回  | 教科書の第 6 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 8 回  | いままでのところを復習してください。<br>(標準学習時間 40 分)               |
| 9 回  | 教科書の第 6 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 10 回 | 配布した資料を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)               |
| 11 回 | 教科書の第 8 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 12 回 | 教科書の第 8 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 13 回 | 教科書の第 8 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 14 回 | 教科書の第 11 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)           |



|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 15回 | 教科書の第11章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間40分) |
| 16回 | 全体の復習をしておいてください。<br>(標準学習時間40分)     |

|              |                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況、すなわち、駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステマティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて、「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)               |
| 達成目標         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略形表現のゲームの構造を理解する。</li> <li>・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。</li> <li>・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。</li> <li>・展開形表現のゲームの構造を理解する。</li> <li>・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。</li> </ul> |
| キーワード        | 経済学, 戦略, 戦略的状況, 戦略的思考, ゲーム理論, ナッシュ均衡, 部分ゲーム完全均衡。                                                                                                                                                                         |
| 成績評価(合格基準60) | 課題提出(20%), 中間試験(20%), 最終評価試験(60%)                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目         | 社会と人間                                                                                                                                                                                                                    |
| 教科書          | ゲーム理論・入門／岡田章著／有斐閣アルマ／9784641123625                                                                                                                                                                                       |
| 参考書          | 『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』, 梶井厚志・松井彰彦著, 日本評論社                                                                                                                                                                                     |
| 連絡先          | 電子メール: yokoo@e.okayama-u.ac.jp                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考        | 参考書として挙げた『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』(以前教科書として指定)をすでに入手している場合は、新たに教科書を買う必要はありません。最終評価試験の「過去問」を授業の最初の方で配布しますので、入手漏れがないように気をつけてください。                                                                                                  |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                     |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 企業情報特論 (FB25S060)                         |
| 英文科目名 | Business Leader Lecture Series            |
| 担当教員名 | 中村修 (なかむらおさむ) ,伊代野淳 (いよのあつし)              |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数  | 授業内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | <p>初回の講義に於いて、講義課目の概要を説明するとともに、講義に対する姿勢、目標、レポート作成方法と提出方法について指導する。</p> <p>2回目以降は、毎回、各界で活躍されている委嘱教授による講演を聴講し、それについてレポートを作成し提出する。委嘱教授は、サービス関係企業経営幹部、文化芸術・産業分野有識者、食品関係企業経営幹部、服飾メーカー経営幹部、繊維・衣料メーカー経営幹部、マスコミ関係経営幹部、システム関係企業経営幹部、政治・社会分野有識者、教育界有識者、金融機関経営幹部等である。講義を聴く態度、姿勢、適切な質疑応答などが求められる。講演者についての事前知識の収集を十分にいき、毅然とした態度で受講することが臨まれる。</p> <p>(全教員)</p> |
| 2 回 | <p>講演者：山陽放送株式会社 報道制作局報道部主査 山下晴海<br/>タイトル：「ローカルTV局は、こんなに面白い！」<br/>講演後、質疑応答をする。</p> <p>(全教員)</p>                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 3 回 | <p>講演者：株式会社瀬戸内海放送 代表取締役社長 加藤宏一郎<br/>タイトル：「仕事をする上で大切な二つのこと」 (予定)<br/>講演後、質疑応答をする。</p> <p>(全教員)</p>                                                                                                                                                                                                                                              |
| 4 回 | <p>講演者：岡山県警察本部 警務部県民応接課 犯罪被害者支援室係長 藤原佐千子<br/>タイトル：「警察における犯罪被害者支援、自分達にできる被害者支援とは何なのか」<br/>講演後、質疑応答をする。</p> <p>(全教員)</p>                                                                                                                                                                                                                         |
| 5 回 | <p>講演者：カバヤ食品株式会社 (予定)<br/>タイトル：(講演内容未定)<br/>講演後、質疑応答をする。</p> <p>(全教員)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 6 回 | <p>講演者：中田宏事務所 前衆議院議員 岡山理科大学客員教授 中田 宏<br/>タイトル：「民間企業と行政の経営における違い」 (予定)<br/>講演後、質疑応答をする。</p> <p>(全教員)</p>                                                                                                                                                                                                                                        |
| 7 回 | <p>講演者：不二製油株式会社 代表取締役社長 大森達司<br/>タイトル：「『植物性食』新時代の到来 Plant-Based Foods Solutions」<br/>講演後、質疑応答をする。</p> <p>(全教員)</p>                                                                                                                                                                                                                             |
| 8 回 | <p>講演者：株式会社コーセー 常務取締役 内藤昇<br/>タイトル：(講演内容未定)<br/>講演後、質疑応答をする。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                               |

|     |                                                                                                                    |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 9回  | 講演者：富士ゼロックス岡山株式会社 代表取締役社長 藤田康史<br>タイトル：「大転換期の企業経営と求める人材」<br>講演後、質疑応答をする。                                           |
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 10回 | 講演者：株式会社天満屋 執行役員 斎藤和好<br>タイトル：「小売業の中の百貨店」<br>講演後、質疑応答をする。                                                          |
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 11回 | 講演者：山陽新聞社 代表取締役社長 松田正己<br>タイトル：「新聞づくりは地域づくり」(予定)<br>講演後、質疑応答をする。                                                   |
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 12回 | 講演者：株式会社システムズナカシマ 代表取締役社長 中島義雄<br>タイトル：「ナカシマグループにおける新事業への取り組み」(予定)<br>講演後、質疑応答をする。                                 |
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 13回 | 講演者：三井住友銀行(予定)<br>タイトル：(講演内容未定)<br>講演後、質疑応答をする。                                                                    |
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 14回 | 講演者：株式会社はるやまホールディングス 監査役 佐藤晃司<br>タイトル：「着こなしのTP0」<br>講演後、質疑応答をする。                                                   |
|     | (全教員)                                                                                                              |
| 15回 | 講演者：リッキービジネスソリューション株式会社 代表取締役 岡山理科大学客員教授 澁谷耕一<br>タイトル：「創業経営者から学んだこと～伊藤雅俊、今泉嘉久、大竹美喜、南部靖之、孫正義、北尾吉孝～」<br>講演後、質疑応答をする。 |
|     | (全教員)                                                                                                              |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 準備学習 | 新聞を読む習慣を付け、当該講義の講師や企業、授業内容について、事前知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 講義目的 | 経済活動や企業間競争のグローバル化の急速な展開に伴い、本質的な市場ニーズを正確に把握し、それに対応した事業戦略・技術開発戦略を構築することが、企業の重要な課題になっている。本科目では、確固たる経営理念のもとに企業や産業界をリードしている卓越した経営者等に、企業活動のあるべき姿、事業・商品戦略、研究開発戦略、求められる技術者像と人材育成、企業と大学の連携や地域貢献、等について、判りやすくお話いただく。これにより企業や社会に貢献する技術者として持つべき素養を身に付ける。<br>毎回の講義毎に講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、得た知識を自身のキャリア形成に役立てることが目的である。<br>教育支援機構 教養教育センターの単位認定の方針項目Cに強く関与し、Eにある程度関与する。 |
| 達成目標 | 企業や社会に貢献する技術者として、以下の素養を身につけ(C)、理解することができる(E)。<br>・経営理念と企業活動のあるべき姿・戦略的経営および商品戦略・技術経営と研究開発戦略・企業における人材育成・企業にとっての地域社会との関わりと社会貢献・産学官連携と大学への期待。<br>※( )内は教育支援機構 教養教育センターの「単位認定の方針」の対応する項目(大学HP)                                                                                                                                                             |

|               |                                                                                                               |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | を参照.                                                                                                          |
| キーワード         | 経営理念、経営戦略、技術マネジメント (MOT)、産学連携                                                                                 |
| 成績評価 (合格基準60) | 毎回の講義ごとに講師が異なるため、毎回の講義を聴講し、都度毎の講義に関するレポート提出が課せられる。レポート (100%) により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                       |
| 関連科目          | 技術マネジメント、企業等体験実習 (インターンシップ)、科学技術倫理、プレゼンテーション                                                                  |
| 教科書           | 使用しない                                                                                                         |
| 参考書           | 藤末健三著 「技術経営入門」 日経BP社発行                                                                                        |
| 連絡先           | キャリア支援センター (25号館7階)                                                                                           |
| 注意・備考         | 1) 教室の収容人数制限により受講者数が制限されることがあります。<br>2) 企業経営者の講義であるから、入社面接の際の注意事項と同様な態度で受講すること。<br>3) 講義中の撮影、録音等を行うことは原則禁止する。 |
| 試験実施          | 実施しない                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 心理学 (FB25U030)                            |
| 英文科目名 | Psychology                                |
| 担当教員名 | 松浦美晴＊ (まつうらみはる＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                 |
|-------|--------------------------------------|
| 1 回   | 授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。             |
| 2 回   | 「科学としての心理学」について説明する。                 |
| 3 回   | 「知覚のはたらき」について説明する。                   |
| 4 回   | 「記憶と学習のメカニズム」について説明する。               |
| 5 回   | 「人間の空間行動」について説明する。                   |
| 6 回   | 「パーソナリティと発達」について説明する。                |
| 7 回   | 「心の健康」について説明する。                      |
| 8 回   | 「心の危機」について説明し、中間試験を実施する。             |
| 9 回   | 授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。            |
| 1 0 回 | 「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。            |
| 1 1 回 | 「援助行動・攻撃行動」について説明する。                 |
| 1 2 回 | 「集団と個人」について説明する。                     |
| 1 3 回 | 「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。             |
| 1 4 回 | 「人間のコミュニケーション行動」について説明する。            |
| 1 5 回 | 「情報と人間行動」について説明する。                   |
| 1 6 回 | 「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。 |

| 回数    | 準備学習                                                     |
|-------|----------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 2 回   | 教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)                       |
| 3 回   | 教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)               |
| 4 回   | 教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)           |
| 5 回   | 教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)               |
| 6 回   | 教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)           |
| 7 回   | 教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分) |
| 8 回   | これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)                       |
| 9 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 1 0 回 | 教科書第7章のp.69～76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 1 回 | 教科書第7章のp.77～80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 2 回 | 教科書第8章のp.85～89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 3 回 | 教科書第8章のp.89～92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 4 回 | 教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)          |
| 1 5 回 | 教科書第10章に目を通してくること。(標準学習時間60分)                            |
| 1 6 回 | これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)                       |

|      |                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 学科カリキュラム構成における本科目の位置づけや科目のねらいも含め、授業の目的や概要などを学生が理解しやすい表現で記入してください。各学科等の「学位の授与の方針」の項目と関連が単純な場合、「学位の授与の方針」のどの項目と関連しているかを明記してください。科目と「学位の授与の方針」の対応関係は29年度版のカリキュラムチェックストと対応させてください。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標 | 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解し、トピックと理論について知り、それらを説明できるようになる。                                                                                                                                                      |

|             |                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------|
| キーワード       | こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ、感情、集団、社会行動              |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験50%、最終評価試験（50%）                             |
| 関連科目        |                                                 |
| 教科書         | 生活にいかす心理学ver.2／古城和子（編著）／ナカニシヤ出版／4888487057      |
| 参考書         | 授業中に適宜指示する。                                     |
| 連絡先         | 山陽学園大学 TEL：086-272-6254（代表）                     |
| 注意・備考       | 日常の経験を振り返り、その裏付けとして授業の内容を捉え、人間についての理解を深めることを望む。 |
| 試験実施        | 実施する                                            |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 経済学 (FB25V020)                            |
| 英文科目名 | Economics                                 |
| 担当教員名 | 山下賢二＊ (やましたけんじ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 経済学とは何かについての概要を講義する。                                               |
| 2 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。             |
| 3 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に効用関数について講義する。                       |
| 4 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に無差別曲線について講義する。                      |
| 5 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に最適消費点の導出について講義する。                   |
| 6 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。            |
| 7 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。         |
| 8 回  | 1～7回分の講義のまとめを行う。<br>中間試験を行う。                                       |
| 9 回  | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特に企業行動の原則と生産関数について講義する。                |
| 10 回 | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。                |
| 11 回 | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特に生産関数と費用関数の関係について講義する。                |
| 12 回 | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特にS字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。 |
| 13 回 | ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。<br>特に完全競争市場、独占市場、厚生分析について講義する。            |
| 14 回 | ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。<br>特に独占市場について講義する。                        |
| 15 回 | マクロ経済理論の基礎を講義する。<br>特に短期と長期の違いを強調する。                               |
| 16 回 | 9～15回分の講義のまとめを行う。<br>最終評価試験を行う。                                    |

| 回数  | 準備学習                                             |
|-----|--------------------------------------------------|
| 1 回 | 新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (※内容は何でもよい。)<br>(標準学習時間60分) |
| 2 回 | 1.微分の復習をしておくこと                                   |

|      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
|      | 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと<br>(標準学習時間60分) |
| 3 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 4 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 5 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 6 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 7 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 8 回  | すべての講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間120分)                       |
| 9 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 10 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 11 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 12 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 13 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 14 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 15 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 16 回 | 9～15回分の講義の復習を行うこと<br>(標準学習時間120分)                     |

|             |                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義するが、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論についても講義する。<br>(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。) |
| 達成目標        | 基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになること                                                                                                                                                                           |
| キーワード       | ミクロ経済学・マクロ経済学・家計・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策                                                                                                                                                                                    |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験＋最終評価試験(100%)<br>内訳：中間試験50%、最終評価試験50%                                                                                                                                                                                    |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | ① 1からの経済学／中谷武・中村保編著／碩学舎/中央経済社／9784502680809<br>② プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)                                                                                                                                      |
| 参考書         |                                                                                                                                                                                                                              |
| 連絡先         | 岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 <a href="mailto:kenyamashita@po.osu.ac.jp">kenyamashita@po.osu.ac.jp</a>                                                                                                                                  |
| 注意・備考       | 講義では、微分(偏微分・全微分含む)を多用する。高校で微分を既に学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。<br>試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。                                                                                                       |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                         |



|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 環境と社会 (FB25V030)                             |
| 英文科目名 | Environment and Society                      |
| 担当教員名 | 剣持堅志＊ (けんもつかたし＊)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 金曜日 2時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。 |
| 2 回  | 日本で発生した深刻な公害(足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにより努力し、克服していったかについてについて解説する。                                                           |
| 4 回  | 地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。                                                                                                  |
| 5 回  | 地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。                                                                                                            |
| 6 回  | 地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、私たちが実践できる地球温暖化対策について講義する。                                                                 |
| 7 回  | 日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びデメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても講義する。                                                                  |
| 8 回  | 原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。<br>中間評価試験を実施                                                                                 |
| 9 回  | 水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。<br>水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。                                                          |
| 10 回 | 大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。                                                               |
| 11 回 | 化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。                                                                                      |
| 12 回 | 循環型社会実現の必要性と課題について講義する。<br>廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。                                                           |
| 13 回 | 環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。                                                                                  |
| 14 回 | 自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。                      |
| 15 回 | 技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。                                             |
| 16 回 | かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。<br>環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講                                                      |

|  |                       |
|--|-----------------------|
|  | 義を締めくくる。<br>最終評価試験を実施 |
|--|-----------------------|

| 回数   | 準備学習                                                                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書①の構成と目次（４～９）などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分） |
| 2 回  | 日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。<br>（標準学習時間60分）    |
| 4 回  | 参考書①第２～３章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。                                                    |
| 5 回  | 地球レベルの環境破壊について、参考書①３-４、３-６章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                           |
| 6 回  | 地球温暖化の原因と現状について、参考書①３-１章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                              |
| 7 回  | 原子力発電所事故等について、参考書①３-８章などを勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                            |
| 8 回  | 再生可能エネルギーについて、参考書①３-２章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。（標準学習時間120分）<br>評価試験の範囲は１～８回   |
| 9 回  | 生活を支える水環境の保全について、参考書①３-６章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。                         |
| 10 回 | 生活を支える水環境の保全について、参考書３-６章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                         |
| 11 回 | 化学物質汚染について、参考書３-７章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                    |
| 12 回 | 循環型社会について、参考書３-５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                     |
| 13 回 | インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                             |
| 14 回 | インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                               |
| 15 回 | インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                            |
| 16 回 | 各主体の役割と取り組みについて、参考書５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間１２０分）<br>評価試験の範囲は９～16回               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。<br>過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。<br>更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|               |                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | (教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標          | ①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。<br>②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。<br>③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。<br>④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。<br>⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。<br>⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。                    |
| キーワード         | 公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、<br>地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、<br>再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、<br>化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、<br>電気自動車、自動運転、人口知能 (AI) の進化、環境マネジメントシステム、<br>ライフスタイルの変革            |
| 成績評価 (合格基準60) | 中間評価試験 (50%) 及び最終評価試験 (50%) で成績を評価し、<br>総計60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                  |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                                                         |
| 教科書           |                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | ①改定 6 版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／<br>日本能率協会マネジメントセンター／ISBN： 978-4-8207-5952-2 C<br>3051<br>②不都合な真実 (アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-427000181<br>3)<br>③地球システムの崩壊 (松井 孝典、新潮選書)<br>④生命の多様性 (エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫) |
| 連絡先           | (個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp                                                                                                                                                                                |
| 注意・備考         |                                                                                                                                                                                                                         |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                    |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 論理学 (FB25X030)                               |
| 英文科目名 | Logic                                        |
| 担当教員名 | 中島聡 (なかしまさとし)                                |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 金曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション。講義の進め方を説明する。序論として、論理学の定義・その学問的な特徴・論理的な推論の形態について説明する。          |
| 2 回  | 西洋の古代・中世の論理学の歴史を概説する。                                                   |
| 3 回  | 西洋の近現代の論理学の歴史を概説する。                                                     |
| 4 回  | 伝統的論理学(1) 名辞(概念)の意味と種類、外延と内包、定義について説明する。                                |
| 5 回  | 伝統的論理学(2) 命題(判断)の性質・種類・標準形式、周延不周延について説明する。                              |
| 6 回  | 伝統的論理学(3) 直接推理の性質・種類として対当推理・変形推理について説明する。                               |
| 7 回  | 伝統的論理学(4) 間接推理のうち、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について説明する。                         |
| 8 回  | 古代論理学の歴史と基礎的な事項についてのここまでの講義内容を振り返ると同時にここまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。 |
| 9 回  | 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。                              |
| 10 回 | 帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴について説明する。                        |
| 11 回 | 命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成について説明する。                                        |
| 12 回 | 命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法について説明する。                                |
| 13 回 | 命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)について説明する。                  |
| 14 回 | 述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について説明する。                                 |
| 15 回 | 述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)について説明する。                      |
| 16 回 | 1 回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。                                          |

| 回数   | 準備学習                                                            |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義全体の学習内容を、シラバスで確認しておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 2 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の古代・中世論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 3 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の近現代論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 4 回  | 教科書第二部「名辞」を読み、名辞(概念)の意味、外延と内包、種類、定義について予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 5 回  | 教科書第二部「命題」を読み、命題(判断)の性質、種類と標準形式、周延不周延について予習しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 6 回  | 教科書第二部「直接推理」を読み、推理の性質、その種類として対当推理・変形推理について予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 7 回  | 教科書第二部「間接推理」を読み、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 8 回  | ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)                              |
| 9 回  | 教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 10 回 | 教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 11 回 | 教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順を予習しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 12 回 | 教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)             |
| 13 回 | 教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 14 回 | 教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |

|     |                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------|
| 15回 | 教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 16回 | 1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)                    |

|             |                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 伝統的論理学、帰納論理学、命題論理学、述語論理学という西洋の代表的な四つの論理学を取り上げ、各々の論理学の基礎的な事項を学習する。論理学は根本的・形式的な学問である。基礎的な知識・技法をしっかりと学習することで、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力も上達する。論理学の基礎的な学習とその応用・展開を目的としている。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標        | ①西洋論理学の基礎について正確な理解ができる。<br>②初級的な推論の問題演習を通して、その技法を習得できる。<br>③言語の記号処理と真偽の判定ができる。<br>④社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開ができる。                                                                                       |
| キーワード       | 西洋論理学の歴史 概念・命題・推理 論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理<br>論理式の真偽計算 述語と量化                                                                                                                                                        |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験(40%)、最終評価試験(60%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                |
| 関連科目        | なし。                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 論理学研究／中島 聡／ふくろう出版／978-4-861865466                                                                                                                                                                                |
| 参考書         | 教科書巻末に掲載した参考文献を参照のこと。                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                  |
| 注意・備考       | 論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。                                                                                                            |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                             |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 環境と社会 (FB25X040)                             |
| 英文科目名 | Environment and Society                      |
| 担当教員名 | 剣持堅志＊ (けんもつかたし＊)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 春学期                                          |
| 曜日時限  | 金曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。 |
| 2 回  | 日本で発生した深刻な公害(足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにより努力し、克服していったかについてについて解説する。                                                           |
| 4 回  | 地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。                                                                                                  |
| 5 回  | 地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。                                                                                                            |
| 6 回  | 地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、私たちが実践できる地球温暖化対策について講義する。                                                                 |
| 7 回  | 日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びデメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても講義する。                                                                  |
| 8 回  | 原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。<br>中間評価試験を実施                                                                                 |
| 9 回  | 水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。<br>水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。                                                          |
| 10 回 | 大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。                                                               |
| 11 回 | 化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。                                                                                      |
| 12 回 | 循環型社会実現の必要性と課題について講義する。<br>廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。                                                           |
| 13 回 | 環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。                                                                                  |
| 14 回 | 自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。                      |
| 15 回 | 技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。                                             |
| 16 回 | かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。<br>環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講                                                      |

|  |                       |
|--|-----------------------|
|  | 義を締めくくる。<br>最終評価試験を実施 |
|--|-----------------------|

| 回数    | 準備学習                                                                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書①の構成と目次（４～９）などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分） |
| 2 回   | 日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                       |
| 3 回   | 岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。<br>（標準学習時間60分）    |
| 4 回   | 参考書①第２～３章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。                                                    |
| 5 回   | 地球レベルの環境破壊について、参考書①３-４、３-６章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                           |
| 6 回   | 地球温暖化の原因と現状について、参考書①３-１章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                              |
| 7 回   | 原子力発電所事故等について、参考書①３-８章などを勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                            |
| 8 回   | 再生可能エネルギーについて、参考書①３-２章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。（標準学習時間120分）<br>評価試験の範囲は１～８回   |
| 9 回   | 生活を支える水環境の保全について、参考書①３-６章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。                         |
| 1 0 回 | 生活を支える水環境の保全について、参考書３-６章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                         |
| 1 1 回 | 化学物質汚染について、参考書３-７章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                    |
| 1 2 回 | 循環型社会について、参考書３-５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                     |
| 1 3 回 | インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                             |
| 1 4 回 | インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                               |
| 1 5 回 | インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                            |
| 1 6 回 | 各主体の役割と取り組みについて、参考書５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間１２０分）<br>評価試験の範囲は９～16回               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。<br>過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。<br>更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|               |                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | (教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標          | ①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。<br>②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。<br>③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。<br>④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。<br>⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。<br>⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。                    |
| キーワード         | 公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、<br>地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、<br>再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、<br>化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、<br>電気自動車、自動運転、人口知能 (AI) の進化、環境マネジメントシステム、<br>ライフスタイルの変革            |
| 成績評価 (合格基準60) | 中間評価試験 (50%) 及び最終評価試験 (50%) で成績を評価し、<br>総計60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                  |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                                                         |
| 教科書           |                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | ①改定 6 版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／<br>日本能率協会マネジメントセンター／ISBN： 978-4-8207-5952-2 C<br>3051<br>②不都合な真実 (アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-427000181<br>3)<br>③地球システムの崩壊 (松井 孝典、新潮選書)<br>④生命の多様性 (エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫) |
| 連絡先           | (個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp                                                                                                                                                                                |
| 注意・備考         |                                                                                                                                                                                                                         |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                    |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 国際関係論 (FB25Z010)                          |
| 英文科目名 | Approaches to Transnational Relations     |
| 担当教員名 | 砂川和泉＊ (すながわいずみ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 集中講義 その他                                  |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                           |
|-------|----------------------------------------------------------------|
| 1 回   | オリエンテーション：講義の進め方・受講上の注意点などを説明する。<br>国際社会の特徴を国内社会と比較しながら説明する。   |
| 2 回   | 国際関係の歴史(1)：近代ヨーロッパ国際社会の成立を中心に説明する。                             |
| 3 回   | 国際関係の歴史(2)：19世紀から第1次世界大戦までを中心に説明する。                            |
| 4 回   | 国際関係の歴史(3)：国際連盟設立の経緯を中心に説明する。                                  |
| 5 回   | 国際関係の歴史(4)：国際連合設立の経緯を中心に説明する。                                  |
| 6 回   | 国際連合の組織構造(1)国際連合の主要な機関を概観する。特に総会と安全保障理事会について説明する。              |
| 7 回   | その他の国際機構：国際連合以外の主な国際機構について概観する。                                |
| 8 回   | ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。<br>試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。 |
| 9 回   | 国際紛争の解決(1)国際紛争の平和的解決原則について説明する。                                |
| 1 0 回 | 国際紛争の解決(2)国際連合の主要な司法機関である国際司法裁判所について説明する。                      |
| 1 1 回 | 国際社会の平和と安全の維持(1)：戦争の違法化について説明する。                               |
| 1 2 回 | 国際社会の平和と安全の維持(2)：勢力均衡と集団安全保障について説明する。                          |
| 1 3 回 | 国際社会の平和と安全の維持(3)：国際連合による集団安全保障について説明する。                        |
| 1 4 回 | 国際社会の平和と安全の維持(4)：国際連合の平和維持活動について説明する。                          |
| 1 5 回 | 国際社会の平和と安全の維持(5)：2000年以降の国際連合における平和と安全の維持に関する諸活動について説明する。      |
| 1 6 回 | 最終評価試験を実施する。<br>最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。                  |

| 回数  | 準備学習                                                                                 |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 新聞の国際面に目を通しておくこと(標準学習時間30分)                                                          |
| 2 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 3 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 4 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 5 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 6 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 7 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 8 回 | 前回までの講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)                                                  |
| 9 回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |

|     |                                                                                      |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 10回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 11回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 12回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 13回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 14回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 15回 | 配布したプリントとノートを参照しながら、前回学習した内容の重要事項を整理しておくこと(標準学習時間30分)<br>配布したプリントを読んでおくこと(標準学習時間15分) |
| 16回 | 前回までの講義内容をよく理解し整理しておくこと(標準学習時間180分)                                                  |

|              |                                                                                                                                            |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 国際社会の組織化の歴史、国際機構の仕組みや活動内容を検討することにより、国際社会の平和と安全を維持するために国際機構が果たしている役割と課題を明らかにする。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)                                 |
| 達成目標         | ①国際連盟と国際連合の設立の経緯について、その概略を説明できる。<br>②国際連盟と国際連合の基本的な仕組みについて説明できる。<br>③国際紛争を処理するための基本的な仕組みについて説明できる。<br>④国際社会の平和と安全を維持するための基本的な仕組みについて説明できる。 |
| キーワード        | 国際機構、国際連合                                                                                                                                  |
| 成績評価(合格基準60) | 上記達成目標の到達度を最終評価試験(50%)と中間評価試験(50%)で評価する。                                                                                                   |
| 関連科目         |                                                                                                                                            |
| 教科書          | 使用しない。講義時間中にプリントを配布する。                                                                                                                     |
| 参考書          | 適宜指示する。                                                                                                                                    |
| 連絡先          |                                                                                                                                            |
| 注意・備考        | 中間評価試験と最終評価試験のフィードバックとして、試験内容の解説を行う。<br>講義中の撮影、録音及び録画を禁止する。                                                                                |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 福祉環境論 (FB25Z020)                          |
| 英文科目名 | Welfare Environmental Science             |
| 担当教員名 | 土橋恵美子* (つちはしえみこ*)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 春学期                                       |
| 曜日時限  | 集中講義 その他                                  |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション:講義の目的、進め方について説明する。                              |
| 2 回  | 障害者差別解消法と合理的配慮のとらえ方について説明する。                              |
| 3 回  | 聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。                                  |
| 4 回  | 聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。                                  |
| 5 回  | 重複障がいの疑似体験を実施する。                                          |
| 6 回  | 聴覚障がい学生支援について説明する。                                        |
| 7 回  | 手話通訳の起源とろう文化について説明する。                                     |
| 8 回  | 第1回から第7回までの総括を説明し、中間的な評価をするための試験を実施する。                    |
| 9 回  | オリエンテーション:後期講義の目的、進め方について説明する。<br>手話について実技(入門Ⅰ)をとおして説明する。 |
| 10 回 | 手話について実技(入門Ⅱ)をとおして説明する。                                   |
| 11 回 | ノートテイクについて実技をとおして説明する。                                    |
| 12 回 | パソコン通訳について実技をとおして説明する。                                    |
| 13 回 | 障がいへの理解に関する映像を視聴する。                                       |
| 14 回 | 支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。                         |
| 15 回 | 障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。                           |
| 16 回 | 第9回から第15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。                           |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)                          |
| 2 回  | 障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 3 回  | 聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)                                    |
| 4 回  | 聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)                      |
| 5 回  | 重複障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)                              |
| 6 回  | 聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)                                |
| 7 回  | 手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)                                    |
| 8 回  | 第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 9 回  | シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。<br>指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分) |
| 10 回 | 手話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 11 回 | 速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 12 回 | パソコン通訳(パソコンテイク)について調べておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 13 回 | 障がいへの理解を新聞記事や番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)をとおして考えておくこと。(標準学習時間120分)     |
| 14 回 | 支援すること・されることについて考えておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 15 回 | 合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)                               |
| 16 回 | 第9回から第15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)                        |

|              |                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 「障がい」および「障がい者」について学び、聴覚障がい者に関する法律や当事者の声を通して『知る』ことにより、バリアがどこにあるかを感じとり、合理的配慮の視点から考察することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Dにもっとも強く関与。Cに強く関与。)                                                                            |
| 達成目標         | ①新聞記事、番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)、書籍などから障がいとは何か、バリアとは何かを『理解する』ことができる。<br>②『知ること』を通して、支援する・される間にあるバリアを『わかり』、当事者が求める支援について、合理的配慮の視点から理論を用いて説明できる。<br>③能動的な支援として「かわる・かえる」過程を体感し、障がい者支援について、具体案を提示し、その効果を説明することができる。 |
| キーワード        | 障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア                                                                                                                                                                                  |
| 成績評価(合格基準60) | グループワーク(ディスカッション)への貢献40%、講義の中間、および最終日の試験(中間試                                                                                                                                                                |

|       |                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 験／最終評価試験）60％（各30％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。                                                                                                         |
| 関連科目  | 健康の科学                                                                                                                                               |
| 教科書   | 使用しない。適宜資料を配布する                                                                                                                                     |
| 参考書   | 適宜紹介する                                                                                                                                              |
| 連絡先   |                                                                                                                                                     |
| 注意・備考 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。</li> <li>・この講義はアクティブラーニングを重視し、グループワークおよびグループディスカッションを行う。</li> </ul> |
| 試験実施  | 実施する                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 心理学 (FB26A020)                            |
| 英文科目名 | Psychology                                |
| 担当教員名 | 鉄川大健＊ (てつかわひろかつ＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                  |
|-------|---------------------------------------|
| 1 回   | 心理学の歴史と方法について概説する                     |
| 2 回   | 視覚を例に取り、感覚・知覚の仕組みについて説明する             |
| 3 回   | 錯視を通して、心の働きを学ぶ                        |
| 4 回   | 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ                  |
| 5 回   | 強化スケジュールについて学び、身近な問題への応用可能性について考える    |
| 6 回   | 自由再生実験を通して、記憶の仕組みについて知る               |
| 7 回   | 映像資料を用いて、記憶術や記憶の変容について説明する            |
| 8 回   | 知覚、学習、記憶についてこれまでの授業内容の復習を行い、中間試験を実施する |
| 9 回   | 認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ       |
| 1 0 回 | 認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る         |
| 1 1 回 | 発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える               |
| 1 2 回 | 生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する           |
| 1 3 回 | 自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る       |
| 1 4 回 | 対人関係の形成、対人魅力について知る                    |
| 1 5 回 | 集団における人の心について学ぶ                       |
| 1 6 回 | 認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う     |

| 回数    | 準備学習                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと(10分)                               |
| 2 回   | 前回の授業内容を振り返り、自分が心についてもっている考え方を整理しておくこと(120分)               |
| 3 回   | 前回の授業内容を復習することと、身近な錯覚の例を探してみること(120分)                      |
| 4 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習とは何かについて考えてみること(120分)                    |
| 5 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習理論から説明できそうな身近な行動について考えてみること(120分)        |
| 6 回   | 前回の授業内容を復習することと、記憶について何を学びたいかを整理しておくこと(120分)               |
| 7 回   | 前回の授業内容を復習することと、自分自身がこれまで行ってきた記憶術について振り返ること(120分)          |
| 8 回   | これまでの授業内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)                        |
| 9 回   | 認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)                                 |
| 1 0 回 | 前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)                   |
| 1 1 回 | これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)        |
| 1 2 回 | 前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)                |
| 1 3 回 | 自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)              |
| 1 4 回 | 前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)    |
| 1 5 回 | 前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)            |
| 1 6 回 | 授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分) |

|       |                                                                                                                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的  | この講義では、人の心にかかわるさまざまな問題を科学的に扱う方法を知ることが目的とする。前半は、心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域を学び、心の働きについて知る。後半は認知、発達、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標  | 心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。                                                                             |
| キーワード | 知覚・感覚、記憶、学習、感情、動機づけ                                                                                                                                                       |

|             |                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------|
|             | 認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。        |
| 関連科目        | 社会心理学、教育心理学                                                        |
| 教科書         | 「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山脇圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0                |
| 参考書         | 「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-42223-6<br>他、授業中に適宜紹介する。 |
| 連絡先         | 初回の授業で伝達する                                                         |
| 注意・備考       | 特になし                                                               |
| 試験実施        | 実施する                                                               |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文学 (FB26B030)                             |
| 英文科目名 | Literature                                |
| 担当教員名 | 三木恒治 (みきこうじ)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                          |
|-------|-----------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス。講義の進め方を説明する。                            |
| 2 回   | ヨーロッパとドイツについて概説する。                            |
| 3 回   | 「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。          |
| 4 回   | 「エミリア・ガロッチェ」 近代市民悲劇の誕生について概説する。               |
| 5 回   | 「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。            |
| 6 回   | 「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。               |
| 7 回   | 「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。                  |
| 8 回   | 「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間試験を行う。 |
| 9 回   | 「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。            |
| 1 0 回 | 「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。               |
| 1 1 回 | 「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。             |
| 1 2 回 | 「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。         |
| 1 3 回 | 「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。                  |
| 1 4 回 | ドイツの叙情詩について概説する。                              |
| 1 5 回 | 後半部のまとめを行う。                                   |
| 1 6 回 | 最終評価試験と今後の文学の読み方についての提言を行う。                   |

| 回数    | 準備学習                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。                                                                |
| 2 回   | ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 3 回   | テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 4 回   | テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 5 回   | テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 6 回   | テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分)                      |
| 7 回   | テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 8 回   | テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。<br>これまでの重要事項を復習して、中間試験に備えること。(標準学習時間 1 2 0 分)               |
| 9 回   | テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 0 回 | テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 1 回 | テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 2 回 | テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 3 回 | テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。<br>また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 1 4 回 | テキストの第十二章に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                       |
| 1 5 回 | 講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                 |
| 1 6 回 | 七章から十二章までの重要事項を復習し、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                           |

|               |                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。                                               |
| キーワード         | 文学、社会                                                                                                        |
| 成績評価 (合格基準60) | 中間試験 4 0 %、最終評価試験 4 0 %、レポート 2 0 %により成績を評価し、6 0 %以上を合格とする。                                                   |
| 関連科目          | ドイツ語 I、II (ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)                                                                       |
| 教科書           | 「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫                                                                                        |
| 参考書           | 適宜指示します。                                                                                                     |

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 連絡先   | A-2号館 8 階、オフィスアワー別途参照     |
| 注意・備考 | 作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。 |
| 試験実施  | 実施する                      |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB26B040)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 辻維周 (つじまさちか)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                   |
|------|--------------------------------------------------------|
| 1 回  | ・ ガイダンス<br>・ 文化について                                    |
| 2 回  | テキストの解説と考え方                                            |
| 3 回  | 文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。                         |
| 4 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1)                                      |
| 5 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2)                                      |
| 6 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3)                                      |
| 7 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4)                                      |
| 8 回  | 総括をする。中間評価試験をする                                        |
| 9 回  | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 1)                            |
| 10 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 2)                            |
| 11 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 3)                            |
| 12 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 4)                            |
| 13 回 | ・ 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 5)      ・ グループワークのためのグループ分け |
| 14 回 | グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                     |
| 15 回 | グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                     |
| 16 回 | まとめ、最終評価試験                                             |

| 回数   | 準備学習                                      |
|------|-------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておく。(標準学習時間30分)     |
| 2 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 3 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 4 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 5 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 6 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 7 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 8 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 9 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 10 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 11 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 12 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 14 回 | 自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)        |
| 15 回 | 14回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間60分)           |
| 16 回 | 今までの講義内容を反芻しておき、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分) |

|               |                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。                                                                                    |
| キーワード         | 視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。                                                                                                                                          |
| 成績評価 (合格基準60) | グループワークでの発表40点, 中間試験+最終評価試験60点とし、60点以上を合格とする。                                                                                                                                    |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                  |
| 教科書           | 「異文化理解」岩波新書 青木保著                                                                                                                                                                 |
| 参考書           | 「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会                                                                                                                                               |
| 連絡先           | ous.tsuji@gmail.com                                                                                                                                                              |

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | ・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。 |
| 試験実施  | 実施する                                                                                           |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 心理学 (FB26B050)                            |
| 英文科目名 | Psychology                                |
| 担当教員名 | 鉄川大健＊ (てつかわひろかつ＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                  |
|-------|---------------------------------------|
| 1 回   | 心理学の歴史と方法について概説する                     |
| 2 回   | 視覚を例に取り、感覚・知覚の仕組みについて説明する             |
| 3 回   | 錯視を通して、心の働きを学ぶ                        |
| 4 回   | 条件づけの実験を紹介し、学習について学ぶ                  |
| 5 回   | 強化スケジュールについて学び、身近な問題への応用可能性について考える    |
| 6 回   | 自由再生実験を通して、記憶の仕組みについて知る               |
| 7 回   | 映像資料を用いて、記憶術や記憶の変容について説明する            |
| 8 回   | 知覚、学習、記憶についてこれまでの授業内容の復習を行い、中間試験を実施する |
| 9 回   | 認知と注意について概説し、エラーが起きるメカニズムについて学ぶ       |
| 1 0 回 | 認知スタイルについて学び、文化が心に与える影響について知る         |
| 1 1 回 | 発達の理論を概説し、心の成り立ちについて考える               |
| 1 2 回 | 生涯発達の視点から、人の一生についてその過程を説明する           |
| 1 3 回 | 自己とは何か、私たちは自己をどのように捉えているかについて知る       |
| 1 4 回 | 対人関係の形成、対人魅力について知る                    |
| 1 5 回 | 集団における人の心について学ぶ                       |
| 1 6 回 | 認知、発達、社会心理について学んだことを復習し、最終評価試験を行う     |

| 回数    | 準備学習                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと(10分)                               |
| 2 回   | 前回の授業内容を振り返り、自分が心についてもっている考え方を整理しておくこと(120分)               |
| 3 回   | 前回の授業内容を復習することと、身近な錯覚の例を探してみること(120分)                      |
| 4 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習とは何かについて考えてみること(120分)                    |
| 5 回   | 前回の授業内容を復習することと、学習理論から説明できそうな身近な行動について考えてみること(120分)        |
| 6 回   | 前回の授業内容を復習することと、記憶について何を学びたいかを整理しておくこと(120分)               |
| 7 回   | 前回の授業内容を復習することと、自分自身がこれまで行ってきた記憶術について振り返ること(120分)          |
| 8 回   | これまでの授業内容を振り返り、疑問点を明らかにしておくこと(180分)                        |
| 9 回   | 認知とは何か、言葉の意味を調べておくこと(120分)                                 |
| 1 0 回 | 前回の授業内容を振り返り、認知の仕組みを説明できるようにしておくこと(120分)                   |
| 1 1 回 | これまで学んできた心についての理論を振り返り、心がどのように発達してきたのか考えておくこと(120分)        |
| 1 2 回 | 前回の授業内容を復習することと、現在の自分自身の発達段階について考えること(120分)                |
| 1 3 回 | 自己について考えるにあたって、自分自身について知っていることを整理しておくこと(120分)              |
| 1 4 回 | 前回の授業内容を復習することと、親しい人たちとの関係がどのように築かれてきたかを振り返っておくこと(120分)    |
| 1 5 回 | 前回の授業内容を復習することと、自分自身が所属している集団は何かを把握しておくこと(120分)            |
| 1 6 回 | 授業内容を振り返り、これまで自分が心についてもっていた考え方と、授業で学んだことの対応を整理しておくこと(180分) |

|       |                                                                                                                                                                           |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的  | この講義では、人の心にかかわるさまざまな問題を科学的に扱う方法を知ることが目的とする。前半は、心理学の基礎である感覚、知覚、記憶などの領域を学び、心の働きについて知る。後半は認知、発達、社会心理学の基礎を学習し、人の心の成り立ちや、社会・文化が人の心に及ぼす影響などについて学ぶ。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標  | 心理学の基礎領域について理解を深め、人の心についての科学的な研究法を知ること、日常経験を通して得られた自らの問題意識との関連を考察し、それらを文章で説明できるようになることを目標とする。                                                                             |
| キーワード | 知覚・感覚、記憶、学習、感情、動機づけ                                                                                                                                                       |

|             |                                                                    |
|-------------|--------------------------------------------------------------------|
|             | 認知、パーソナリティ、発達、社会、臨床、こころ                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 各講義後に提出する小レポート（35%）、講義内容の理解についての最終評価試験（65%）により、総合的に成績を評価する。        |
| 関連科目        | 社会心理学、教育心理学                                                        |
| 教科書         | 「心理学・臨床心理学概論【第三版】」／山脇圭輔／北樹出版／ISBN:978-4-7793-0462-0                |
| 参考書         | 「ベーシック心理学」／二宮克美編／医歯薬出版株式会社／ISBN:978-4-263-42223-6<br>他、授業中に適宜紹介する。 |
| 連絡先         | 初回の授業で伝達する                                                         |
| 注意・備考       | 特になし                                                               |
| 試験実施        | 実施する                                                               |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB26B060)                          |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                       |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                               |
|-------|----------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理とは何かを説明する。       |
| 2 回   | 一神教の倫理 (1) ーユダヤ教・キリスト教の倫理を説明する。                    |
| 3 回   | 一神教の倫理 (2) ーイスラームの倫理を説明する。                         |
| 4 回   | 哲学者と倫理 (1) ー徳倫理学を説明する。                             |
| 5 回   | 哲学者と倫理 (2) ーカントの倫理学を説明する。                          |
| 6 回   | 哲学者と倫理 (3) ー功利主義を説明する。                             |
| 7 回   | 現代の倫理ー動物の生命についての様々な考え方を説明する。                       |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。 |
| 1 0 回 | 古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。                       |
| 1 1 回 | 古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。                            |
| 1 2 回 | 日本の伝統的倫理を説明する。                                     |
| 1 3 回 | 現代の倫理 (1) ー死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。                     |
| 1 4 回 | 現代の倫理 (2) ー自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。       |
| 1 5 回 | 現代の倫理 (3) ー脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。                 |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「倫理とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）          |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|              |                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義の前半では西洋の倫理思想を、後半では東洋の倫理思想を中心に学ぶ。倫理的な思考方法を身につけることにより、自身の日常生活の中でそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                                     |
| 達成目標         | ①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を体験し、日常生活に役立てることができる。                                    |
| キーワード        | 倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                  |
| 教科書          | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書          | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考        | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB26C060)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 辻維周 (つじまさちか)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                  |
|------|-------------------------------------------------------|
| 1 回  | ・ ガイダンス<br>・ 文化について                                   |
| 2 回  | テキストの解説と考え方                                           |
| 3 回  | 文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。                        |
| 4 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1)                                     |
| 5 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2)                                     |
| 6 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3)                                     |
| 7 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4)                                     |
| 8 回  | 総括をする。中間評価試験をする                                       |
| 9 回  | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア1)                            |
| 10 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア2)                            |
| 11 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア3)                            |
| 12 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア4)                            |
| 13 回 | ・ 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア5)      ・ グループワークのためのグループ分け |
| 14 回 | グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                    |
| 15 回 | グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                    |
| 16 回 | まとめ、最終評価試験                                            |

| 回数   | 準備学習                                      |
|------|-------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておく。(標準学習時間30分)     |
| 2 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 3 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 4 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 5 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 6 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 7 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 8 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 9 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 10 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 11 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 12 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 14 回 | 自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)        |
| 15 回 | 14回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間60分)           |
| 16 回 | 今までの講義内容を反芻しておき、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分) |

|               |                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。                                                                                    |
| キーワード         | 視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。                                                                                                                                          |
| 成績評価 (合格基準60) | グループワークでの発表40点,中間試験+最終評価試験60点とし、60点以上を合格とする。                                                                                                                                     |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                  |
| 教科書           | 「異文化理解」岩波新書 青木保著                                                                                                                                                                 |
| 参考書           | 「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会                                                                                                                                               |
| 連絡先           | ous.tsuji@gmail.com                                                                                                                                                              |

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | ・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。 |
| 試験実施  | 実施する                                                                                           |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 哲学 (FB26C070)                             |
| 英文科目名 | Philosophy                                |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 月曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および哲学とは何かを説明する。                 |
| 2 回   | デカルト以前の西洋哲学 (1)ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。                   |
| 3 回   | デカルト以前の西洋哲学 (2)ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。                  |
| 4 回   | デカルト以前の西洋哲学 (3)ー中世の哲学 (スコラ哲学、普遍論争等) を説明する。                   |
| 5 回   | デカルトの哲学ーデカルトの生涯と思想を説明する。                                     |
| 6 回   | デカルト以後の西洋哲学 (1)ーカントの生涯と思想を説明する。                              |
| 7 回   | デカルト以後の西洋哲学 (2)ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。 |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。            |
| 1 0 回 | インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。                          |
| 1 1 回 | インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」とその現代への影響を説明する。                          |
| 1 2 回 | 中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。                                       |
| 1 3 回 | 中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。                                       |
| 1 4 回 | イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの思想を説明する。                           |
| 1 5 回 | イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィーナーとガザーリーの思想を説明する。                         |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）           |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|             |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本講義では、前半で西洋哲学を、後半で東洋哲学ををひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるものであるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                 |
| 達成目標        | ①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各時代、文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。                                      |
| キーワード       | 哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60 | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目        | 倫理と宗教                                                                                                                                                               |
| 教科書         | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書         | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考       | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 文学 (FB26D040)                                |
| 英文科目名 | Literature                                   |
| 担当教員名 | 三木恒治 (みきこうじ)                                 |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 月曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数    | 授業内容                                          |
|-------|-----------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス。講義の進め方を説明する。                            |
| 2 回   | ヨーロッパとドイツについて概説する。                            |
| 3 回   | 「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。          |
| 4 回   | 「エミリア・ガロッチェ」 近代市民悲劇の誕生について概説する。               |
| 5 回   | 「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。            |
| 6 回   | 「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。               |
| 7 回   | 「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。                  |
| 8 回   | 「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間試験を行う。 |
| 9 回   | 「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。            |
| 1 0 回 | 「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。               |
| 1 1 回 | 「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。             |
| 1 2 回 | 「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。         |
| 1 3 回 | 「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。                  |
| 1 4 回 | ドイツの叙情詩について概説する。                              |
| 1 5 回 | 後半部のまとめを行う。                                   |
| 1 6 回 | 最終評価試験と今後の文学の読み方についての提言を行う。                   |

| 回数    | 準備学習                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。                                                                |
| 2 回   | ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 3 回   | テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 4 回   | テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 5 回   | テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 6 回   | テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分)                      |
| 7 回   | テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 8 回   | テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。<br>これまでの重要事項を復習して、中間試験に備えること。(標準学習時間 1 2 0 分)               |
| 9 回   | テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 0 回 | テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 1 回 | テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 2 回 | テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 3 回 | テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。<br>また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 1 4 回 | テキストの第十二章に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                       |
| 1 5 回 | 講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                 |
| 1 6 回 | 七章から十二章までの重要事項を復習し、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                           |

|               |                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。                                               |
| キーワード         | 文学、社会                                                                                                        |
| 成績評価 (合格基準60) | 中間試験 4 0 %、最終評価試験 4 0 %、レポート 2 0 %により成績を評価し、6 0 %以上を合格とする。                                                   |
| 関連科目          | ドイツ語 I、II (ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)                                                                       |
| 教科書           | 「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫                                                                                        |
| 参考書           | 適宜指示します。                                                                                                     |

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 連絡先   | A-2号館 8 階、オフィスアワー別途参照     |
| 注意・備考 | 作品は、原則として日本語訳を参考にして説明します。 |
| 試験実施  | 実施する                      |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB26D050)                             |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                          |
| 担当教員名 | 藤丸智雄* (ふじまるともお*)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 月曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死                                                             |
| 2 回  | 善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪                                             |
| 3 回  | ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義① “ 幸福と善の関係 ”                                           |
| 4 回  | 善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類                                                                         |
| 5 回  | 古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷 |
| 6 回  | 善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義           |
| 7 回  | 善と理性との関係について、カントの思想を通して学びます。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考えます。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義② “ 義務としての善 ”                              |
| 8 回  | 嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学んでいく。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志中間試験                     |
| 9 回  | 現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。①ベンサム生涯、②基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、③現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義③ “ 善と快楽 ”           |
| 10 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学びます。キーワード：トロッコケース、9.11                                              |
| 11 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査                            |
| 12 回 | 科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展                                                |
| 13 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 14 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 15 回 | 「愛」と「善」の関係について考えます。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習します。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩                                     |
| 16 回 | 基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。                                                                                             |

| 回数  | 準備学習                                      |
|-----|-------------------------------------------|
| 1 回 | 教科書の 1－9 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）           |
| 2 回 | 教科書 27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）          |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習する。27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分） |
| 4 回 | これまでの講義内容の復習（標準学習時間 30 分）                 |
| 5 回 | 教科書の 28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）            |

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 6回  | 前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）    |
| 7回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 8回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 9回  | 教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 10回 | 教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 11回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 12回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 13回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 14回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 15回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 16回 | 講義内容全体の復習（標準学習時間30分）          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。古典的な倫理思想から、現代社会の基底にある倫理思想まで学び、それらの思想を活用して主体的に考える力を身につける。（教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも深く関与）                                     |
| 達成目標         | ①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。前半で、ギリシャ思想やインド宗教思想などの古典的な倫理思想、さらに現代思想の代表選手であるカントの思想を倫理的側面から学ぶ。後半では、現代社会と関係の深い功利主義、さらにキリスト教の倫理思想を学ぶ。多様な倫理思想を学んでいくことによって、種々の現代的課題を、主体的・相対的に考える力を身につけていく。 |
| キーワード        | 倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、自己愛、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60） | 提出物15%講義関与度35%中間試験25%最終評価試験25%                                                                                                                                                                                                     |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書          | プレップ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書          |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 連絡先          | fujimarutomoo@gmail.com                                                                                                                                                                                                            |
| 注意・備考        |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                               |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB26E010)                             |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                          |
| 担当教員名 | 藤丸智雄* (ふじまるともお*)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 月曜日 5時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                    |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 「倫理学」とは何かについて講義する。善悪が不安定なことからであることから、善悪を考えることの重要性について確認していく。キーワード：倫理学、善悪、自死                                                             |
| 2 回  | 善悪は、誰が決めるのかという問題を、ギリシャ神話の神々について学びながら考える。また、どのような人に惹かれるかのアンケートを元に、自由と善悪について考えていく。キーワード：自由、善悪                                             |
| 3 回  | ギリシャ哲学、特にアリストテレスの思想を題材にして、なぜ善をなすのか、善をなす意味を、善と幸福との関係から学ぶ。キーワード：ギリシャ哲学、善の動機、徳、善の定義① “ 幸福と善の関係 ”                                           |
| 4 回  | 善を具体的に実践した結果を元に、善と幸福度について検証し、善の分類、幸福の分類を行う。キーワード：幸福度、善の分類、幸福の分類                                                                         |
| 5 回  | 古代社会における「善」について考える。インド宗教についての基本的な知識を学び、バラモン教とカースト制度を題材として、古代社会における「幸福」「善」「祭祀」等の関係について考え、現代社会と古代社会との異同を考えていく。キーワード：バラモン教、カースト制度、祭祀、占い、祈祷 |
| 6 回  | 善は結果が重要かという議論を行う。バラモン教と対比しながら仏教とジャイナ教の基礎について学習し、仏教とジャイナ教におけるアヒンサー（非暴力・不殺生）の違いを比較し、帰結主義についての理解を深めていく。キーワード：仏教、ジャイナ教、アヒンサー、帰結主義           |
| 7 回  | 善と理性との関係について、カントの思想を通して学びます。理性と義務、善との関係を、「脳科学」「猿と人間の違い」なども題材にしながら考えます。キーワード：理性、脳科学、猿との違い、善の定義② “ 義務としての善 ”                              |
| 8 回  | 嘘は悪かについて考える。カントの嘘問題を題材にして、カントの義務論について学んでいく。「嘘」を題材にして、善悪の基準がどこにあるかを検討しつつ、自己愛の問題について考える。キーワード：嘘、定言命法、仮言命法、自己愛、善意志中間試験                     |
| 9 回  | 現代社会の基礎となっている功利主義の基本について学びます。①ベンサム生涯、②基本的な考え方（最大多数の最大幸福、快・苦、帰結主義）とその独自性、③現代社会との関係について学びます。キーワード：ベンサム、最大多数の最大幸福、善の定義③ “ 善と快楽 ”           |
| 10 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。トロッコケースのジレンマ、9.11の事例を用いて、最大多数の最大幸福の修正点について学びます。キーワード：トロッコケース、9.11                                              |
| 11 回 | 幸福を数量で計れるのかという問題について考えます。GDPと幸福度との関係、幸福な国や地域はどこか、幸福度の低い場所はどこかという点から、功利主義の「最大幸福」について批判的に検証します。キーワード：GDP、幸福度調査                            |
| 12 回 | 科学技術や医療の発展がもたらす課題について考えます。功利主義の歴史的背景について学び、功利主義の背景に産業革命や医療の発展があることを学びます。キーワード：科学技術、医療の発展                                                |
| 13 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 14 回 | ユダヤ教の歴史を学び、宗教における「善」について学びます。宗教的な戒律や救いと「善」を考えつつ、宗教と幸福の関係について分析します。キーワード：ユダヤ教、救い、宗教、幸福                                                   |
| 15 回 | 「愛」と「善」の関係について考えます。キリスト教の歴史を学び、キリスト教の特徴的な教えである「隣人愛」について「サマリア人の喩」を題材に学習します。キーワード：愛、隣人愛、キリスト教、サマリア人の喩                                     |
| 16 回 | 基礎的知識の習得、倫理的思考の習熟度をはかるための最終評価試験を行い、解説を実施する。                                                                                             |

| 回数  | 準備学習                                      |
|-----|-------------------------------------------|
| 1 回 | 教科書の 1－9 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）           |
| 2 回 | 教科書 27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）          |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習する。27－28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分） |
| 4 回 | これまでの講義内容の復習（標準学習時間 30 分）                 |
| 5 回 | 教科書の 28 ページを読むこと。（標準学習時間 30 分）            |

|     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 6回  | 前回の講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）    |
| 7回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 8回  | 教科書の33-38ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 9回  | 教科書の28-29ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 10回 | 教科書の30-32ページを読むこと。（標準学習時間30分） |
| 11回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 12回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 13回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 14回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 15回 | これまでの講義内容を復習すること。（標準学習時間30分）  |
| 16回 | 講義内容全体の復習（標準学習時間30分）          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 現代社会が抱える倫理的な課題について考察するための「倫理的に考える力」の養成を目的とする。達成目標にかかげる具体的な目標をクリアし、これらの要素を総合して、倫理的課題について思索を深めるための方法論を身につける。古典的な倫理思想から、現代社会の基底にある倫理思想まで学び、それらの思想を活用して主体的に考える力を身につける。（教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも深く関与）                                     |
| 達成目標         | ①現代社会が抱える倫理的課題についての情報獲得、②社会を構成する基盤となっている思想・哲学の基礎的な知識の獲得、③宗教倫理に関する基礎的な理解を目指す。前半で、ギリシャ思想やインド宗教思想などの古典的な倫理思想、さらに現代思想の代表選手であるカントの思想を倫理的側面から学ぶ。後半では、現代社会と関係の深い功利主義、さらにキリスト教の倫理思想を学ぶ。多様な倫理思想を学んでいくことによって、種々の現代的課題を、主体的・相対的に考える力を身につけていく。 |
| キーワード        | 倫理、現代社会、自死、ギリシャ哲学、カント、自己愛、仏教、ジャイナ教、キリスト教、ベンサム、理性、脳、幸福、自由                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60） | 提出物15%講義関与度35%中間試験25%最終評価試験25%                                                                                                                                                                                                     |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書          | プレップ倫理学／柘植尚則／弘文堂／4335150490                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書          |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 連絡先          | fujimarutomoo@gmail.com                                                                                                                                                                                                            |
| 注意・備考        |                                                                                                                                                                                                                                    |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                               |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB26F010)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)                        |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                     |
|-------|------------------------------------------|
| 1 回   | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2 回   | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3 回   | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4 回   | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5 回   | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6 回   | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7 回   | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8 回   | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9 回   | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 1 0 回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 1 1 回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 1 2 回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 1 3 回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 1 4 回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 1 5 回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 1 6 回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数    | 準備学習                                                             |
|-------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2 回   | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3 回   | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4 回   | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5 回   | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6 回   | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7 回   | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8 回   | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9 回   | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 1 0 回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 1 1 回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 1 2 回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 1 3 回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 1 4 回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 1 5 回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 1 6 回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義目的        | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標        | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード       | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書         | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 考古学 (FB26G020)                            |
| 英文科目名 | Archaeology                               |
| 担当教員名 | 白石純 (しらいしじゅん)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                               |
|-------|--------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 考古学がなぜ必要かについて実例を挙げながら説明する。                                         |
| 2 回   | 考古学はどんな学問か。考古学の定義について実例を挙げながら説明する。                                 |
| 3 回   | 考古学の研究対象・時間的範囲・地域的範囲について実例を挙げながら説明する。                              |
| 4 回   | いろいろな考古学(時代・地域・宗教・その他)について実例を挙げながら説明する。                            |
| 5 回   | 考古学はどのように発達したか、について実例を挙げながら説明する。                                   |
| 6 回   | 考古学資料の種類(遺跡・遺構・遺物)について実例を挙げながら説明する。                                |
| 7 回   | 考古学の研究方法(型式学・一括遺物と共存関係)について実例を挙げながら説明する。                           |
| 8 回   | 考古学で用いられる年代測定法(放射性炭素法・考古地磁気法・年輪年代法)について実例を挙げながら説明する。<br>中間試験を実施する。 |
| 9 回   | 旧石器時代前半について実例を挙げながら説明する。                                           |
| 1 0 回 | 旧石器時代後半について実例を挙げながら説明する。                                           |
| 1 1 回 | 縄文時代草創期、早期、前期について実例を挙げながら説明する。                                     |
| 1 2 回 | 縄文時代中期、後期、晩期について実例を挙げながら説明する。                                      |
| 1 3 回 | 弥生時代前期、中期について実例を挙げながら説明する。                                         |
| 1 4 回 | 弥生時代後期について実例を挙げながら説明する。                                            |
| 1 5 回 | 古墳時代前期について実例を挙げながら説明する。                                            |
| 1 6 回 | 古墳時代中期・後期について実例を挙げながら説明する。<br>これまでの講義内容について総括する。<br>最終評価試験を実施する。   |

| 回数    | 準備学習                                               |
|-------|----------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを確認し学習の過程を調べておくこと。(標準学習時間120分、以下同じ)            |
| 2 回   | 考古学の目的・定義について、図書館等で調べておくこと。(120分)                  |
| 3 回   | 考古学が対象とするものや年代の範囲について、図書館等で調べておくこと。(120分)          |
| 4 回   | 考古学は時代・地域・その他で区分されている。この区分について、図書館等で調べておくこと。(120分) |
| 5 回   | 考古学が古代からどのように発達してきたか、図書館等で調べておくこと。(120分)           |
| 6 回   | 考古学が扱う資料について、どのような物があるか。図書館等で調べておくこと。(120分)        |
| 7 回   | 考古学の研究方法について、図書館等で調べておくこと。(120分)                   |
| 8 回   | 考古学で用いられる年代測定について、どのような測定法があるか、図書館等で調べておくこと。(120分) |
| 9 回   | 日本の旧石器時代について、発見・時代・生活文化を図書館等で調べておくこと。(120分)        |
| 1 0 回 | 日本の旧石器時代について、石器・製作技法・狩猟方法を図書館等で調べておくこと。(120分)      |
| 1 1 回 | 縄文時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)              |
| 1 2 回 | 縄文時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器を図書館等で調べておくこと。(120分)        |
| 1 3 回 | 弥生時代について、定義・年代・生業を図書館等で調べておくこと。(120分)              |
| 1 4 回 | 弥生時代について、住居と集落・墓地と埋葬・土器からみた地域性を図書館等で調べておくこと。(120分) |
| 1 5 回 | 古墳時代について、年代・古墳の種類と埋葬施設を図書館等で調べておくこと。(120分)         |
| 1 6 回 | 古墳時代について、住居・生活様式を図書館等で調べておくこと。(120分)               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 考古学がなぜ必要であるのか。どんな学問であるのか。現代社会においてどのように役立っているのか。歴史が不得意な受講生にも理解しやすいように解説する。具体的には考古学における資料の分析や研究方法について解説し、考古学で扱う分析資料の分類や基礎的な知識を理解させる。また、考古学における年代決定法(相対年代・絶対年代)について理解させることで、考古学が人文学的研究法のみでなく、自然科学的分析法によっても研究されていることを学習することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。) |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                                                             |
|-------------|-------------------------------------------------------------|
| 達成目標        | 理系。文系を問わず、さまざまな知識、学問に応用できるように発想や資料分析法の仕方の基礎知識を獲得することを目標とする。 |
| キーワード       | 考古理化学、文化財、文化財科学                                             |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験（50点%）、最終評価試験(50点%)により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。            |
| 関連科目        | なし                                                          |
| 教科書         | 使用しない。                                                      |
| 参考書         | 考古学ゼミナール／江上波夫／山川出版社：考古学の基礎知識／広瀬和雄／角川選書                      |
| 連絡先         | C2号館6F 白石研究室 086-256-9655 shiraish@big.ous.ac.jp            |
| 注意・備考       |                                                             |
| 試験実施        | 実施する                                                        |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | ボランティア論 (FB26G030)                        |
| 英文科目名 | Introduction to Volunteer                 |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                      |
|-------|-------------------------------------------|
| 1 回   | 講義の進め方とテキスト、テーマの背景について解説する。受講シートの記入に取り組む。 |
| 2 回   | ボランティアのイメージについて考察する。                      |
| 3 回   | ボランティアの動機と事例を検証する①。                       |
| 4 回   | ボランティアの動機と事例を検証する②。                       |
| 5 回   | ボランティアの発生と歴史について解説する。                     |
| 6 回   | 近代社会の成立とボランティアの関係を考察する。                   |
| 7 回   | ボランティアの動機と事例を検証する③。中間テストについて説明する。         |
| 8 回   | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                   |
| 9 回   | ボランティアの特徴について考察する。                        |
| 1 0 回 | ボランティアの動機と事例を検証する④。                       |
| 1 1 回 | ボランティアと報酬について考察する。                        |
| 1 2 回 | ボランティアの動機と事例を検証する⑤。                       |
| 1 3 回 | ボランティアの動機と事例を検証する⑥。                       |
| 1 4 回 | NPO (特定非営利活動) について解説する。                   |
| 1 5 回 | NPOの現状と問題点について考察する。最終評価試験について説明する。        |
| 1 6 回 | 後半の講義をまとめる。 最終評価試験を実施する。                  |

| 回数    | 準備学習                                                                  |
|-------|-----------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 予習：シラバスに目を通しておくこと。 復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)                       |
| 2 回   | 予習：ボランティアの体験やイメージをまとめておくこと。 復習：ボランティアについての多様な視点を確認すること。(標準学習時間45分)    |
| 3 回   | 予習：ボランティアのきっかけについて考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分) |
| 4 回   | 予習：ボランティアの問題点について考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間45分)  |
| 5 回   | 予習：ボランティアの発生・歴史について考えておくこと。 復習：ボランティアの歴史をまとめること。(標準学習時間60分)           |
| 6 回   | 予習：近代社会の特徴について考えておくこと。 復習：近代社会とボランティアの関係をまとめること。(標準学習時間60分)           |
| 7 回   | 予習：ボランティアの意義について考えておくこと。 復習：講義で取り上げたボランティアの事例について整理すること。(標準学習時間60分)   |
| 8 回   | 予習：前半の講義内容を整理しておくこと。 復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)                |
| 9 回   | 予習：ボランティアの特徴について考えておくこと。 復習：ボランティアの特徴についてまとめること。(標準学習時間60分)           |
| 1 0 回 | 予習：ボランティアの可能性について考えておくこと。 復習：講義で取上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)          |
| 1 1 回 | 予習：ボランティアの無償性について考えておくこと。 復習：ボランティアの報酬についてまとめること。(標準学習時間60分)          |
| 1 2 回 | 予習：国内外の諸問題について考えておくこと。 復習：講義で取り上げた事例についてまとめること。(標準学習時間60分)            |
| 1 3 回 | 予習：ボランティアをめぐる困難について考えてくること。 復習：ボランティアと現代社会についてまとめること。(標準学習時間60分)      |
| 1 4 回 | 予習：NPOの基本を理解しておくこと。 復習：NPOの定義についてまとめること。(標準学習時間60分)                   |
| 1 5 回 | 予習：NPOの現状について考えておくこと。 復習：NPOをめぐる諸問題をまとめること。(標準学習時間90分)                |
| 1 6 回 | 予習：後半の講義内容を整理しておくこと。 復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)               |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 講義目的        | ボランティアを多角的な視点から分析して動機・背景・歴史・意義・現状を明らかにし、その特徴と可能性を理解するとともに、NPOの役割についても考える。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                    |
| 達成目標        | ボランティア活動の動機・背景・歴史・意義を理解した上で、関連する領域も含めた現状について自身の考えを述べることができる。                                                                                                                                                                                                                                              |
| キーワード       | ボランティア NPO 社会貢献                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習に参加し課題をすべて提出することが中間テスト、最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                               |
| 関連科目        | 比較文化論                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 教科書         | 世良利和／「ボランティアへの視線－映画を手がかりにして考える」／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 参考書         | 必要に応じて指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考       | 1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.受講者は必ずテキストを購入すること。 3.ボランティアへの賛否、経験の有無は問わない。 4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 7.100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 9.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 10.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB26G040)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)                        |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                     |
|------|------------------------------------------|
| 1 回  | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2 回  | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3 回  | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4 回  | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5 回  | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6 回  | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7 回  | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8 回  | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9 回  | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 10 回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 11 回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 12 回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 13 回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 14 回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 15 回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 16 回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2 回  | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3 回  | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4 回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5 回  | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6 回  | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7 回  | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8 回  | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9 回  | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 10 回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 11 回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 12 回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 14 回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 15 回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 16 回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義目的        | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標        | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード       | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書         | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |



|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB26H050)                             |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                     |
| 担当教員名 | 榎原宥* (えばらゆたか*)                               |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 火曜日 3時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義オリエンテーション (1) — 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何か、というテーマで講義内容を説明する。   |
| 2 回  | 第1回講義の続き — 「市民性の授業」の解説と憲法改正への大きな流れについて説明する。                               |
| 3 回  | 立法への市民参加 (1) — 私たちの周りにある究極のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。                        |
| 4 回  | 立法への市民参加 (2) — 憲法の前文と第九条について議論する。                                         |
| 5 回  | 立法への市民参加 (3) — 民主主義と立憲主義とは何か、について解説する。                                    |
| 6 回  | 立法への市民参加 (4) — ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説を題材に、日本やドイツの戦後処理方法について共に考える。               |
| 7 回  | 日本社会の現状を考え、この先日本はどこに向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を経験するのか想像する。                 |
| 8 回  | 講義の総括と中間評価のための試験を実施する。                                                    |
| 9 回  | 講義オリエンテーション (2) — 「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方 (市民性の発揮) について再確認する。 |
| 10 回 | 行政への市民参加 (1) — ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。                       |
| 11 回 | 第10回講義の続き — ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。                        |
| 12 回 | 行政への市民参加 (2) — 地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。                            |
| 13 回 | 第12回講義の続き — 電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。                                       |
| 14 回 | 市民の司法参加 — 日本の裁判員制度とその課題について解説する。                                          |
| 15 回 | 第15回の続き — 死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。                                       |
| 16 回 | 後半の総括と最終評価試験を行う。                                                          |

| 回数   | 準備学習                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。                                       |
| 2 回  | 憲法改正について自分の意見を持って授業に参加すること。(標準学習時間: 講義期間の前半は常にその意識を再確認すること。) |
| 3 回  | 日本国憲法の前文を読んでおくこと。(標準学習時間60分)                                 |
| 4 回  | 自衛隊は何故存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間60分)                             |
| 5 回  | 第3回より第4回までの講義の復習をしておくこと。(標準学習時間60分)                          |
| 6 回  | 靖国問題の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                             |
| 7 回  | 現在、社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何か考えておくこと。                          |
| 8 回  | 第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                   |
| 9 回  | 「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。(標準学習時間60分)                              |
| 10 回 | アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                 |
| 11 回 | ワークライフバランスとは何か考えておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 12 回 | 「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                           |
| 13 回 | あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間60分)         |
| 14 回 | 日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。(標準学習時間60分)                           |
| 15 回 | 今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。(標準学習時間60分)                       |
| 16 回 | 今までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                          |

|      |                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題 (問題) には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性=社会参画の権 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」との関わりを論じます。前半は、「立法」を取り上げ、皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議します。後半は、「行政」「司法」を取り上げます。題材は、女性の社会進出問題等現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与） |
| 達成目標        | 憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。                                                                                                                                                                                                        |
| キーワード       | 市民性、ルールと秩序、社会的責任                                                                                                                                                                                                                                             |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テスト50%、最終評価試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とします。                                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 使用しません。講義中にレジメを配布します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 講義中に適宜紹介します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文学 (FB26H060)                             |
| 英文科目名 | Literature                                |
| 担当教員名 | 杉林周陽＊ (すぎばやしのりあき＊)                        |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                          |
|-------|-----------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス。講義の進め方を説明する。                            |
| 2 回   | ヨーロッパとドイツについて概説する。                            |
| 3 回   | 「ニーベルンゲンの歌」 英雄の人間像に見るゲルマン気質について説明する。          |
| 4 回   | 「エミーリア・ガロッチェ」 近代市民悲劇の誕生について概説する。              |
| 5 回   | 「若きヴェルテルの悩み」 若者の情熱と社会の確執をめぐって考察する。            |
| 6 回   | 「ファウスト」 人間の飽くなき欲望の行き着くところを考察する。               |
| 7 回   | 「青い花」 真理を求める果てしなき憧れについて説明する。                  |
| 8 回   | 「金髪のエックベルト」 夢と現実の相克に引き裂かれる人間像について説明し、中間試験を行う。 |
| 9 回   | 「グリムのメルヘン」 メルヘンに託された庶民の願望について説明する。            |
| 1 0 回 | 「みづうみ」 過ぎ去った青春時代と人生の無常について説明する。               |
| 1 1 回 | 「変身」 不条理な世界に取り込まれる現代人の悲劇について説明する。             |
| 1 2 回 | 「トーニオ・クレガー」 市民と芸術家の間で苦悩する人間像について説明する。         |
| 1 3 回 | 「魔の山」 現代社会の精神的混迷の縮図について説明する。                  |
| 1 4 回 | ドイツの叙情詩について概説する。                              |
| 1 5 回 | 後半部のまとめを行う。                                   |
| 1 6 回 | 最終評価試験と今後の文学の読み方についての提言を行う。                   |

| 回数    | 準備学習                                                                                       |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスの内容を確認し、講義の主旨を把握しておくこと。                                                                |
| 2 回   | ヨーロッパの地図を見て、ドイツの位置関係を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 3 回   | テキストの第一章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 4 回   | テキストの第二章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 5 回   | テキストの第三章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 6 回   | テキストの第四章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。また前回配付のゲーテの年譜を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分)                      |
| 7 回   | テキストの第五章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 8 回   | テキストの第六章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。<br>これまでの重要事項を復習して、中間試験に備えること。(標準学習時間 1 2 0 分)               |
| 9 回   | テキストの第七章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 0 回 | テキストの第八章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 1 回 | テキストの第九章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 2 回 | テキストの第十章に目を通して、物語の概略を理解しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                             |
| 1 3 回 | テキストの第十一章に目を通して、物語の概略を理解して、複雑な人間関係を整理しておくこと。<br>また前回配付のトーマス・マン資料を必ず持参すること。(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 1 4 回 | テキストの第十二章に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                       |
| 1 5 回 | 講義中指示したテキストの重要箇所を確認しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                                 |
| 1 6 回 | 七章から十二章までの重要事項を復習し、試験の準備をしておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                           |

|               |                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | ドイツ語圏の文学の主要作品を手がかりとして、ヨーロッパ文化の特質、ドイツ人のものの考え方、日本と西洋の違いについて、さまざまな観点から考えてみたいと思います。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 作品に登場するさまざまな世界や人間像を考察することによって、文学や社会の構造に対する理解を深めてゆくことを目標としています。                                               |
| キーワード         | 文学、社会                                                                                                        |
| 成績評価 (合格基準60) | 毎回のミニレポート 4 0 %、中間試験 3 0 %、最終評価試験 3 0 %により成績を評価し、6 0 %以上を合格とする。<br>ただし、中間試験を受けていない者には最終試験の受験を認めない。           |
| 関連科目          | ドイツ語Ⅰ、Ⅱ (ただし受講にあたって習得の必要はまったくありません。)                                                                         |
| 教科書           | 「新しく読むドイツ文学」/三木恒治/蜻文庫                                                                                        |

|       |                                                                                                                                                                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 参考書   | 適宜指示します。                                                                                                                                                                                                   |
| 連絡先   |                                                                                                                                                                                                            |
| 注意・備考 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品は、原則として日本語訳を参考にして説明する。</li> <li>・ ミニレポートについては次の時間に印象的なものを紹介する形でフィードバックをすることがある。</li> <li>・ 講義の撮影・録音・録画は一切認めない。</li> <li>・ 教科書以外に参考する資料については授業中に配布する。</li> </ul> |
| 試験実施  | 実施する                                                                                                                                                                                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅲ (FB26H070)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing III                     |
| 担当教員名 | 皿田琢司 (さらたたくじ)                             |
| 対象学年  | 3 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                       |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション。教員採用試験における論作文の出題傾向を踏まえ、講義概要と受講要領について理解を図るとともに、教員に求められる資質・能力に基づいて文章作成力（構成と表現の技法）の意義を考察する。                                         |
| 2 回  | 「読まれる」小論文をめざして。小論文の組み立てと表現技法に関する基本的事項について理解を図る。第1課題（教職の志望動機、理想の教師像、使命感・職業観等）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。                                      |
| 3 回  | 第1課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。                                                                                      |
| 4 回  | 第1課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。                                                                            |
| 5 回  | 第1課題の実践的検討。再修正版のうち1答案について、グループ討議を通して知識活用、文章構成、表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。                                                                      |
| 6 回  | 要約練習（その1）。最近の新聞から教育を主題とする社説を複数取り上げ、要約を試みるとともに、グループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。<br>第2課題（実践的指導力〔識見、指導方針、方法原理等〕）を提示するとともに答案の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。 |
| 7 回  | 第2課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。                                                                                      |
| 8 回  | 第2課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。                                                                             |
| 9 回  | 第2課題の実践的検討。再修正版のうち1答案について、グループ討議を通して知識活用、文章構成、表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。                                                                      |
| 10 回 | 要約練習（その2）。最近の新聞から教育を主題とする社説を複数取り上げ、要約を試みるとともにグループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。<br>第3課題（児童生徒の理解と対応のあり方）の作成を指示し、作成要領の要点について理解を図る。                    |
| 11 回 | 第3課題の検討。グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を検討し合い、指導講評を行う。                                                                                      |
| 12 回 | 第3課題の再検討。修正版について、グループ討議を通して互いの答案の知識活用、文章構成、表現技法を再検討し合い、指導講評を行う。                                                                            |
| 13 回 | 第3課題の実践的検討。再修正版のうち1答案について、グループ討議を通して知識活用、文章構成、表現技法を実践的に検討し合い、指導講評を行う。                                                                      |
| 14 回 | 要約練習（その3）。最近の新聞から教育を主題とする複数の社説を取り上げ、要約を試みるとともにグループ討議を通して文章構成と表現技法を分析する。                                                                    |
| 15 回 | 総括と最終課題の提示。第1～3課題共通の出題のねらいについて再確認を促すとともに、最終課題の作成・提出要領を指示する。知識活用力、文章構成力、表現力を高めるための継続的な研究と修養の意義について理解の深化を図り、具体的な取り組みを勧奨する。                   |
| 16 回 | 最終評価試験を実施する。                                                                                                                               |

| 回数  | 準備学習                                                                                                                                             |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 受験予定の都道府県市の教員採用試験で出題された論作文の過去3年分（内容・形式）を確認しておくこと。各自のOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。（標準学習時間：80分）                                                        |
| 2 回 | 教職関連科目の学修を通して修得してきた知見を総復習するとともに、文科省の諮問機関・教育政策や受験予定の都道府県市から公表されている教育施策・教員像に基づいて前時に控えた出題の傾向を分析し、自らの専攻分野に照らして指導に反映できそうな具体的題材を整理しておくこと。（標準学習時間：100分） |
| 3 回 | 前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                                         |
| 4 回 | 前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題                                                                                                     |

|     |                                                                                                                                      |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                                                                         |
| 5回  | 前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                             |
| 6回  | 前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、完成原稿を提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                 |
| 7回  | 前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得に努めること。前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：120分） |
| 8回  | 前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                             |
| 9回  | 前時までの学習に基づいて答案を再度見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                           |
| 10回 | 前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、修正版を完成原稿として提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                           |
| 11回 | 前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得に努めること。前時の授業で提示された設問から1つを選び、所定の要領で答案を作成しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：120分） |
| 12回 | 前時までの学習に基づいて答案を見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                             |
| 13回 | 前時までの学習に基づいて答案を再度見直し、所定の要領で全文を作成し直しておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：100分）                                                           |
| 14回 | 前時までの学習に基づいて答案を練り直し、所定の制限時間内に完成できるよう訓練を重ねるとともに、修正版を完成原稿として提出できるようにしておくこと。平常の課題の作成に継続して取り組むこと。（標準学習時間：120分）                           |
| 15回 | 前時の授業で扱われた記事中の表現のうち、学習指導に適したものをを用いて文例作りを練習し、活用できるよう習得すること。最終課題の作成・提出要領を再確認し、提出課題を読み直しておくこと。（標準学習時間：180分）                             |
| 16回 | 最終課題で選択しなかった設問の答案修正に努めるとともに、これまでの学習全体を振り返り、到達目標に照らして各自の課題の明確化と克服に努めること。（標準学習時間：80分。なお、授業後も学修を継続することが望ましい）                            |

|              |                                                                                                                                                                                       |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 次のことを受講者が修得することを目的とする。<br>1. いわゆる教員採用試験の論作文問題に有効に対応できる文章作成の基礎<br>2. 中学校または高等学校の教員に求められる文章構成力・表現力の基礎<br>（教養教育センター単位認定方針Eのうち、中学校または高等学校教員に必要な知識を活用した文章力に關与）                             |
| 達成目標         | 1. 文章表現法基礎編・応用編の学習目標を十分に達成した上で、教員に求められる資質・能力の一つとして文章構成力・表現力を身につけている意義を簡潔に説明できること。<br>2. 教職に関する授業科目で修得した知見や自ら収集した教職に関する時事情報等をもとに、適切な表現を用い、与えられた主題に即して自らの考えを800～900字程度の文章にまとめることができること。 |
| キーワード        | 教職、教員採用試験、教員試験、論述試験、知識活用、文章構成、文章表現、文章作法、小論文、論作文                                                                                                                                       |
| 成績評価（合格基準60） | 小テスト（10%程度）、平常の課題（30～40%）、最終課題（20%程度）、最終評価試験（30～40%）                                                                                                                                  |
| 関連科目         | ○1～2年次開講C群科目（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及び文章表現法Ⅰ、Ⅱをすべて修得していることが望ましい。<br>○教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。<br>○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。                        |
| 教科書          | 刊行物の形態のものは使用しない。配付資料を適宜用いる。                                                                                                                                                           |
| 参考書          | 受験予定（勤務希望）校種の学習指導要領（最新年度版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしプリントアウトしたものでもよい。<br>受験予定（担当予定）教科の学習指導要領解説。<br>上記2種類については常時携行し、重要な箇所を随時活用できるようにしておくこと。他の箇所についても、学習の必要に応じて参照できるようにしておくこと。<br>このほか適宜指示する。   |
| 連絡先          | B2号館（旧13号館）3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-256-9714                                                                                                                                    |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | <p>○30名程度以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち、小論文が出題される府県市の受験優先度の高い者を優先する。それでも超過する場合には、論述試験を加味した抽選を行う。</p> <p>○授業で課された完成原稿には、個別に添削することを原則とする。提出物中の共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。</p> <p>○提示物の撮影は、他の受講者の学習の妨げにならない限り認めるが、他者への再配付は、電磁的方法も含めて認めない。録音または録画を希望する場合には事前に相談すること。</p> <p>○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングの要素を加味した授業とする。指導計画（成績評価の配分比率を含む）は、受講状況により見直す場合がある。</p> <p>○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。</p> <p>○C 1号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。</p> <p>○専攻分野・担当教科を学ぶ意義や魅力を伝えられるようになることを目的とした読書を励行していることが望ましい。</p> <p>○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識のもと、謙虚にかつ不断に学業に取り組むことが望ましい。</p> |
| 試験実施  | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB26I040)                             |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                     |
| 担当教員名 | 榎原宥* (えばらゆたか*)                               |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 火曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義オリエンテーション (1) - 私たちが存在している「社会」とは一体何か、私たちの社会参画の意義は何か、というテーマで講義内容を説明する。   |
| 2 回  | 第1回講義の続き - 「市民性の授業」の解説と憲法改正への大きな流れについて説明する。                               |
| 3 回  | 立法への市民参加 (1) - 私たちの周りにある究極のルール=憲法と、憲法改定論議について解説する。                        |
| 4 回  | 立法への市民参加 (2) - 憲法の前文と第九条について議論する。                                         |
| 5 回  | 立法への市民参加 (3) - 民主主義と立憲主義とは何か、について解説する。                                    |
| 6 回  | 立法への市民参加 (4) - ワイツゼッカー西ドイツ大統領演説を題材に、日本やドイツの戦後処理方法について共に考える。               |
| 7 回  | 日本社会の現状を考え、この先日本はどこに向かおうとしているのか、今からの50年で君たちは何を経験するのか想像する。                 |
| 8 回  | 講義の総括と中間評価のための試験を実施する。                                                    |
| 9 回  | 講義オリエンテーション (2) - 「三権分立」の捉え方と、現在、身の回りに起きている社会問題への関わり方 (市民性の発揮) について再確認する。 |
| 10 回 | 行政への市民参加 (1) - ジェンダー問題と、日本女性の社会進出について国際比較を交えながら考える。                       |
| 11 回 | 第10回講義の続き - ワークシェアリングと今話題になっている「同一労働同一賃金」の関連性を考える。                        |
| 12 回 | 行政への市民参加 (2) - 地球環境問題、原発問題と日本のエネルギー政策を総合的に考える。                            |
| 13 回 | 第12回講義の続き - 電力会社、国、市民の社会的責任の関連を考える。                                       |
| 14 回 | 市民の司法参加 - 日本の裁判員制度とその課題について解説する。                                          |
| 15 回 | 第15回の続き - 死刑制度の賛否の議論と検察審査会について解説する。                                       |
| 16 回 | 後半の総括と最終評価試験を行う。                                                          |

| 回数   | 準備学習                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読み、講義内容を把握しておくこと。                                       |
| 2 回  | 憲法改正について自分の意見を持って授業に参加すること。(標準学習時間: 講義期間の前半は常にその意識を再確認すること。) |
| 3 回  | 日本国憲法の前文を読んでおくこと。(標準学習時間60分)                                 |
| 4 回  | 自衛隊は何故存在するのかを考えておくこと。(標準学習時間60分)                             |
| 5 回  | 第3回より第4回までの講義の復習をしておくこと。(標準学習時間60分)                          |
| 6 回  | 靖国問題の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                             |
| 7 回  | 現在、社会で起こっていることの中で、一番の関心事は何か考えておくこと。                          |
| 8 回  | 第1回から第7回までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                   |
| 9 回  | 「三権分立」の基礎知識を持っておくこと。(標準学習時間60分)                              |
| 10 回 | アフーマティブアクションとは何か、予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                 |
| 11 回 | ワークライフバランスとは何か考えておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 12 回 | 「パリ協定」の予備知識を持って講義に臨むこと。(標準学習時間60分)                           |
| 13 回 | あなたは原子力発電所の将来についてどのような意見を持っているか、を考えておくこと。(標準学習時間60分)         |
| 14 回 | 日本の裁判員制度の概要について調べておくこと。(標準学習時間60分)                           |
| 15 回 | 今日の死刑廃止議論についてどう思うか、考えておくこと。(標準学習時間60分)                       |
| 16 回 | 今までの講義内容を良く理解、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                          |

|      |                                                                                                                                                                                   |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 「人間」が集まるところに「社会」が出現します。そして、この「社会」には一定のルールと秩序が存在しますが、それらを巡って、色々な対立が起き、様々な社会問題が生まれます。北朝鮮問題、英のEU離脱、米のトランプ政権施策、日本の安倍政権の立ち位置と、国内外の社会変化の話題 (問題) には事欠きません。このような時代だからこそ、君たち若者が「市民性=社会参画の権 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



|             |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 利と義務」を発揮することの重要性を実感します。そこで、この講義では、君たちと「三権」との関わりを論じます。前半は、「立法」を取り上げ、皆に共通の社会ルールである憲法を題材として、改憲に対する議論等を色々な側面より論議します。後半は、「行政」「司法」を取り上げます。題材は、女性の社会進出問題等現在進行形の時事問題です。これらの講義を通して、皆さんが良き市民として成長し、社会問題をどのように評価・判断し、社会とどのように関わっていけば良いかを学びます。（教養教育センター単位認定方針Cにもっとも強く関与） |
| 達成目標        | 憶測や予見を排して問題点を観察し、主体的に「社会的に妥当」な判断が出来、それを言葉や文章で表現出来ること。                                                                                                                                                                                                        |
| キーワード       | 市民性、ルールと秩序、社会的責任                                                                                                                                                                                                                                             |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テスト50%、最終評価試験50%で評価し、総計で60%以上を合格とします。                                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 使用しません。講義中にレジメを配布します。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 講義中に適宜紹介します。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 注意・備考       | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                                                                                                                                                                                                                               |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB26I050)                          |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                  |
| 担当教員名 | 田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                                     |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。<br>＊国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。       |
| 2 回   | ＊古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。                                               |
| 3 回   | ＊古典とする環境問題/人口論について説明する。                                                  |
| 4 回   | ＊人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                           |
| 5 回   | ＊世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                         |
| 6 回   | ＊日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                          |
| 7 回   | ＊水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。                                                |
| 8 回   | ＊前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。<br>＊中間テストを実施する。           |
| 9 回   | ＊中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。<br>＊国際情勢（世界経済と宗教）の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。 |
| 1 0 回 | ＊世界経済の全体像について説明する。<br>＊世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。                       |
| 1 1 回 | ＊世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                           |
| 1 2 回 | ＊世界経済/通貨について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 1 3 回 | ＊アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。<br>＊国際時事用語を理解する。                             |
| 1 4 回 | ＊宗教と民族紛争の関連を分析する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 1 5 回 | ＊後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。                         |
| 1 6 回 | ＊これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                         |
|-----|------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。<br>(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 2 回 | 前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                        |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                            |
| 4 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                              |
| 5 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                              |
| 6 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                              |

|     |                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------|
| 7回  | 前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)         |
| 8回  | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 9回  | 再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)           |
| 10回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 11回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 12回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 13回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 14回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 15回 | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 16回 | これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)             |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。<br>これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する) |
| 達成目標         | ①新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。<br>②メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。<br>③国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。<br>④経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。                                                                                                             |
| キーワード        | 人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価(合格基準60) | 中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 関連科目         | 企業と人間、技術者の社会人基礎                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 教科書          | 必要に応じ、指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 参考書          | 必要に応じ、資料を配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考        | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | プレゼンテーションⅡ (FB26I060)                     |
| 英文科目名 | Presentation Skills II                    |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 2年                                        |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 火曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数  | 授業内容                                                           |
|-----|----------------------------------------------------------------|
| 1回  | 「①プレゼンテーションの基本と必要性 ②テキストと講義の進め方 ③受講シートの記入と提出」について説明する。         |
| 2回  | パワーポイントの功罪について解説し、グループディスカッションを行う。                             |
| 3回  | 指示されたテーマについてグループディスカッションを行い、プレゼンテーションの準備をする。                   |
| 4回  | プレゼンテーション演習①を行う。                                               |
| 5回  | プレゼンテーション演習①を講評し、グループワークを行う。                                   |
| 6回  | プレゼンテーションのツールと効果について解説し、自己分析に取り組む。                             |
| 7回  | 指示されたテーマについて、グループディスカッションを行い、グループプレゼンテーションを準備する。中間テストについて説明する。 |
| 8回  | 前半の講義内容をまとめる。中間テストを実施する。                                       |
| 9回  | プレゼンテーションの応用と実践について概説する。                                       |
| 10回 | ディスカッションとディベートについて解説し、グループディスカッションを行う。                         |
| 11回 | クレームの発生と対応について概観し、就職活動のための企業研究について解説する。                        |
| 12回 | 企業・職業についてグループワークを行い、プレゼンテーションを準備する。                            |
| 13回 | プレゼンテーション演習②を実施し、講評とグループワークを行う。                                |
| 14回 | 採用試験の実例について解説する。                                               |
| 15回 | グループディスカッションを行ってテーマと方法を決め、プレゼンテーション演習②の実施を準備する。最終評価試験について説明する。 |
| 16回 | 後半の講義内容をまとめる。最終評価試験を実施する。                                      |

| 回数  | 準備学習                                                                  |
|-----|-----------------------------------------------------------------------|
| 1回  | 予習：シラバスを読んでおくこと。復習：受講上の注意とプレゼンテーションの基本を確認すること。(標準学習時間30分)             |
| 2回  | 予習：パワーポイントの特徴について考えておくこと。復習：パワーポイントとディスカッションの内容についてまとめること。(標準学習時間45分) |
| 3回  | 予習：指示されたテーマについて考えをまとめておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめておくこと。(標準学習時間60分)        |
| 4回  | 予習：指示されたテーマでプレゼンテーションを準備してくる。復習：プレゼンテーション演習①の自己点検をすること。(標準学習時間120分)   |
| 5回  | 予習：プレゼンテーション演習①の反省点をまとめてくること。復習：グループワークの内容を整理すること。(標準学習時間60分)         |
| 6回  | 予習：プレゼンテーションのツールについて確認しておくこと。復習：自己分析の結果をまとめること。(標準学習時間45分)            |
| 7回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：ディスカッションの内容をまとめること。(標準学習時間60分)              |
| 8回  | 予習：グループプレゼンテーションを準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)           |
| 9回  | 予習：プレゼンテーションの応用と実践について考えておくこと。復習：プレゼンテーションの応用例をまとめること。(標準学習時間45分)     |
| 10回 | 予習：ディスカッションとディベートについて調べておくこと。復習：グループディスカッションの内容を整理すること。(標準学習時間60分)    |
| 11回 | 予習：クレームの発生について考えておくこと。復習：企業研究についてまとめておくこと。(標準学習時間45分)                 |
| 12回 | 予習：興味のある企業・職業について調べてくること。復習：グループワークの内容を整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 13回 | 予習：プレゼンテーション演習②の準備をすること。復習：講評とグループワークの内容を整理すること。(標準学習時間120分)          |
| 14回 | 予習：履歴書とエントリーシートを理解しておくこと。復習：採用試験のポイントを確認すること。(標準学習時間60分)              |
| 15回 | 予習：プレゼンテーション演習②のテーマと方法を考えてくること。復習：ディスカッションの内                          |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | 容をまとめておくこと。（標準学習時間60分）                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 16回          | 予習：プレゼンテーション演習②を準備してくること。復習：最終評価試験を自己点検すること。<br>（標準学習時間120分）                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 講義目的         | プレゼンテーションの発想と応用範囲を確認し、就職活動や研究発表、社会生活に必要な社会人基礎力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                   |
| 達成目標         | プレゼンテーションの技法と発想、応用を理解し、自分たちでテーマを見つけてミーティングやプレゼンテーションを企画運営できる。                                                                                                                                                                                                                                                     |
| キーワード        | プレゼンテーション、コミュニケーション、日本語表現、就職活動、キャリア支援、大学院進学、研究発表、社会人基礎力                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 成績評価（合格基準60） | 演習・提出課題（40%）、中間テスト（30%）、最終評価試験（30%）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。                                                                                                                                                                                                                              |
| 関連科目         | プレゼンテーションⅠ、文章表現法Ⅰ、文章表現法Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書          | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 参考書          | 必要に応じて指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 注意・備考        | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。8.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。9.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。10.本講義ではアクティブラーニングを実施し、グループワーク、グループディスカッションを行う。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | ボランティア論 (FB26J010)                           |
| 英文科目名 | Introduction to Volunteer                    |
| 担当教員名 | 高原周一 (たかはらしゅういち), 猪口雅彦 (いのぐちまさひこ)            |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 火曜日 5時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | <p>【中継】 なし</p> <p>【教室内】 講義の概要について説明する。大学コンソーシアム岡山主催の「エコナイト」について概説する。</p> <p>(全教員)</p>                                                                     |
| 2 回  | <p>【中継】 なし</p> <p>【教室内】 「エコナイト」(奉還町商店街および本学)の取組を紹介する。グループを決定し、グループ内で自己紹介を行う。「エコナイト」に関する改善案を検討する。</p> <p>(全教員)</p>                                         |
| 3 回  | <p>【中継】 テレビ会議システムを使ったライブ配信により、改めてこの講義の進め方等について説明する。(予定講師: 山陽学園大学・澁谷俊彦教授)</p> <p>【教室内】 自分が行ってきたボランティア活動およびボランティア活動のイメージについて受講生が発表する。</p> <p>(全教員)</p>      |
| 4 回  | <p>【中継】 大学コンソーシアム岡山の地域貢献活動について紹介する。(予定講師: 岡山商科大学・大崎紘一教授)</p> <p>【教室内】 学生が参画する地域貢献活動の企画案をグループ内で出し合う。</p> <p>(全教員)</p>                                      |
| 5 回  | <p>【中継】 岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について紹介する。また、現代社会におけるボランティア活動の意義と魅力について説明する。(予定講師: ゆうあいセンター職員)</p> <p>【教室内】 学生が参画する地域貢献活動の企画案についてグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p> |
| 6 回  | <p>【中継】 大学コンソーシアム岡山主催の「日ようび子ども大学」について全体的な説明を行う。(予定講師: 岡山理科大学・高原周一教授)</p> <p>【教室内】 「日ようび子ども大学」の改善案をグループ内で出し合う。</p> <p>(全教員)</p>                            |
| 7 回  | <p>【中継】 「日ようび子ども大学」での実践を学生が報告する(1回目)。</p> <p>【教室内】 「日ようび子ども大学」の改善案をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>                                                          |
| 8 回  | <p>【中継】 「日ようび子ども大学」での実践を学生が報告する(2回目)。「日ようび子ども大学」の改善案について他大学の学生も交えて討論する。</p> <p>【教室内】 これまでの授業内容を振り返る。</p> <p>(全教員)</p>                                     |
| 9 回  | <p>【中継】 岡山市のESD(持続可能な開発のための教育)活動について説明する。(予定講師: 岡山市役所市民協働局ESD推進課職員)</p> <p>【教室内】 学生が参画するESD活動の企画案をグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>(全教員)</p>           |
| 10 回 | <p>【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った東日本大震災復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。(1回目, 予定講師: 岡山経済同友会・黒住宗道氏)</p> <p>【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループ内で出し合う。</p> <p>(全教員)</p>        |

|       |                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 1 回 | <p>【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った東日本大震災復興支援ボランティアの取り組みと今後の課題について説明する。（2回目、予定講師：NPO法人AMDA職員）</p> <p>【教室内】 AMDAの方との質疑応答を行う。感想をレポートにまとめる。 ※AMDAは岡山に本拠地を置く国際人道支援活動（主に保健医療関係）を行っているNPO法人で、東日本大震災復興支援活動も行っている。（全教員）</p> <p>（全教員）</p> |
| 1 2 回 | <p>【中継】 大学コンソーシアム岡山が行った災害復興支援ボランティアに参加した学生が活動内容を報告する。</p> <p>【教室内】 災害復興支援および防災に役立つ企画案をグループごとに発表する。</p> <p>（全教員）</p>                                                                                                  |
| 1 3 回 | <p>【中継】 各大学で行われているボランティア・地域貢献活動について学生が発表する。</p> <p>【教室内】 学生でもできるボランティア・地域貢献活動をグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>（全教員）</p>                                                                                          |
| 1 4 回 | <p>【中継】 岡山県下で活躍している様々なソーシャルビジネス事業者（NPO・企業など）について紹介する。また、現代社会におけるソーシャルビジネスの意義と魅力について説明する。（予定講師：ゆうあいセンター職員）</p> <p>【教室内】 今後求められるソーシャルビジネスについてグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。</p> <p>（全教員）</p>                             |
| 1 5 回 | <p>【中継】 受講学生の一言発表・教員一言まとめを行う。</p> <p>【教室内】 学内の団体が行っているボランティア活動について紹介する。</p> <p>（全教員）</p>                                                                                                                             |
| 1 6 回 | <p>【中継】 なし</p> <p>【教室内】 本学での学生生活を向上させるための方策についてグループ内で出し合い、その結果をグループごとに発表する。これまでの授業内容を振り返る。</p> <p>（全教員）</p>                                                                                                          |

| 回数    | 準備学習                                                                                            |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んでおくこと。大学コンソーシアム岡山についてインターネットで検索して調べておくこと。（標準学習時間30分）                                     |
| 2 回   | 「エコナイト」について復習しておくこと。各地で行われている様々なエコ啓発活動について、インターネット等で調べておくこと。（標準学習時間60分）                         |
| 3 回   | これまで自分が行ってきたボランティア活動についてまとめておくこと。ボランティア活動の経験がない人は、自分がボランティア活動に対して持っているイメージをまとめておくこと。（標準学習時間30分） |
| 4 回   | 学生が参画する地域貢献活動の企画案を考えておくこと。（標準学習時間30分）                                                           |
| 5 回   | 学生が参画する地域貢献活動の企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。（標準学習時間30分）                                       |
| 6 回   | 岡山県下の様々な地域貢献ボランティア活動について、インターネット等で調べておくこと。（標準学習時間60分）                                           |
| 7 回   | 「日ようび子ども大学」の改善案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。（標準学習時間30分）                                         |
| 8 回   | 「日ようび子ども大学」の改善案について、他のグループの発表内容も踏まえて再度考えておくこと。（標準学習時間30分）                                       |
| 9 回   | 改めてシラバスを読んでこれからの講義内容を把握しておくこと。ESD（持続可能な開発のための教育）について調べておくこと。（標準学習時間120分）                        |
| 1 0 回 | 東日本大震災の復興状況について、インターネット等で調べておくこと。（標準学習時間60分）                                                    |
| 1 1 回 | AMDAについて、インターネット等で調べておくこと。（標準学習時間30分）                                                           |
| 1 2 回 | 災害復興支援および防災に役立つ企画案について、グループ討議の内容も踏まえて再度考えておくこと。（標準学習時間30分）                                      |
| 1 3 回 | 学生でもできるボランティア・地域貢献活動について考えておくこと。（標準学習時間30分）                                                     |
| 1 4 回 | ソーシャルビジネスについて、インターネット等で調べておくこと。（標準学習時間120分）                                                     |
| 1 5 回 | これまでの講義で感じたことをまとめ、一言発表ができるようにしておくこと。（標準学習時間30分）                                                 |
| 1 6 回 | 本学での学生生活を向上させるための方策について考えておくこと。（標準学習時間30分）                                                      |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 大学コンソーシアム岡山が行っている子ども・環境・災害復興等に関係した地域貢献ボランティア活動を紹介し、その改善案・新規提案を考える中で、ボランティア活動についての実践的な知識と参加意欲を高めることを目的とする。岡山県内の複数の大学（本学・岡山商科大学・山陽学園大学・中国学園大学）をテレビ会議システムで結び、双方向ライブ型遠隔授業として実施する。講義の内容は、4大学を中心に、大学コンソーシアム岡山が共同で制作する。授業は毎週約50分間の共同制作・同時中継の時間帯（授業内容欄では【中継】と表記）と、その前後で教室内でおこなう大学独自の内容（授業内容欄では【教室内】と表記）の合わせて90分となる。中継時間帯には大いに他大学の学生と情報交換する。教室内ではグループ討議・発表を含むアクティブラーニングを行い、受講生自身が作り上げていく新しいタイプの講義を目指す。前半は主に「日ようび子ども大学」「エコナイト」を取り上げる。後半は主に「震災復興支援」を取り上げる。（教養教育センターの単位認定方針Cに強く関与） |
| 達成目標        | 大学コンソーシアム岡山がおこなっている地域貢献ボランティア活動について、概略を説明できる。受講生どうし（特に専門の大きく異なる他大学の学生）とコミュニケーションができる。地域貢献ボランティア活動に主体的に参画する意欲をもち、その改善案もしくは新規の企画案を考えることができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| キーワード       | 大学コンソーシアム岡山 地域貢献活動 ボランティア活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 毎回の授業で作成するレポートの内容（85%）および発表・発言の内容（15%）で評価する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 関連科目        | ボランティア活動A・B                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 教科書         | 使用しない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 参考書         | 適宜指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 連絡先         | 教育学部初等教育学科 高原周一 （A1号館3階319, takahara@ped.ous.ac.jp）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 注意・備考       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。受講生自身が講義を作り上げていくという意識で、積極的に講義に参加すること。グループディスカッションを含むので、欠席は極力避けること。欠席する場合は事前に連絡すること。</li> <li>・講義資料は講義開始時に配布する。</li> <li>・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。</li> <li>・グループディスカッション後の発表で出された意見については、その場で教員がコメントすることによりフィードバックを行う。</li> <li>・教室の定員を超える受講希望者がいる場合は抽選で受講生を決める場合があるので、初回の講義には必ず出席すること。</li> </ul>                                                                      |
| 試験実施        | 実施しない                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB26K020)                          |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                  |
| 担当教員名 | 市場恵子* (いちばけいこ*)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                                                                                 |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 【自尊感情とジェンダー】性に関するキーワード「sex,gender,sexuality」を理解し、エンパワメントの理念を学ぶ。                                                      |
| 2 回   | 【性の多様性と可変性】性同一性障害（性別違和）・性分化疾患・性的指向（同性愛・両性愛・無性愛）など、性的少数者への理解を深める。                                                     |
| 3 回   | 【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】妊娠・出産・中絶・不妊など、生殖に関する基本的知識や、「性的自己決定権」を尊重し合う関係を学ぶ。性暴力や売買春についても検証する。                                  |
| 4 回   | 【障がいとともに生きる】「障がい」とは？ 自らの差別感や社会のバリアを検証する。                                                                             |
| 5 回   | 【DVと虐待】アニメ『パパ、ママをぶたないで』を観て、DVや虐待について考える。DVのサイクル、子どもへの影響、被害者の救済と加害者の更生などを学ぶ。                                          |
| 6 回   | 【デートDV】暴力や支配のない、お互いに尊重し合える対等なパートナーシップを学ぶ。                                                                            |
| 7 回   | 【キャンパス・ハラスメント】キャンパスハラスメントとは？ハラスメントの防止対策を考える。                                                                         |
| 8 回   | 【憲法とは何か？】（前半45分間講義）日本国憲法を守るのは誰か。憲法にはどんな役割があるのか。わかりやすい口語訳で解説する。<br>【中間試験】（後半45分間試験）                                   |
| 9 回   | 【震災と原発】3.11から3年。原発の「安全・安心・必要」神話を問い直し、真の豊かさとは何かを問う。                                                                   |
| 1 0 回 | 【「慰安婦」問題とメディア】戦時性暴力は今も繰り返されている。不処罰の連鎖を断つための試みとメディアの対応を検証する。                                                          |
| 1 1 回 | 【「ホームレス」と貧困】若者による「ホームレス」襲撃事件や、野宿生活者の実態を知り、「貧困」を生み出す社会的背景を考える。                                                        |
| 1 2 回 | 【犯罪と更生～暴力の被害と加害に向き合う】アメリカの受刑者更生施設「アミティ」の実践（治療共同体）を知り、加害者の更生には何が必要かを学ぶ。                                               |
| 1 3 回 | 【育児とジェンダー】映画『クレマー・クレマー』を観て、「ワーク・ライフ・バランス」や父親の育児参加を促す。                                                                |
| 1 4 回 | 【介護とジェンダー】近年、ひとりぐらしの高齢者が増加。介護を担う人の4人に1人が男性という時代。介護疲れから虐待・心中に追い込まれる人もいる。『折り梅』を観て、これからの高齢者問題を考える。                      |
| 1 5 回 | 【アサーティブ・トレーニング～あなたは「ノー」と言えますか？～】コミュニケーションパターンを学び、自分のクセに気づく。「Iメッセージ」と「YOUメッセージ」の違いを学び、2人組になって自他を尊重する会話や、「ノー」と言う練習もする。 |
| 1 6 回 | 【ディーセントワーク】（前半45分間講義）人間らしい働き方とはどんな働き方か。労働基準法も併せて検討する。<br>【期末試験】（後半45分間試験）                                            |

| 回数  | 準備学習                                                                                                    |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 【自尊感情とジェンダー】シラバスを確認し、学習の過程を把握しておくこと。教科書『愛する・愛される』Lesson 5（63～76ページ）を読んでおくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）            |
| 2 回 | 【性の多様性と可変性】テレビ番組や雑誌などで、性的少数者を差別・侮蔑・嘲笑したりする場面はないか、チェックしておくこと。同性婚が認められている国、日本の現状を調べておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分） |
| 3 回 | 【リプロダクティブ・ヘルス&ライツ】男性性器・女性性器の科学的名称、避妊の方法、性感染症など、復習しておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）                                |
| 4 回 | 【障がいとともに生きる】大学や駅、公共施設などに設置されたトイレ・エレベーター・自販機など、障がいをもつ人にとって住みよい環境が整備されているかチェックしておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）     |
| 5 回 | 【DVと虐待】DV（夫婦間暴力）や虐待はなぜ起きるのか。暴力の種類や影響について調べておくこと。（標準学習時間 1 2 0 分）                                        |

|     |                                                                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6回  | 【デートDV】教科書『愛する・愛される』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）                                                             |
| 7回  | 【キャンパス・ハラスメント】本学ではセクハラ・アカハラ・パワハラを防止するために、どんな対策が行われているか、ガイドラインや相談窓口を調べておくこと。（標準学習時間120分）               |
| 8回  | 【憲法とは何か？】日本国憲法の前文と9条・12条・13条・14条・24条を読んでおくこと。<br>試験：1～7回の資料や『愛する・愛される』にもう一度目を通しておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 9回  | 【震災と原発】原発事故後の報道がどんなものだったか、チェルノブイリ原発事故による外部被ばく・内部被ばくがどんなものだったか、自然エネルギーにはどんなものがあるか、調べておくこと。（標準学習時間120分） |
| 10回 | 【日本軍「慰安婦」問題とメディア】「慰安婦」とは何を意味する言葉か、調べておくこと。（標準学習時間120分）                                                |
| 11回 | 【「ホームレス」と貧困】野宿生活者はなぜ野宿に至ったのか、どんなところでどんな生活をしているか、調べたり、考えてみる。（標準学習時間120分）                               |
| 12回 | 【犯罪と更生】日本では少年院や刑務所に入った人は、どのような教育を受けて、社会復帰しているのか、調べておくこと。（標準学習時間120分）                                  |
| 13回 | 【育児とジェンダー】将来、子育てをするとき、父として母としてどんな社会や職場が望ましいか、考えておくこと。（標準学習時間120分）                                     |
| 14回 | 【介護とジェンダー】高齢者を誰が介護しているか？ 介護者の悩みは？ 身近な介護問題を調べておくこと。（標準学習時間120分）                                        |
| 15回 | 【アサーティブ・トレーニング】あなたはイヤなことに「ノー」と言えているだろうか。自分の気持ちや欲求を率直に伝えられているだろうか。日常の会話を振り返ってみること。（標準学習時間120分）         |
| 16回 | 【ディーセントワーク】人間らしい働き方は？ 労働者の権利を守るために国内にはどんな法律があるか調べておく。（標準学習時間120分）                                     |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 性や人権に関する基礎知識を学び、現代社会で起きている様々な問題や、そこに暮らす多様な人間の存在を理解します。人権を守ったり、回復していくために必要な視点や、被害者支援の方法についても学び、他者と対等につながっていくためのコミュニケーション・スキルを練習します。（教養教育センター 単位認定方針のCにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 達成目標        | 社会には性差別やさまざまな人権侵害が起きています。誤って身につけた「神話」や偏見を学び落とし、自他の意識変革・行動変容を促す力を身につけましょう。自尊感情を高め、自分も相手も尊重する自己表現のこつを学び、平和で対等なパートナーシップを築いていきましょう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| キーワード       | 自尊感情、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ、性的少数者、性同一性障害、性的指向、インターセックス、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ、避妊、性感染症、性暴力、売買春、障がい、発達障害、虐待、いじめ、DV、デートDV、セクハラ、アカハラ、パワハラ、震災、原発、避難、日本軍「慰安婦」、貧困、ホームレス、犯罪、更生、傾聴、Iメッセージ・YOUメッセージ、アサーティブ・トレーニング、ディーセントワーク、働き方改革                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60 | 毎回講義後に提出するミニレポート50%、中間試験25%、最終評価試験25%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書         | 愛する・愛される～デートDVをなくす若者のレッスン7／山口のり子／梨の木舎／978-4-816604096                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 参考書         | 砂川秀樹『カミングアウトレターズ』（太郎次郎社）、安積遊歩『いのちに贈る超自立論～すべてのからだは百点満点～』（太郎次郎社エディプス）、熊谷晋一郎・綾屋紗月『発達障害当事者研究』（医学書院）、夾竹桃ジン『コミックちいさいひと（1～6巻）』（小学館）、井上ひさし『けんぼうのおはなし』（講談社）、谷口真由美『日本国憲法～大阪おばちゃん語訳～』（文芸春秋）、坂上香『ライフファーズ』（みすず書房）、北村年子『「ホームレス」襲撃事件と子どもたち』（太郎次郎社エディタス）、VAWW-NETジャパン『NHK番組改変と政治介入～女性国際戦犯法廷をめぐる何が起きたか』（世羅書房）、上野千鶴子『おひとりさまの老後』（法研）、上野千鶴子『おひとりさまの最期』（朝日新聞出版）、森田汐生『ことばに出そう！自分の気持ち』（すばる舎）、アーサー・ビナード『知らなかった、ぼくらの戦争』（小学館）、阿部彩『子どもの貧困II～解決策を考える』（岩波新書）、吉野源三郎・羽賀翔一『君たちはどう生きるか』（マガジンハウス） |
| 連絡先         | PCメール：kei3@pol.oninet.ne.jp<br>T & F：086-277-7522                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 哲学 (FB26K030)                             |
| 英文科目名 | Philosophy                                |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および哲学とは何かを説明する。                 |
| 2 回   | デカルト以前の西洋哲学 (1)ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。                   |
| 3 回   | デカルト以前の西洋哲学 (2)ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。                  |
| 4 回   | デカルト以前の西洋哲学 (3)ー中世の哲学 (スコラ哲学、普遍論争等)を説明する。                    |
| 5 回   | デカルトの哲学ーデカルトの生涯と思想を説明する。                                     |
| 6 回   | デカルト以後の西洋哲学 (1)ーカントの生涯と思想を説明する。                              |
| 7 回   | デカルト以後の西洋哲学 (2)ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。 |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。            |
| 1 0 回 | インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。                          |
| 1 1 回 | インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」とその現代への影響を説明する。                          |
| 1 2 回 | 中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。                                       |
| 1 3 回 | 中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。                                       |
| 1 4 回 | イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの思想を説明する。                           |
| 1 5 回 | イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィーナーとガザーリーの思想を説明する。                         |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）           |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|              |                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義では、前半で西洋哲学を、後半で東洋哲学ををひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるものであるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                 |
| 達成目標         | ①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各時代、文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。                                      |
| キーワード        | 哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60） | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目         | 倫理と宗教                                                                                                                                                               |
| 教科書          | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書          | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考        | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 科学技術倫理 (FB26K040)                         |
| 英文科目名 | Science and Engineering Ethics            |
| 担当教員名 | 佐藤元治 (さとうもと はる)                           |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                      |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 倫理とは何かについての講義を行う。 [内容] 倫理とモラル、法と倫理                                        |
| 2 回  | 技術者と倫理についての講義を行う。 [内容] なぜ技術者の倫理か、職務上の義務、積極的倫理                             |
| 3 回  | 組織の中の個人の役割についての講義を行う。 [内容] スペースシャトル・チャレンジャー号事故、安全文化                       |
| 4 回  | 組織上の人間関係についての講義を行う。 [内容] 組織について、組織とコミュニティ、組織のコミュニケーション、積極的倫理の行動のイメージ、利益相反 |
| 5 回  | 倫理実行の手法についての講義を行う。 [内容] 倫理のケース・スタディの手法、倫理的行動ガイドライン、倫理的判断の方法、全体像の把握        |
| 6 回  | 技術者のアイデンティティについての講義を行う。 [内容] 科学技術とは何か、技術者のアイデンティティ、JCO臨界事故                |
| 7 回  | 技術者の資格についての講義を行う。 [内容] 技術者資格の仕組み、プロフェッショナル・エンジニア制度                        |
| 8 回  | これまでの授業内容の総括と中間テストを行う。                                                    |
| 9 回  | 事故責任の法の仕組みについての講義を行う。 [内容] 職務と注意義務、自己責任の法                                 |
| 10 回 | 法的責任とモラル責任についての講義を行う。 [内容] カネミ油症事件、法とモラルの境界域の責任                           |
| 11 回 | コンプライアンスと規制行政についての講義を行う。 [内容] コンプライアンスとは、規制行政                             |
| 12 回 | 説明責任についての講義を行う。 [内容] 説明責任と信頼関係、説明責任が問題となった事案 (原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品) |
| 13 回 | 内部告発・警笛鳴らしについての講義を行う。 [内容] 内部告発・警笛鳴らしとは、法による救済方法                          |
| 14 回 | 環境と技術者についての講義を行う。 [内容] 環境倫理、持続可能性、予防原則、循環型社会                              |
| 15 回 | 技術者の財産的権利についての講義を行う。 [内容] 青色発光ダイオード特許裁判、特許等の知的財産権                         |
| 16 回 | 最終評価試験および全体の総括を行う。                                                        |

| 回数   | 準備学習                                                                                                                                   |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 授業内容全体を確認しておくこと。 初回の授業で授業の進め方や履修上の注意をするので必ず参加すること (やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること)。教科書の第1章を読んで、倫理とは何かについて考えておくこと。(標準学習時間60分) |
| 2 回  | 教科書の第2章を読み、技術者と倫理について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                             |
| 3 回  | 教科書の第3章を読み、NASAのスペースシャトルの2つの事故(チャレンジャー号事件とコロンビア号事件)の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                        |
| 4 回  | 教科書の第4章を読み、組織上の人間関係の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                        |
| 5 回  | 教科書の第5章を読み、倫理実行の手法の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 6 回  | 教科書の第6章を読み、JCO臨界事故の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 7 回  | 教科書の第7章を読み、各国のさまざまな技術者の資格について予習し、整理しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                 |
| 8 回  | 1回目から7回目までの授業内容をきちんと理解し、復習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                          |
| 9 回  | 教科書の第8章を読み、事故責任の法の仕組みの概要を予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 10 回 | 教科書の第9章を読み、カネミ油症事件の概要について予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                                         |
| 11 回 | 教科書の第10章を読み、コンプライアンスを規制行政との関係で説明できるように予習しておく                                                                                           |

|       |                                                                                  |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------|
|       | こと。（標準学習時間120分）                                                                  |
| 1 2 回 | 教科書の第11章を読み、説明責任が問題となった原子力発電、発がん性物質の安全性、遺伝子組み換え食品の事案の概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 1 3 回 | 教科書の第12章を読み、内部告発・警笛鳴らしの概要について予習しておくこと。（標準学習時間120分）                               |
| 1 4 回 | 教科書の第13章を読み、環境問題の概要とそれに対する技術者の対応について予習しておくこと。（標準学習時間120分）                        |
| 1 5 回 | 教科書の第14章を読み、青色発光ダイオード特許裁判の概要と知的財産権の種類について予習しておくこと。（標準学習時間120分）                   |
| 1 6 回 | 第1回～第15回までの授業内容をよく理解し、整理しておくこと。（標準学習時間180分）                                      |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 科学技術の進歩と産業の発展は私たちの生活をより豊かなものにしてきている。しかしその一方で、企業の不祥事や技術者の不正行為などによって、私たちの生活の安全が脅かされることもしばしば生じている。そのため技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性が以前にも増して求められているのである。この授業では、科学技術の分野で今後の日本の社会を担う技術者や企業に求められる社会的責任や倫理について、過去に起きた事案や実例を素材として一緒に考えてもらうことを目的とする。（理科教育センター単位認定方針のDに最も強く関与する） |
| 達成目標          | ①技術者や企業の社会的責任や倫理観の重要性を認識する。②具体的な事案・実例について、問題点を正確に把握し、その解決方法を主体的に探究し、外部に表明できる能力を身につける。③上記①②を通じて、科学技術の分野で今後の社会を担う技術者・企業人としての倫理観・責任感を養う。                                                                                                                        |
| キーワード         | （技術者）倫理、社会的責任、コンプライアンス、説明責任                                                                                                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60%） | 授業内小テスト・レポート（60%）＋最終評価試験（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                       |
| 関連科目          | 法学                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 教科書           | 〔第5版〕大学講義 技術者の倫理入門/ 杉本泰治・高城重厚/ 丸善出版/ ISBN978-4-621-30016-9                                                                                                                                                                                                   |
| 参考書           | 授業中に適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 連絡先           | B3号館（旧24号館）4階研究室                                                                                                                                                                                                                                             |
| 注意・備考         | ①授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用禁止）。ただし特別の理由がある場合には、事前に相談すること。②教員が授業で利用したスライドや小テストの解答は後にPDFファイルでポータルサイトにあげておくので、復習に活用すること。③受講生が多い場合には座席指定をする場合がある。④新聞・ニュースなどで実際の社会で起こっている出来事や事件を毎日欠かさずチェックすること。                                                                    |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB26L050)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                             |
|-------|--------------------------------------------------|
| 1 回   | 講義の進め方とテキスト、受講マナーについて説明し、映画による比較文化論の意義と講義の概略を示す。 |
| 2 回   | 映画の「嘘」について考察する。①                                 |
| 3 回   | 映画の「嘘」について考察する。②                                 |
| 4 回   | 外国映画の中の日本、日本映画の中の外国を比較する。①                       |
| 5 回   | 外国映画の中の日本、日本映画の中の外国を比較する。②                       |
| 6 回   | 映画に表れた「桃太郎」のイメージを分析する。①                          |
| 7 回   | 映画に表れた「桃太郎」のイメージを分析する。②                          |
| 8 回   | 前半の講義をまとめ、中間テストを実施する。                            |
| 9 回   | 後半の講義の概要を説明し、映画分析の実例を示す。                         |
| 1 0 回 | 映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析する。①                       |
| 1 1 回 | 映画における「引用・オマージュ・模倣」を分析する。②                       |
| 1 2 回 | 日本のアニメ映画史を概観する。①                                 |
| 1 3 回 | 日本のアニメ映画史を概観する。②                                 |
| 1 4 回 | 「世界のクロサワ」を検証する。①                                 |
| 1 5 回 | 「世界のクロサワ」を検証する。②                                 |
| 1 6 回 | 後半の講義をまとめ、最終評価試験を実施する。                           |

| 回数    | 準備学習                                                       |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 予習：シラバスを読んでくること。復習：受講マナーと講義の概略を確認すること。(標準学習時間30分)          |
| 2 回   | 予習：テキスト第1章、第8章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分)  |
| 3 回   | 予習：テキスト第4章～第6章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間60分)     |
| 4 回   | 予習：テキスト第7章、第12章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間45分) |
| 5 回   | 予習：テキスト第9章、第11章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間45分)    |
| 6 回   | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)  |
| 7 回   | 予習：テキスト第10章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画を比較すること。(標準学習時間60分)        |
| 8 回   | 予習：中間テストの準備をしておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)       |
| 9 回   | 予習：シラバスを読んでくること。復習：後半の講義の概要を確認し、映画分析についてまとめること。(標準学習時間45分) |
| 1 0 回 | 予習：テキストの第14章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)    |
| 1 1 回 | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた作品を比較すること。(標準学習時間60分)     |
| 1 2 回 | 予習：テキストの第17章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)    |
| 1 3 回 | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた作品を比較すること。(標準学習時間60分)     |
| 1 4 回 | 予習：テキストの第24章を読んでおくこと。復習：講義で取上げた映画についてまとめること。(標準学習時間60分)    |
| 1 5 回 | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：講義で取上げた作品を比較すること。(標準学習時間60分)     |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 16回          | 予習：最終評価試験の準備をすること。復習：最終評価試験を自己点検すること。（標準学習時間120分）                                                                                                                                                                                                                                |
| 講義目的         | 岡山を起点としつつ、映画に表れる地域性に着目し、その表象の比較・分析を通じて文化の多様性と相関性を明らかにする。                                                                                                                                                                                                                         |
| 達成目標         | 岡山の地域性を知った上で、映画に表れる地域性を理解し、その背景にある歴史、風土、社会への視点を獲得する。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                |
| キーワード        | 岡山、映画、比較文化論、表象文化論                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 成績評価（合格基準60） | ミニレポート提出を含む講義への取り組み＝40%、中間テスト30%、最終評価試験30%とする。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                          |
| 関連科目         | ボランティア論                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書          | 世良利和／「まあ映画な、岡山じゃ県2」／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参考書          | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 注意・備考        | 1.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。 2.受講者は必ずテキストを購入すること。 3.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。 4.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。 5. 受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。 6.100名程度を目安に受講制限を行うことがある。 7.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時にのみ配布する。 8.提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。 9.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                             |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 法学（FB26M020）                              |
| 英文科目名 | Law                                       |
| 担当教員名 | 佐藤元治（さとうもと はる）                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 1 回  | 法とは何かについての講義を行う。〔内容〕社会規範としての法、法と道德の違い                     |
| 2 回  | 六法の使い方についての説明を行う。〔内容〕六法とは？、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方       |
| 3 回  | 法の体系についての講義を行う。〔内容〕法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系               |
| 4 回  | 法の分類についての講義を行う。〔内容〕法の内容による分類（公法と私法、一般法と特別法など）             |
| 5 回  | 法の効力についての講義を行う。〔内容〕法の効力とは？、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消し           |
| 6 回  | 法の適用についての講義を行う。〔内容〕法の適用とは？、事実認定の必要性和重要性                   |
| 7 回  | 法の解釈 についての講義を行う。〔内容〕文理解釈、論理（目的）解釈                         |
| 8 回  | これまでの授業の総括を行う。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。 |
| 9 回  | 司法制度についての概説の講義を行う。〔内容〕裁判所の種類と関係、三審制度                      |
| 10 回 | 裁判官という法律家についての講義を行う。〔内容〕司法権の独立と裁判官の市民的自由                  |
| 11 回 | 検察官という法律家についての講義を行う。〔内容〕検察官の職務内容、検察審査会、検察の不祥事とその防止策       |
| 12 回 | 弁護士という法律家についての講義を行う。〔内容〕弁護士の使命、弁護士偏在の問題、法テラス、当番弁護士制度      |
| 13 回 | 刑事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策          |
| 14 回 | 国民の司法参加についての講義を行う。〔内容〕諸外国の国民の司法参加（陪審制、参審制）、日本の裁判員制度とその問題点 |
| 15 回 | 民事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟              |
| 16 回 | 最終評価試験および全体の総括を行う。                                        |

| 回数  | 準備学習                                                                                                                                  |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）                   |
| 2 回 | 第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。（例えば、どんな法令が幾つ収録されているか？国語や英語の辞書と違う点は何か？など）ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 3 回 | 第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                           |
| 4 回 | 第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと（授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                       |
| 5 回 | 第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                        |
| 6 回 | 第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと（特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                       |
| 7 回 | 第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと（特に事実認定の必要性・重要性など）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                           |
| 8 回 | 第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと（解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと）。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し                                               |

|     |                                                                                                                                                  |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | ておくこと。（標準学習時間180分）                                                                                                                               |
| 9回  | インターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。（標準学習時間60分）                                                                 |
| 10回 | 第9回の授業で説明した裁判所の種類と三審制度について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                               |
| 11回 | 第10回の授業で扱った裁判官の市民的自由の問題について、なぜその問題が重要なのか、またどのようなあるべきなのかについて自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                               |
| 12回 | 第11回の授業で扱った検察官の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、検察審査会の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                            |
| 13回 | 第12回の授業で扱った弁護士の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、法テラスや当番弁護士制度の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                     |
| 14回 | 第13回の授業内容の刑事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に有罪・無罪の判定について）。最高裁判所のHP等で裁判員制度の紹介をしている箇所を見つけて、おおよその内容を調べておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 15回 | 第14回の授業で説明した諸外国の国民の司法参加と日本の裁判員制度の異同について正確に理解し、整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                  |
| 16回 | 第15回の授業内容の民事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に和解について）。また、刑事裁判との異同について、整理しておくこと。第9回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。（標準学習時間180分）                            |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）      |
| 達成目標          | ①法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。②六法を使って必要な条文が検索できるようになること。③法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できるようになること。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| キーワード         | 法、司法、法律家、裁判、裁判員制度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 成績評価（合格基準60%） | 授業内小テスト・レポート（計4回、各10%）＋中間テスト（30%）＋最終評価試験（30%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 関連科目          | 日本国憲法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書           | ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | 授業中に適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先           | B3号館（旧24号館）4階研究室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 注意・備考         | ①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。<br>②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。<br>③テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。<br>④小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。<br>⑤新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。 |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 社会と人間 (FB26M030)                             |
| 英文科目名 | Society and Human Beings                     |
| 担当教員名 | 田邊麻里子＊ (たなべまりこ＊)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数    | 授業内容                                                                     |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ＊ガイダンス：講義の概要/進め方/評価方法について説明する。<br>＊国際情勢に関する自己レベルを確認し、予習復習計画の立案を行う。       |
| 2 回   | ＊古典とされる日本文明論/日本人論について説明する。                                               |
| 3 回   | ＊古典とする環境問題/人口論について説明する。                                                  |
| 4 回   | ＊人口問題について、世界と日本の相違点を考察する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                           |
| 5 回   | ＊世界の国々の出生率/人口増加の原因について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                         |
| 6 回   | ＊日本の食糧自給率と世界の食料不足について説明する。<br>＊基本的な国際時事用語を理解する。                          |
| 7 回   | ＊水不足の現象と新しい飢餓の発生について考察する。                                                |
| 8 回   | ＊前半の講義の2本の柱である「人口」と「食料」の観点から、日本のおかれている立場を推察する。<br>＊中間テストを実施する。           |
| 9 回   | ＊中間テストの結果を踏まえ、これまでの学習を確認する。<br>＊国際情勢（世界経済と宗教）の自己レベルを確認し、後半の予習復習計画の立案を行う。 |
| 1 0 回 | ＊世界経済の全体像について説明する。<br>＊世界経済に関する記事を理解するために必要な用語を学ぶ。                       |
| 1 1 回 | ＊世界経済の要である金融機関の種類とその目的について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                           |
| 1 2 回 | ＊世界経済/通貨について説明する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 1 3 回 | ＊アメリカ経済/EU経済/アジア経済について考察する。<br>＊国際時事用語を理解する。                             |
| 1 4 回 | ＊宗教と民族紛争の関連を分析する。<br>＊国際時事用語を学ぶ。                                         |
| 1 5 回 | ＊後半の講義の2本の柱である「世界経済」と「民族/宗教」の観点から、今後の世界の現象を推察する。                         |
| 1 6 回 | ＊これまでの講義を総括し、最終評価試験を実施する。                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                         |
|-----|------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>世界の中で日本のおかれている立場を最低限知っておくこと。<br>(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 2 回 | 前回自覚した知識の不足分を補っておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                        |
| 3 回 | 前回の講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                            |
| 4 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                              |
| 5 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                              |
| 6 回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)                                              |

|     |                                                       |
|-----|-------------------------------------------------------|
| 7回  | 前回までの講義から予想される世界現象を予想しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)         |
| 8回  | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 9回  | 再度シラバスを確認し、講義の目的を理解しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)           |
| 10回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 11回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 12回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 13回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 14回 | 配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)                          |
| 15回 | これまで学んだ講義内容を振り返り、理解できなかった点や疑問点を整理しておくこと。(標準学習時間 120分) |
| 16回 | これまでの講義内容をよく理解し整理しておくこと。<br>(標準学習時間 120分)             |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本授業では、グローバル化の進む現代社会における諸問題や社会の経済的な側面を理解するために「人口」「食料」「世界経済」「民族と宗教」等の事例を取り上げる。<br>これにより世界の状況や日本の状況を適切に理解したうえで、社会で生き抜くための素養を涵養する。また、本授業では、学生同士のやり取りや教員と学生のやりとりを大切にするアクティブ・ラーニングを導入する。授業の後半では、これらの知識を実際に活用するためのワークショップを行う。これにより、大学での学びを社会へ適用するための方法論を理解することができる。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する) |
| 達成目標        | ①新聞の国際面に書かれている内容や用語を理解し、自分の言葉で友達に説明できる。<br>②メディアの報道内容を鵜呑みにすることなく、物事の真偽を自分で判断できる。<br>③国際情勢を理解することで、今後の日本がどのような立場におかれるのかを、自分なりに予測できる。<br>④経済のグローバル化を理解したうえで、新聞記事の情報を活用できるようになる。                                                                                                             |
| キーワード       | 人口問題、出生率、食糧自給率、経済通貨、民族紛争、宗教                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テストの結果50%・最終評価試験50%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 関連科目        | 企業と人間、技術者の社会人基礎                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 教科書         | 必要に応じ、指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 参考書         | 必要に応じ、資料を配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考       | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | マスメディア論 (FB26M040)                        |
| 英文科目名 | Mass Media-Theory and Practice            |
| 担当教員名 | 高下義彦＊ (こうげよしひこ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                  |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | マスメディア論のいわば入門編。イントロダクション「現代人とマスメディア」講義の進め方、試験の方法や評価方法、マスメディアの概略について説明する。              |
| 2 回  | 「メディアと日本人」幕末に創刊された新聞から現在のインターネットまで、日本人がどのようにメディアを受け入れてきたかを学習する。                       |
| 3 回  | 「新聞①」日本や世界の新聞の誕生から変遷や現状を学習する。                                                         |
| 4 回  | 「新聞②」日本の新聞社の組織、新聞の作り方を、山陽新聞を例に見ていく。取材、編集から制作までを学習し、ニュースの価値判断について考察する。                 |
| 5 回  | 「新聞③」新聞はどのように読まれているか、どのように評価されているか。日本新聞協会が行った「全国メディア接触・評価調査」の結果から、日本人の新聞との付き合い方を学習する。 |
| 6 回  | 「放送」日本の放送の歴史と現状をテレビを中心に学習する。                                                          |
| 7 回  | 「出版」日本の出版産業の歴史と現状を学習する。                                                               |
| 8 回  | 1～7回を総括し、中間評価試験を実施する。                                                                 |
| 9 回  | 中間試験の解答と結果を解説する。「広告」2016年の統計数字を中心に日本の広告について考察する。                                      |
| 10 回 | 「インターネット①」インターネットの歴史、外観、現状を学習する。                                                      |
| 11 回 | 「インターネット②」ネットの世界と現実世界の違い、関係、問題、課題を学習する。                                               |
| 12 回 | 「ソーシャルメディア①」現代人にとって不可欠になったソーシャルメディアの歴史からキャンペーンについて学習する。                               |
| 13 回 | 「ソーシャルメディア②」ソーシャルメディアにおける権利、IoT、規制問題、教育とのかかわりなどを考察する。                                 |
| 14 回 | 「音楽」日本の音楽の変遷、CD市場、配信、カラオケまで歴史と現況を学習する。                                                |
| 15 回 | 「映画」映画の誕生、変遷、動向、市場などを日本を中心に考察する。                                                      |
| 16 回 | 9～15回を総括し、最終試験を行う。                                                                    |

| 回数   | 準備学習                                                                       |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 2 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 3 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 4 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 5 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 6 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 7 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 8 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)                                   |
| 9 回  | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 10 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 11 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 12 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |

|       |                                                                            |
|-------|----------------------------------------------------------------------------|
|       | について感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分)                                             |
| 1 3 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 1 4 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 1 5 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読む。気になったニュース、ニュースについて感じたことを短くかけるようにしておくこと。(60分) |
| 1 6 回 | 新聞などでニュースに触れる機会を増やす。できれば新聞を読んでおくこと。(60分)                                   |

|             |                                                                                                                                                                                     |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 現代社会において、情報を得る手段としてマスメディアは欠かせない存在である。その特性を知り、情報の取捨選択に生かしていくことは実社会を生きていくうえでの重要な要素となる。特に急速に普及しているネットメディアとの違いについて考えることで、新しい情報環境の中での想像力豊かな社会人としての資質を身につけていく。(教養教育センター単位認定の方針Cにもっとも強く関与) |
| 達成目標        | ①マスメディアが現代社会で果たす役割を理解する。<br>②マスメディアとネットメディアの関係、その功罪を知り、適切な接し方を身につける。<br>③正しい情報の扱い方、発信する側の責任など情報モラルの大切さを学ぶ。                                                                          |
| キーワード       | マスコミュニケーション、ジャーナリズム、ソーシャルメディア、メディア・リテラシー                                                                                                                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 合格基準60点。中間、最終評価試験90%、講義の終わりに書いてもらう小レポート（時事ニュースなどについて）10%                                                                                                                            |
| 関連科目        | 情報社会論、ジャーナリズム論                                                                                                                                                                      |
| 教科書         | 適宜、資料などを配布する。                                                                                                                                                                       |
| 参考書         | 図説 日本のメディア/藤竹暁編著/NHK出版：メディアと日本人/橋元良明著/岩波新書：鈴木さんにも分かるネットの未来/川上量生著/岩波新書：ソーシャルメディア論/藤代裕之編著/青弓社：メディア・リテラシー/菅谷明子著/岩波新書                                                                   |
| 連絡先         | 山陽新聞社編集局製作管理センター<br>岡山市柳町2-1-1<br>電話086-803-8168(工程管理部)<br>メール koge.yoshihiko@sanyonews.jp                                                                                          |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                                     |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 倫理と宗教 (FB26M050)                          |
| 英文科目名 | Ethics and Religion                       |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                               |
|-------|----------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理とは何かを説明する。       |
| 2 回   | 一神教の倫理 (1) ーユダヤ教・キリスト教の倫理を説明する。                    |
| 3 回   | 一神教の倫理 (2) ーイスラームの倫理を説明する。                         |
| 4 回   | 哲学者と倫理 (1) ー徳倫理学を説明する。                             |
| 5 回   | 哲学者と倫理 (2) ーカントの倫理学を説明する。                          |
| 6 回   | 哲学者と倫理 (3) ー功利主義を説明する。                             |
| 7 回   | 現代の倫理ー動物の生命についての様々な考え方を説明する。                       |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および倫理・道徳とは何かを説明する。 |
| 1 0 回 | 古代インド宗教の倫理 (戒律、業の法則等) を説明する。                       |
| 1 1 回 | 古代中国宗教の倫理 (儒教道徳) を説明する。                            |
| 1 2 回 | 日本の伝統的倫理を説明する。                                     |
| 1 3 回 | 現代の倫理 (1) ー死刑問題を取り上げて、倫理的に考える。                     |
| 1 4 回 | 現代の倫理 (2) ー自死 (尊厳死・安楽死を含む) 問題を取り上げて、倫理的に考える。       |
| 1 5 回 | 現代の倫理 (3) ー脳死臓器移植問題を取り上げて、倫理的に考える。                 |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                           |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「倫理とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「倫理・道徳とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）          |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|              |                                                                                                                                                                     |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 本講義の前半では西洋の倫理思想を、後半では東洋の倫理思想を中心に学ぶ。倫理的な思考方法を身につけることにより、自身の日常生活の中でそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                                     |
| 達成目標         | ①倫理の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各宗教と思想家の見解を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③哲学者・宗教家の倫理に関する思考を体験し、日常生活に役立てることができる。                                    |
| キーワード        | 倫理、宗教、哲学、思想、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目         | 哲学                                                                                                                                                                  |
| 教科書          | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書          | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考        | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | マスメディア論 (FB26N030)                        |
| 英文科目名 | Mass Media-Theory and Practice            |
| 担当教員名 | 八木一郎 (やぎいちろう)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                     |
|-------|------------------------------------------|
| 1 回   | イントロダクション。講義の進め方を説明する。メディアについて学ぶ意義を説明する。 |
| 2 回   | メディアの意味や既存のマスメディアの歴史と現況について概略を説明する。      |
| 3 回   | マーシャル・マクルーハンのメディア論について説明する。              |
| 4 回   | 新聞の歴史と特性について説明する。                        |
| 5 回   | ラジオの歴史と特性について説明する。                       |
| 6 回   | 映画の歴史と特性について説明する。                        |
| 7 回   | テレビの歴史と特性について説明する。                       |
| 8 回   | ここまでの講義内容について振り返り、中間的な評価をするための試験を実施する。   |
| 9 回   | 中間試験について解説し、今後の講義内容について概略を説明する。          |
| 1 0 回 | インターネットの歴史と特性について説明する。                   |
| 1 1 回 | 出版メディアの歴史と特性について説明する。                    |
| 1 2 回 | 広告の歴史と特性について説明する。                        |
| 1 3 回 | メディアの効果研究について説明する。                       |
| 1 4 回 | 活字メディアと映像メディアの特性について説明する。                |
| 1 5 回 | メディアリテラシーの意義と役割について説明する。                 |
| 1 6 回 | ここまでの講義内容について振り返り、最終的な評価をするための試験を実施する。   |

| 回数    | 準備学習                                                                     |
|-------|--------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 授業内容の確認と復習。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 6 0 分)                         |
| 2 回   | メディアの意味を説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)            |
| 3 回   | マクルーハンの提起した2つの概念について説明できるよう復習する。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)  |
| 4 回   | 新聞の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)        |
| 5 回   | ラジオの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)       |
| 6 回   | 映画の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)        |
| 7 回   | テレビの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと。(標準学習時間 1 2 0 分)       |
| 8 回   | 中間試験について自己点検すること。(標準学習時間 1 2 0 分)                                        |
| 9 回   | 中間試験の解説を踏まえ、1 回～8 回までの講義内容を復習する。(標準学習時間 1 8 0 分)                         |
| 1 0 回 | インターネットの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)    |
| 1 1 回 | 出版メディアの歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)     |
| 1 2 回 | 広告の歴史と特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)         |
| 1 3 回 | メディアの効果研究について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)        |
| 1 4 回 | 活字メディアと映像メディアの特性について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分) |
| 1 5 回 | メディアリテラシーの意義と役割について説明できるよう復習すること。新聞やテレビで日々のニュースに接しておくこと(標準学習時間 1 2 0 分)  |
| 1 6 回 | 1 回～1 5 回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。(標準学習時間 1 8 0 分)                           |

|      |                                                                                          |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 生活に欠かせないメディアの存在。そのメディアの特性を知り、社会のあり方や情報の活用方法について学ぶことで、社会人としての資質を養う。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっと |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------|

|             |                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------|
|             | も強く関与。)                                                 |
| 達成目標        | 様々な情報の中からどう取舍選択するか、メディアに対するリテラシー能力を高め、社会人としての判断力を身につける。 |
| キーワード       | 情報社会、メディアリテラシー、ネット社会                                    |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験、最終評価試験を実施し、配点はそれぞれ50点ずつ、計100点満点とする。                |
| 関連科目        | 情報メディア、ジャーナリズム論、コミュニケーション、                              |
| 教科書         | なし                                                      |
| 参考書         | 図説 日本のメディア/藤竹暁/NHK出版:たったひとつの「真実」なんてない/森達也/ちくまプリマー新書     |
| 連絡先         | A1号館6F 八木研究室 086-256-9758                               |
| 注意・備考       | 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。                          |
| 試験実施        | 実施する                                                    |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 科学技術と人間 (FB26N040)                        |
| 英文科目名 | Science-Technology and Human Beings       |
| 担当教員名 | 中村修 (なかむらおさむ)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                                |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | IC(集積回路)とLSI (大規模な集積回路) に関する話題を3回に分けて講義する。1回目はトランジスタの誕生の背景、又、誕生が社会に与えた影響。関連産業の発展について説明する。                                                                                           |
| 2 回  | IC(集積回路)とLSI (大規模な集積回路) に関する話題を3回に分けて講義する。その2回目として、社会背景としての電卓戦争とそれが半導体産業に及ぼした影響について説明する。                                                                                            |
| 3 回  | IC(集積回路)とLSI (大規模な集積回路) に関する話題を3回に分けて講義する。その3回目として、日本におけるLSI産業の攻勢と衰退と復活に向けて。何故 エルピーダは破綻したのか? 日本の現状、日本のLSI産業の復活への足がかりなどを説明する。                                                        |
| 4 回  | 液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。1回目はディスプレイとしての液晶の歴史について説明する。初期のTV用の液晶ディスプレイについて説明する。                                                                                              |
| 5 回  | 液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。その2回目として、薄膜トランジスタ開発の経緯、それが液晶ディスプレイ産業に与えた影響、社会に与えた影響について説明する。                                                                                      |
| 6 回  | 液晶ディスプレイ技術と産業の発展と推移について3回に分けて講義する。その3回目として、量産化されなかったディスプレイ技術、例えば、電子放出素子を使用したディスプレイ等について説明する。その後、必ずしも、よりきれいな表示をするディスプレイが、世の中に普及した訳ではないことを説明する。ディスプレイ産業の今後について、その展望を説明する。レポート課題を提示する。 |
| 7 回  | 青色LED (発光ダイオード)、白色LED (発光ダイオード) の技術と産業の発展について説明する。又、白色LEDの発明のタイミングとそれが産業や社会に与えた影響について説明する。                                                                                          |
| 8 回  | 科学技術と人間について、これまでの講義を振り返り、レポート課題の説明をする。同時にここまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。                                                                                                          |
| 9 回  | 現在の白色LEDについて簡単に説明する。青色LED、白色LEDに使用されているGaN系の実用化以前、LEDの材料として有望だと考えられており、単結晶まで量産化したZnSeの開発について説明する。バックライトとして白色LEDがメインになって以降、使用されなくなった冷陰極管について説明する。                                    |
| 10 回 | 一家に一台のプリンターを当たり前にしたインクジェットプリンターの原理と発展について説明する。                                                                                                                                      |
| 11 回 | 現在の日本のエネルギー動向を説明する。その解決策としての再生エネルギーについて、種類と意義、課題について説明した後で、太陽光発電に焦点を当て説明する。レポート課題を提示する。                                                                                             |
| 12 回 | 水素エネルギーの日本における社会的意義、現状と展望について説明する。その後、水素エネルギー技術(製造・貯蔵・輸送・利用)について説明する。現在の日本のエネルギー問題の解決策としての水素社会を説明する。                                                                                |
| 13 回 | 燃料電池の原理と種類について説明する。住宅用と車用の燃料電池について説明する。エレクトロニクス分野での実用化について問題点を説明し、何故、この分野の開発が停滞しているのかについて説明する。                                                                                      |
| 14 回 | 水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性の説明をする。これらを通じて燃料電池＝水素社会が実現するための条件について説明する。                                                                                      |
| 15 回 | 再生エネルギーと水素エネルギーについて、これまでの講義で取り上げなかったトピックス的な話題を取り上げ説明する。                                                                                                                             |
| 16 回 | 中間評価以降の講義の総括とレポート課題の説明を行い、最終評価試験を実施する。                                                                                                                                              |

| 回数  | 準備学習                                                                                |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 新聞やニュースで、日本のエレクトロニクス産業の話題に触れること。トランジスタラジオについて、おおまかな初期の製造年代を調べて予習を行うこと。(標準学習 60分)    |
| 2 回 | トランジスタの誕生の背景、又、誕生が社会に与えた影響。関連産業の発展について復習をすること。予習として電卓戦争とは何か調べること。(標準学習 120分)        |
| 3 回 | 電卓戦争とそれが半導体産業に及ぼした影響について復習すること。予習としてエルピーダやマイクロンが何を作る(作っていた)会社かについて調べること。(標準学習 120分) |
| 4 回 | 日本におけるLSI産業の攻勢と衰退について復習すること。予習として液晶とは何か調べること                                        |

|      |                                                                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 。(標準学習 120分)                                                                                                                                        |
| 5 回  | 液晶の歴史について、初期のTV用の液晶ディスプレイについて復習すること。予習として、身の回りにある液晶ディスプレイを列挙すること。(標準学習 120分)                                                                        |
| 6 回  | 薄膜トランジスター開発の経緯、それが液晶ディスプレイ産業に与えた影響、社会に与えた影響について復習すること。予習としてブラウン管のTVが、いつごろから日本で生産されなくなったか調べること。(標準学習 120分)                                           |
| 7 回  | 量産化されなかったディスプレイ技術について復習すること。必ずしも、よりきれいな表示をするディスプレイが、世の中に普及した訳ではないことを復習して理解すること。予習として自分の身の回りでの照明としての白色LEDの普及の程度を調べること。ニュースや新聞でその話題に触れること。(標準学習 120分) |
| 8 回  | 第1回から7回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)                                                                                                                   |
| 9 回  | 予習として、蛍光灯が白色に光る原理を調べること。又、熱陰極管、冷陰極管についてそれぞれどこに使われているか調べること。(標準学習 60分)                                                                               |
| 10 回 | ZeSeの開発について復習すること。バックライトとしての冷陰極管について復習をすること。予習として、水の沸騰現象について調べること。(標準学習 120分)                                                                       |
| 11 回 | インクジェットプリンターの原理と発展について復習すること。予習として、科学的なエネルギーの定義やエネルギー保存則を調べること。新聞等で使用される”エネルギー”という言葉の使われ方を調べること。(標準学習 120分)                                         |
| 12 回 | 再生エネルギーについて、種類と意義、課題について復習すること。太陽光発電の問題を復習すること。予習として水素の燃焼エネルギーについて調べること。水素貯蔵合金とはなにか調べること。(標準学習 120分)                                                |
| 13 回 | 水素エネルギーの日本における社会的意義、水素エネルギー技術(製造・貯蔵・輸送・利用)について復習すること。予習として水の電気分解について、調べること。(標準学習 120分)                                                              |
| 14 回 | 燃料電池の原理と種類について復習すること。住宅用と車用の燃料電池について、エレクトロニクス分野での実用化の問題点を復習すること。予習として水素の危険性、特に、爆発限界濃度について調べること。(標準学習 120分)                                          |
| 15 回 | 水素社会に対する批判とその反論、化石燃料の枯渇に関する水素エネルギーの意義、各国の取り組みや社会の受容性について復習すること。予習として再生エネルギー、水素エネルギーに関する最近の話題を調べること。(標準学習 120分)                                      |
| 16 回 | 第9回から15回目までの講義の復習をすること。(標準学習 180分)                                                                                                                  |

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的       | 一般的には、科学技術の進歩が社会に変化をもたらすと考えがちであり、且つ、事実でもあるが、一方では、科学技術の進歩はその社会背景に依存することが多いことも事実である。例えば、1960-1980年に日本で隆盛を極めた日本のIC、LSI技術と産業の発展は日本特有の電卓戦争(と呼ばれた)という社会背景に依存していた。又、ある科学技術が社会に定着する場合に社会に定着できないで数多くの技術が消滅していることは余り知られていない。更に、社会的な受容性や社会構造の変化が求められる場合もある。本講義では以上の観点から科学技術と人間社会について講義する。ただし、エレクトロニクス分野やエネルギー分野の特定の科学技術にまともを絞って講義する。特定の例を知ること、科学技術と人間社会の関わりについて知ることを目的とする。(全学のディプロマポリシーのうち、Bに最も強く関与する。) |
| 達成目標       | 本講義で取り上げたテーマについて、新聞やニュースでの話題を取り上げ、批判や説明ができるようになる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード      | トランジスター、集積回路(LSI)、液晶、ディスプレイ、白色LED、青色LED、インクジェットプリンター、再生エネルギー、太陽電池、燃料電池、水素社会                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 成績評価(合格基準) | 2回のレポート10%、中間試験45%、最終評価試験45%により成績を評価し、総計が60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目       | 特になし                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 教科書        | 教科書は使用しない。適宜、講義資料(プリント)を配付                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 参考書        | 日本型モノづくりの敗北/湯之上隆著/文藝春秋/978-4-16-660942-0: 超LSIへの挑戦/垂井康夫/工業調査会/4-7693-1181-8: 液晶の歴史/デイビット・ダンマー、ティム・スラッキン著/朝日新聞出版/978-4-02-259982-7: 再生エネルギー技術白書/NEDO編/森北出版/978-4-627-62502-0C3053: 水素エネルギー白書/日刊工業新聞社/978-4-526-07356-4C3050その他の参考書については講義で適宜説明する。                                                                                                                                             |
| 連絡先        | メール o-nakamura@pub.ous.ac.jp<br>A1号館1階 研究 社会連携センター オフィスアワー 月4時限<br>C7号館2F 研究室 オフィスアワー 金4時限                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 注意・備考      | 講義資料(プリント)は必要に応じて講義開始時に配付する。後日配付にも応じるので、できるだけ、早く、申し出ること。<br>講義中の撮影は他の受講者の妨げにならない限り自由であるが、他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。講義中の録音/録画/は事前に相談すること。他者への再配布(ネットへのアップロードを含む)は禁止する。<br>講義中に課した2回の提出課題(レポート)のフィードバックとして模範解答の説明を8回目、1                                                                                                                                                                     |

|      |                                                                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 6回目の講義で行う。<br>本講義の内容は、文献や本等で調査したものだけではなく、私が、体験したもの、側で見ていたものも含まれる。できるだけ、生々しい話もしたいと思う。<br>受講生が150名程度を越えたら、受講生制限することがある。 |
| 試験実施 | 実施する                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 論理学 (FB26N050)                            |
| 英文科目名 | Logic                                     |
| 担当教員名 | 中島聡 (なかしまさとし)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション。講義の進め方を説明する。序論として、論理学の定義・その学問的な特徴・論理的な推論の形態について説明する。          |
| 2 回  | 西洋の古代・中世の論理学の歴史を概説する。                                                   |
| 3 回  | 西洋の近現代の論理学の歴史を概説する。                                                     |
| 4 回  | 伝統的論理学(1) 名辞(概念)の意味と種類、外延と内包、定義について説明する。                                |
| 5 回  | 伝統的論理学(2) 命題(判断)の性質・種類・標準形式、周延不周延について説明する。                              |
| 6 回  | 伝統的論理学(3) 直接推理の性質・種類として対当推理・変形推理について説明する。                               |
| 7 回  | 伝統的論理学(4) 間接推理のうち、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について説明する。                         |
| 8 回  | 古代論理学の歴史と基礎的な事項についてのここまでの講義内容を振り返ると同時にここまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。 |
| 9 回  | 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。                              |
| 10 回 | 帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴について説明する。                        |
| 11 回 | 命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成について説明する。                                        |
| 12 回 | 命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法について説明する。                                |
| 13 回 | 命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)について説明する。                  |
| 14 回 | 述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について説明する。                                 |
| 15 回 | 述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)について説明する。                      |
| 16 回 | 1 回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。                                          |

| 回数   | 準備学習                                                            |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義全体の学習内容を、シラバスで確認しておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 2 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の古代・中世論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 3 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の近現代論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 4 回  | 教科書第二部「名辞」を読み、名辞(概念)の意味、外延と内包、種類、定義について予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 5 回  | 教科書第二部「命題」を読み、命題(判断)の性質、種類と標準形式、周延不周延について予習しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 6 回  | 教科書第二部「直接推理」を読み、推理の性質、その種類として対当推理・変形推理について予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 7 回  | 教科書第二部「間接推理」を読み、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 8 回  | ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)                              |
| 9 回  | 教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 10 回 | 教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 11 回 | 教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順を予習しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 12 回 | 教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)             |
| 13 回 | 教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 14 回 | 教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |

|       |                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------|
| 1 5 回 | 教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 1 6 回 | 1 回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)                   |

|             |                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 伝統的論理学、帰納論理学、命題論理学、述語論理学という西洋の代表的な四つの論理学を取り上げ、各々の論理学の基礎的な事項を学習する。論理学は根本的・形式的な学問である。基礎的な知識・技法をしっかりと学習することで、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力も上達する。論理学の基礎的な学習とその応用・展開を目的としている。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標        | ①西洋論理学の基礎について正確な理解ができる。<br>②初級的な推論の問題演習を通して、その技法を習得できる。<br>③言語の記号処理と真偽の判定ができる。<br>④社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開ができる。                                                                                       |
| キーワード       | 西洋論理学の歴史 概念・命題・推理 論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理<br>論理式の真偽計算 述語と量化                                                                                                                                                        |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験(40%)、最終評価試験(60%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                |
| 関連科目        | なし。                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 論理学研究／中島 聡／ふくろう出版／978-4-861865466                                                                                                                                                                                |
| 参考書         | 教科書巻末に掲載した参考文献を参照のこと。                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                  |
| 注意・備考       | 論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。                                                                                                            |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                             |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB26N060)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 世良利和＊ (せらとしかず＊)                           |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                     |
|------|------------------------------------------|
| 1 回  | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2 回  | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3 回  | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4 回  | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5 回  | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6 回  | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7 回  | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8 回  | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9 回  | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 10 回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 11 回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 12 回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 13 回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 14 回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 15 回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 16 回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2 回  | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3 回  | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4 回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5 回  | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6 回  | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7 回  | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8 回  | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9 回  | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 10 回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 11 回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 12 回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 14 回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 15 回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 16 回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |



|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標         | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード        | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目         | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書          | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書          | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考        | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 経済学 (FB26N070)                            |
| 英文科目名 | Economics                                 |
| 担当教員名 | 野村證券＊ (のむらしょうけん＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 水曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                  |
|-------|-----------------------|
| 1 回   | ガイダンス                 |
| 2 回   | 経済情報の捉え方              |
| 3 回   | 金融資本市場の役割とその変化        |
| 4 回   | グローバル化する世界と資本市場の果たす役割 |
| 5 回   | 資本市場における投資家心理         |
| 6 回   | 企業と C S R             |
| 7 回   | 日本の株式市場史              |
| 8 回   | 産業展望と投資の考え方           |
| 9 回   | 証券投資のリスク・リターン         |
| 1 0 回 | ポートフォリオ・マネジメント        |
| 1 1 回 | 外国為替相場とその変動要因について     |
| 1 2 回 | 債券市場の役割と投資の考え方        |
| 1 3 回 | 株式市場の役割と投資の考え方        |
| 1 4 回 | 投資信託の役割とその仕組み         |
| 1 5 回 | ライフプランニングとNISA        |
| 1 6 回 | まとめ・最終評価試験            |

| 回数    | 準備学習                                    |
|-------|-----------------------------------------|
| 1 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 2 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 3 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 4 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 5 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 6 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 7 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 8 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 9 回   | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 0 回 | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 1 回 | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 2 回 | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 3 回 | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 4 回 | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 5 回 | メディアなどを通じ経済の流れに日々関心を持っておくこと (標準学習時間90分) |
| 1 6 回 | ここまでの授業内容についての復習を行うこと (標準学習時間180分)      |

|               |                                                                                                                                                                                        |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク&リターンの考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法など実務の観点から解説します。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)                                       |
| 達成目標          | 経済において証券市場が果たす役割はきわめて大きいものであるが、その実態はどのようなものかを現場の鋭い実務感覚をベースに分かりやすく解説していきたい。証券市場と証券投資の現実を知ることが、将来の資産運用に役立つ知識を得るだけではなく、生きた経済を肌で感じる機会に出会うことでもある。多くの意欲的な学生諸君が受講して、自らの学問的感覚を磨いてくれることを期待している。 |
| キーワード         | 金融、企業、経営                                                                                                                                                                               |
| 成績評価 (合格基準60) | 最終評価試験 (100%)。得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。                                                                                                                                              |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                        |
| 教科書           | 適宜、資料をコピーして配布                                                                                                                                                                          |
| 参考書           | 「証券投資の基礎」 野村証券投資情報部 編／丸善株式会社                                                                                                                                                           |
| 連絡先           |                                                                                                                                                                                        |

|       |                                                                                                                                                                                               |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | <ul style="list-style-type: none"><li>・企業の方による講義のため、講義計画は変更になる場合がある。</li><li>・企業の方による講義のため、講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合、事前相談すること。</li><li>・講義資料は講義開始時に配布する。特別な事情がない限り、後日の配布は応じない。</li></ul> |
| 試験実施  | 実施する                                                                                                                                                                                          |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 福祉環境論 (FB26P020)                          |
| 英文科目名 | Welfare Environmental Science             |
| 担当教員名 | 西村次郎 (にしむらじろう)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 本講義のガイダンス（福祉の目的、意義、講義概要）をする。<br>「自己実現」について説明する。                     |
| 2 回  | 現代社会における福祉環境の課題について説明する。<br>人間の生涯で避けることのできない「生老病死」や人間の「幸せ」について説明する。 |
| 3 回  | 幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について説明する。「障害」について説明する。                |
| 4 回  | 「人にやさしい街づくり」について説明する（DVD等）。                                         |
| 5 回  | 「バリアフリー」や「誰もが使いやすい道具」「ユニバーサルデザイン」について説明する。                          |
| 6 回  | 「人にやさしい家づくり」について説明する（DVD等）。                                         |
| 7 回  | 「人にやさしい道づくり」について説明する（DVD等）。                                         |
| 8 回  | 中間試験とこれまでのまとめ。ここまでの講義内容について中間的な評価をするための試験を実施する。                     |
| 9 回  | 1. 心と身体、DMD症について説明する。                                               |
| 10 回 | 2. 心と身体 DMD症について説明する。                                               |
| 11 回 | 「身体障がい者補助犬法」と「生きがい感の創造」について説明する（DVD等）。                              |
| 12 回 | 障がい者スポーツについて説明する（DVD等）。                                             |
| 13 回 | 福祉機器 車椅子の疑似体験を実施する。                                                 |
| 14 回 | 高齢者の心と身体について解説する。人間のライフサイクルについて説明する。                                |
| 15 回 | 「人間の幸せ」について考える。自己実現、至高経験、創造的人間の意味について考える。                           |
| 16 回 | これまでのまとめと最終評価試験を実施する。                                               |

| 回数   | 準備学習                                                                   |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスをよく読んで講義の全体像を把握しておくこと。受講者調整の可能性があるので必ず出席のこと。（標準学習時間60分）            |
| 2 回  | 福祉の目的、意義について復習すること。人間の生涯（生老病死など）や「幸せとは何か」について考え、まとめておくこと。（標準学習時間120分）  |
| 3 回  | 幸福追求の権利、基本的人権、世界人権宣言、障害者の権利宣言等について 予習を行うこと。（標準学習時間120分）                |
| 4 回  | 福祉に関する条約や法規について復習すること。「人にやさしい街づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間120分）          |
| 5 回  | 「人にやさしい街づくり」の内容について復習すること。「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について予習を行うこと。（標準学習時間120分） |
| 6 回  | 「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」について復習すること。「人にやさしい家づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間120分） |
| 7 回  | 「人にやさしい道づくり」の事例について予習を行うこと。（標準学習時間100分）                                |
| 8 回  | これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）                                           |
| 9 回  | DMD症の原因、診断方法、臨床症状について予習を行うこと。（標準学習時間100分）                              |
| 10 回 | DMD症の臨床症状について復習すること。DMD症児の心の課題について予習を行うこと。（標準学習時間120分）                 |
| 11 回 | 進行性の難病の子どもたちの心の課題について復習すること。「身体障がい者補助犬法」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）       |
| 12 回 | 「身体障がい者補助犬法」について復習すること。「障がい者スポーツ」について予習を行うこと。（標準学習時間120分）              |
| 13 回 | 人道路や建物のチェックポイント（車椅子疑似体験）の確認をしておくこと。（標準学習時間120分）                        |
| 14 回 | 人間のライフサイクルについて予習をおこなうこと。（標準学習時間100分）                                   |
| 15 回 | 人間のライフサイクルについて復習をすること。マスローの自己実現や至高経験について予習を行うこと。（標準学習時間120分）           |
| 16 回 | これまでのまとめをしておくこと。（標準学習時間180分）                                           |

|             |                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 人間尊重の視点に立ち、障がい者や高齢者の幸福追求の権利（自己実現）や 生きがい感獲得の方策について考察するとともに、一人ひとりの人間の 幸福追求について新たに見つめ直す。「人生の一回性」の認識を深め、生と死について考察し自己存在感の 認識実現につなげる。（教養教育センター単位認定方針のDにもっとも強く関与する）                                                                        |
| 達成目標        | ①障がい者や高齢者の課題について、それらは限定された特別なものではなく、社会全体や一人ひとりの人間の共通課題として捉え、説明できること。DMD症児について説明できること。（C）<br>②福祉機器やユニバーサルデザインについて理解を深め、説明できること。（D） ③世界人権宣言、障がい者の権利宣言、幸福追求の権利等について説明 できること。（C） ④現代社会の福祉環境の課題について要約できること。（D）                           |
| キーワード       | 世界人権宣言、幸福追求の権利、障がい者、高齢者、バリアフリー、 ユニバーサルデザイン、難病                                                                                                                                                                                       |
| 成績評価（合格基準60 | 課題提出3回（30％）、中間試験および最終評価試験（70％）                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        | 健康の科学。スポーツとフィールド科学（ヨット）では、障がいのある学生も受講 できるようにユニバーサルデザインのヨットを使っています。                                                                                                                                                                  |
| 教科書         | 適宜配布する                                                                                                                                                                                                                              |
| 参考書         | 適宜紹介する                                                                                                                                                                                                                              |
| 連絡先         | B3号館 3階 西村（次）研究室                                                                                                                                                                                                                    |
| 注意・備考       | 車椅子等の疑似体験を予定しているので、受講者の積極性を期待しています。 知識だけでなく実際に見て、触れて、考えましょう。<br>・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。<br>・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は、事前に相談すること。<br>・課題提出については講義中にフィードバックを行う。<br>・この講義ではアクティブラーニングを行うので、受講者が多数の場合は受講者制限を行う場合がある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法 I (FB26Q040)                        |
| 英文科目名 | Technical Writing I                       |
| 担当教員名 | 佐藤美穂＊ (さとうみほ＊)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                             |
|------|--------------------------------------------------|
| 1 回  | ガイダンス<br>講義の概要、進め方、評価方法等を理解する。                   |
| 2 回  | 自己紹介文を作成する。                                      |
| 3 回  | 表記のしかた<br>句読点の使い方、よく使われる記号、カタカナ表記の効果を学習する。       |
| 4 回  | 文体<br>文の種類と文体、連用中止形を学習する。                        |
| 5 回  | 話し言葉と書き言葉<br>話し言葉と書き言葉の表現の違いを理解する。               |
| 6 回  | 正しい文の構造①<br>主語と述語の関係、修飾する言葉とされる言葉の関係を理解する。       |
| 7 回  | 正しい文の構造②<br>文末の制限を学習する。簡潔な文を書く練習をする。             |
| 8 回  | 文のつながり<br>指示語の使い方と接続詞の種類と使い方を学習する。<br><br>中間試験   |
| 9 回  | 段落①<br>段落の中心文と支持文が何か学び、段落内の構造について学習する。           |
| 10 回 | 段落②<br>段落の中心文と支持文、段落のつながりを学習する。複数の段落のある文章を書く。    |
| 11 回 | 要約文①<br>要約の仕方を学習する。1つの文章をグループで分担して要約する。          |
| 12 回 | 要約文②<br>グループ内で要約文を持ち寄り、各要約から文章の最終を予測する。          |
| 13 回 | 意見文を書く①<br>意見文の表現と書き方を学習しアウトラインを作成する。            |
| 14 回 | 意見文を書く②<br>作成した意見文のアウトラインを基に意見文を作成する。            |
| 15 回 | 自分をアピールする文を書く①<br>必要な表現を学習し、自分について整理するための表を作成する。 |
| 16 回 | 自分をアピールする文を書く②<br>自分をアピールする文を作成する。<br><br>最終評価試験 |

| 回数  | 準備学習                                                                                                                   |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | 授業内容の確認をすること。第2回授業までに自分の性格を表す言葉を調べておくこと。(標準学習時間60分)                                                                    |
| 2 回 | 性格を表す言葉と表現について復習すること。第3回授業までに自分の国の言葉と日本語で書くときのルールの違いについて考えてくること。また、どんな言葉にカタカナが使われているか、どんな時にカタカナを使うか調べておくこと。(標準学習時間60分) |
| 3 回 | 日本語の文章の記号と使い方、カタカナ表記の効果について復習、小テストの準備をすること。第4回授業までに、子どもが読むために書かれた新聞の文章と大人が読むために書かれた新聞の文章の違いについて考えてくること。(標準学習時間60分)     |
| 4 回 | 復習により一つの文章に一つの文体が使われることを確認すること。また連用中止形の作り方と使い方を復習、小テストの準備をすること。第5回授業までに自分の国の話し言葉と書き言葉の違いの例を考えてくること。(標準学習時間60分)         |
| 5 回 | 日本語で話すときと書くときの言葉の使い分けを復習、小テストの準備をすること。第6回授業までに助詞「は」「が」、形容詞の活用、名詞修飾についての基礎知識を整理しておくこと。(標準                               |

|     |                                                                                                    |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 学習時間60分)                                                                                           |
| 6回  | 復習により、わかりやすい文を書くために必要な言葉の関係を確認、小テストの準備をすること。(標準学習時間60分)                                            |
| 7回  | 復習により文末の制限についての知識と簡潔な文を書くために必要な事項を確認、小テストの準備をすること。第8回授業までに指示詞と接続詞についての基礎知識を確認しておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 8回  | 文章の表記のしかたを確認すること。文の種類に合わせた文体、文型、語彙の使い分けを確認すること。話し言葉と書き言葉の違いと使い分けを確認すること。正しい文の構造を確認すること。(標準学習時間90分) |
| 9回  | 段落内の構造について復習すること。(標準学習時間60分)                                                                       |
| 10回 | 復習により一貫性のある文章を書くためには段落のつながりを考える必要性があることを確認すること。(標準学習時間60分)                                         |
| 11回 | 1段落の要約の仕方、複数の段落の要約の仕方を復習すること。第12回授業までに要約文を完成させておくこと。(標準学習時間90分)                                    |
| 12回 | あるテーマに沿った内容のアウトラインを考えておくこと。(標準学習時間60分)                                                             |
| 13回 | あるテーマに沿った内容のアウトラインを完成させておくこと。(標準学習時間60分)                                                           |
| 14回 | 第13回授業で意見交換した内容を踏まえて書いた文章を推敲すること。第15回授業までに自分のことについて何がアピールできるか考えておくこと。(標準学習時間90分)                   |
| 15回 | 自分についての表を完成させておくこと。(標準学習時間60分)                                                                     |
| 16回 | 文章を書くルールや読み手に効果的な文章の書き方を復習すること。(標準学習時間90分)                                                         |

|             |                                                                                                                                                                                            |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 日本語の文章の書き方の基本的ルール、文や文章の構造を理解し、読み手を意識したわかりやすい文章表現の方法を身につけることを目的とする。さらに話し合いを通して文章を推敲する力を養うことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する)                                                             |
| 達成目標        | ①日本語の文章の書き方のルールに従って文章を書くことができる。<br>②論理的な文章を書くことができる。<br>③読み手をに配慮したわかりやすい文章を書くことができる。<br>④自分の考えや自分について文章表現できる。                                                                              |
| キーワード       | 書き方のルール、構造、論理的、読み手、文章表現                                                                                                                                                                    |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験 25 % 最終評価試験 25% 課題提出 30% 小テスト 20%<br>により評価し、総計で60%以上を合格とする。<br><br>※5回欠席すると評価対象としない。早退・遅刻は2回で1回の欠席とする。遅刻は授業開始後20分まで。それ以降の入室は欠席とする。早退は授業終了の20分前以降。それ以前の退出は欠席とする。                       |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ・Ⅱ、日本語関連授業                                                                                                                                                                       |
| 教科書         | 特定の教科書は指定しない。                                                                                                                                                                              |
| 参考書         | 適宜指示する                                                                                                                                                                                     |
| 連絡先         | mihosato0919@yahoo.co.jp                                                                                                                                                                   |
| 注意・備考       | ・授業中の飲食、私語は禁止する。<br>・携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。<br>・授業中に配布する資料の予備は保管しないため、欠席した場合は、出席者の資料をコピーすること。<br>・当日、欠席により課題提出が遅れる場合は、事前に受け取る。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部、シラバスを変更する場合がある。受講者数の上限を50名とする。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文学 (FB26Q050)                             |
| 英文科目名 | Literature                                |
| 担当教員名 | 浅野純一 (あさのじゅんいち)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                |
|------|-------------------------------------|
| 1 回  | イントロダクション：この講義についてと中国文学の特徴について説明する。 |
| 2 回  | 詩経と楚辞について説明する。                      |
| 3 回  | 陶淵明について説明する                         |
| 4 回  | 唐詩1李白について説明する                       |
| 5 回  | 唐詩2杜甫について説明する李白について説明する             |
| 6 回  | 唐詩3杜甫・李白以外の詩人(李賀、李商隠など)について説明する     |
| 7 回  | 宋詩 蘇軾(蘇東坡)について説明する                  |
| 8 回  | 宋词 李煜(李後主)について説明する<br>中間試験を実施する。    |
| 9 回  | 『莊子』について説明する                        |
| 10 回 | 『世説新語』について説明する                      |
| 11 回 | 『史記』から項羽本紀などについて説明する                |
| 12 回 | 六朝志怪小説から「搜神記」について説明する               |
| 13 回 | 唐代伝奇小説から「枕中記」「杜子春」について説明する          |
| 14 回 | 明代白話小説「三国志演義」「西遊記」「水滸伝」「金瓶梅」を紹介する   |
| 15 回 | 清代の小説『紅樓夢』について説明する                  |
| 16 回 | 授業のまとめを行う。<br>最終試験を実施する             |

| 回数   | 準備学習                                                                                      |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスをよくよむこと。「中国の歴史」「中国歴史年表」などのキーワードで中国の王朝名を予習しておくこと。(標準学習時間60分)                           |
| 2 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。(標準学習時間90分)                                                        |
| 3 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。詩経と楚辞について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                        |
| 4 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。陶淵明について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 5 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。杜甫について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                           |
| 6 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李白について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                           |
| 7 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。授業で紹介された詩人について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                   |
| 8 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。蘇軾について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。全7回分の講義をまとめて試験に備えること。(標準学習時間150分)      |
| 9 回  | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。李煜について好きか嫌い、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                           |
| 10 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。莊子の世界観をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 11 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。世説新語に登場した人物のエピソードをどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)               |
| 12 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。項羽の運命をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。(標準学習時間120分)                           |
| 13 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。搜神記の逸話をどう思うか、なぜそうなのかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読んでおくこと。(標準学習時間120分) |
| 14 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。枕中記、杜子春の逸話の意味なにかを考えておくこと。可能であれば芥川龍之介「杜子春」を読むこと。(標準学習時間120分)        |



|       |                                                                                    |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 5 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。（標準学習時間90分）                                                 |
| 1 6 回 | 前回の配布物とノートをよく読んで復習すること。紅樓夢の登場人物のうち誰が好きか、なぜそうなのかを考えておくこと。最終試験に向けて準備すること（標準学習時間150分） |

|             |                                                                                                                                                                             |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 中国の文学作品の主な作者や作品について知識を持ち、内容を理解して味わうことが出来るようになる。文学が人間にとってどのような意味をもつか、考えることが出来るようになる。（教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する）                                                            |
| 達成目標        | 中国の歴代の詩詞のうち、自分の好きな詩人、作品について基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明し、自分なりの評価をすることが出来る。<br>中国の歴代の散文・小説のうち、自分の好きな詩人、作品について基本的な事柄（内容、時代背景など）を説明し、自分なりの評価をすることが出来る。<br>中国文学について、おおむねの流れを説明することが出来る。 |
| キーワード       | 中国文学、散文、小説、                                                                                                                                                                 |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験 5 0 %、最終試験 5 0 %により成績を評価し、総計で 6 0 %以上を合格とする。                                                                                                                           |
| 関連科目        | 中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、文学（日本文学や欧米文学）                                                                                                                                                     |
| 教科書         | なし（資料配付）                                                                                                                                                                    |
| 参考書         | 授業中に紹介する                                                                                                                                                                    |
| 連絡先         | asanoj@big.ous.ac.jp                                                                                                                                                        |
| 注意・備考       |                                                                                                                                                                             |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                        |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 法学 (FB26Q060)                             |
| 英文科目名 | Law                                       |
| 担当教員名 | 中西俊二＊ (なかにししゅんじ＊)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                                                                 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーションを兼ねて、法とは何かについて説明する。項目としては、法の内容、法と道德との関係、法の理念、法の分類、法の適用(三段論法)、法の解釈について触れ、判例は「ガソリンカー転覆事件」「電気窃盗事件」等を取り上げることとする。                                                                                                |
| 2 回  | 今回から4回は、基本三法の内日本国憲法を講義する。プライバシー権等のいわゆる新しい人権の根拠規定としての憲法13条の幸福追求権の内容としていかなる権利が保障されるかを受講生とともに考察する。「『エホバの証人』輸血拒否事件」等の判例を取り上げることとする。                                                                                      |
| 3 回  | 「法の下での平等」を定める憲法14条の意義と合理的な差別と非合理的差別さらに絶対的平等・相対的平等について考察する。判例は、「堀木訴訟」「嫡出性の有無による法定相続分差別事件」および法定相続分差別違憲判決等を取り上げ説明する。                                                                                                    |
| 4 回  | 憲法19条の思想・良心の自由、20条の信教の自由、23条の学問の自由を取り上げ、それらの人権保障の意義を判例を引用しながら考察する。判例としては、「三菱樹脂事件」「津地鎮祭事件」「劇団ポポロ事件」等を取り上げ説明する。                                                                                                        |
| 5 回  | 憲法21条の表現の自由について講義する。精神的自由の経済的自由に対する優越的地位と憲法21条の民主主義的意義について、報道の自由、取材の自由、検閲を取り上げて考察する。具体的には、「博多駅事件」「札幌税関事件」等を取り上げ解説する。                                                                                                 |
| 6 回  | 今回から5回は、民法について講義する。日本民法の成立を踏まえて、民法とは何かについて考察する。民法における「私的自治の原則」等の基本原理とその修正について説明する。また、「宇奈月温泉事件」および「信玄公旗掛松事件」の判例を引用しつつ、民法1条の信義誠実の原則と権利濫用の禁止について考察する。                                                                   |
| 7 回  | 物権と債権の特徴と債務不履行について講義する。物権的請求権、動産と不動産、不動産の二十譲渡および債務不履行の類型、効果、損害賠償の範囲について事例に基づいて説明する。                                                                                                                                  |
| 8 回  | 債権発生原因としての契約ならびに債権の対外的効力としての債権者代位権(民423条)および詐害行為取消権(民424条)について講義する。契約について、有償契約・無償契約、要物契約・諾成契約等の意義と区別ができるように説明する。また、債務者の責任財産の保全を目的とする債権者代位権と詐害行為取消権の適用事例を取り上げて2つの権利の効果について考察する。中間試験を行う。                               |
| 9 回  | 制限行為能力者および意思表示ならびに不法行為について講義する。教科書の表に基づいて制限行為能力者の比較をする。また、意思表示の錯誤、詐欺・強迫について説明する。さらに、不法行為については損害賠償に関して判例「富貴丸事件」を取り上げることとする。使用者責任(民715条)については、最高裁昭和39年2月4日の損害賠償請求事件を用い外形理論について考察する。                                    |
| 10 回 | 民法の最終回として親族法と相続法を講義する。婚姻・離婚に関する判例を取り上げ判例の流れを説明する。特に離婚の効果について相続については、法定相続分、限定承認、遺留分制度等について解説する。                                                                                                                       |
| 11 回 | 今回から5回にわたって刑法を講義する。刑法とは何かについて問題提起し、旧派と新派の刑法理論を概観する。刑法の大原則である罪刑法定主義について、意義・内容・機能(人権保障機能)について解説する。また、犯罪の定義を踏まえて、犯罪成立のための因果関係理論について判例に基づいた考察をする。                                                                        |
| 12 回 | 不作為犯と事実の錯誤について講義する。不真正不作為犯の要件としての作為義務ならびに故意に関する客体の錯誤と方法の錯誤の問題について考察する。新宿西口で発生した強盗殺人未遂事件に関する最高裁の判例を事例として取り上げることとする。                                                                                                   |
| 13 回 | 違法阻却事由の代表である「正当防衛」と「緊急避難」について講義する。なぜ正当防衛あるいは緊急避難のためにした行為は違法性がなくなるのか、本質・「止むを得ない行為」と補充の原則・法益の均衡等の観点から両者の比較考察をする。「喧嘩と正当防衛」について、最高裁の殺人被告事件を引用する。                                                                         |
| 14 回 | 「過剰防衛」と「過剰避難」の意義と「過剰」についての認識について解説する。判例としては、最高裁昭和34年2月5日の殺人被告事件を取り上げ量的過剰について理解を深めることにする。また、誤想過剰防衛の例として「英国騎士道事件」を引用し、刑法36条2項の問題を考察する。責任阻却事由としての故意の問題を扱い、有名な「たぬき・むじな」事件「もま・むさび事件」について見識を広めることにする。さらに、未遂犯と不能犯についても言及する。 |
| 15 回 | 共犯について講義する。共同正犯・教唆犯・幫助犯とは何か。間接正犯とは何かについて、事例を                                                                                                                                                                         |

|     |                                                                                         |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------|
|     | 挙げて考察する。共同正犯の要件および共謀共同正犯を理解するために最高裁判決「練馬事件」を事例として引用する。さらに、共犯と中止犯および離脱の問題を判例の事例を通して解説する。 |
| 16回 | 民法および刑法の分野から最終評価試験を実施する。                                                                |

| 回数  | 準備学習                                                                     |
|-----|--------------------------------------------------------------------------|
| 1回  | テキストの「法学を学ぶにあたって」を読んでおくこと。30分。                                           |
| 2回  | 教科書をよく読み、新しい人権について予習しておくこと。50分。                                          |
| 3回  | 教科書をよく読み、「法の下での平等」について予習しておくこと。60分。                                      |
| 4回  | 教科書をよく読み、思想・良心の自由および信教の自由について予習しておくこと。60分。                               |
| 5回  | 教科書をよく読み、表現の自由について予習しておくこと。60分。                                          |
| 6回  | 教科書をよく読み、民法の沿革について予習しておくこと。60分。                                          |
| 7回  | 教科書をよく読み、物権と債権の相違について予習しておくこと。60分。                                       |
| 8回  | 教科書をよく読み、債権の発生原因と債権の対外的効力について予習しておくこと。さらに、中間試験の準備を十分に時間をかけて行っておくこと。120分。 |
| 9回  | 教科書をよく読み、意思表示に基づく法律行為について予習をしておくこと。60分。                                  |
| 10回 | 教科書をよく読み、婚姻と離婚について予習しておくこと。60分。                                          |
| 11回 | 教科書をよく読み、刑法の概略について予習しておくこと。60分。                                          |
| 12回 | 教科書をよく読み、不作為犯について予習をしておくこと。60分。                                          |
| 13回 | 教科書をよく読み、正当防衛と緊急避難について予習しておくこと。60分。                                      |
| 14回 | 教科書をよく読み、過剰防衛について予習しておくこと。60分。                                           |
| 15回 | 教科書をよく読み、共犯について予習しておくこと。60分。                                             |
| 16回 | 講義で取り扱った、民法および刑法の事項と内容をよく復習して試験に臨むこと。120分。                               |

|              |                                                                                                                 |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 基本三法と言われる憲法・民法・刑法について、基礎的知識を身につけ、日々生起する事件等について法的思考力(リーガルマインド)に基づき自主的解決が導き出せるようにする。(教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する) |
| 達成目標         | 公法と私法、民事法と刑事法の基礎概念の理解と区別ができること。日々生起する政治的・社会的事象に対して、法的問題構成と解決ができるリーガルマインド(法的判断能力)を養成する。                          |
| キーワード        | 法の解釈、二重の基準、信義誠実の原則、罪刑法定主義                                                                                       |
| 成績評価(合格基準60) | 小テスト(20点)/中間試験(40点)/最終評価試験(40点)                                                                                 |
| 関連科目         | 日本国憲法                                                                                                           |
| 教科書          | テキスト法学(第3版)/中西俊二著/大学教育出版/9784864293730;法学六法18/石川明・池田真朗編/信山社                                                     |
| 参考書          | 現代社会における法学入門第2版/斎藤信幸/成文堂                                                                                        |
| 連絡先          | 教務課                                                                                                             |
| 注意・備考        | 毎回講義の終わりに、巻末の択一問題を小テストとして、ミシン線に沿って切り取り提出してもらうので、受講に当たっては教科書を必ず持参すること。                                           |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                            |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB26Q070)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 辻維周 (つじまさちか)                              |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                   |
|------|--------------------------------------------------------|
| 1 回  | ・ ガイダンス<br>・ 文化について                                    |
| 2 回  | テキストの解説と考え方                                            |
| 3 回  | 文化が発生する要因とその変遷を歴史や自然環境を含めて考える。                         |
| 4 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編1)                                      |
| 5 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編2)                                      |
| 6 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編3)                                      |
| 7 回  | 太平洋圏の文化 (日本・沖縄編4)                                      |
| 8 回  | 総括をする。中間評価試験をする                                        |
| 9 回  | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 1)                            |
| 10 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 2)                            |
| 11 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 3)                            |
| 12 回 | 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 4)                            |
| 13 回 | ・ 太平洋圏の歴史と文化 (東南アジア・ミクロネシア 5)      ・ グループワークのためのグループ分け |
| 14 回 | グループワーク1 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                     |
| 15 回 | グループワーク2 (グループ内で自分の生まれた土地と文化を話し合う)                     |
| 16 回 | まとめ、最終評価試験                                             |

| 回数   | 準備学習                                      |
|------|-------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに「文化」と「文明」との違いをとらえておく。(標準学習時間30分)     |
| 2 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 3 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 4 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 5 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 6 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 7 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 8 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 9 回  | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 10 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 11 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 12 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 講義の復習をしておくこと。質問事項を考えておくこと。(標準学習時間60分)     |
| 14 回 | 自分が生まれ育った町の文化を捉えておくこと。(標準学習時間120分)        |
| 15 回 | 14回目で話し合ったことを検証しておく。(標準学習時間60分)           |
| 16 回 | 今までの講義内容を反芻しておき、最終評価試験に備えておく。(標準学習時間120分) |

|               |                                                                                                                                                                                  |
|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 文明と文化の違いをはっきり説明できる人がどれほどいるだろうか。そして同じ国の中でも少し場所が違っただけでも言葉や文化の相違がみられるところが多い。この講義ではこの世に生きている以上、避けて通ることのできない「文化」を詳しく検証し、ステレオタイプにならないような社会人を作ってゆくことを目的とする。(教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する) |
| 達成目標          | 少なくとも自分の生まれ育った町の歴史や文化を、きちんと説明できるような人間になること。また「日本では」「 国では」というステレオタイプの人間ではなく、文化の相互理解が出来る人間になる事。                                                                                    |
| キーワード         | 視野をうんと広く持ってみよう。そうすれば自分の知っている世界が変わって見える。                                                                                                                                          |
| 成績評価 (合格基準60) | グループワークでの発表40点, 中間試験+最終評価試験60点とし、60点以上を合格とする。                                                                                                                                    |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                  |
| 教科書           | 「異文化理解」岩波新書 青木保著                                                                                                                                                                 |
| 参考書           | 「文化人類学事典」日本文化人類学会編著、「太平洋百科事典」太平洋学会                                                                                                                                               |
| 連絡先           | ous.tsuji@gmail.com                                                                                                                                                              |

|       |                                                                                                |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 注意・備考 | ・この講義はインタラクティブに実施するため、講義に積極的参加が出来ることは当然であり、文化というものに興味を持っている学生、もしくは様々な好奇心に満ち溢れている学生のみ受講してもらいたい。 |
| 試験実施  | 実施する                                                                                           |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 哲学 (FB26Q080)                             |
| 英文科目名 | Philosophy                                |
| 担当教員名 | 堀田和義 (ほったかずよし)                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                         |
|-------|--------------------------------------------------------------|
| 1 回   | ガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および哲学とは何かを説明する。                 |
| 2 回   | デカルト以前の西洋哲学 (1)ーソクラテス以前の哲学者やソフィストの思想を説明する。                   |
| 3 回   | デカルト以前の西洋哲学 (2)ーソクラテスとプラトン、アリストテレスの思想を説明する。                  |
| 4 回   | デカルト以前の西洋哲学 (3)ー中世の哲学 (スコラ哲学、普遍論争等) を説明する。                   |
| 5 回   | デカルトの哲学ーデカルトの生涯と思想を説明する。                                     |
| 6 回   | デカルト以後の西洋哲学 (1)ーカントの生涯と思想を説明する。                              |
| 7 回   | デカルト以後の西洋哲学 (2)ーニーチェ、ハイデガーの生涯と思想、およびその後の現代にいたるまでの哲学の状況を説明する。 |
| 8 回   | 前半：中間評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |
| 9 回   | 後半のガイダンス (授業の概要、講義の進め方、成績評価の方法)、および東洋哲学とは何かを説明する。            |
| 1 0 回 | インド哲学 (1)ーインド哲学の誕生から沙門宗教の成立までを説明する。                          |
| 1 1 回 | インド哲学 (2)ーインドの「六派哲学」とその現代への影響を説明する。                          |
| 1 2 回 | 中国哲学 (1)ー諸子百家の思想を説明する。                                       |
| 1 3 回 | 中国哲学 (2)ー朱子学と陽明学を説明する。                                       |
| 1 4 回 | イスラーム哲学 (1)ーキンディーとファーラービーの思想を説明する。                           |
| 1 5 回 | イスラーム哲学 (2)ーイブン・スィーナーとガザーリーの思想を説明する。                         |
| 1 6 回 | 前半：最終評価試験<br>後半：試験の解答と解説                                     |

| 回数  | 準備学習                                                            |
|-----|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスをよく読み、「哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。<br>(標準学習時間30分)     |
| 2 回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間60分)    |
| 3 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 4 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間90分)  |
| 5 回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。(標準学習時間120分) |

|     |                                                                     |
|-----|---------------------------------------------------------------------|
| 6回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 7回  | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 8回  | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 9回  | シラバスをよく読み、「東洋哲学とは何か」という問いに対する自分なりの答えを準備しておくこと。（標準学習時間30分）           |
| 10回 | 前回の学習事項を踏まえたうえでの説明なので、前回のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間60分）        |
| 11回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 12回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間90分）      |
| 13回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 14回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 15回 | これまでの学習事項を踏まえたうえでの説明なので、過去のプリントをよく読んで、内容を頭に入れておくこと。（標準学習時間120分）     |
| 16回 | これまでの学習事項のすべてを踏まえたうえでの試験なので、過去のプリントをよく読んで、きちんと整理しておくこと。（標準学習時間120分） |

|             |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本講義では、前半で西洋哲学を、後半で東洋哲学ををひと通り学ぶ。哲学はあらゆる学問の基礎とも言えるものであるため、その思考方法を身につけることにより、自身の専門分野の研究にそれを生かすことができるようになるのが、本講義の最終的な目的である。（教養教育センター単位認定方針Bにもっとも強く関与する）                 |
| 達成目標        | ①哲学の学習に最低限必要な知識を身につけ、自分の言葉できちんと説明することができる。<br>②各時代、文化圏の思想を比較し、それらの間の共通点、相違点を見出すことができる。<br>③過去の哲学者の思考を追体験し、自分の専門の研究に役立てることができる。                                      |
| キーワード       | 哲学、思想、宗教、西洋哲学、東洋哲学                                                                                                                                                  |
| 成績評価（合格基準60 | ・授業での提出課題（60%）<br>・中間試験+最終試験（40%）<br>※授業開始後30分以降の入室は認めない。また、課題未提出の場合は、評価の対象としない。                                                                                    |
| 関連科目        | 倫理と宗教                                                                                                                                                               |
| 教科書         | 特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。                                                                                                                                           |
| 参考書         | 参考書は、授業内で適宜、紹介する。                                                                                                                                                   |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                     |
| 注意・備考       | ・授業中の飲食、私語、無断での入退室は禁止する。携帯電話の電源は切り、机の上に置かず、しまっておくこと。以上のことが守れない場合は、成績評価の対象としない。<br>・授業を欠席した場合やプリントを紛失した場合は、他の受講生からコピーさせてもらうこと。<br>・受講生の既習知識や進度によって、一部シラバスの変更することがある。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 文章表現法Ⅱ (FB26R070)                         |
| 英文科目名 | Technical Writing II                      |
| 担当教員名 | 藤野薫＊ (ふじのかおる＊)                            |
| 対象学年  | 2 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                     |
|------|------------------------------------------|
| 1 回  | 文章スキルの大切さや講義の進め方、テキストについて説明し、受講シートに取り組む。 |
| 2 回  | 文章表現の注意点①：リライトのポイントを解説する。                |
| 3 回  | 小論文を書く①：文章の組み立てを説明する。                    |
| 4 回  | 小論文を書く②：準備した材料を使って文章化する。                 |
| 5 回  | ストーリーを書く①：ストーリーを構想する。                    |
| 6 回  | ストーリーを書く②：ストーリーを書く。                      |
| 7 回  | 文章表現の注意点②：表記・表現のポイントを解説する。中間テストについて説明する。 |
| 8 回  | 前半の講義をまとめる。 中間テストを実施する。                  |
| 9 回  | 広告文を書く①：指示されたテーマで広告コピーを構想する。             |
| 10 回 | 広告文を書く②：広告コピーに取り組み、作品を講評する。              |
| 11 回 | 文章実務の実例①：ビジネスレターや履歴書について解説する。            |
| 12 回 | エントリーシートを書く①：エントリーシートの実例とポイントを解説する。      |
| 13 回 | エントリーシートを書く②：エントリーシートに取り組む。              |
| 14 回 | 文章実務の実例②：契約書や企画書について解説する。                |
| 15 回 | 実用的な文章表現についてのまとめを行い、最終評価試験について説明する。      |
| 16 回 | 文章スキルのポイントを整理する。 最終評価試験を実施する。            |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 予習：シラバスを読み、テキストを購入しておくこと。復習：受講上の注意を確認すること。(標準学習時間30分)            |
| 2 回  | 予習：文章表現で大切な点をまとめること。復習：リライトのポイントを整理すること。(標準学習時間45分)              |
| 3 回  | 予習：文章の組み立て方を理解しておくこと。復習：文章を組み立てるポイントを整理すること。(標準学習時間60分)          |
| 4 回  | 予習：指示されたテーマについて調べておくこと。復習：組み立てた文章を自己点検すること。(標準学習時間60分)           |
| 5 回  | 予習：ストーリーの基本構成を理解しておくこと。復習：ストーリーを書くポイントを整理すること。(標準学習時間90分)        |
| 6 回  | 予習：ストーリーの構想を準備してくること。復習：自分が書いた文章を点検・リライトすること。(標準学習時間90分)         |
| 7 回  | 予習：文章表現の注意点について考えておくこと。復習：表記・表現のポイントをまとめること。(標準学習時間90分)          |
| 8 回  | 予習：指示されたテーマについて準備しておくこと。復習：中間テストについて自己点検すること。(標準学習時間120分)        |
| 9 回  | 予習：広告表現の実例を収集しておくこと。復習：広告コピーのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)             |
| 10 回 | 予習：指示されたテーマについて情報を集めておくこと。復習：広告コピーを自己点検すること。(標準学習時間60分)          |
| 11 回 | 予習：ビジネスレターや履歴書の実例に触れておくこと。復習：ビジネスレターや履歴書のポイントを整理すること。(標準学習時間60分) |
| 12 回 | 予習：エントリーシートの重要性を理解しておくこと。復習：エントリーシートのポイントを整理すること。(標準学習時間60分)     |
| 13 回 | 予習：自己分析を行っておくこと。復習：エントリーシートを自己点検すること。(標準学習時間90分)                 |
| 14 回 | 予習：契約書や企画書の実例に触れておくこと。復習：契約書や企画書のポイントをまとめること。(標準学習時間60分)         |
| 15 回 | 予習：実用的な文章表現に取り組む姿勢について考えておくこと。復習：文章表現で大切な点を整理しておくこと。(標準学習時間60分)  |
| 16 回 | 予習：後半の講義内容を確認すること。復習：最終評価試験について自己点検すること。(標準学習時間120分)             |



|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 講義目的        | 文章スキルの基本を確認しながら、様々な種類の文章に取り組み、筆記課題への柔軟な応用力を養う。（教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する）                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標        | 多様な筆記課題やエントリーシートをしっかりと書くことができ、実務文書にも対応できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| キーワード       | 文章表現、小論文、レポート、日本語表現、エントリーシート、就職活動、大学院入試                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60 | 演習・提出課題（40％）、中間テスト（30％）、最終評価試験（30％）。原則として、演習をすべて行い課題をすべて提出することが、中間テスト・最終評価試験の受験資格となる。全体で100点満点とし、60点未満は不合格とする。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目        | プレゼンテーションⅠ、プレゼンテーションⅡ、文章表現法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 教科書         | 世良利和・藤野薫／「文章スキルとプレゼン力」（緑版）／蜻文庫                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 参考書         | 必要があれば指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | 1.受講者数の上限を50名とする。2.受講希望者は必ず初回の講義に出席すること。3.受講者は必ずテキストを購入すること。4.講義中の飲食や私語、無断入退室は禁じる。5.講義中は通信器機の電源を切り、かばん等に片付けること。6.講義には必ず国語辞典（通信機能のない電子辞書も可）を持参すること。7.受講マナーや講義中の指示が守れない場合は「不可」または「評価不能」とする。8.講義資料がある場合は、原則として当日の講義開始時におのみ配布する。9.演習や提出課題については講義中の解説でフィードバックを行う。10.本講義では一部アクティブラーニングを導入し、グループディスカッションを行うことがある。11.講義中の録音・撮影は、プライバシーおよび著作権保護の観点から原則として認めない。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | プレゼンテーションⅢ (FB26R090)                     |
| 英文科目名 | Presentation Skills III                   |
| 担当教員名 | 皿田琢司 (さらたたくじ)                             |
| 対象学年  | 3 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                                   |
|-------|--------------------------------------------------------|
| 1 回   | オリエンテーション。教員の職責・役割からみた資質とプレゼンテーション能力について理解を図る。         |
| 2 回   | 教員採用試験における面接と討論を主題に、出題傾向と評価の基本的観点について理解を図る。            |
| 3 回   | 集団面接の基本。簡単な自己紹介を例に、話し方と聴き方（視線、表情等を含む）に係る評価指標について理解を図る。 |
| 4 回   | 集団面接の練習（１）－自己アピールと志望動機を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 5 回   | 集団面接の練習（２）－時事問題を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。                  |
| 6 回   | 集団面接の練習（３）－教育理念・教育政策を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。             |
| 7 回   | 集団面接の練習（４）－学習指導の方針・原則を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。            |
| 8 回   | 集団面接の練習（５）－具体的場面の対応を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。              |
| 9 回   | 討論の基本－教員の資質・能力と期待される役割を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 1 0 回 | 討論の練習（１）－最近の青少年の行動傾向を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。             |
| 1 1 回 | 討論の練習（２）－「生きる力」「確かな学力」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 1 2 回 | 討論の練習（３）－「地域と学校」「人権教育」を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。           |
| 1 3 回 | 討論の練習（４）－キャリア教育と情報教育を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。             |
| 1 4 回 | 討論の練習（５）－生徒指導状の問題事案を例に。実践練習、相互評価、指導講評を行う。              |
| 1 5 回 | 集団面接と討論の総括－教員としての継続的な研究と修養（その見直しを含む）の意義について理解の深化を図る。   |
| 1 6 回 | 最終評価試験を実施する。筆記試験と原則とするが、口頭試問を加える場合もある。                 |

| 回数    | 準備学習                                                                                                          |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回   | 受験予定の都道府県市の教員採用試験のうち、過去３年間の面接及び討論の出題内容及び様態を整理しておくこと。（標準学習時間：80分）                                              |
| 2 回   | 受験予定の都道府県市が公表している教育施策の基本方針と同自治体の求める教師像を整理しておくこと。（標準学習時間：80分）                                                  |
| 3 回   | 前時までに整理した主題から３～４題を選び、それぞれ１分程度で話せるよう要点を整理しておくこと。選択した主題をもとに、生徒にとって理解しやすい話し方（視線や表情を含む）を検討し練習しておくこと。（標準学習時間：80分）  |
| 4 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を複数の角度から検討し練習しておくこと。（標準学習時間：80分） |
| 5 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒にとって理解しやすい話し方を多面的に検討し練習しておくこと。（標準学習時間：80分）    |
| 6 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：80分）          |
| 7 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：100分）         |
| 8 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：120分）         |
| 9 回   | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：80分）          |
| 1 0 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を深める話し方の広範な習慣化に努めること。（標準学習時間：80分）          |
| 1 1 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。                                                                  |

|       |                                                                                                         |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：80分）                                              |
| 1 2 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：80分）  |
| 1 3 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の思考を豊かにする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：100分） |
| 1 4 回 | 前時までの学習成果の定着・伸長、課題の克服、新たな課題の発見・克服にそれぞれ努めること。前時の授業で提示された主題について、生徒の志向を豊にする話し方の実践的な活用に努めること。（標準学習時間：120分）  |
| 1 5 回 | これまでの学習全体を振り返って学習成果の精力的な活用に努めるとともに、課題の明確化と継続的克服に努めること。（標準学習時間：180分）                                     |
| 1 6 回 | これまでに履修した教職関連科目と本科目を振り返り、到達目標を再確認して自らの課題の明確化と克服に努めること（標準学習時間：80分。継続的に努めることが望ましい）                        |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 将来教員をめざす者が次の各事項を理解し、口頭で明瞭に表現する技能と方法を習得することを目的とする。<br>1. 志望動機、理想的教師像、教職の意義、担当教科の指導目標・意義・魅力<br>2. 教員に求められる資質と実践的指導力、学校に期待される役割<br>3. 学校現場で想定される具体的な場面における対応の基本的な方針<br>4. 上記に関する自らの課題の明確化と努力の見通し<br>（教養教育センター単位認定の方針Eのうち、中学校または高等学校教員に必要な知識を活用したプレゼンテーション能力に特に関与）                                                                                                                                                                                                                                |
| 達成目標         | 授業目的に挙げた各事項について、次のことができるようになること。<br>○身に付けた学識・知見を論理的に組み立て、説得的に説明できる。<br>○聴取者の理解や思考を深めることを念頭に、表情や語調等にも留意しながら話すことができる。<br>○聴取者の理解に即して、表現、用語、構成等を柔軟に調整して話すことができる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| キーワード        | 教員採用試験、教員の資質・能力、実践的指導力、人物重視、教師力、教育観、教師像                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 成績評価（合格基準60） | 授業各時の面接練習・提出物（50～70％程度）、最終評価試験（40～60％程度）。受講希望者が多数に上り、口頭試問を加味した抽選（注意・備考欄参照）を行う場合には、その試問の結果を約10％加算する。<br>上記の比率は、受講者の学習状況により見直すことがある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 関連科目         | ○教職関連科目のうち1～2年次開講のもの（基礎理学科生は教育学原論、教育心理学に代えてそれぞれ教育基礎論、学習・発達論）及びプレゼンテーションⅠ・Ⅱを良好な成績で修得していることが望ましい。<br>○3年次秋学期履修の場合、教育実習事前・事後指導を同時に履修中であることが望ましい。<br>○4年次春学期履修の場合、教育実習事前・事後指導の成績評価がRであることが望ましい。<br>○本授業科目の履修後、その成果と課題を教職履修カルテに反映させることが望ましい。                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 教科書          | 必要に応じて配付資料または提示資料を用いる。刊行物は必要に応じて各自が用意できるよう指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 参考書          | ○受験希望（勤務予定）校種の学習指導要領（最新版）。文科省ウェブサイトからダウンロードしてプリントアウトしたものでもよい。<br>○担当予定教科の学習指導要領解説。<br>○受験希望都道府県市の教員採用試験（主として面接・討論）で過去出題された内容（市販の参考書または各自治体の情報公開制度を利用）。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 連絡先          | B 2 号館（旧13号館）3階研究室 salad@chem.ous.ac.jp 086-25 6-9714                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 注意・備考        | ○おおむね30名以内の少人数指導とする。受講希望者が多数に上る場合には、第1回授業出席者のうち、面接または討論が特に重視される都道府県市教員採用試験を受験する者を優先する。それでも超過する場合には、口頭試問を加味した抽選を行う。<br>○授業で課された提出物には、個別に添削することを原則とする。共通に必要な事項については、板書、投影または口頭により講評する。<br>○提示物の撮影は、他の受講者の学習の妨げにならない限り認めるが、他者への再配付は、電磁的方法も含めて認めない。録音または録画を希望する場合には事前に相談すること。<br>○第3講以降は、いわゆるアクティブラーニングを基本とする。指導計画（成績評価の配分比率を含む）は、受講状況により見直す場合がある。<br>○連絡手段としてOUSメールを常時送受信できるようにしておくこと。<br>○C 1 号館（旧25号館）7階掲示板を授業日には必ず確認すること。<br>○専攻分野に関する学業と読書を励行し、それを学ぶ意義や魅力を分かりやすく伝えられるよう日ごろから伝え方の見直しを習慣づけること。 |

|      |                                            |
|------|--------------------------------------------|
|      | ○信頼される教員をめざそうとする強い目的意識をもって謙虚にかつ不断に学び続けること。 |
| 試験実施 | 実施する                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 経済学 (FB26S040)                            |
| 英文科目名 | Economics                                 |
| 担当教員名 | 横尾昌紀＊ (よこおまさのり＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 木曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                           |
|------|------------------------------------------------|
| 1 回  | 経済学の概要とゲーム理論の関係について                            |
| 2 回  | 囚人のジレンマ                                        |
| 3 回  | 戦略形ゲームとナッシュ均衡<br>(標準学習時間 40 分)                 |
| 4 回  | 戦略形ゲームの応用例：価格競争，家事の分担，OS の選択等                  |
| 5 回  | 混合戦略のナッシュ均衡：ジャンケンの‘必勝法’                        |
| 6 回  | 展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡                               |
| 7 回  | 展開形ゲームの応用例（１）：参入阻止ゲーム，ネズミ講，チェーンストアパラドクス        |
| 8 回  | まとめ，<br>中間試験。                                  |
| 9 回  | 展開形ゲームと戦略形ゲームの関係について                           |
| 10 回 | 展開系ゲームの応用例（２）：「裁量かルールか？」あるいは「なぜ大学のシラバスが必要なのか？」 |
| 11 回 | 非対称情報ゲームと完全ベイジアン均衡                             |
| 12 回 | 労働市場の分析（１）：エイジェンシー問題，あるいは「なぜブラック企業が跋扈するのか？」    |
| 13 回 | 労働市場の分析：シグナリングゲーム，あるいは「あなたはなぜ大学へ行くのか？」         |
| 14 回 | 進化と合理性                                         |
| 15 回 | レプリケータダイナミクスと進化的安定戦略                           |
| 16 回 | まとめ<br>最終評価試験                                  |

| 回数   | 準備学習                                              |
|------|---------------------------------------------------|
| 1 回  | 教科書の第 1 章を授業の前か後に読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)     |
| 2 回  | 教科書の第 2 章と第 5 章の最初の節を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分) |
| 3 回  | 教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)       |
| 4 回  | 教科書の第 3 章と 4 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)       |
| 5 回  | 教科書の第 4 章と 5 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)       |
| 6 回  | 教科書の第 6 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 7 回  | 教科書の第 6 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 8 回  | いままでのところを復習してください。<br>(標準学習時間 40 分)               |
| 9 回  | 教科書の第 6 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 10 回 | 配布した資料を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)               |
| 11 回 | 教科書の第 8 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 12 回 | 教科書の第 8 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 13 回 | 教科書の第 8 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)            |
| 14 回 | 教科書の第 11 章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間 40 分)           |

|     |                                     |
|-----|-------------------------------------|
| 15回 | 教科書の第11章を読んでおいてください。<br>(標準学習時間40分) |
| 16回 | 全体の復習をしておいてください。<br>(標準学習時間40分)     |

|              |                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 現代の経済学のひとつの基礎を成す理論であるゲーム理論の基礎的部分を講義します。人々の意思決定が相互に依存している状況、すなわち、駆け引きのある状況を「戦略的状況」と呼びます。ゲーム理論はそのような状況をシステマティックに分析するために開発された比較的新しい学問分野です。このゲーム理論の学習を通じて、「戦略的思考」を身につけることを目的とします。(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)               |
| 達成目標         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略形表現のゲームの構造を理解する。</li> <li>・簡単な戦略形ゲームにおける純粋戦略のナッシュ均衡を求める。</li> <li>・簡単な戦略形ゲームにおける混合戦略のナッシュ均衡を求める。</li> <li>・展開形表現のゲームの構造を理解する。</li> <li>・簡単な展開形ゲームにおける部分ゲーム完全均衡を求める。</li> </ul> |
| キーワード        | 経済学，戦略，戦略的状況，戦略的思考，ゲーム理論，ナッシュ均衡，部分ゲーム完全均衡。                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | 課題提出（20％），中間試験（20％），最終評価試験（60％）                                                                                                                                                                                          |
| 関連科目         | 社会と人間                                                                                                                                                                                                                    |
| 教科書          | ゲーム理論・入門／岡田章著／有斐閣アルマ／9784641123625                                                                                                                                                                                       |
| 参考書          | 『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』，梶井厚志・松井彰彦著，日本評論社                                                                                                                                                                                       |
| 連絡先          | 電子メール： yokoo@e.okayama-u.ac.jp                                                                                                                                                                                           |
| 注意・備考        | 参考書として挙げた『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』（以前教科書として指定）をすでに入手している場合は，新たに教科書を買う必要はありません。最終評価試験の「過去問」を授業の最初の方で配布しますので，入手漏れがないように気をつけてください。                                                                                                  |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                     |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 心理学 (FB26U030)                            |
| 英文科目名 | Psychology                                |
| 担当教員名 | 松浦美晴＊ (まつうらみはる＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 1時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数    | 授業内容                                 |
|-------|--------------------------------------|
| 1 回   | 授業の概要と、「心理学の歴史」について説明する。             |
| 2 回   | 「科学としての心理学」について説明する。                 |
| 3 回   | 「知覚のはたらき」について説明する。                   |
| 4 回   | 「記憶と学習のメカニズム」について説明する。               |
| 5 回   | 「人間の空間行動」について説明する。                   |
| 6 回   | 「パーソナリティと発達」について説明する。                |
| 7 回   | 「心の健康」について説明する。                      |
| 8 回   | 「心の危機」について説明し、中間試験を実施する。             |
| 9 回   | 授業の概要と、「情動と動機づけ」について説明する。            |
| 1 0 回 | 「対人認知・対人魅力と態度変容」について説明する。            |
| 1 1 回 | 「援助行動・攻撃行動」について説明する。                 |
| 1 2 回 | 「集団と個人」について説明する。                     |
| 1 3 回 | 「リーダーシップと集団間葛藤」について説明する。             |
| 1 4 回 | 「人間のコミュニケーション行動」について説明する。            |
| 1 5 回 | 「情報と人間行動」について説明する。                   |
| 1 6 回 | 「情報化社会での人間行動の変化」について説明し、最終評価試験を実施する。 |

| 回数    | 準備学習                                                     |
|-------|----------------------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 2 回   | 教科書の目次と、第1章に目を通しておくこと。(標準学習時間120分)                       |
| 3 回   | 教科書第2章に目を通し、p.14の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)               |
| 4 回   | 教科書第3章に目を通し、「演習」p.25「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)           |
| 5 回   | 教科書第4章に目を通し、p.38の「演習」を行ってくること。(標準学習時間120分)               |
| 6 回   | 教科書第5章に目を通し、「演習」p.49「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)           |
| 7 回   | 教科書第6章に目を通し、「演習」p.63「課題1」、p.65「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分) |
| 8 回   | これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)                       |
| 9 回   | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 1 0 回 | 教科書第7章のp.69～76に目を通し、「演習」p.81「課題1」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 1 回 | 教科書第7章のp.77～80に目を通し、「演習」p.83「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 2 回 | 教科書第8章のp.85～89に目を通し、「演習」p.95「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 3 回 | 教科書第8章のp.89～92に目を通し、「演習」p.96「課題3」を行ってくること。(標準学習時間120分)   |
| 1 4 回 | 教科書第9章に目を通し、「演習」p.107「課題2」を行ってくること。(標準学習時間120分)          |
| 1 5 回 | 教科書第10章に目を通してくること。(標準学習時間60分)                            |
| 1 6 回 | これまでの内容を見直して、整理しておくこと。(標準学習時間180分)                       |

|      |                                                                                                                                                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 学科カリキュラム構成における本科目の位置づけや科目のねらいも含め、授業の目的や概要などを学生が理解しやすい表現で記入してください。各学科等の「学位の授与の方針」の項目と関連が単純な場合、「学位の授与の方針」のどの項目と関連しているかを明記してください。科目と「学位の授与の方針」の対応関係は29年度版のカリキュラムチェックストと対応させてください。(教養教育センター単位認定方針のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標 | 心理学における人間の心と行動のとらえかたを理解し、トピックと理論について知り、それらを説明できるようになる。                                                                                                                                                      |

|             |                                                 |
|-------------|-------------------------------------------------|
| キーワード       | こころの理解、知覚、認知、学習、パーソナリティ、感情、集団、社会行動              |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験50%、最終評価試験（50%）                             |
| 関連科目        |                                                 |
| 教科書         | 生活にいかす心理学ver.2／古城和子（編著）／ナカニシヤ出版／4888487057      |
| 参考書         | 授業中に適宜指示する。                                     |
| 連絡先         | 山陽学園大学 TEL：086-272-6254（代表）                     |
| 注意・備考       | 日常の経験を振り返り、その裏付けとして授業の内容を捉え、人間についての理解を深めることを望む。 |
| 試験実施        | 実施する                                            |



|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB26V010)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 高池久隆 (たかいけひさたか)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                       |
|------|------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義の進め方、成績評価などについて説明する。                                     |
| 2 回  | ドイツという国について概観する。                                           |
| 3 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(1) (車社会、ルール、マイスター制度を中心に)       |
| 4 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(2) (メディア、余暇、環境問題を中心に)          |
| 5 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(3) (結婚、育児、学生生活を中心に)            |
| 6 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(4) (大学、68年世代、サッカーを中心に)         |
| 7 回  | ドイツの食文化について説明する。                                           |
| 8 回  | ドイツの街道と都市およびショッピング事情について説明する。<br>中間試験を実施する。試験終了後解説をする。     |
| 9 回  | ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。                                   |
| 10 回 | ドイツにおける宗教の問題について説明する。                                      |
| 11 回 | オーストリア事情について説明する。                                          |
| 12 回 | ドイツの今後の課題について説明する。(1) (再統一の影響、文化の多元性を中心に)                  |
| 13 回 | ドイツの今後の課題について説明する。(2) (多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)          |
| 14 回 | ドイツの今後の課題について説明する。(3) (EUとユーロを中心に)                         |
| 15 回 | ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。                                     |
| 16 回 | 日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。<br>最終評価試験を実施する。<br>試験終了後解説をする。 |

| 回数   | 準備学習                                                   |
|------|--------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 2 回  | テキストの9～24ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)             |
| 3 回  | テキストの25～35ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 4 回  | テキストの35～44ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 5 回  | テキストの44～52ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 6 回  | テキストの52～66ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 7 回  | テキストの67～78ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 8 回  | テキストの79～98ページを読み、質問事項を整理しておくこと。試験の準備をすること。(標準学習時間120分) |
| 9 回  | テキストの100～118ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 10 回 | テキストの119～130ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 11 回 | テキストの131～142ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 12 回 | テキストの143～150ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 13 回 | テキストの150～165ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 14 回 | テキストの165～178ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 15 回 | テキストの180～184ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 16 回 | 試験の準備をすること。(標準学習時間120分)                                |

|             |                                                                                                                                                                            |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 異質な文化圏との比較を通じて自らの価値観を常に相対化することは、今日の社会を生きるために欠かせない姿勢である。本講義では、日本とドイツを比較し、文化の特殊・普遍の諸相について考察する。このことを通じて、受講生が固定化した価値観を柔軟に相対化できるよう、その手がかりの提供を目指す。（教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。）  |
| 達成目標        | 文化の多様性について認識できること。さまざまな習慣の相違に遭遇したとき、優劣を問うのではなく、相違を生み出す文化的背景に関心を持つことができること。                                                                                                 |
| キーワード       | 文化、異文化、比較文化、ドイツ                                                                                                                                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験（50%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                             |
| 関連科目        | 文学                                                                                                                                                                         |
| 教科書         | 最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ ― その文化・歴史・社会／高橋 憲／郁文堂／978-4-261-01265-1                                                                                                                |
| 参考書         | 適宜指示する。                                                                                                                                                                    |
| 連絡先         | B1号館2階 高池研究室                                                                                                                                                               |
| 注意・備考       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。</li> <li>・中間試験・最終評価試験終了後解説を行なう。</li> <li>・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。</li> </ul> |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 経済学 (FB26V020)                            |
| 英文科目名 | Economics                                 |
| 担当教員名 | 山下賢二＊ (やましたけんじ＊)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 2時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                               |
|------|--------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 経済学とは何かについての概要を講義する。                                               |
| 2 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に消費者行動の原則と効用の概念について講義する。             |
| 3 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に効用関数について講義する。                       |
| 4 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に無差別曲線について講義する。                      |
| 5 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に最適消費点の導出について講義する。                   |
| 6 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に最適消費点を解析的に求める方法について講義する。            |
| 7 回  | ミクロ経済理論のうち消費者の理論について講義する。<br>特に所得消費曲線、需要曲線、補償需要曲線について講義する。         |
| 8 回  | 1～7回分の講義のまとめを行う。<br>中間試験を行う。                                       |
| 9 回  | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特に企業行動の原則と生産関数について講義する。                |
| 10 回 | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特に生産関数と等量曲線の関係について講義する。                |
| 11 回 | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特に生産関数と費用関数の関係について講義する。                |
| 12 回 | ミクロ経済理論のうち企業の理論について講義する。<br>特にS字型短期費用関数を用いた損益分岐点、操業停止点の導出について講義する。 |
| 13 回 | ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。<br>特に完全競争市場、独占市場、厚生分析について講義する。            |
| 14 回 | ミクロ経済理論のうち市場の理論について講義する。<br>特に独占市場について講義する。                        |
| 15 回 | マクロ経済理論の基礎を講義する。<br>特に短期と長期の違いを強調する。                               |
| 16 回 | 9～15回分の講義のまとめを行う。<br>最終評価試験を行う。                                    |

| 回数  | 準備学習                                             |
|-----|--------------------------------------------------|
| 1 回 | 新聞などから経済ニュースを読んでおくこと (※内容は何でもよい。)<br>(標準学習時間60分) |
| 2 回 | 1.微分の復習をしておくこと                                   |

|      |                                                       |
|------|-------------------------------------------------------|
|      | 2. 第1回目の講義で指示したホームページから資料をダウンロードしておくこと<br>(標準学習時間60分) |
| 3 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 4 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 5 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 6 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 7 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 8 回  | すべての講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間120分)                       |
| 9 回  | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 10 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 11 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 12 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 13 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 14 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 15 回 | 前回の講義を復習しておくこと<br>(標準学習時間60分)                         |
| 16 回 | 9～15回分の講義の復習を行うこと<br>(標準学習時間120分)                     |

|             |                                                                                                                                                                                                                              |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 経済現象は日々変化しており、その把握は経済理論の助けなしでは困難なものがある。本講義では、経済現象に対する科学的・論理的な冷静なる視点を養うことを目的として、若干の数学を用いながら、経済理論の最も基本的な部分を講義する。主として、個々の経済主体や個々の市場の経済行動を取り扱うミクロ経済理論について講義するが、国レベルでの経済行動を取り扱うマクロ経済理論についても講義する。<br>(教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。) |
| 達成目標        | 基本的な経済理論を理解できるようになること、様々な経済問題を科学的・論理的に把握できるようになること                                                                                                                                                                           |
| キーワード       | ミクロ経済学・マクロ経済学・家計・企業・政府・消費・投資・市場・国民所得・経済政策                                                                                                                                                                                    |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験＋最終評価試験(100%)<br>内訳：中間試験50%、最終評価試験50%                                                                                                                                                                                    |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | ① 1からの経済学／中谷武・中村保編著／碩学舎/中央経済社／9784502680809<br>② プリント(ホームページからダウンロード。URLは第1回目の講義で指示する。)                                                                                                                                      |
| 参考書         |                                                                                                                                                                                                                              |
| 連絡先         | 岡山商科大学経済学部 山下賢二研究室 <a href="mailto:kenyamashita@po.osu.ac.jp">kenyamashita@po.osu.ac.jp</a>                                                                                                                                  |
| 注意・備考       | 講義では、微分(偏微分・全微分含む)を多用する。高校で微分を既に学んでいることが望ましい。そうでない場合は各自で初等的な「微分積分」の科目を受講するなりすることを勧める。<br>試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。                                                                                                       |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                         |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 環境と社会 (FB26V030)                             |
| 英文科目名 | Environment and Society                      |
| 担当教員名 | 剣持堅志＊ (けんもつかたし＊)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 金曜日 2時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。 |
| 2 回  | 日本で発生した深刻な公害(足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかに努力し、克服していったかについてについて解説する。                                                             |
| 4 回  | 地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。                                                                                                  |
| 5 回  | 地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。                                                                                                            |
| 6 回  | 地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、私たちが実践できる地球温暖化対策について講義する。                                                                 |
| 7 回  | 日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びディメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても講義する。                                                                 |
| 8 回  | 原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。<br>中間評価試験を実施                                                                                 |
| 9 回  | 水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。<br>水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。                                                          |
| 10 回 | 大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。                                                               |
| 11 回 | 化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。                                                                                      |
| 12 回 | 循環型社会実現の必要性と課題について講義する。<br>廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。                                                           |
| 13 回 | 環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。                                                                                  |
| 14 回 | 自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。                      |
| 15 回 | 技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。                                             |
| 16 回 | かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。<br>環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講                                                      |

|  |                       |
|--|-----------------------|
|  | 義を締めくくる。<br>最終評価試験を実施 |
|--|-----------------------|

| 回数   | 準備学習                                                                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書①の構成と目次（４～９）などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分） |
| 2 回  | 日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。<br>（標準学習時間60分）    |
| 4 回  | 参考書①第２～３章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。                                                    |
| 5 回  | 地球レベルの環境破壊について、参考書①３-４、３-６章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                           |
| 6 回  | 地球温暖化の原因と現状について、参考書①３-１章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                              |
| 7 回  | 原子力発電所事故等について、参考書①３-８章などを勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                            |
| 8 回  | 再生可能エネルギーについて、参考書①３-２章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。（標準学習時間120分）<br>評価試験の範囲は１～８回   |
| 9 回  | 生活を支える水環境の保全について、参考書①３-６章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。                         |
| 10 回 | 生活を支える水環境の保全について、参考書３-６章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                         |
| 11 回 | 化学物質汚染について、参考書３-７章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                    |
| 12 回 | 循環型社会について、参考書３-５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                     |
| 13 回 | インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                             |
| 14 回 | インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                               |
| 15 回 | インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                            |
| 16 回 | 各主体の役割と取り組みについて、参考書５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間１２０分）<br>評価試験の範囲は９～16回               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。<br>過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。<br>更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、<br>また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|               |                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | (教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標          | ①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。<br>②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。<br>③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。<br>④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。<br>⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。<br>⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。                    |
| キーワード         | 公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、<br>地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、<br>再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、<br>化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、<br>電気自動車、自動運転、人口知能 (AI) の進化、環境マネジメントシステム、<br>ライフスタイルの変革            |
| 成績評価 (合格基準60) | 中間評価試験 (50%) 及び最終評価試験 (50%) で成績を評価し、<br>総計60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                  |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                                                         |
| 教科書           |                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | ①改定 6 版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／<br>日本能率協会マネジメントセンター／ISBN： 978-4-8207-5952-2 C<br>3051<br>②不都合な真実 (アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-427000181<br>3)<br>③地球システムの崩壊 (松井 孝典、新潮選書)<br>④生命の多様性 (エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫) |
| 連絡先           | (個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp                                                                                                                                                                                |
| 注意・備考         |                                                                                                                                                                                                                         |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                    |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 比較文化論 (FB26W030)                          |
| 英文科目名 | Comparative Cultures                      |
| 担当教員名 | 高池久隆 (たかいけひさたか)                           |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                       |
|------|------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義の進め方、成績評価などについて説明する。                                     |
| 2 回  | ドイツという国について概観する。                                           |
| 3 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(1) (車社会、ルール、マイスター制度を中心に)       |
| 4 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(2) (メディア、余暇、環境問題を中心に)          |
| 5 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(3) (結婚、育児、学生生活を中心に)            |
| 6 回  | ドイツと日本の間に見られる大きな相違について説明する。(4) (大学、68年世代、サッカーを中心に)         |
| 7 回  | ドイツの食文化について説明する。                                           |
| 8 回  | ドイツの街道と都市およびショッピング事情について説明する。<br>中間試験を実施する。試験終了後解説をする。     |
| 9 回  | ドイツにおける代表的王、芸術家について説明する。                                   |
| 10 回 | ドイツにおける宗教の問題について説明する。                                      |
| 11 回 | オーストリア事情について説明する。                                          |
| 12 回 | ドイツの今後の課題について説明する。(1) (再統一の影響、文化の多元性を中心に)                  |
| 13 回 | ドイツの今後の課題について説明する。(2) (多民族国家ドイツ、「アウシュビッツ」の記憶を中心に)          |
| 14 回 | ドイツの今後の課題について説明する。(3) (EUとユーロを中心に)                         |
| 15 回 | ドイツおよび周辺諸国の変貌について説明する。                                     |
| 16 回 | 日本とドイツの共通点・相違点について総括的に説明する。<br>最終評価試験を実施する。<br>試験終了後解説をする。 |

| 回数   | 準備学習                                                   |
|------|--------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間60分)                      |
| 2 回  | テキストの9～24ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)             |
| 3 回  | テキストの25～35ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 4 回  | テキストの35～44ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 5 回  | テキストの44～52ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 6 回  | テキストの52～66ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 7 回  | テキストの67～78ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 8 回  | テキストの79～98ページを読み、質問事項を整理しておくこと。試験の準備をすること。(標準学習時間120分) |
| 9 回  | テキストの100～118ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 10 回 | テキストの119～130ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 11 回 | テキストの131～142ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 12 回 | テキストの143～150ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 13 回 | テキストの150～165ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 14 回 | テキストの165～178ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 15 回 | テキストの180～184ページを読み、質問事項を整理しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 16 回 | 試験の準備をすること。(標準学習時間120分)                                |



|             |                                                                                                                                                                            |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 異質な文化圏との比較を通じて自らの価値観を常に相対化することは、今日の社会を生きるために欠かせない姿勢である。本講義では、日本とドイツを比較し、文化の特殊・普遍の諸相について考察する。このことを通じて、受講生が固定化した価値観を柔軟に相対化できるよう、その手がかりの提供を目指す。（教養教育センター 単位認定の方針Bにもっとも強く関与。）  |
| 達成目標        | 文化の多様性について認識できること。さまざまな習慣の相違に遭遇したとき、優劣を問うのではなく、相違を生み出す文化的背景に関心を持つことができること。                                                                                                 |
| キーワード       | 文化、異文化、比較文化、ドイツ                                                                                                                                                            |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験（50%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                             |
| 関連科目        | 文学                                                                                                                                                                         |
| 教科書         | 最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ ― その文化・歴史・社会／高橋 憲／郁文堂／978-4-261-01265-1                                                                                                                |
| 参考書         | 適宜指示する。                                                                                                                                                                    |
| 連絡先         | B1号館2階 高池研究室                                                                                                                                                               |
| 注意・備考       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞やテレビ・ラジオのニュースなどを通して世界の動きに注目してほしい。</li> <li>・中間試験・最終評価試験終了後解説を行なう。</li> <li>・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。</li> </ul> |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                       |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 法学（FB26W040）                              |
| 英文科目名 | Law                                       |
| 担当教員名 | 佐藤元治（さとうもと はる）                            |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                        |
|------|-------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 法とは何かについての講義を行う。〔内容〕社会規範としての法、法と道德の違い                       |
| 2 回  | 六法の使い方についての説明を行う。〔内容〕六法とは？、六法の構造と使い方、条文の構造、条文の表記の仕方         |
| 3 回  | 法の体系についての講義を行う。〔内容〕法の存在形式による分類、成文法主義、成文法の体系                 |
| 4 回  | 法の分類についての講義を行う。〔内容〕法の内容による分類（公法と私法、一般法と特別法など）               |
| 5 回  | 法の効力についての講義を行う。〔内容〕法の効力とは？、法の始期と終期、法の遡及効、無効と取消し             |
| 6 回  | 法の適用についての講義を行う。〔内容〕法の適用とは？、事実認定の必要性和重要性                     |
| 7 回  | 法の解釈 についての講義を行う。〔内容〕文理解釈、論理（目的）解釈                           |
| 8 回  | これまでの授業内容の総括を行う。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。 |
| 9 回  | 司法制度についての概説の講義を行う。〔内容〕裁判所の種類と関係、三審制度                        |
| 10 回 | 裁判官という法律家についての講義を行う。〔内容〕司法権の独立と裁判官の市民的自由                    |
| 11 回 | 検察官という法律家についての講義を行う。〔内容〕検察官の職務内容、検察審査会、検察の不祥事とその防止策         |
| 12 回 | 弁護士という法律家についての講義を行う。〔内容〕弁護士の使命、弁護士偏在の問題、法テラス、当番弁護士制度        |
| 13 回 | 刑事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕刑事裁判の目的、構造、手続、冤罪とその防止策            |
| 14 回 | 国民の司法参加についての講義を行う。〔内容〕諸外国の国民の司法参加（陪審制、参審制）、日本の裁判員制度とその問題点   |
| 15 回 | 民事裁判の仕組みと現状についての講義を行う。〔内容〕民事裁判の目的、構造、手続、少額訴訟                |
| 16 回 | 最終評価試験および全体の総括を行う。                                          |

| 回数  | 準備学習                                                                                                                                  |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | このシラバスを熟読し、授業内容全体を確認すること。初回の授業で講義の進め方と履修上の注意などを説明するので必ず参加すること（やむを得ず初回授業に出られなかった場合、次回授業までに必ず担当教員に申し出ること）。（標準学習時間60分）                   |
| 2 回 | 第1回の授業内容である法の特徴を正確に理解し、復習しておくこと。購入した自分の六法の中身を見ておくこと。（例えば、どんな法令が幾つ収録されているか？国語や英語の辞書と違う点は何か？など）ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 3 回 | 第2回の授業で教えた六法の基本的な使い方、条文の構造、表記の仕方などについてきちんと復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                           |
| 4 回 | 第3回の授業内容の法の体系について、法の種類と関係を正確に理解し、復習しておくこと（授業で示した体系図がすぐに思い出せるようにしておくこと）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                       |
| 5 回 | 第4回の授業内容の法の内容による分類について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                        |
| 6 回 | 第5回の授業内容の法の効力について正確に理解し、復習しておくこと（特に法の遡及効や、無効と取消しの違いなど）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                       |
| 7 回 | 第6回の授業内容の法の適用について正確に理解し、復習しておくこと（特に事実認定の必要性・重要性など）。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                           |
| 8 回 | 第7回の授業内容の法の解釈について正確に理解し、復習しておくこと（解釈の種類と具体例をセットで覚えておくこと）。また、中間テストを行うので、第1回から第7回までの内容を復習し                                               |

|     |                                                                                                                                                  |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | ておくこと。（標準学習時間180分）                                                                                                                               |
| 9回  | インターネットで最高裁判所のHPを探して、裁判所の組織などを観ておくこと。また、現在の最高裁判所長官が誰なのか、その氏名を調べておくこと。（標準学習時間60分）                                                                 |
| 10回 | 第9回の授業で説明した裁判所の種類と三審制度について正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                               |
| 11回 | 第10回の授業で扱った裁判官の市民的自由の問題について、なぜその問題が重要なのか、またどのようなあるべきなのかについて自身の考えをまとめておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                               |
| 12回 | 第11回の授業で扱った検察官の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、検察審査会の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                            |
| 13回 | 第12回の授業で扱った弁護士の職務内容について正確に理解し、復習しておくこと。また、法テラスや当番弁護士制度の内容やその重要性についても正確に理解し、復習しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                     |
| 14回 | 第13回の授業内容の刑事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に有罪・無罪の判定について）。最高裁判所のHP等で裁判員制度の紹介をしている箇所を見つけて、おおよその内容を調べておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分） |
| 15回 | 第14回の授業で説明した諸外国の国民の司法参加と日本の裁判員制度の異同について正確に理解し、整理しておくこと。ブログの配布資料で次回授業内容の概要を予習しておくこと。（標準学習時間120分）                                                  |
| 16回 | 第15回の授業内容の民事裁判の仕組みと手続について正確に理解し、復習しておくこと（特に和解について）。また、刑事裁判との異同について、整理しておくこと。第9回から第15回までの授業内容について復習しておくこと。（標準学習時間180分）                            |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的          | 学生の皆さんにとって法とか裁判というと、何だか難しそうで自分とは関わりのないもののように思われるかもしれない。しかし、私たちは既に法がとりまく社会の中で生活していて、将来、裁判に関わらざるを得ないことになるかもしれない。そうであるなら、一般市民として必要な法や裁判に関する知識や考え方を身につけておくことは自身にとっても有益なことであるし、また一般市民が法や裁判に関心を持つことは司法制度の向上にも必要不可欠であるといえる。この授業では、そのような法や裁判についての基本的な知識や考え方を具体的な事例や裁判例を交えて分かりやすく解説し、法や裁判に関する問題点について一緒に考えてもらうことを目的とする。また初めて法学を勉強する者のための学習のコツなども適宜教えたいと思っている。（教養教育センター単位認定方針のCにもっとも強く関与する）      |
| 達成目標          | ①法および司法制度に関する基礎的知識と基本的な考え方を習得すること。②六法を使って必要な条文が検索できるようになること。③法および司法制度にまつわる諸問題について、問題点を正確に把握したうえで、自身の考えを適切に表明できるようになること。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| キーワード         | 法、司法、法律家、裁判、裁判員制度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 成績評価（合格基準60%） | 授業内小テスト・レポート（計4回、各10%）＋中間テスト（30%）＋最終評価試験（30%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 関連科目          | 日本国憲法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書           | ポケット六法平成30年版 / 山下友信・宇賀克也（編集代表） / 有斐閣 / ISBN 978-4-641-00918-9                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | 授業中に適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 連絡先           | B3号館（旧24号館）4階研究室                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 注意・備考         | ①指定の六法は必ず毎回持参すること。六法を忘れたときは授業前に必ず申し出て、指示を受けること（無断で授業を受けないように）。<br>②授業中の録音・録画・撮影は認めない（電子機器の使用不可）。ただし特別の理由がある場合は、事前に相談すること。<br>③テキストとしての教科書の代わりとして、事前に次回の授業内容を示した資料（レジュメ）を当日までブログにアップしておくので、プリントアウトしたりノートに書き写すなどして予習に使い、授業当日に持参すること（ブログのアドレス等、詳しくは初回授業で説明する）。<br>④小テストについては採点の後いったん返却し、訂正・復習のうえ再提出してもらう。最終テストについては試験後に解説を行う。<br>⑤新聞・ニュースをかかさずチェックし、実際の社会で起きている出来事や事件・裁判などに関心を持つようにすること。 |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 日本の文化と歴史Ⅱ (FB26W050)                      |
| 英文科目名 | Culture and History of Japan II           |
| 担当教員名 | 小林博昭* (こばやしひろあき*)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 3時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                            |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について、説明する。その後、日本文化の始まりの時代ー旧石器時代ーを概観する。さらにこの時代の日本列島と極東アジアの地形的な関係や、それに起因する日本列島への人類、動物などの移動にもついてふれる。受講生の理解を促進するために、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示する。 |
| 2 回  | 旧石器時代の文化を補足説明する。その後、次の時代である縄文時代を概観する。そして、この時代の文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                                        |
| 3 回  | 前回に続いて、縄文時代の文化の補足説明の後、弥生時代を概観しこの時代に海外から入ってきた様々な文化について説明する。とくに我が国の基層文化である稲作文化が、弥生時代から開始されており、この文化について詳しく説明する                                                                     |
| 4 回  | 弥生時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化について図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                                                                               |
| 5 回  | 前回に続いて、この時代の文化について、古墳自体の移り変わりや、当時の人々が作り出した様々なモノについて、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を通じて説明する。                                                                                            |
| 6 回  | 古墳時代の文化について補足説明をした後、奈良時代を概観する。そして、この時代の文化について、建築物、美術、書物、当時の首都の様子、そのあり方等について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                 |
| 7 回  | 奈良時代の文化について、補足説明をする。さらにこれまでの講義内容の整理とまとめをおこなう。                                                                                                                                   |
| 8 回  | 今まで扱ってきた日本の文化とその歴史の補足説明をする。中間試験を実施する。                                                                                                                                           |
| 9 回  | イントロダクション：講義の内容や、進め方、受講に際しての注意すべき点について説明する。その後、平安時代を概観し、この時代の諸文化についてOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                         |
| 10 回 | 前回に続いて、平安時代の文化を説明した後、時間的余裕があれば、鎌倉時代を概観する。                                                                                                                                       |
| 11 回 | 鎌倉時代の文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                                                                                 |
| 12 回 | 鎌倉時代の文化を補足説明した後、室町時代を概観し、その文化についてOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                                                            |
| 13 回 | 室町時代の文化について補足説明の後、安土桃山時代を概観し、その文化についてOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                                                        |
| 14 回 | 安土桃山時代の文化について補足説明した後、江戸時代を概観し、この時代の文化をOHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。                                                                                                       |
| 15 回 | 江戸時代の文化の補足説明の後、明治時代の概観とその文化について、OHP、スライドプロジェクターによる様々な画像を提示しながら説明する。さらに、これまでの講義内容の整理と、まとめをおこなう。                                                                                  |
| 16 回 | 今まで扱ってきた各時代の諸文化の補足説明をした後、最終評価試験を実施する。                                                                                                                                           |

| 回数  | 準備学習                                                                      |
|-----|---------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスの注意事項を熟読しておくこと。日本の旧石器時代について、図書館などで予習しておくこと。(標準学習時間 120分)              |
| 2 回 | 旧石器時代の文化について、ノートを中心に復習し、縄文時代の文化の内容を図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)           |
| 3 回 | 弥生時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化について図書館等で、予習しておくこと。(標準学習時間 120分)         |
| 4 回 | 古墳時代の文化について、ノートを中心に復習すること。古墳時代の文化の内容についてさらに詳しく図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分) |

|     |                                                                                                                      |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5回  | 古墳時代の文化について、ノートを中心に復習すること。また次回の奈良時代の文化について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                               |
| 6回  | 奈良時代の文化について、ノートを中心に復習すること。また、第1回目から今までの講義の内容のまとめと整理を各自おこない、そして疑問点などがあれば、次回の講義時に質問すること。(標準学習時間 120分)                  |
| 7回  | 第1回から第7回までの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                                  |
| 8回  | これまでの講義内容についての復習を十分におこなうこと。(標準学習時間 120分)                                                                             |
| 9回  | シラバスの注意事項を熟読し、さらに平安時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                              |
| 10回 | 平安時代の文化をノートを中心に復習すること。鎌倉時代の文化について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                         |
| 11回 | 鎌倉時代の文化について、ノートを中心に復習すること。室町時代の文化について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                    |
| 12回 | 室町時代の文化について、ノートを中心に復習し、安土桃山時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                  |
| 13回 | 室町時代の文化について、ノートを中心に復習し、安土桃山時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                                  |
| 14回 | 江戸時代の文化について、ノートを中心に復習し、明治時代の文化の内容について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第1回からこれまでに習った事柄のまとめと整理を各自おこない、疑問点があれば次回に質問すること。(標準学習時間 120分) |
| 15回 | 明治時代の文化について、ノートを中心に復習すること。第9回からこれまでの講義のポイントを各自まとめて、十分に復習しておくこと。(標準学習時間 120分)                                         |
| 16回 | この回を含めて、いままでの講義内容についての復習を各自おこなうこと。(標準学習時間 120分)                                                                      |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 日本人の過去の生活から生み出され、醸成されてきた日本の様々な文化について、原始古代から明治時代までの各時代におけるその特色や、歴史的な形成過程をみていく。このことによって、外国人留学生の日本文化に対する理解を深め、さらには日本人や、日本の生活に一層の理解と親近感を持ってもらうことを目的とする。(教養教育センターの単位認定方針項目Bにもっとも強く関与する)                                                                                                                                                                                    |
| 達成目標        | 1. 日本の文化や、日本人の暮らしぶりを理解する。<br>2. 日本の歴史について、概略を習得する。<br>3. 日本の文化と母国の文化との差違、類似点を説明できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| キーワード       | “日本史”、“日本文化史”、“日本思想史”                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 成績評価（合格基準60 | 中間テスト（50%）、最終評価試験(50%)により、成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 関連科目        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 教科書         | 使用しない。講義の進行過程で資料をプリント等で配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参考書         | 講義の進行過程で、適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 注意・備考       | (1) この科目は、外国人留学生を対象とする科目であり、日本人学生は対象外となる。(学生便覧参照)<br>(2) 毎回出欠をとる。<br>(3) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は欠席扱いとなる。<br>(4) 講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用して配布することがある。この場合は、事前に連絡する。<br>(5) 講義中の録音/録画/撮影等は原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。<br>(6) 試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。<br>(7) 毎回、辞書(電子辞書で良い)を持参すること。 |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 日本史 (FB26X020)                            |
| 英文科目名 | Japanese History                          |
| 担当教員名 | 小林博昭* (こばやしひろあき*)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                   |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | イントロダクション。授業の進め方を説明する。くわえて弥生時代の特色や、この時代の時期区分について説明する。                                                                                                  |
| 2 回  | 弥生時代に海外から伝播した技術について、水田によるコメ作り技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                                             |
| 3 回  | 前回に続いて、水田によるコメ作りの技術について補足説明し、さらにガラス加工技術について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。時間的余裕があれば、青銅器加工技術についても説明する。                                          |
| 4 回  | 前回から続いて、弥生時代におこなわれた青銅器加工技術と青銅製武器の変遷過程について説明した後、鉄器の加工技術と製品についてOHCを用いながら、配布プリントを中心に説明する。                                                                 |
| 5 回  | 青銅器や鉄器加工技術の補足説明と、それら製品を説明した後、古墳時代へつなげる意味で、弥生時代の墓制の変遷について、西日本の各地域における例を説明する。今回は、そのなかで北部九州の具体例にスポットを当てて、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。               |
| 6 回  | 畿内の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について、さらに日本海側、とくに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                  |
| 7 回  | 瀬戸内地域、とくに岡山県の特集集団墓について説明する。さらに後期中頃から出現する規模の大きなそれらの墓とその特徴について具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。くわえて、初回以降、今回までの授業内容の整理とまとめをおこない、受講生の当授業内容への理解の深化を促す。 |
| 8 回  | 第1回目から第7回目までの授業で扱った歴史的な事象についての補足説明をおこなう。ここまでの授業内容について、中間的な評価のための試験を実施する。(試験会場等の関係で、8回目にこの試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)                   |
| 9 回  | 古墳時代の概要や、この時代の時期区分について、OHC等を用いて説明する。                                                                                                                   |
| 10 回 | 古墳出現前夜の様相について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに箸墓を中心に、出現期古墳の特色を説明する。                                                                         |
| 11 回 | 古墳時代、前期、中期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                                             |
| 12 回 | 前回に続いて、古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、その具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                                                                     |
| 13 回 | 古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景についての追加説明をする。これに加えて、古墳時代に残された金石文について、そこから読み取れる大陸との交渉の状況等、それら具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。                            |
| 14 回 | 前回に続いて、金石文のなかから、具体例を説明する。さらに、古墳時代末期について説明する。これらの説明には、スライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用する。                                                                      |
| 15 回 | 古墳時代末期の補足説明と、古墳時代のロジスティクス(物流)について、具体例をスライドプロジェクター、配布プリントやOHCを使用しながら説明する。さらに、これまでの授業内容の整理とまとめをおこなう。                                                     |
| 16 回 | 今まで扱ってきた歴史事象の補足説明をする。最終評価試験を実施する。(試験会場等の関係で、16回目に最終試験実施が困難な場合、通常通り講義をおこない、試験予備日に同試験を実施することがある)                                                         |

| 回数  | 準備学習                                                                                            |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回 | シラバスの注意事項を熟読しておくこと。弥生時代の特色、そして時期区分の方法についてノートを中心に復習すること。弥生時代のコメ作りについて、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 2 回 | 弥生時代の水田によるコメ作り技術について十分に復習すること。弥生時代のガラス製品について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                          |

|      |                                                                                                                                         |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 回  | 弥生時代のコメ作りやガラス加工技術について、復習すること。弥生時代に製作、使用された青銅器について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                            |
| 4 回  | 青銅器加工技術や青銅製武器の移り変わり、そして鉄器の加工技術と製品について、配布プリントを中心に十分復習すること。弥生時代の鉄器についてどのような種類があるのか、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 5 回  | 北部九州の弥生時代の墓制について復習をおこなうこと。畿内の弥生時代の墓制、とくに方形周溝墓について図書館等で予習しておくこと。さらに出雲地域における弥生時代の特定集団墓について、その構築技術などを図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)            |
| 6 回  | 畿内、および出雲地域の弥生時代における墓構築技術と社会的背景について説明できるように復習をおこなうこと。くわえて、岡山県の弥生時代の特定集団墓について予習をしておくこと。(標準学習時間120分)                                       |
| 7 回  | 第1回目から第7回目までの授業のポイントを各自まとめて再度確認し、内容を十分理解しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                             |
| 8 回  | これまでの授業で習った歴史的な事象について、復習を十分おこなうこと。さらに古墳時代の概要や、特徴について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                         |
| 9 回  | 古墳時代の概要や特徴をノートを中心に復習し、さらに古墳出現前夜の様子を図書館等で、調べておくこと。(標準学習時間120分)                                                                           |
| 10 回 | 古墳出現前夜の様相について、また箸墓などの出現期古墳の特色を説明できるように復習すること。くわえて、古墳時代の文化と駆使された技術を中心に図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                         |
| 11 回 | 古墳時代前期、中期の物質文化やそれらに採用された技術について、復習しておくこと。さらに古墳時代後期の物質文化と採用された技術について図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                                            |
| 12 回 | 古墳時代中、そして後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代に残された文字資料について、図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 13 回 | 古墳時代後期の物質文化と採用された技術、社会的背景について、そして習った金石文について配布プリントやノートを中心に十分復習しておくこと。また、古墳時代終末期の様子を図書館等で予習しておくこと。(標準学習時間120分)                            |
| 14 回 | これまでの授業で扱った金石文と、古墳時代末期の内容について十分に復習をすること。また、古墳時代の物流について、図書館等で予習しておくこと。さらに、第9回からこれまで習ったことの内容のまとめと整理を各自おこない、質問などをノートにメモしておくこと。(標準学習時間120分) |
| 15 回 | 古墳時代の物流と、第1回から第7回までの授業のポイントを各自まとめて、十分復習しておくこと。(標準学習時間120分)                                                                              |
| 16 回 | ここまでの授業内容についての復習をおこなうこと。(標準学習時間120分)                                                                                                    |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 主として、日本列島内における古代史を扱う。具体的には物質文化の発達過程に視座をおき、列島の弥生時代から最もミステリアスな時代といわれる古墳時代、さらに乙巳の変を経て、大化の薄葬令発布前後までの時代における人々が製作した「もの」から、当時の文化を復原し、時系列の中でそれらの変遷の様相や、極東アジア地域からの文化伝播の問題に関して述べる。(教養教育センターの単位認定方針項目Bにもっとも強く関与する)                                                                                                |
| 達成目標         | 我が国の国家形成等にかかわる古代史を構成する諸要素を時系列の中で客観的に把握し、その因果関係をはじめ、歴史的な事象とその背景について分析できる力と、分析結果について深く考察できる力を習得する。                                                                                                                                                                                                       |
| キーワード        | “古代”、“弥生時代”、“古墳時代”、“日本史”                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 成績評価（合格基準60） | 中間テスト（50%）、最終評価試験（50%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 関連科目         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 教科書          | 使用しない。講義の進行過程で、資料をプリント等で配布する。                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 参考書          | 講義の進行過程で適宜紹介する。                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 連絡先          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 注意・備考        | (1) 毎回出欠をとる。(2) ケガ、病気、その他で欠席した場合は、それらを証明するもの、また就活等で欠席した場合、活動報告書を提出すること。これらが無い場合は、欠席扱いとなる。(4) 講義資料は主に講義開始時に配布する。特別な事情が無い限り、後日の配布には応じない。なお、Momo-campus等を利用することがある。その場合は、事前に受講生に連絡する。(5) 講義中の録音/録画/撮影等は、原則認めない。特別な事情がある場合は、事前に相談すること。(6) 試験結果のフィードバックは、Momo-campus等による。(7) 受講者数が100名を超える場合、受講制限をする可能性がある。 |
| 試験実施         | 実施する                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 論理学 (FB26X030)                            |
| 英文科目名 | Logic                                     |
| 担当教員名 | 中島聡 (なかしまさとし)                             |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 金曜日 4時限                                   |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション。講義の進め方を説明する。序論として、論理学の定義・その学問的な特徴・論理的な推論の形態について説明する。          |
| 2 回  | 西洋の古代・中世の論理学の歴史を概説する。                                                   |
| 3 回  | 西洋の近現代の論理学の歴史を概説する。                                                     |
| 4 回  | 伝統的論理学(1) 名辞(概念)の意味と種類、外延と内包、定義について説明する。                                |
| 5 回  | 伝統的論理学(2) 命題(判断)の性質・種類・標準形式、周延不周延について説明する。                              |
| 6 回  | 伝統的論理学(3) 直接推理の性質、種類として対当推理・変形推理について説明する。                               |
| 7 回  | 伝統的論理学(4) 間接推理のうち、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について説明する。                         |
| 8 回  | 古代論理学の歴史と基礎的な事項についてのここまでの講義内容を振り返ると同時にここまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。 |
| 9 回  | 帰納論理学(1) 帰納法の性質・種類、ミルの五つの実験的探求の方法について説明する。                              |
| 10 回 | 帰納論理学(2) パースのアブダクション(仮説形成推理)の論理形式・性質・特徴について説明する。                        |
| 11 回 | 命題論理学(1) 命題論理学の基本と論理式作成について説明する。                                        |
| 12 回 | 命題論理学(2) 真理値分析、つまり命題論理式の真偽計算の方法について説明する。                                |
| 13 回 | 命題論理学(3) 三つの命題形式の性質・特徴と真偽計算の方法(恒真性テスト・恒偽性テスト)について説明する。                  |
| 14 回 | 述語論理学(1) 述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法について説明する。                                 |
| 15 回 | 述語論理学(2) 解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法(妥当性テスト・矛盾性テスト)について説明する。                      |
| 16 回 | 1 回から15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。                                          |

| 回数   | 準備学習                                                            |
|------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 講義全体の学習内容を、シラバスで確認しておくこと。(標準学習時間60分)                            |
| 2 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の古代・中世論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 3 回  | 教科書第一部「西洋論理学の思想的背景」を読み、西洋の近現代論理学の歴史の概略を把握しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 4 回  | 教科書第二部「名辞」を読み、名辞(概念)の意味、外延と内包、種類、定義について予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 5 回  | 教科書第二部「命題」を読み、命題(判断)の性質、種類と標準形式、周延不周延について予習しておくこと。(標準学習時間120分)  |
| 6 回  | 教科書第二部「直接推理」を読み、推理の性質、その種類として対当推理・変形推理について予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 7 回  | 教科書第二部「間接推理」を読み、定言的三段論法の形式・要素、格式の基本形について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 8 回  | ここまでの授業内容についての復習を行うこと。(標準学習時間180分)                              |
| 9 回  | 教科書第二部「帰納法」を読み、帰納法の性質・種類、ミルの実験的探求の方法について予習しておくこと。(標準学習時間120分)   |
| 10 回 | 教科書第二部「仮説形成推理と探求の論理」を読み、パースのアブダクションの性質を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 11 回 | 教科書第二部「命題論理学の基本的事項」を踏まえ、論理式の作成手順を予習しておくこと。(標準学習時間120分)          |
| 12 回 | 教科書第二部「命題計算」を読み、命題論理式の真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)             |
| 13 回 | 教科書第二部「恒真式・恒偽式」を読み、三種類の命題形式の性質と真偽計算の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |
| 14 回 | 教科書第二部「述語と量化」を読み、述語論理学の基本的立場と量化式の作成の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分)    |



|     |                                                            |
|-----|------------------------------------------------------------|
| 15回 | 教科書第二部「妥当式 矛盾式」を読み、解釈の意味と妥当式の真偽判定の方法を予習しておくこと。(標準学習時間120分) |
| 16回 | 1回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)                    |

|             |                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 伝統的論理学、帰納論理学、命題論理学、述語論理学という西洋の代表的な四つの論理学を取り上げ、各々の論理学の基礎的な事項を学習する。論理学は根本的・形式的な学問である。基礎的な知識・技法をしっかりと学習することで、社会生活上での問題解決能力や言語表現力・プレゼンテーション等のコミュニケーション能力も上達する。論理学の基礎的な学習とその応用・展開を目的としている。(教養教育センター単位認定のBにもっとも強く関与する) |
| 達成目標        | ①西洋論理学の基礎について正確な理解ができる。<br>②初級的な推論の問題演習を通して、その技法を習得できる。<br>③言語の記号処理と真偽の判定ができる。<br>④社会生活上での問題解決能力や幅広い場でのコミュニケーション能力が展開ができる。                                                                                       |
| キーワード       | 西洋論理学の歴史 概念・命題・推理 論理的推論の形態と技法 自然言語の記号処理<br>論理式の真偽計算 述語と量化                                                                                                                                                        |
| 成績評価（合格基準60 | 中間試験(40%)、最終評価試験(60%)により成績を評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                |
| 関連科目        | なし。                                                                                                                                                                                                              |
| 教科書         | 論理学研究／中島 聡／ふくろう出版／978-4-861865466                                                                                                                                                                                |
| 参考書         | 教科書巻末に掲載した参考文献を参照のこと。                                                                                                                                                                                            |
| 連絡先         |                                                                                                                                                                                                                  |
| 注意・備考       | 論理学はその内容が文系理系の両分野にわたる学問である。学習成果を確実に積み上げていくには復習が必須である。毎週講義の後は必ず復習をして、不明な箇所を確認しておいてください。一層理解できるようになります。                                                                                                            |
| 試験実施        | 実施する                                                                                                                                                                                                             |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 環境と社会 (FB26X040)                             |
| 英文科目名 | Environment and Society                      |
| 担当教員名 | 剣持堅志＊ (けんもつかたし＊)                             |
| 対象学年  | 1 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 金曜日 4時限                                      |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                                                    |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | なぜ今環境問題に真剣に取り組む必要があるのかについて講義する。日常生活において環境問題が切実な問題だと考える人はまだ少ないが、真剣に取り組まないでこのまま放置しておく、人類の生存にも関わる重大な問題になることを提起する。また、電気自動車や自動運転の開発、人工知能(AI)の急激な発達などが及ぼす社会及び環境への影響についても講義する。 |
| 2 回  | 日本で発生した深刻な公害(足尾鉍毒事件、水俣病、イタイイタイ病、四日市ぜんそくなど)やPCBによるカネミ油症事件などについて講義し、これらの問題が発生した原因と背景、これを解決するために国や自治体、企業、そして国民が如何に対処し、対応したかについて講義する。                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害・環境問題や事故について講義する。私たちが暮らす身近な場所でも、過去には深刻な公害や事故が発生し、自治体、企業、地域住民などはその解決にいかにより努力し、克服していったかについてについて解説する。                                                           |
| 4 回  | 地球の歴史や今地球で起きている人口問題、食糧自給、貧困・格差の拡大、政治における反グローバル主義の台頭、その影響、課題などについて講義する。                                                                                                  |
| 5 回  | 地球レベルで進む森林破壊や砂漠化、水資源の不足、酸性雨、深刻な大気汚染、オゾン層の破壊などの現状と対策について講義する。                                                                                                            |
| 6 回  | 地球温暖化の現状とその原因、今後に予想される地球温暖化の影響について講義する。また、地球温暖化防止に関する国際協力の歴史とその枠組み、地球温暖化対策の現況、私たちが実践できる地球温暖化対策について講義する。                                                                 |
| 7 回  | 日本のエネルギー自給の現状とエネルギー自給における電力の役割、原子力発電の仕組み、メリット及びデメリット、核燃料サイクルと再処理について講義する。また、福島第一原発事故直後の現地の状況についても講義する。                                                                  |
| 8 回  | 原子力発電に換わるエネルギー源として注目されている太陽光、風力、バイオマス発電等の仕組みと再生可能エネルギーを活用する上での問題点について講義する。<br>中間評価試験を実施                                                                                 |
| 9 回  | 水の循環と海洋の働き、水質汚濁の指標、水環境汚染が生じる原因、その歴史、対策について講義する。<br>水環境汚染を防止するための法制度、水質浄化施設の機能と役割、安全で安心な水道水を供給するための仕組みについて講義する。                                                          |
| 10 回 | 大気環境汚染が生じる原因、その歴史と対策、大気環境汚染の指標と汚染を防止するための法制度(環境基準等)について講義する。大気汚染防止のための技術開発、諸外国における大気汚染の現状と越境汚染問題について講義する。                                                               |
| 11 回 | 化学物質汚染とそのリスクと対策、海洋汚染、生物汚染、人体汚染、食品汚染等の現状について講義する。また、非意図的な有害物質の生成、遠隔地への輸送等についても講義する。                                                                                      |
| 12 回 | 循環型社会実現の必要性と課題について講義する。<br>廃棄物問題の歴史、廃棄物処理の現状と課題、3R(リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle))の現状とその課題について講義する。                                                           |
| 13 回 | 環境モニタリング技術について講義する。環境中に微量に存在する有害化学物質の高感度分析技術、大気、水質、放射線などの監視測定技術、微生物汚染の検査技術の進歩について講義する。                                                                                  |
| 14 回 | 自動車の排ガス規制がもたらした技術の進歩と企業の努力について講義する。自動車の出現が社会・経済に与えたインパクト、自動車排ガス問題に対する規制の歴史について講義する。自動車排ガスクリーン化や、燃費の向上のための技術開発、電気自動車への急激な移行や自動運転車の開発などの影響についても講義する。                      |
| 15 回 | 技術の進歩がもたらす環境や社会経済へのインパクトについて講義する。シェール革命が与えたエネルギー供給へのインパクト、太陽光発電や電気自動車の開発に見られる急速な技術開発、自動運転、人工知能(AI)などの進歩がもたらす社会への衝撃について講義する。                                             |
| 16 回 | かけがえのない地球を次世代に残すため、「持続可能な社会実現」に向けた国際機関、国、自治体の活動と市民が果たすべき役割について講義する。<br>環境マネジメントシステムの導入、ライフスタイルの変革、地域協働の大切さについて延べ、講                                                      |

|  |                       |
|--|-----------------------|
|  | 義を締めくくる。<br>最終評価試験を実施 |
|--|-----------------------|

| 回数   | 準備学習                                                                                                         |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 自分なりに考えている環境問題を文章にまとめておくこと。特に将来どのような問題が重要になるのかを考えておくこと。参考書①の構成と目次（４～９）などを参照し、興味のある章を勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分） |
| 2 回  | 日本で発生してきた主要な公害問題や食品汚染などについて、参考書やインターネットなどを参照して調査しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                       |
| 3 回  | 岡山県内で発生した公害、環境問題についてインターネットなどを参照してまとめておくこと。水島工業地帯で発生した重油流失事故、日本海で発生したナホトカ号重油流出事故についても講義する。<br>（標準学習時間60分）    |
| 4 回  | 参考書①第２～３章、インターネットなどを参照して、地球の歴史と現在地球が直面している課題について学習しておくこと。                                                    |
| 5 回  | 地球レベルの環境破壊について、参考書①３-４、３-６章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                           |
| 6 回  | 地球温暖化の原因と現状について、参考書①３-１章、インターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                              |
| 7 回  | 原子力発電所事故等について、参考書①３-８章などを勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                            |
| 8 回  | 再生可能エネルギーについて、参考書①３-２章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>評価試験を行うので、今までの講義をよく理解しておくこと。（標準学習時間120分）<br>評価試験の範囲は１～８回   |
| 9 回  | 生活を支える水環境の保全について、参考書①３-６章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。機会があれば、浄水場、下水処理場、児島湖、ダム湖等を見学しておくこと。                         |
| 10 回 | 生活を支える水環境の保全について、参考書３-６章や参考書やインターネットなどで大気汚染情報など関連するニュースを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                         |
| 11 回 | 化学物質汚染について、参考書３-７章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                    |
| 12 回 | 循環型社会について、参考書３-５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                                     |
| 13 回 | インターネットなどで、どのような技術が環境監視や環境・食品汚染等の測定に使用されているか事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                             |
| 14 回 | インターネットなどで、自動車排ガス規制の規制の歴史と自動車メーカーの対応状況について事前に情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                               |
| 15 回 | インターネットなどで、自動運転技術の現状と将来、その影響について情報収集して文章にまとめておくこと。<br>（標準学習時間60分）                                            |
| 16 回 | 各主体の役割と取り組みについて、参考書５章やインターネットなどを参照して勉強しておくこと。<br>また、評価試験の準備を行うこと。（標準学習時間１２０分）<br>評価試験の範囲は９～16回               |

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的 | 地球誕生以来培われてきた自然に対して人類が如何に影響を与えてきたかを学び、自然の大切さを知り、これを保全していく努力が必要なことを講義する。<br>過去に発生した公害・環境問題を如何に人々が如何に克服してきたかを知り、喫緊の課題となっている地球温暖化問題についてその重要性を認識し、ライフスタイルを変革していく必要があることを講義する。<br>更に今後の企業社会を支えていく学生に、課題を解決するための技術開発が課題解決の原動力になってきたこと、逆にこうした技術開発が社会経済や私たちの生活に大きな影響を与える可能性があること、また、課題を解決するためには、時には社会構造を変革する必要もあることを講義する。 |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|               |                                                                                                                                                                                                                         |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               | (教養教育センター 単位認定の方針Cにもっとも強く関与。)                                                                                                                                                                                           |
| 達成目標          | ①地球の歴史と自然の大切さを学ぶ。<br>②過去の公害・環境問題について学び、環境問題の重要性について認識する。<br>③様々な課題解決の努力が技術の進歩につながることを学ぶ。<br>④環境問題を解決するためにはエネルギーの適切な使用が大切なことを学ぶ。<br>⑤学生、社会人として必要となる環境保全の基礎知識を習得する。<br>⑥環境問題は社会の仕組みや経済と密接に関連していることを学ぶ。                    |
| キーワード         | 公害、環境問題、人口問題、貧困・格差の拡大、グローバル主義と反グローバル主義、<br>地球環境問題、地球温暖化、酸性雨、オゾン層破壊、代替エネルギー、<br>再生可能エネルギー、原子力発電、原子力事故、水質汚染、大気汚染、<br>化学物質汚染、食品汚染、循環型社会、リサイクル、環境モニタリング、<br>電気自動車、自動運転、人口知能 (AI) の進化、環境マネジメントシステム、<br>ライフスタイルの変革            |
| 成績評価 (合格基準60) | 中間評価試験 (50%) 及び最終評価試験 (50%) で成績を評価し、<br>総計60%以上を合格とする。                                                                                                                                                                  |
| 関連科目          |                                                                                                                                                                                                                         |
| 教科書           |                                                                                                                                                                                                                         |
| 参考書           | ①改定 6 版 eco検定(環境社会検定試験)®」公式松井孝典テキスト／東京商工会議所／<br>日本能率協会マネジメントセンター／ISBN： 978-4-8207-5952-2 C<br>3051<br>②不都合な真実 (アルゴア著、ランダムハウス講談社) ISBN 978-427000181<br>3)<br>③地球システムの崩壊 (松井 孝典、新潮選書)<br>④生命の多様性 (エドワード・O. ウィルソン、岩波現代文庫) |
| 連絡先           | (個人メール) katashi_kenmotsu@festa.ocn.ne.jp                                                                                                                                                                                |
| 注意・備考         |                                                                                                                                                                                                                         |
| 試験実施          | 実施する                                                                                                                                                                                                                    |

|       |                                                                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目名   | 岡山学（VOD）（FB26Z030）                                                                                         |
| 英文科目名 | Okayamaology                                                                                               |
| 担当教員名 | 亀田修一（かめだしゅういち）、白石純（しらいしじゅん）、大藪亮（おおやぶあきら）、波田善夫（はだよしお）、西戸裕嗣（にしどひろつぐ）、北川文夫（きたがわふみお）、志野敏夫（しのとしお）、能美洋介（のうみようすけ） |
| 対象学年  | 1 年                                                                                                        |
| 開講学期  | 秋学期                                                                                                        |
| 曜日時限  | 集中講義 その他                                                                                                   |
| 対象クラス | 理学部（～15）、工学部（～15）、総合情報学部（～15）、生物地球学部（～15）                                                                  |
| 単位数   | 2.0                                                                                                        |
| 授業形態  | 講義                                                                                                         |

| 回数   | 授業内容                                                                                            |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | 「旭川の概要」というテーマで、能美が旭川の上流から下流までの概要を説明する。<br>（担当：能美 洋介）<br><br>（能美 洋介）                             |
| 2 回  | 「蒜山の地史」というテーマで、西戸が旭川最上流部に位置する蒜山地域の地史について説明する。<br>。（担当：西戸 裕嗣）<br><br>（西戸 裕嗣）                     |
| 3 回  | 「蒜山の自然と植物」というテーマで、波田が旭川最上流部の蒜山地域の自然と植物について説明する。<br>（担当：波田 善夫）<br><br>（波田 善夫）                    |
| 4 回  | 「遺構や遺物から見た原始・古代の蒜山」というテーマで、白石が旭川最上流部の蒜山地域の原始・古代について考古資料をもとに説明する。<br>（担当：白石純）<br><br>（白石 純）      |
| 5 回  | 「神庭滝とその周辺の岩石」というテーマで、能美が旭川上流部に位置する神庭滝とその周辺の岩石について説明する。<br>（担当：能美 洋介）<br><br>（能美 洋介）             |
| 6 回  | 「旭川中流域の自然と植生」というテーマで、波田が旭川中流域の自然と植生について説明する。<br>（担当：波田 善夫）<br><br>（波田 善夫）                       |
| 7 回  | 「久世に白猪屯倉はあったのか」というテーマで、亀田が旭川中流域の久世地域にあったと言われている白猪屯倉について説明する。<br>（担当：亀田 修一）<br><br>（亀田 修一）       |
| 8 回  | 「旭川流域の神社分布」というテーマで、志野が吉井川・高梁川流域の神社分布と比較して説明する。<br>（担当：志野 敏夫）<br><br>（志野 敏夫）                     |
| 9 回  | 「志呂神社と誕生寺川流域」というテーマで、志野が旭川中流域の建部地域にある志呂神社と誕生寺川流域について説明する。<br>（担当：志野 敏夫）<br><br>（志野 敏夫）          |
| 10 回 | 「岡山平野の地形」というテーマで、能美が旭川下流域の岡山平野の地形について説明する。<br>（担当：能美 洋介）<br><br>（能美 洋介）                         |
| 11 回 | 「岡山市北部の20年間の森林植生変化」というテーマで、波田と太田が旭川下流域の岡山市北部の20年間分の森林植生変化について説明する。<br>（担当：波田 善夫）<br><br>（波田 善夫） |
| 12 回 | 「旭川下流域における河原の植物の変遷」というテーマで、波田が旭川下流域の河原の植物の変遷について説明する。<br>（担当：波田 善夫）<br><br>（波田 善夫）              |
| 13 回 | 「旭川下流域の古墳と寺院」というテーマで、亀田が旭川下流域の古墳と寺院について説明する。                                                    |

|     |                                                                                    |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------|
|     | (担当：亀田 修一)<br>(亀田 修一)                                                              |
| 14回 | 「古写真DBで見る昭和9年台風被害」というテーマで、北川が古写真に残された昭和9年の旭川下流域の台風被害について説明する。(担当：北川 文夫)<br>(北川 文夫) |
| 15回 | 「岡山市および近郊におけるまちづくりの実際」というテーマで、大藪がまちづくりの理論とその実践について説明する。(担当：大藪 亮)<br>(大藪 亮)         |

| 準備学習 |                                                                                                                                                                                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 回数   |                                                                                                                                                                                                 |
| 1回   | ・書籍やWebを用いて旭川に関して調べておくこと<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは10月2日。<br>「講義内容をもとに、旭川でかつて船による輸送が盛んであった理由を、近隣の河川などと比較しながらまとめてください」<br>(標準学習時間180分)                            |
| 2回   | ・書籍やWebを用いて蒜山地域に関して調べておくこと<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは10月9日。<br>「講義の内容を理解した上で、大山・蒜山火山噴火の変遷が旭川水系の変化に及ぼした影響を時系列で説明しなさい」<br>(標準学習時間180分)                             |
| 3回   | ・書籍やWebを用いて蒜山地域に関して調べておくこと。<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは10月16日。<br>「講義内容をもとに、蒜山の自然と植物についてまとめてください」<br>(標準学習時間180分)                                                 |
| 4回   | ・書籍やWebを用いて蒜山地域に関して調べておくこと<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは10月23日。<br>「講義内容をもとに、遺跡・遺構・遺物などから検討した蒜山地方の文化交流や流通について、旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代の各時代ごとにまとめて書きなさい」<br>(標準学習時間180分) |
| 5回   | ・書籍やWebを用いて神庭滝や鍾乳洞に関して調べておくこと<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは10月30日。<br>「講義内容をもとに、神庭の滝とその周辺で観察される岩石や地質の特徴を述べ、それらがどのようにして形成されたものであるか、まとめてください」<br>(標準学習時間180分)         |
| 6回   | ・書籍やWebを用いて旭川中流域に関して調べておくこと。<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは11月6日。<br>「講義内容をもとに、旭川中流域の自然と植生についてまとめてください」<br>(標準学習時間180分)                                              |
| 7回   | ・書籍やWebを用いて白猪屯倉（しらいのみやけ）に関して調べておくこと。<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは11月13日。<br>講義内容を踏まえて、「久世に白猪屯倉があったのか」について、あなたの意見をまとめてください。<br>(標準学習時間180分)                         |
| 8回   | ・書籍やWebを用いて岡山県内の神社に関して調べておくこと。<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは11月16日。<br>「講義内容をもとに、旭川流域の神社分布についてまとめてください」<br>(標準学習時間180分)                                             |
| 9回   | ・書籍やWebを用いて志呂神社に関して調べておくこと。<br>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは11月29日。<br>「講義内容をもとに、志呂神社についてまとめてください」                                                                     |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | (標準学習時間180分)                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 10回 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やWebを用いて岡山平野に関して調べておくこと</li> <li>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは12月13日。</li> </ul> <p>「講義内容をもとに、高島地域を中心とした平野が扇状地から成り立っていることは、どのような地象により認識することができるか、具体的な例を挙げながらレポートにまとめてください」</p> <p>(標準学習時間180分)</p> |
| 11回 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やWebを用いて岡山市の森林に関して調べておくこと。</li> <li>・受講後次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは12月20日。</li> </ul> <p>「講義内容をもとに、岡山市北部の20年間の森林植生変化についてまとめてください」</p> <p>(標準学習時間180分)</p>                                             |
| 12回 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やWebを用いて旭川下流域の河原の植物に関して調べておくこと。</li> <li>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは12月27日。</li> </ul> <p>「講義内容をもとに、旭川下流域の河原の植生変遷についてまとめてください」</p> <p>(標準学習時間180分)</p>                                           |
| 13回 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やWebを用いて旭川下流域の古墳や古代寺院に関して調べておくこと。</li> <li>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは1月7日。</li> </ul> <p>講義内容を踏まえて、「旭川下流域の古墳と寺院」についてまとめてください。</p> <p>(標準学習時間180分)</p>                                           |
| 14回 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やWebを用いて昭和9年の室戸台風に関して調べておくこと。</li> <li>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは1月24日。</li> </ul> <p>「講義内容をもとに、写真で過去の事件(台風被害)を見ることの特徴を文字の資料との比較も含めてまとめてください」</p> <p>(標準学習時間180分)</p>                           |
| 15回 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍やWebを用いて各市町村などが実施している「まちづくり」に関して調べておくこと。</li> <li>・受講後、次のテーマでレポート（A4、1～2枚）を書き、A1号館6階志野研究室に提出してください。締め切りは2月4日。</li> </ul> <p>「講義内容をもとに、まちづくりに対する3つの視点についてまとめ、それぞれを説明しなさい」</p> <p>(標準学習時間180分)</p>                            |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的        | 本講義では、岡山の自然・歴史・文化・社会などいろいろなことについて、地球科学・植物学・考古学・歴史学・情報科学・社会科学など多様な分野から検討する。<br>それぞれの講義は独立しているのであるが、これらの内容をいくつか組み合わせて、また総合的に理解することによって、多様で深みのある岡山が見えてくるものと考えている。これらの講義を通して岡山の自然・歴史・文化・社会について、知ってほしい。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与、Bにある程度関与する）                                                                    |
| 達成目標        | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 岡山の自然科学的特徴を記述できる。</li> <li>2. 岡山を考古学・歴史学の観点から見た要点を記述できる。</li> <li>3. 岡山の文化的・社会的特徴を記述できる。</li> <li>4. 地域を調べる分析手法について、その成果と解釈を記述できる。</li> <li>5. 岡山県下の自然と文化のつながりを記述することができる。</li> </ol>                                                                         |
| キーワード       | 岡山、地域学、旭川、蒜山、真庭、岡山平野、地質、植生、温泉、歴史、考古、文化、情報、まちづくり                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 成績評価（合格基準60 | 各講義（15回分）に対するレポートの平均点数が60点以上を合格とする。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 関連科目        | 特になし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 教科書         | 特になし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 参考書         | 岡山理科大学『岡山学』研究会編『旭川を科学する』Part1～4（シリーズ『岡山学』3～6）、吉備人出版                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 連絡先         | 志野敏夫研究室：A1号館6階                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 注意・備考       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全講義（15回分）のレポートによって単位を認定するので、きちんと受講して、それぞれの回の「準備学習」欄に明記しているテーマで、締切日までにレポートを書いて提出すること。VODを各人がきちんと視聴したかどうかチェックする。</li> <li>・レポートには自分の「学生番号」「名前」のほか、「授業名」、「講義回数」、および「各講義担当教員名」を明記すること。</li> <li>・各レポートについて、各々の締め切り後に、それぞれの採点基準などの解説を掲示することによりフィードバックを行う。</li> </ul> |
| 試験実施        | 実施しない                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 福祉環境論 (FB26Z040)                          |
| 英文科目名 | Welfare Environmental Science             |
| 担当教員名 | 土橋恵美子* (つちはしえみこ*)                         |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 集中講義 その他                                  |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                                      |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション:講義の目的、進め方について説明する。                              |
| 2 回  | 障害者差別解消法と合理的配慮のとらえ方について説明する。                              |
| 3 回  | 聴覚障がいとその程度・二次障害について説明する。                                  |
| 4 回  | 聴覚障がいおよび視覚障がいの疑似体験を実施する。                                  |
| 5 回  | 重複障がいの疑似体験を実施する。                                          |
| 6 回  | 聴覚障がい学生支援について説明する。                                        |
| 7 回  | 手話通訳の起源とろう文化について説明する。                                     |
| 8 回  | 第1回から第7回までの総括を説明し、中間的な評価をするための試験を実施する。                    |
| 9 回  | オリエンテーション:後期講義の目的、進め方について説明する。<br>手話について実技(入門Ⅰ)をとおして説明する。 |
| 10 回 | 手話について実技(入門Ⅱ)をとおして説明する。                                   |
| 11 回 | ノートテイクについて実技をとおして説明する。                                    |
| 12 回 | パソコン通訳について実技をとおして説明する。                                    |
| 13 回 | 障がいへの理解に関する映像を視聴する。                                       |
| 14 回 | 支援すること・されることについてグループワークをとおして考察する。                         |
| 15 回 | 障がいを自分のこととしてとらえ、合理的配慮の視点から考察する。                           |
| 16 回 | 第9回から第15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。                           |

| 回数   | 準備学習                                                             |
|------|------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。(標準学習時間60分)                          |
| 2 回  | 障がい者の差別に関する日本の現状について考えておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 3 回  | 聴覚障がいについて調べておくこと。(標準学習時間120分)                                    |
| 4 回  | 聴覚障がいおよび視覚障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)                      |
| 5 回  | 重複障がいのある当事者について考えておくこと。(標準学習時間120分)                              |
| 6 回  | 聴覚障がい学生支援について考えておくこと。(標準学習時間120分)                                |
| 7 回  | 手話の歴史について調べておくこと。(標準学習時間120分)                                    |
| 8 回  | 第1回から第7回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 9 回  | シラバスをよく読んで、講義全体の過程を把握しておくこと。<br>指文字について自分の名前を調べておくこと。(標準学習時間60分) |
| 10 回 | 手話実技で覚えた表現を繰り返し練習しておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 11 回 | 速く・正しく・読みやすく書くための方法を考えておくこと。(標準学習時間120分)                         |
| 12 回 | パソコン通訳(パソコンテイク)について調べておくこと。(標準学習時間120分)                          |
| 13 回 | 障がいへの理解を新聞記事や番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)をとおして考えておくこと。(標準学習時間120分)     |
| 14 回 | 支援すること・されることについて考えておくこと。(標準学習時間120分)                             |
| 15 回 | 合理的配慮の視点と考え方を整理しておくこと。(標準学習時間120分)                               |
| 16 回 | 第9回から第15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間120分)                        |

|              |                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 「障がい」および「障がい者」について学び、聴覚障がい者に関する法律や当事者の声を通して『知る』ことにより、バリアがどこにあるかを感じとり、合理的配慮の視点から考察することを目的とする。(教養教育センター 単位認定の方針Dにもっとも強く関与。Cに強く関与。)                                                                            |
| 達成目標         | ①新聞記事、番組(NHK教育テレビ「手話ニュース」など)、書籍などから障がいとは何か、バリアとは何かを『理解する』ことができる。<br>②『知ること』を通して、支援する・される間にあるバリアを『わかり』、当事者が求める支援について、合理的配慮の視点から理論を用いて説明できる。<br>③能動的な支援として「かわる・かえる」過程を体感し、障がい者支援について、具体案を提示し、その効果を説明することができる。 |
| キーワード        | 障がい、聴覚障がい者、合理的配慮、知る、支援、バリア                                                                                                                                                                                  |
| 成績評価(合格基準60) | グループワーク(ディスカッション)への貢献40%、講義の中間、および最終日の試験(中間試                                                                                                                                                                |



|       |                                                                                                                                                     |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 験／最終評価試験）60％（各30％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。                                                                                                         |
| 関連科目  | 健康の科学                                                                                                                                               |
| 教科書   | 使用しない。適宜資料を配布する                                                                                                                                     |
| 参考書   | 適宜紹介する                                                                                                                                              |
| 連絡先   |                                                                                                                                                     |
| 注意・備考 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある学生で何らかの配慮を必要とする場合は、初回講義までに申し出ること。</li> <li>・この講義はアクティブラーニングを重視し、グループワークおよびグループディスカッションを行う。</li> </ul> |
| 試験実施  | 実施する                                                                                                                                                |

|       |                                           |
|-------|-------------------------------------------|
| 科目名   | 社会心理学 (FB26Z050)                          |
| 英文科目名 | Social Psychology                         |
| 担当教員名 | 藤田益伸* (ふじたよしのぶ*)                          |
| 対象学年  | 1 年                                       |
| 開講学期  | 秋学期                                       |
| 曜日時限  | 集中講義 その他                                  |
| 対象クラス | 理学部(～15),工学部(～15),総合情報学部(～15),生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                       |
| 授業形態  | 講義                                        |

| 回数   | 授業内容                                        |
|------|---------------------------------------------|
| 1 回  | 社会心理学とは？<br>心理学及び社会心理学の歴史、概要について説明する。       |
| 2 回  | 社会的促進<br>社会的促進、社会的抑制、ホーソン効果について概説する。        |
| 3 回  | 同調<br>同調、スタンフォード監獄実験、アイヒマン実験について概説する。       |
| 4 回  | 集団思考<br>リスクシフト、集団的浅慮、集団意思決定について概説する。        |
| 5 回  | 態度<br>認知的不協和、自己知覚理論、バランス理論について概説する。         |
| 6 回  | コミュニケーション<br>コミュニケーション理論、傾聴、アサーションについて概説する  |
| 7 回  | チームワーク<br>リーダーシップ、良いチームの条件について概説する          |
| 8 回  | 動機づけ<br>オペラント条件づけ、観察学習、学習的無力感について概説する。      |
| 9 回  | 対人交流とコミュニケーション<br>演習を通じてより良い対人関係を築く技法を学習する。 |
| 10 回 | 対人認知と行動(1)<br>対人認知、印象形成、対人魅力について概説する。       |
| 11 回 | 対人認知と行動(2)<br>原因帰属、囚人のジレンマ・説得について概説する。      |
| 12 回 | ストレスマネジメント<br>ストレス、コーピング、レジリエンスについて概説する。    |
| 13 回 | 文化と人間の心理<br>文化心理学の知見について概説する。               |
| 14 回 | 社会現象の心理<br>予言の自己実現からマスメディアの影響について概説する。      |
| 15 回 | 社会心理学の応用<br>社会福祉と心理学、災害と心理学について概説する。        |
| 16 回 | 最終評価試験を実施する                                 |

| 回数   | 準備学習                                       |
|------|--------------------------------------------|
| 1 回  | シラバスを読んで、学習の過程を把握しておくこと。(120分)             |
| 2 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 3 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 4 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 5 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 6 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 7 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 8 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 9 回  | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 10 回 | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 11 回 | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 12 回 | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 13 回 | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 14 回 | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |
| 15 回 | 前回の復習をし、参考書やweb等でシラバスの該当箇所を予習しておくこと。(120分) |

|      |                                              |
|------|----------------------------------------------|
| 講義目的 | 社会心理学が明らかにした人間の社会的行動に関する研究成果を体系化して概説する。また、体験 |
|------|----------------------------------------------|

|             |                                                                                                |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | 学習を通じて社会心理学の知見を具体的に理解し、実用的な知識・技能の習得を目指す。（教養教育センター単位認定方針のCに強く関与する）                              |
| 達成目標        | 1) 社会心理学の基本的な知識を説明できる。<br>2) 社会心理学の研究方法を理解し、積極的に演習に取り組むことができる。<br>3) 心理学に基づいたクリティカル・シンキングができる。 |
| キーワード       | 社会心理学、対人行動、コミュニケーション                                                                           |
| 成績評価（合格基準60 | 提出課題40%、最終評価試験60%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。                                                     |
| 関連科目        | 心理学                                                                                            |
| 教科書         | 講義で資料を配付する                                                                                     |
| 参考書         | 徹底図解 社会心理学―歴史に残る心理学実験から現代の学際的研究まで／山岸 俊男（監修）<br>／新星出版社／4405107025                               |
| 連絡先         | yoghurt100@nifty.com                                                                           |
| 注意・備考       | 学んだことを自分の問題としてもとらえ、平素からよく考えていくことを望む。                                                           |
| 試験実施        | 実施する                                                                                           |

|       |                                              |
|-------|----------------------------------------------|
| 科目名   | 地域フィールドスタディ (FB26Z060)                       |
| 英文科目名 | Community Field Study                        |
| 担当教員名 | 西村次郎 (にしむらじろう), 松尾美香 (まつおみか), 松下尚史 (まつしたひさし) |
| 対象学年  | 2 年                                          |
| 開講学期  | 秋学期                                          |
| 曜日時限  | 集中講義 その他                                     |
| 対象クラス | 理学部(～15), 工学部(～15), 総合情報学部(～15), 生物地球学部(～15) |
| 単位数   | 2.0                                          |
| 授業形態  | 講義                                           |

| 回数   | 授業内容                                                                                                                                   |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 回  | オリエンテーション (大学) 講義の概要、進め方、評価方法等の説明をする。この講義の目標設定を行う (学びはじめシートへの記入)<br><br>(全教員)                                                          |
| 2 回  | グループ活動によるルール作り (大学) グループ活動を活性化し、やる気を持続させる方法について検討する。ブレインストーミング等、グループ活動をよりよいものにするための知識を説明する。<br><br>(全教員)                               |
| 3 回  | シーカヤックをツールとした実体験型教育 (安全教育、船の科学) ① (大学) 船の科学 (浮力、浮心、重心、抵抗、復元力) を知ることで、カヤックを安全に操作するための基本的な知識について説明する。その際、知識と経験を結びつける大切さも学ぶ。<br><br>(全教員) |
| 4 回  | シーカヤックをツールとした実体験型教育 (チームビルディング) ② (現地研修) カヤックの操作の基礎、安全な航行のための知識の基礎、実践を行う。<br><br>(全教員)                                                 |
| 5 回  | シーカヤックをツールとした実体験型教育 (チームビルディング) ③ (現地研修) 学びへのレディネスを整えたうえで、海上でのチームによるカヤック航行を行う。<br><br>(全教員)                                            |
| 6 回  | 地域創生について学ぶ (大学) 地域創生の事例について説明する。<br><br>(全教員)                                                                                          |
| 7 回  | フィールドワークの計画を作成 (大学) 目的や計画等を記入したワークシートを作成する。<br><br>(全教員)                                                                               |
| 8 回  | 地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) ① (現地研修) 牛窓町の自然、歴史文化、産業等、多角的側面から視察する。<br><br>(全教員)                                                     |
| 9 回  | 地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) ② (現地研修) 課題や問題を発見し、その中からテーマ設定を行い、研究の目的を明確にする。<br><br>(全教員)                                             |
| 10 回 | 地域創生をテーマとした地域フィールドワーク (瀬戸内市牛窓町) ③ (現地研修) 課題解決を行うための方法を検討する。<br><br>(全教員)                                                               |
| 11 回 | 地域創生をテーマとした地域研究 (瀬戸内市牛窓町) ④ (現地研修) 課題解決において、関連する情報を探し集め整理する。<br><br>(全教員)                                                              |
| 12 回 | 課題研究① (大学) プレゼンテーション資料を作成する。<br><br>(全教員)                                                                                              |
| 13 回 | 課題研究② (大学) プレゼンテーション資料を作成する。<br><br>(全教員)                                                                                              |
| 14 回 | 課題研究発表と振り返り (大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビュー                                                                                         |

|       |                                                            |
|-------|------------------------------------------------------------|
|       | ーを行う。<br>(全教員)                                             |
| 1 5 回 | 課題研究発表と振り返り(大学) 学びの集大成としてプレゼンテーションを行い、ピア・レビューを行う。<br>(全教員) |
| 1 6 回 | これまでの学習の総括を説明する。<br>(全教員)                                  |

| 回数    | 準備学習                                          |
|-------|-----------------------------------------------|
| 1 回   | シラバスを読んでおくこと(標準学修時間120分)                      |
| 2 回   | チームビルディングに必要な力について考えておくこと(標準学修時間120分)         |
| 3 回   | 船の科学(浮力、浮心、重心、抵抗、復元力)について調べておくこと(標準学修時間120分)  |
| 4 回   | シーカヤックの操作方法について理解しておくこと(標準学修時間120分)           |
| 5 回   | これまでの学びの理解を深め、体調管理をしておくこと(標準学修時間120分)         |
| 6 回   | 地域創生の事例について調べておくこと(標準学修時間120分)                |
| 7 回   | 牛窓町について調べておくこと(標準学修時間120分)                    |
| 8 回   | 取り扱うテーマを整理しておくこと(標準学修時間120分)                  |
| 9 回   | 役割分担を決定させておくこと(標準学修時間120分)                    |
| 1 0 回 | 計画作成を概ね完了させておくこと(標準学修時間120分)                  |
| 1 1 回 | 課題解決に向けて、工程表の点検を行っておくこと(標準学修時間120分)           |
| 1 2 回 | 目的を明確にし、論理的に内容をまとめておくこと(標準学修時間120分)           |
| 1 3 回 | パソコンの操作(パワーポイント等)に慣れておくこと(標準学修時間120分)         |
| 1 4 回 | 決められた手順と制限時間にしながら、発表ができるようにしておくこと(標準学修時間120分) |
| 1 5 回 | 決められた手順と制限時間にしながら、発表ができるようにしておくこと(標準学修時間120分) |
| 1 6 回 | これまでの学習を復習しておくこと。                             |

|              |                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 講義目的         | 瀬戸内市牛窓町地域を対象として、フィールドワークを行う。地域創生をテーマとし視察や調査を通じて、学生自らが課題や問題を発見することから始める。グループでの活動が中心になるため、チーム作りを行うためにシーカヤックを活用する。また、牛窓地域の自然を実体験する機会にもなる。チーム作りの後に、チーム毎にテーマを設定し、課題解決にあたる。このようなアクティブ・ラーニングにより、主体的に学ぶこと、課題解決能力を育成する。最後にチームで研究した内容をプレゼンテーションする。これは、自分の考えや主張を伝える機会になる。(教養教育センター単位認定方針のEにもっとも強く関与する) |
| 達成目標         | ①主体的な学びへのレディネス(態勢づくり)を整えることができる(E) ②地域の活性化に向けて、調査対象に即した課題設定ができる(E) ③課題を解決するために、フィールドワーク、文献や統計等の二次資料を用いて分析できる(E) ④独自の考察を加えたレポート作成およびプレゼンテーション発表ができる(E) ⑤調査研究や課題解決において他者との協働ができる(E) ⑥地域の生涯学習社会の構築に寄与できること。(E)                                                                                 |
| キーワード        | 地域、シーカヤック、実体験、コミュニケーション、問題解決、チームワーク                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 成績評価(合格基準60) | 課題への取り組み(10%) 現地実習(30%) レポート(30%) 課題研究発表(30%)                                                                                                                                                                                                                                               |
| 関連科目         | 学びの基礎論、文章表現法Ⅰ、Ⅱ、プレゼンテーションⅠⅡ                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 教科書          | 特定の教科書は指定しない                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 参考書          | 適宜指示する。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 連絡先          | 西村(次) 研究室: jiro@ee.ous.ac.jp 松尾研究室: matsuo@are.ous.ac.jp 松下(尚) 研究室: hisashi@are.ous.ac.jp                                                                                                                                                                                                   |
| 注意・備考        | ・本科目の受講は「学びの基礎論」単位修得者に限る。・本科目の実習費用については自己負担になる。詳細は初回の講義時に説明する。・実習の日程および内容は関係者等の調整により、変更する可能性がある。・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。理由がある場合は事前に申し出ること。・課題提出については講義においフィードバックを行う。                                                                                    |
| 試験実施         | 実施しない                                                                                                                                                                                                                                                                                       |